

大阪府河内長野市

三日市遺跡発掘調査報告書

II

1988年10月

三日市遺跡調査会

大阪府河内長野市

三日市遺跡発掘調査報告書

II

1988年10月

三日市遺跡調査会

序 文

大阪府河内長野市は、大阪府の東南部に位置し、住宅都市として発達してきました。

大都市通勤圏内にありながら府下でもまれなほど自然環境に恵まれた町であり、古来からの数多くの文化財を伝えている町でもあります。

しかし、住宅開発の波はおさまらず、本市の南の玄関口である三日市町駅周辺に大規模の住宅開発が急増し、ますます、都市機能の充実が必要となっていました。

このような状況下の中、住宅都市整備公団によって三日市・片添両町にまたがる丘陵地帯に特定区画整理の計画が策定されました。この為、この地域に眠る埋蔵文化財の保護が必要になり、事業に立ち発掘調査が実施されました。

この結果、旧石器時代から江戸時代に渡る数多くの遺構や遺物が発見されました。これは、この地域の歴史を明らかにするだけでなく河内長野市の歴史を知るうえにおいても貴重な資料となり、新たな郷土史が確立されることが望まれます。

なお、本調査を実施し得たのは、調査の意義をよく理解され、御協力を賜った地域住民の方々をはじめ住宅都市整備公団関西支社、同南大阪宅地開発事務所、大阪府教育委員会、河内長野市、河内長野市教育委員会、(財)大阪文化財センターに心から感謝の意を表するものです。また、大谷女子大学、奈良大学などの学識経験者の方々にはそのつど、適切な指導・助言をいただいたことを末尾ながらここに記し、深く感謝の意を表するとともに、今後とも文化財の保護に一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。

理事長 中尾謙二

例　　言

1. 本書は大阪府河内長野市片添町及び三日市町に所在する三日市遺跡の調査報告書である。
2. 調査は三日市・片添地区特定区画整理事業に先立ち行なわれたものである。
3. 調査及び本書に掛る経費は日本住宅都市整備公団が負担した。
4. 現地調査は昭和60年1月から昭和62年4月まで行った。
5. 本報告は奈良時代以降について行った。
6. 遺構実測の一部は、写測エンジニアリング株式会社に委託した。
7. 調査の実施においては、下記の方々の協力を得た。

大阪府教育委員会・河内長野市教育委員会・地元地主の方々・住宅都市整備公団関西支社・同大阪府南宅地開発事務所・(財)大阪文化財センター・河内長野市都市整備部・南海三日市共同企業体・南海電気鉄道株式会社・株式会社大林組・前田建設工業株式会社・壇山建設株式会社・南海建設株式会社・地元市民の方々

8. 本書の執筆は各調査担当と協議し、尾谷雅彦、四宮加容子が分担したが、一部下記のとおり、執筆を依頼した。

第5章第1節の一部　　山口誠治 ((財)大阪文化財センター技師)

9. 編集については前記の2名がおこない、総括責任は尾谷雅彦が負うものである。
10. 本書の作成については下記の方々の協力を得た。
北野耕平・林野全孝・野堀正雄・中村浩・西山要一・山口誠治・奥田尚・パリノサーベイ
株式会社・京都科学標本株式会社・北岸昌男・鳴川修・加藤博章・橋本亨・三間江津子・
谷由美・武内雅人・尾上実
特に、林野全孝氏には据立柱建物の復元について指導・助言を得た。
11. 遺物の整理、実測・トレースは四宮加容子が統轄し、遺物の写真は中西和子が撮影した。
12. 調査成果品は最終的に河内長野市教育委員会が保管し、一般に広く活用できるようにする。

凡　　例

1. 本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

S B…掘立柱建物	S D…溝	S E…井戸	S K…土壙
S R…土壙墓	S N…埋桶	S L…埋甕	S U…集石
S W…石列	S Y…窯状遺構	S X…その他	N V…自然地形

2. 遺構番号は、各遺構ごとに一連番号を記した。

3. 地区名は、国土座標による調査地区割りに基づくものと調査工事発注に伴う調査区番号とを併用した。

4. 遺物番号と写真図版の番号とは一致するようにした。

5. 瓦器編年については、尾上実氏の編年をもちいた。

6. 遺物実測図は、土器1/4その中で拓本を伴うもの1/2、木器1/3・1/4・1/6、鉄器1/2、1/3・1/4、石製品は1/4、瓦は1/3・1/4とした。

7. 遺構図は規模により1/20・1/30・1/40・1/50・1/60・1/80・1/100・1/150・1/200・1/250とした。

8. 土色については、新版標準土色帖1976. 9月による。

目 次

序文

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

付図目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の方法	4
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と自然的環境	7
第2節 歴史的環境	11
第3章 遺構	15
第1節 5地区	15
1. 概略	15
2. 遺構	15
第2節 2地区	18
1. 概略	18
2. 遺構・遺物	18
第3節 1地区	29
1. 概略	29
2. 遺構・遺物	29
第4節 4地区	47
1. 概略	47
2. 遺構・遺物	47
第5節 3地区	113
1. 概略	113
2. 遺構・遺物	113
第6節 6地区	179
1. 概略	179

2. 遺構・遺物	179
第4章 遺物	217
第5章 木器の保存処理	227
第1節 出土木製品の保存科学的処理について	227
第2節 三日市遺跡出土木製遺物の樹種について	229
第6章 まとめ	233
第1節 遺跡の変遷	233
第2節 総括	238

挿図目次

第1図 調査区配置及び調査区画設定図	5
第2図 遺跡位置図	7
第3図 調査地区地形区分図	8
第4図 河内長野市遺跡分布図	9
第5図 S B9・S B10配置図	15
第6図 S B9ピット内遺物出土状況図(1/30)	16
第7図 S B9遺物実測図	16
第8図 S B9遺構図	17
第9図 S B10遺構図	17
第10図 S B14遺構図及び遺物実測図	18
第11図 S B15遺構図及び遺物実測図	18
第12図 S B16遺構図及び溝断面図	18
第13図 S B16遺物実測図	19
第14図 S B17遺構図及び遺物実測図	19
第15図 S B18遺構図	19
第16図 S B19遺構図	19
第17図 S B20・S B21遺構図及び溝断面図	19
第18図 S E1遺構実測図(1/30)	20
第19図 S K158遺構実測図(1/30)	21
第20図 S K161遺構(1/30)及び遺物実測図	21
第21図 S K164遺構実測図(1/50)	21
第22図 S K164遺物実測図	22
第23図 S X3遺物実測図	22

第 24 図 NV 4 下層遺物実測図（1）	23
第 25 図 NV 4 遺構実測図（1/80）	24
第 26 図 NV 4 中層遺物実測図（2）	25
第 27 図 NV 4 中層遺物実測図（3）	26
第 28 図 NV 6 遺構実測図 平面（1/100）・断面（1/80）	27
第 29 図 NV 6 遺物実測図	28
第 30 図 SB 1 遺物実測図	29
第 31 図 SB 2 遺構図	29
第 32 図 SB 3 遺物実測図	29
第 33 図 SB 3 遺構実測図（1/80）	30
第 34 図 SB 4 遺構図	30
第 35 図 SB 1 遺構実測図（1/80）	31・32
第 36 図 1地区建物配置図	33・34
第 37 図 SB 6 遺構図・溝断面図（1/30）・遺物実測図	35
第 38 図 SB 7・SB 8 遺構実測図（1/80）	36
第 39 図 SB 7 及び SB 7 に伴う SD 9・SD 10 遺物実測図	37
第 40 図 SB 8 遺構図	37
第 41 図 SD 1・SD 2・SD 4 溝断面図（1/30）	38
第 42 図 SD 2 遺物実測図	38
第 43 図 SD 16 溝断面図（1/30）及び遺物実測図	38
第 44 図 SK 4 遺構実測図（1/30）	38
第 45 図 SK 5・SK 6 遺構実測図（1/30）	39
第 46 図 SK 7 遺構実測図（1/30）	39
第 47 図 SK 9・SK 17・SK 19 遺構実測図（1/30）	40
第 48 図 SK 20・SK 21 遺構実測図（1/30）	40
第 49 図 SK 22 遺構実測図（1/30）	41
第 50 図 SK 23 遺構実測図（1/30）	41
第 51 図 SK 38 遺構実測図（1/30）	41
第 52 図 SK 42 遺構実測図（1/30）	42
第 53 図 SK 45 遺構実測図（1/30）	42
第 54 図 SX 2 遺構（1/30）及び遺物実測図	43
第 55 図 NV 1 遺構実測図（1/100）	44
第 56 図 NV 2 遺構実測図 平面（1/100）・断面（1/80）	45
第 57 図 NV 1 遺物実測図	46

第 58 図	N V 2 遺物実測図	46
第 59 図	S B25遺構図	47
第 60 図	4 地区 I - H 建物配置図（1）（1/250）	47
第 61 図	S B26遺構実測図（1/80）	48
第 62 図	4 地区 I - H 建物配置図（2）（1/250）	49
第 63 図	S B80遺構図	50
第 64 図	S B29遺構図及び遺物実測図	50
第 65 図	S B30遺構図	50
第 66 図	S B28遺構図及び S D59・S D60断面図（1/30）	51
第 67 図	S B28及び S B28に伴う S D59遺物実測図	51
第 68 図	S B33遺構図	52
第 69 図	S B34遺構図及びピット 1 遺物出土状況図（1/30）	52
第 70 図	S B34遺物実測図	52
第 71 図	S B35遺構図	52
第 72 図	S B35遺物実測図	52
第 73 図	S B37遺構図	52
第 74 図	S B38遺構図	52
第 75 図	S B41遺構図	53
第 76 図	S B42遺構図	53
第 77 図	S B43遺構図	53
第 78 図	S B44遺構図	53
第 79 図	S B45遺構図	53
第 80 図	4 地区 I - J • I - K • I - M • I - N 建物配置図（3）（1/250）	54
第 81 図	S B46遺構図	55
第 82 図	S B48遺構図	55
第 83 図	S B49遺構図	55
第 84 図	S B50遺構実測図（1/80）	55
第 85 図	S B51遺構実測図（1/80）	56
第 86 図	S D53・S D54遺構配置図（1/250）	57
第 87 図	S D53断面実測図・遺物出土状況図（1/30）・遺物実測図	57
第 88 図	S D54遺構実測図（1/30）	58
第 89 図	S D54遺物実測図	59
第 90 図	S D56遺構実測図 平面（1/250）・断面（1/30）	59
第 91 図	S D57遺構（1/30）及び遺物実測図	60

第 92 図	S D74遺構（1/30）及び遺物実測図	60
第 93 図	S D75遺物実測図（1/30）	61
第 94 図	S D75遺物実測図（1）	62
第 95 図	S D75遺物実測図（2）	63
第 96 図	S D83遺構図及び構断面図（1/30）	63
第 97 図	S D87遺構（1/30）及び遺物実測図	64
第 98 図	S D106遺構（1/50）及び遺物実測図	65
第 99 図	S D108遺構実測図 平面（1/100）・断面（1/30）	65
第 100 図	S D112遺構実測図 平面（1/200）・断面（1/30）及び遺物実測図	66
第 101 図	S D119・S D121断面実測図（1/30）	67
第 102 図	S D119遺物実測図	67
第 103 図	S D127遺物実測図	67
第 104 図	S D127・S D128・S D130遺構実測図 平面（1/200）・断面（1/30）	68
第 105 図	S E 2 遺構（1/30）及び遺物実測図	69
第 106 図	S E 3 遺構実測図（1/30）	69
第 107 図	S E 3 遺物実測図	70
第 108 図	S E 4 遺構（1/30）及び遺物実測図	71
第 109 図	S E 5 遺構（1/30）及び遺物実測図	72
第 110 図	S E 6・S K506遺構実測図（1/30）	73
第 111 図	S E 6 遺物実測図	74
第 112 図	S K173遺構実測図（1/30）	74
第 113 図	S K175遺構（1/30）及び遺物実測図	74
第 114 図	S K183・S K184・S K185遺構実測図（1/20）	75
第 115 図	S K183・S K184・S K185遺物実測図	75
第 116 図	S K196・S K197・S K198遺構実測図（1/30）	76
第 117 図	S K196遺物実測図	76
第 118 図	S K201遺構実測図（1/30）	76
第 119 図	S K201遺物実測図	77
第 120 図	S K206遺構実測図（1/30）	77
第 121 図	S K208遺構実測図（1/30）	77
第 122 図	S K208遺物実測図	78
第 123 図	S K210遺構実測図（1/30）	78
第 124 図	S K211・S K213遺物実測図	78
第 125 図	S K211・S K212・S K213遺構実測図（1/50）	79

第 126 図	S K222遺構（1/30）及び遺物実測図	80
第 127 図	S K228遺構（1/30）及び遺物実測図	81
第 128 図	S K231遺構（1/20）及び遺物実測図	82
第 129 図	S K236遺構（1/40）及び遺物実測図	83
第 130 図	S K243遺構（1/80）及び遺物実測図	84
第 131 図	S K256・S K257・S K258遺構実測図（1/20）	85
第 132 図	S K256遺物実測図	85
第 133 図	S K257遺物実測図	86
第 134 図	S K258遺物実測図	86
第 135 図	S K263遺構（1/30）及び遺物実測図	87
第 136 図	S K292遺構（1/20）及び遺物実測図	87
第 137 図	S K294遺構実測図（1/30）	88
第 138 図	S K500遺構実測図 平面（1/100）・断面（1/60）	88
第 139 図	S K501遺構実測図（1/30）	89
第 140 図	S K501・S K506遺物実測図	89
第 141 図	S K522遺構（1/30）及び遺物実測図	90
第 142 図	S K523・S D160・S D161遺構実測図（1/150）	91
第 143 図	S K523遺構実測図（1/50）	91
第 144 図	S K523遺物実測図	92
第 145 図	S R 6 遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	93
第 146 図	S R 6 遺物実測図（2）	94
第 147 図	S R 7・S R 8 遺構（1/30）及び S R 7 遺物実測図	94
第 148 図	S R 8 遺物実測図	95
第 149 図	S U 1 遺構実測図（1/150）	96
第 150 図	S U 1-1～S U 1-4 遺構実測図（1/40）	96
第 151 図	S U 1-5～S U 1-12 遺構実測図（1/40）	98
第 152 図	S U 1-13～S U 1-18 遺構実測図（1/40）	99
第 153 図	S U 1 遺物実測図（1）	100
第 154 図	S U 1 遺物実測図（2）	101
第 155 図	S U 1 遺物実測図（3）	102
第 156 図	S U 1 遺物実測図（4）	103
第 157 図	S U 6 遺構実測図（1/30）	105
第 158 図	S U 7 遺構実測図（1/30）	106
第 159 図	S U 8 遺構実測図（1/30）	107

第 160 図	S U 9 遺構実測図 (1/30)	108
第 161 図	S U 6・S U 7・S U 8・S U 9 遺物実測図.....	109
第 162 図	S U10遺構実測図 (1/30)	109
第 163 図	S U11遺構実測図 (1/30)	110
第 164 図	S Y 4 遺構実測図 (1/30)	111
第 165 図	S Y 4 遺物実測図.....	111
第 166 図	S Y10遺構実測図 平面 (1/40)・断面 (1/20)	112
第 167 図	S B59遺構図.....	113
第 168 図	S B60遺構図.....	113
第 169 図	S B61遺構図.....	113
第 170 図	S B63遺構図及び溝断面図 (1/30)	113
第 171 図	3 地区III-S・III-Y 建物配置図 (1/250)	114
第 172 図	S B65遺構図.....	115
第 173 図	S B66遺構図.....	115
第 174 図	S B67遺構図及び溝断面図 (1/30)	115
第 175 図	S B67に伴う S D219遺物実測図	115
第 176 図	S B69遺構図.....	116
第 177 図	S B70遺構図.....	116
第 178 図	S B72遺構図.....	116
第 179 図	S B75遺構図.....	116
第 180 図	S B76遺構図及び遺物実測図.....	116
第 181 図	S D209遺構実測図 (1/50)	117
第 182 図	S D209遺物実測図	117
第 183 図	S D213遺物実測図 平面 (1/250)・断面 (1/30) 及び遺物実測図.....	117
第 184 図	S D215遺物実測図	118
第 185 図	S D215・S D217遺構配置図 (1/250)	118
第 186 図	S D215・S D217遺構実測図 平面 (1/80)・断面 (1/40)	119
第 187 図	S D217遺物実測図 (1)	120
第 188 図	S D217遺物実測図 (2)	121
第 189 図	S D222遺構実測図 (1/30)	121
第 190 図	S D222遺物実測図	122
第 191 図	S D226遺構実測図 (1/30)	122
第 192 図	S D226遺物実測図	123
第 193 図	S D228遺構 (1/60) 及び遺物実測図	123

第 194 図	S D232・S E18遺構実測図（1/30）	124
第 195 図	S D232遺物実測図（1）	125
第 196 図	S D232遺物実測図（2）	126
第 197 図	S D232遺物実測図（3）	127
第 198 図	S E 9・S E 10遺構（1/50）及びS E 10遺物実測図	127
第 199 図	S E11遺構実測図（1/30）	128
第 200 図	S E11遺物実測図（1）	129
第 201 図	S E11遺物実測図（2）	130
第 202 図	S E11遺物実測図（3）	131
第 203 図	S E12遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	131
第 204 図	S E12遺物実測図（2）	132
第 205 図	S E13遺構実測図（1/30）	133
第 206 図	S E13遺物実測図	134
第 207 図	S E14遺構（1/50）及び遺物実測図	135
第 208 図	S E15遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	136
第 209 図	S E15遺物実測図（2）	137
第 210 図	S E15遺物実測図（3）	138
第 211 図	S E18遺物実測図	138
第 212 図	S E22遺構実測図（1/30）	139
第 213 図	S E22遺物実測図（1）	140
第 214 図	S E22遺物実測図（2）	141
第 215 図	S E22遺物実測図（3）	142
第 216 図	S E23遺構（1/30）及び遺物実測図	142
第 217 図	S E24遺構実測図（1/30）	142
第 218 図	S E24遺物実測図	143
第 219 図	S K388遺構実測図（1/30）	144
第 220 図	S K388遺物実測図	144
第 221 図	S K408遺構実測図（1/30）	145
第 222 図	S K408遺物実測図	145
第 223 図	S K416遺構実測図（1/30）	145
第 224 図	S K425遺物実測図	146
第 225 図	S K429遺構（1/40）及び遺物実測図	146
第 226 図	S K435・S K436遺構（1/30）及び遺物実測図	147
第 227 図	S K437遺物実測図	147

第 228 図	S K445遺構（1/20）及び遺物実測図	148
第 229 図	S K456遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	149
第 230 図	S K456遺物実測図（2）	150
第 231 図	S K458遺構実測図（1/30）	150
第 232 図	S K458遺物実測図（1/30）	151
第 233 図	S K469遺構実測図	152
第 234 図	S K469遺物実測図	153
第 235 図	S K470遺構（1/50）及び遺物実測図	154
第 236 図	S K474・S K475・S K477遺構実測図（1/30）	155
第 237 図	S K475遺物実測図	155
第 238 図	S K479遺構（1/30）及び遺物実測図	156
第 239 図	S R 9 遺構（1/30）及び遺物実測図	157
第 240 図	S R10遺構実測図（1/30）	157
第 241 図	S R10遺物実測図	158
第 242 図	S N 4・S N 5 遺構実測図（1/30）	158
第 243 図	S N 6 遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	159
第 244 図	S N 6 遺物実測図（2）	160
第 245 図	S N 7 遺構（1/30）及び遺物実測図	161
第 246 図	S L 5 遺構（1/20）及び遺物実測図	162
第 247 図	S L 6 遺構（1/20）及び遺物実測図	162
第 248 図	S N 3・S L 7 遺構（1/30）及び S L 7 遺物実測図	163
第 249 図	S W 3 遺構実測図（1/40）	164
第 250 図	S W 4 遺構実測図（1/40）	165
第 251 図	S W 4 遺物実測図	166
第 252 図	S W 5 遺構実測図（1/40）	167
第 253 図	S W 5 遺物実測図	168
第 254 図	S W 6 遺構実測図（1/40）	168
第 255 図	S W 6 遺物実測図	169
第 256 図	S Y 8 遺構（1/50）及び遺物（1）実測図	171
第 257 図	S Y 8 遺物実測図（2）	172
第 258 図	S Y 8 遺物実測図（3）	173
第 259 図	S X13遺構（1/30）及び遺物実測図	173
第 260 図	N V 5 遺構実測図 平面（1/150）・断面（1/60）	174
第 261 図	N V 5 遺物実測図（1）	175

第 262 図	N V 5 遺物実測図（2）	176
第 263 図	N V 5 遺物実測図（3）	177
第 264 図	N V 5 遺物実測図（4）	178
第 265 図	S B53遺構図・ピット内遺物出土状況図・遺物実測図	179
第 266 図	S B57遺構図	179
第 267 図	S B78遺構図	179
第 268 図	6 地区III-N 遺構配置図（1/250）	180
第 269 図	S B175・S D176・S D177遺構実測図 平面（1/200）・断面（1/30）	181
第 270 図	S D177遺物実測図	182
第 271 図	S D179遺物実測図	182
第 272 図	S D181遺物実測図（1）	182
第 273 図	S D181遺物実測図（2）	183
第 274 図	S D186遺物実測図	184
第 275 図	S D200遺構実測図（1/60）	184
第 276 図	S E 7 遺構（1/50）及び遺物（1）実測図	185
第 277 図	S E 7 遺物実測図（2）	186
第 278 図	S E 7 遺物実測図（3）	187
第 279 図	S E 7 遺物実測図（4）	188
第 280 図	S E 7 遺物実測図（5）	189
第 281 図	S E 7 遺物実測図（6）	190
第 282 図	S E 8・S E 16遺構実測図（1/30）	191
第 283 図	S E 25遺構（1/30）及び遺物実測図	192
第 284 図	S E 26遺構（1/30）及び遺物実測図	193
第 285 図	S K305遺構（1/50）及び遺物（1）実測図	194
第 286 図	S K305遺物実測図（2）	195
第 287 図	S K309遺構（1/30）及び遺物実測図	196
第 288 図	S K310遺構（1/30）及び遺物（1）実測図	196
第 289 図	S K310遺物実測図（2）	197
第 290 図	S K311遺構（1/30）及び遺物実測図	197
第 291 図	S K323遺構実測図（1/30）	198
第 292 図	S K323遺物実測図	199
第 293 図	S K328遺構（1/30）及び遺物実測図	199
第 294 図	S K330遺物実測図	200
第 295 図	S K337遺物実測図	200

第 296 図	S K346遺構（1/20）及び遺物実測図	201
第 297 図	S K347・S K350遺構実測図（1/30）	201
第 298 図	S K347・S K350遺物実測図	202
第 299 図	S K357遺物実測図	202
第 300 図	S K496遺構（1/20）及び遺物実測図	202
第 301 図	S N 1 遺物実測図	203
第 302 図	S N 2 遺物実測図	203
第 303 図	S N 1・S N 2 遺構実測図（1/30）	203
第 304 図	S L 1 遺構（1/20）及び遺物実測図	204
第 305 図	S L 2 遺構（1/20）及び遺物実測図	204
第 306 図	S L 3・S L 4 遺構（1/20）及び遺物実測図	205
第 307 図	S U12遺構実測図（1/30）	206
第 308 図	S U12遺物実測図	207
第 309 図	S U13遺構（1/30）及び遺物実測図	208
第 310 図	S Y 6 遺構（1/40）及び遺物実測図	208
第 311 図	S Y 7 遺構実測図（1/50）	209
第 312 図	S X 6・S X 7 遺構実測図 平面（1/40）・S X 7 断面（1/20）	210
第 313 図	S X 6 遺物実測図（1）	211
第 314 図	S X 6 遺物実測図（2）	212
第 315 図	S X 6 遺物実測図（3）	213
第 316 図	S X 8 遺物実測図	213
第 317 図	S X11遺構実測図 平面・立面（1/60）・断面（1/30）及び遺物実測図	214
第 318 図	出土輸入錢拓影	225
第 319 図	P E G 含浸処理槽全景	227
第 320 図	真空凍結乾燥機全景	228
第 321 図	出土木製遺物の顕微鏡写真	231
第 322 図	掘立柱建物配置模式図	234

表 目 次

第 1 表 河内長野市遺跡地名表.....	10
第 2 表 主要出土遺物時代区分表.....	219~220
第 3 表 地区别包含層出土遺物割合表.....	221
第 4 表 出土輸入銭一覧.....	226
第 5 表 出土木製遺物の鑑定結果一覧.....	230
第 6 表 時期別遺構分布表.....	235~236

図版目次

- 図版 1 遺構 遺跡全景写真
- 図版 2 遺構 5地区 S B 9全景(北東から) S B10全景(南西から)
- 図版 3 遺構 2地区 S B15・16全景(東から) S B17全景(西から)
- 図版 4 遺構 2地区 S B18全景(東から) S B19全景(上が北)
- 図版 5 遺構 2地区 S B20・21全景(上が北) S K158全景(南から)
- 図版 6 遺構 2地区 S K161全景(北西から) S K164、S X 3、N V 6全景(南から)
- 図版 7 遺構 2地区 S X 3全景(北東から) N V 4全景(南東から)
- 図版 8 遺構 1地区 S B 1・2全景(南西から) S B 1柱穴断面
- 図版 9 遺構 1地区 S B 3全景(北西から) S B 3柱穴断面
- 図版 10 遺構 1地区 S B 4全景(南から) S B 6 S D 1~8・28 S K38・45全景(南から)
- 図版 11 遺構 1地区 S B 7・82・S D 9・10全景(南西から) S B 7柱穴断面
- 図版 12 遺構 1地区 S B 8 S K 4~9全景(東から) S K17~23全景(東から)
- 図版 13 遺構 1地区 S X 2遺物出土状況(南西から) S D16 N V 1全景(南から)
- 図版 14 遺構 4地区 S B25・80全景(北東から) S B28 S D57・59・60 S E 2 S K196~198全景(東から)
- 図版 15 遺構 4地区 S B26全景(北から) S B26柱穴断面
- 図版 16 遺構 4地区 S B29全景(南東から) S B30 S K206全景(東から)
- 図版 17 遺構 4地区 S B33~35・37 S D74・75 S E 3~5 S K208・210~213全景(北東から) S B34~P 1土器出土状況
- 図版 18 遺構 4地区 S B41全景(北東から) S B42全景(北から)
- 図版 19 遺構 4地区 S B43・44 S D119・121 S K263全景(南西から) S B46 S K294全景(東から)
- 図版 20 遺構 4地区 S B48全景(西から) S B49全景(東から)
- 図版 21 遺構 4地区 S B50全景(北から) S B51全景(北西から)
- 図版 22 遺構 4地区 S D53中央土器出土状況 S D53西側土器出土状況
- 図版 23 遺構 4地区 S D54全景(南西から) S D74全景(北から)
- 図版 24 遺構 4地区 S D100・101全景(北西から) S D87全景(西から)
- 図版 25 遺構 4地区 S E 3全景(北西から) S E 4全景(北西から)
- 図版 26 遺構 4地区 S E 5全景(南東から) S E 6全景(北から)
- 図版 27 遺構 4地区 S K175全景(北東から) S K183全景(南から)

- 図版 28 遺構 4 地区 S K184全景（南東から） S K185全景（北から）
- 図版 29 遺構 4 地区 S K196全景（北東から） S K201全景（北から）
- 図版 30 遺構 4 地区 S K222全景（北から） S K228全景（北から）
- 図版 31 遺構 4 地区 S K236全景（南東から） S K243 S D106・108全景（南西から）
- 図版 32 遺構 4 地区 S K256全景（南西から） S K258全景（南東から）
- 図版 33 遺構 4 地区 S K263全景（北から） S K292全景（南から）
- 図版 34 遺構 4 地区 S B49 S D127・128・130 S K500・501・506・509全景（北から）
S K522全景（北から）
- 図版 35 遺構 4 地区 S D160・161 S K523全景（北東から） S R 6 全景（北から）
- 図版 36 遺構 4 地区 S R 7 全景（南から） S R 8 全景（北から）
- 図版 37 遺構 4 地区 S U 1 全景（上が南東） S U 1-1～S U 1-12（北東から）
- 図版 38 遺構 4 地区 S U 6～8 全景（東から） S U 7～9 全景（北から）
- 図版 39 遺構 4 地区 S U10全景（東から） S U11全景（北東から）
- 図版 40 遺構 4 地区 S Y 4 全景（北から） S Y10全景（南から）
- 図版 41 遺構 3 地区 S B59・60 S E 9・10 S R 9 S L 5・6 全景（南から） S B61
全景（南から）
- 図版 42 遺構 3 地区 S B63 S D247 S E11 S K388・435・436全景（南西から）
S B65・69・72全景（南から）
- 図版 43 遺構 3 地区 S B67 S D219・222・232 S E13・18 S K456・458・474・475・
477・479 S W 4 S X13全景（北東から） S B70 S D228 S E15全景
(南西から)
- 図版 44 遺構 3 地区 S D209全景（東から） S D215・217 S E 23 S K425・429 S N
6・7 全景（東から）
- 図版 45 遺構 3 地区 S D226全景（東から） S D232 S E 18 S X13全景（南東から）
- 図版 46 遺構 3 地区 S E 9 全景（北西から） S E10全景（西から）
- 図版 47 遺構 3 地区 S E 11 全景（南東から） S E11断面（北から）
- 図版 48 遺構 3 地区 S E 11遺物出土状況 S E12全景（南から）
- 図版 49 遺構 3 地区 S E 13 全景（東から） S E14全景（北から）
- 図版 50 遺構 3 地区 S E 15 全景（南西から） S E17全景（北西から）
- 図版 51 遺構 3 地区 S E 18 全景（東から） S E22土器出土状況（北西から）
- 図版 52 遺構 3 地区 S E 23 全景（南西から） S E24全景（南から）
- 図版 53 遺構 3 地区 S K388全景（北東から） S K408全景（東から）
- 図版 54 遺構 3 地区 S K416 全景（北西から） S K429全景（北東から）
- 図版 55 遺構 3 地区 S K435全景（西から） S K436全景（北東から）

- 図版 56 遺構 3地区 S K437全景（南西から） S K445全景（北から）
- 図版 57 遺構 3地区 S K456全景（北東から） S K458全景（北東から）
- 図版 58 遺構 3地区 S K470全景（南西から） S K479全景（南東から）
- 図版 59 遺構 3地区 S R 9 全景（西から） S R10全景（西から）
- 図版 60 遺構 3地区 S N 3 全景（北から） S N 4 全景（東から）
- 図版 61 遺構 3地区 S N 5 全景（南から） S N 6 全景（北東から）
- 図版 62 遺構 3地区 S N 7 全景（北西から） S L 5 全景（東から）
- 図版 63 遺構 3地区 S L 6 全景（北東から） S L 7 全景（北東から）
- 図版 64 遺構 3地区 S W 3 全景（北西から） S W 4 全景（北から）
- 図版 65 遺構 3地区 S W 5 全景（北から） S W 6 全景（南西から）
- 図版 66 遺構 3地区 S Y 8 全景（北東から） N V 5 全景（上が北） N V 5 土器出土状況
- 図版 67 遺構 3地区・6地区 S X13全景（南から） S B53 S D181 S E 8 全景（東から）
- 図版 68 遺構 6地区 S B57全景（南から） S D175～179 S K309・310・328 S N 1 S U12・13 S Y 6 S X 6・7・11全景（南から）
- 図版 69 遺構 6地区 S D181全景（南東から） S D186 S E 7 S K337・347・350 S X 8 全景（南西から）
- 図版 70 遺構 6地区 S E 7 全景（南西から） S E 7 断面（南西から）
- 図版 71 遺構 6地区 S E 8 遺物出土状況 S E 8 断面（西から）
- 図版 72 遺構 6地区 S E 16全景（北から） S E 25全景（南東から）
- 図版 73 遺構 6地区 S E 26全景（南東から） S K301・305全景（東から）
- 図版 74 遺構 6地区 S K309遺物出土状況 S K310全景（東から）
- 図版 75 遺構 6地区 S K311全景（北東から） S K328全景（北東から）
- 図版 76 遺構 6地区 S K337全景（東から） S K346遺物出土状況
- 図版 77 遺構 6地区 S K347全景（東から） S K350全景（南東から）
- 図版 78 遺構 6地区 S K357全景（南東から） S K374全景（南から）
- 図版 79 遺構 6地区 S N 1 全景（北から） S N 2 全景（東から）
- 図版 80 遺構 6地区 S L 1 全景（南東から） S L 2 全景（南東から）
- 図版 81 遺構 6地区 S L 3 全景（南から） S L 4 全景（北西から）
- 図版 82 遺構 6地区 S U12全景（北東から） S U13全景（北西から）
- 図版 83 遺構 6地区 S Y 6 全景（南から） S Y 7 全景（北から）
- 図版 84 遺構 6地区 S X 6 瓦出土状況（北から） S X11石列検出状況（南東から）
- 図版 85 遺物 5地区 S B 9 (3・6・9・10・11・12・13・18・19・20・21)

- 图版 86 遗物 2地区 S B16 (25) S K161 (29·30) S K164 (32·35·36) S X 3 (39·40·41·42·43·44·45)
- 图版 87 遗物 2地区 S X 3 (46·47·48·49) N V 4 (67·68·69·71·72·74·75·77·78·81)
- 图版 88 遗物 2地区 N V 4 (82·83·84·85·86·94·96·97)
- 图版 89 遗物 1地区 S B 1 (102) S B 6 (104·105) S B 7 (107·109) S D16 (119·120·121) S X 2 (123·124·125)
- 图版 90 遗物 1地区 S X 2 (126·127·128·129·130·131·132·133·134·135·136·137·138)
- 图版 91 遗物 1地区 S X 2 (139·140) N V 1 (143·144·145·146·147·148·149·150·151·152·153)
- 图版 92 遗物 1地区 N V 1 (155·156) N V 2 (163·164·165·166·168·169·170·171·172·173·174)
- 图版 93 遗物 1地区·4地区 S X 2 (141) N V 1 (158·159·160·161·162) N V 2 (177·178) S B 28 (180·181·182·183)
- 图版 94 遗物 4地区 S B 28 (184) S B 34 (188) S D 53 (190·191·192·193·194·195·196·197·198·199·200·201)
- 图版 95 遗物 4地区 S D 53 (202·203·204·206·207·208·209·210·211·212) S D 54 (216·217) S D 57 (224) S D 74 (225)
- 图版 96 遗物 4地区 S D 74 (226·227·228) S D 75 (229·230·231·232·233·235·236·237·238·244)
- 图版 97 遗物 4地区 S D 87 (249·250·251·252) S D 106 (254·255·256·257·258·259) S D 119 (263·264) S D 127 (268·269)
- 图版 98 遗物 4地区 S E 3 (271·273·274·275·276·277·278·279·280·281·282·283·284·285)
- 图版 99 遗物 4地区 S E 3 (286·287·288·290·291·292) S E 4 (293·294·295·296·297·299·300·301)
- 图版 100 遗物 4地区 S K 175 (314) S K 183 (316·317) S K 184 (318) S K 185 (319) S K 196 (320) S K 201 (321·322·323·324·325·326) S K 208 (329) S K 211 (330)
- 图版 101 遗物 4地区 S K 211 (331·332·333·334) S K 222 (338·339·340·341·342·343) S K 228 (345·346·353)
- 图版 102 遗物 4地区 S K 228 (347·348·349·350·351·352) S K 231 (356) S K 236 (362·363·364·365·366·367)

- 图版 103 遗物 4 地区 S K256 (370・371・373・374・375・376・377・378・379・380・381・
382・383・384・385・386)
- 图版 104 遗物 4 地区 S K256 (387・390・393・394・396・398・399・400・403・404・406・
408) S E257 (411・412・414・415)
- 图版 105 遗物 4 地区 S K257 (416・418・419・420・421) S K258 (422・423・424・426
・427・428・429・430・431・432・433)
- 图版 106 遗物 4 地区 S K258 (435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・
446・447・449・450・451)
- 图版 107 遗物 4 地区 S K258 (452・453・454・455・456・457・458・460・461・462・463・
464・465) S K263 (466・468・469)
- 图版 108 遗物 4 地区 S K263 (471) S K292 (472・475・476) S K501 (478・479・480
・481) S K506 (484・485) S K522 (486・487・488) S K523 (490)
- 图版 109 遗物 4 地区 S K523 (491・492・493・494・495・496・497・499・501・502・503・
505・506・507)
- 图版 110 遗物 4 地区 S K523 (509・510) S R 6 (512・513・514・515・516・517・518・
519・520・521・522・523)
- 图版 111 遗物 4 地区 S R 6 (524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・
535・536・538・539・540・541) S R 7 (542) S R 8 (545)
- 图版 112 遗物 4 地区 S R 8 (543・544) S U 1 (546・547・548・549・550・551・552・
555・556・557・558・559・562)
- 图版 113 遗物 4 地区 S U 1 (563・566・567・568・569・571・575・576・577・579)
- 图版 114 遗物 4 地区・3 地区 S U 1 (583・585) S D219 (599・600・601・602・603・
604) S D213 (615) S D215 (617・618・619)
- 图版 115 遗物 3 地区 S D219 (605) S D213 (616) S D217 (621・622・623・624・625
・626・627・628・629・630・631)
- 图版 116 遗物 3 地区 S D217 (632・633・634・635・636・637・638) S D222 (642・643)
S D228 (649・650・651)
- 图版 117 遗物 3 地区 S D228 (652・653・654・655・656・657) S D226 (658) S D232
(659・660・661・662・663・664・665)
- 图版 118 遗物 3 地区 S D232 (667・668・669・670・671・674・675・677・678・679・680・
683・684・687)
- 图版 119 遗物 3 地区 S D232 (689) S E11 (705・706・708・709・712・715) S E12
(728・729・730)
- 图版 120 遗物 3 地区 S E11 (718・725・726・727) S E12 (731・732・733・734・735・

- 図版 121 遺物 3地区 S E12 (737・738・739・740・742・743・744・746・747・748・749)
S E13 (755) S E14 (765)
- 図版 122 遺物 3地区 S E12 (750・752・753・754) S E13 (757・758・761・762・763)
S E14 (766・767・768)
- 図版 123 遺物 3地区 S E15 (769・771・772・773・774・775・776・777・778・779・782・
783・785・787・790)
- 図版 124 遺物 3地区 S E15 (791・792・793) S E18 (797) S E22 (806・808・809・
810・812・813・816)
- 図版 125 遺物 3地区 S E22 (814・815・817・824・825・826・827・830・832)
- 図版 126 遺物 3地区 S E23 (837) S E24 (838・839・841・842・843・844・845・846・
848・850・852・853・854・855)
- 図版 127 遺物 3地区 S E24 (858) S K425 (863) S K429 (866) S K437 (875)
S K445 (876・877・880) S K456 (882・883・884・885・886・887)
- 図版 128 遺物 3地区 S K456 (888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・
899・900・902)
- 図版 129 遺物 3地区 S K456 (903・904) S K458 (907・908・909・912・913) S K469
(918・919・920・921・922・923・925)
- 図版 130 遺物 3地区 S K469 (926・927) S K470 (938) S K475 (940) S K479
(941・942・943・945・946・948) S R 9 (949・950) S R 10 (956)
- 図版 131 遺物 3地区 S R 10 (957・958・959・960) S N 6 (963)
- 図版 132 遺物 3地区 S N 6 (963)
- 図版 133 遺物 3地区 S N 6 (963)
- 図版 134 遺物 3地区 S N 7 (965)
- 図版 135 遺物 3地区 S L 6 (967) S L 7 (968) S W 4 (969) S Y 8 (981・982・
985・987・991)
- 図版 136 遺物 3地区 S X 13 (992・993・995・996・997・998・999・1000・1001・1002・1003
・1004・1005・1006・1007・1008)
- 図版 137 遺物 3地区 S X 13 (1009・1010・1013・1014・1019・1020・1021・1023) N V 5
(1024・1025・1028・1029・1034・1035)
- 図版 138 遺物 3地区 N V 5 (1036・1037・1041・1046・1072・1073・1074・1075・1076・
1077・1079)
- 図版 139 遺物 3地区・6地区 N V 5 (1086・1087) S E 7 (1138・1139・1141)
- 図版 140 遺物 3地区・6地区 N V 5 (1054・1055・1059) S D 179 (1096) S D 181

- (1098) S E 7 (1133・1140・1142・1143)
- 図版 141 遺物 6 地区 S E 7 (1122・1123・1145・1146・1147・1148)
- 図版 142 遺物 6 地区 S E 7 (1149・1150・1151・1152・1153・1154・1155)
- 図版 143 遺物 6 地区 S E 7 (1156・1157・1159・1160・1161・1162)
- 図版 144 遺物 6 地区 S E 7 (1158) S E 25 (1165) S E 26 (1169) S K 305 (1171)
S K 309 (1179) S K 310 (1181) S K 311 (1185・1186) S K 330 (1190) S K 337 (1193)
- 図版 145 遺物 6 地区 S K 347 (1195) S K 350 (1196・1197) S N 2 (1204) S U 12
(1219・1220) S Y 6 (1224) S K 496 (1255・1256)
- 図版 146 遺物 6 地区 S L 1 (1205) S L 2 (1208) S L 3 (1209) S L 4 (1210)
- 図版 147 遺物 6 地区 S X 6 (1229・1233・1239・1240)
- 図版 148 遺物 6 地区 S X 6 (1236・1238)
- 図版 149 遺物 6 地区 S X 6 (1237・1241)
- 図版 150 遺物 鉄製品 S K 161 (31) S X 2 (142) S E 4 (302) S E 5 (305) N V 5
(1084・1085・1088・1089・1090) S D 179 (1097) S D 181 (1100・1101)
S D 186 (1109) S E 7 (1144) S L 1 (1207) S X 8 (1251)

付 図 目 次

- 付図 1 三日市遺跡遺構全体図 5 地区
- 付図 2 三日市遺跡遺構全体図 2 地区 (1)
- 付図 3 三日市遺跡遺構全体図 2 地区 (2)
- 付図 4 三日市遺跡遺構全体図 2 地区 (3)
- 付図 5 三日市遺跡遺構全体図 1 地区
- 付図 6 三日市遺跡遺構全体図 4 地区 (1)・1-2 地区
- 付図 7 三日市遺跡遺構全体図 4 地区 (2)
- 付図 8 三日市遺跡遺構全体図 6 地区
- 付図 9 三日市遺跡遺構全体図 3 地区・進入路

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

1. 遺跡の発見

本遺跡の発見は、昭和44年秋から同45年春にかけて実施された大師山遺跡及び大師山古墳の調査を契機に、同46年に実施した分布調査が續続となった。大師山遺跡及び大師山古墳調査終了後、河内長野市教育委員会は関西大学考古学研究室の協力を得て、片添町の丘陵を分布調査した結果、土師質および瓦質の土器片が相当散布しているのが確認された。このことから、この丘陵一帯が埋蔵文化財包蔵地である可能性の高い地域であると注目されるに至った。

2. 調査の原因

河内長野市は、近年大阪市のベッドタウンとして急速に発展してきた。このような状況下の中で市当局は、南海電鉄高野線三日市町駅前の整備計画を策定した。当該地域を区画整理し、駅前開発の中心地域とする方針に基づいて、その事業の実施を住宅都市整備公団へ依頼した。依頼を受けた同公団は、その後必要な用地の確保並びに地権者への説明や協力要請を行い、昭和59年度事業認可手続きのめどが立ったことから、市教育委員会を通じ府教育委員会に埋蔵文化財の取扱について協議がなされた。

これを受けた府教育委員会は、前述の分布調査をもとに当該地は埋蔵文化財包蔵地の可能性が極めて高い地域であり、試掘調査を実施しその結果に基づいて再度協議すること、合わせて調査を財團法人大阪文化財センターに委託される旨回答した。

3. 試掘調査

回答を受けた公団は、数回にわたり、調査の方法や実施期間、経費について同センターと協議し、昭和58年12月5日付で委託契約を締結した。現地における調査は昭和58年12月6日から昭和59年3月8日まで実施された。

調査は事業予定期域の200,000m²に対し、幅2mの試掘溝を総延長1,000mにわたって設定し実施した。その結果ほぼ全域から縄文時代から近世までの遺構・遺物が確認され、大規模な遺跡であることが予想された。

4. 本調査について

試掘調査の結果をもとに、府教育委員会・市教育委員会・公団の三者で、取扱についてその協議がなされ、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなった。その協議のもとに、調査の実施機関・実施工程・調査経費等について、昭和59年9月10日づけで、三者において協定書が締結された。

これをもとに、調査の実施機関として、府教育委員会・市教育委員会・市・学識経験者からな

る三日市遺跡調査会が昭和59年11月1日に設立された。そして調査会と公団において昭和59年度の発掘調査業務の委託契約が締結された。ただちに昭和60年1月7日より現地調査を実施した。これ以後毎年度毎に委託契約を締結し、更に昭和60年8月15日には、公団と調査会とで、全調査費用の概算確定のため全体協定書を締結した。

現地調査は、昭和62年4月をもって一部を残し終了し、昭和63年3月に「三日市遺跡調査報告書I」を刊行し、昭和63年10月に本「三日市遺跡調査報告書II」を刊行し本事業を終了した。

5. 調査組織

当該遺跡の調査は、大阪府教育委員会と河内長野市教育委員会とによって設立された三日市遺跡調査会が行っている。この組織は以下のとおりである。

理事会、事務局、調査部によって構成されている。理事は学術経験者を含め関係行政機関職員に依って構成されている。



三日市遺跡調査会機構図

理事長	河内長野市教育委員会教育長	中尾 謙二（昭和63年9月～昭和63年10月）
理事	大阪府教育委員会文化財保護課長	古房 康幸（昭和59年～昭和63年）
理事	関西大学教授	網干 善教（昭和59年～昭和63年）
理事	大谷女子大学教授	中村 浩（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市総務部長	野手 正夫（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市企画調整部長	西久保弘成（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市都市整備部長	向井 亨（昭和59年～昭和63年）
理事	河内長野市教育委員会教育次長	中谷 勝義（昭和63年9月～昭和63年10月）
理事	河内長野市教育委員会社会教育課長	田中 良治（昭和63年9月～昭和63年10月）
事務局長		釜ヶ谷正巳（昭和62年～昭和63年）
調査部長	大阪府教育委員会文化財保護課主幹	井藤 徹（昭和59年～昭和63年）
調査主任	河内長野市社会教育課	尾谷 雅彦（昭和59年～昭和63年）
元理事長	前河内長野市教育委員会教育長	平井 義信（昭和59年～昭和63年9月）
元理事	河内長野市助役	上野 昭二（昭和63年～同年）
元理事	前河内長野市企画調整部長	芝上 利治（昭和61年～昭和63年9月）
元理事	前河内長野市教育委員会管理部長	水口 知治（昭和59年～昭和60年）
元理事	前河内長野市教育委員会教育次長	峰 清勝（昭和60年～同年）
元理事	前河内長野市教育委員会理事	堀内 邦夫（昭和60年～昭和63年8月）
元理事	前河内長野市教育委員会社会教育課長	大谷 隆彦（昭和59年～昭和63年9月）
元事務局長		上野 英一（昭和59年～昭和60年）

元事務局長 前河内長野市教育委員会社会教育課長補佐 峰 正明（昭和61年～同年）
調査員 亀山隆（現亀山市教育委員会） 高 正龍（現京都市埋蔵文化財センター） 土師春樹
（現大阪市立田辺中学校教諭） 松本高志 四宮加容子
調査補助員 谷健二 谷口和美 久保八重子 鈴木雅子 佐々木恵里 田路幸子 小泉雅代 明
地奈緒美 岡山かおり 金田佳子 古池陽子 中村清美 阪本桂子 楠木真紀子
中西和子 平井令子 斎明美 松本准 平岡祐子 福武世志子 橋本ひとみ 中
西信子 吉田あけみ 奥田紀子 越膳静都子 東野麻衣子 半田香織 西木由美
北野哲也 松田友克 田中良明 手山典子 岩山まこ 西浦賢恵 橋本美和子 坂
村秀彦 東尾明美 安木真治 宮本育美 熊野祐美 向博子 福本泉 八木理子
清田実保 平井香 加嶋慶子 川原有沙 大北素代 森本良 山崎正芳 宝田忍
喜多順子 乾利夫 中村登美子 松尾寿美子 小野聰美 小川都 中野雅美 中村
勝彦

第2節 調査の方法

1. 調査地の策定

当該事業地はその面積が200,000m²と広大であり、試掘の結果、遺跡はこの事業地の70%の区域に広がると予想された。

このため、全域の調査については、その費用・期間・人的体制等の現時点での条件下では不可能に近い状況であった。このため調査対象面積の縮小を余儀なくされ、事業計画に基づき、工事における切り土部分及び道路2m以下の盛土部分について調査対象とした。残りの部分については盛土によって保存されるものとして調査対象から除外した。この結果、調査面積は約60,000m²と成了った。この調査地域の策定方法については、記録保存における種種の問題をはらんでおり、批判の対象となることは調査者の認めるところである。

2. 調査地の区割り設定

調査の実施においては、便宜上№1～6までの6地区の調査区を設定した。しかし、これはあくまで調査年度、人員の配置や堀削作業の発注の為であった。

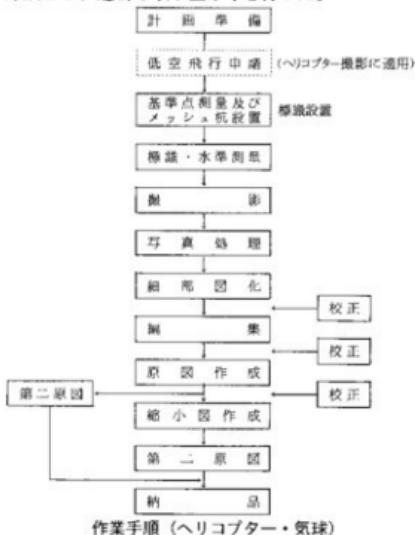
実際の調査における測図・遺物の取り上げや本書の記載については国土地標を基準（遺跡の原点はX=-174.0km、Y=-39.0km）とした方角地区割り図をもとにした。一部便宜上№1～6までの地区名を用いている。この区割りは大中小の3段階に設けた。大地区はI～IVに区画し、その中に100方眼のA～Pの中地区を配した。中地区は更に南北を1～20の数値で、東西をa～tで表し400等分した。つまり、小地区は5m方眼とし、遺物の取り上げ等を行った。

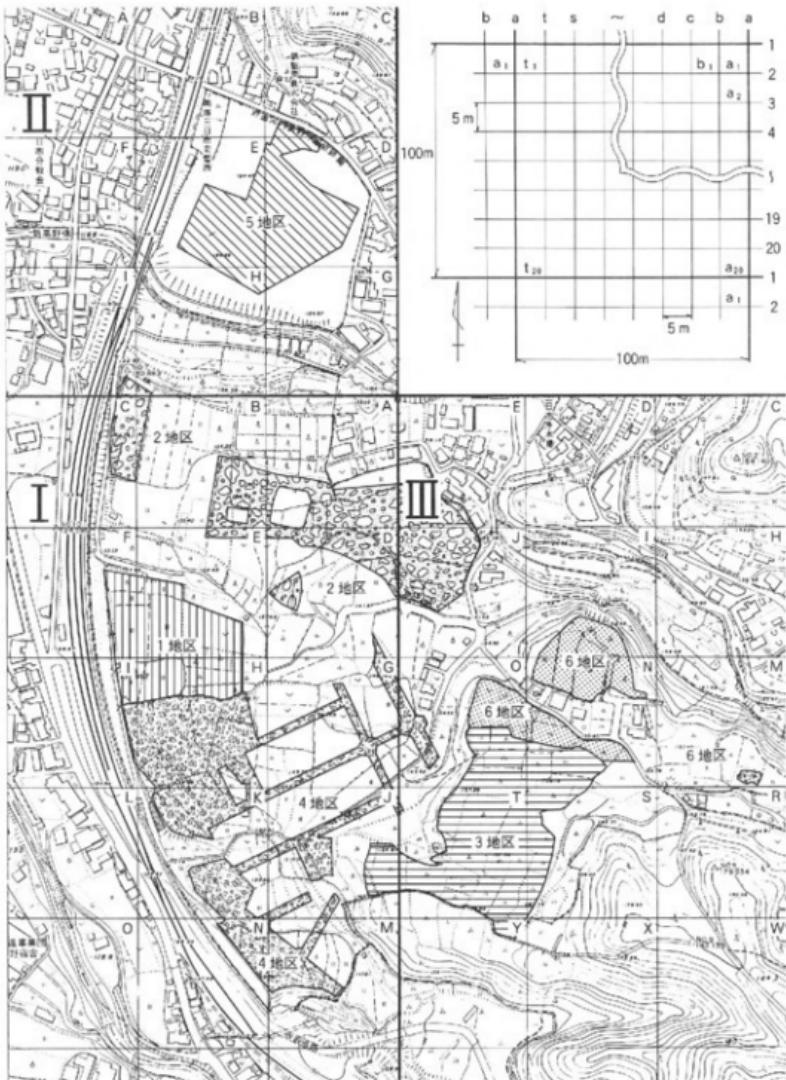
3. 航空測量について

調査における測図は、1/20を基本として、方法としては航空測量と遺り方他測量をもちいた。航空測量は全域を遺り方測量は詳細図を作成するときに用いた。航空測量は当初ヘリコプターを用いたが、騒音等の問題が一部生じたところがあり、場所によってはバルーンを使用した。ヘリコプターおよびバルーンによる測量仕様は以下のとおりである。

（1）基準点について

基準点測量の座標系は大阪府適用の第Ⅳ系（原点は緯度36° 0'、経度136° 0'）を使用した。（昭和43年10月11日建設省告示第3059・昭和47年5月15日建設省告示第





第1図 調査区配置及び調査区設定図

952号改正) 実際の基準点測量には住宅都市整備公団の成果を使用し、メッシュ杭設置の基準とした。メッシュ杭上には標識を設置し、細部図化の標定としてもらいた。標高の基準は東京湾平均海面とした。(T、P)

(2) ヘリコプター及びバルーン撮影の比較

[ヘリコプター撮影の長所] 撮影画面が大きい(23×23)。作業時間が短い。広い範囲に適用できる。

[ヘリコプター撮影の短所] 低空飛行申請が必要である(即時性にかける)。騒音・風圧がある(民家の密集地には向き)。多繁期に機体確保が難しい(農薬散布等)。高価である。

[バルーン撮影の長所] 即作業に対応できる。滞留時間が長い。比較的廉価である。

[バルーン撮影の短所] 撮影画面が小さい(6×6)。作業時間が長い(範囲が広いと時間がかかる)。風に非常に弱い。

(尾谷)

第2章 位置と環境

第1節 位置と自然的環境

1. 位置

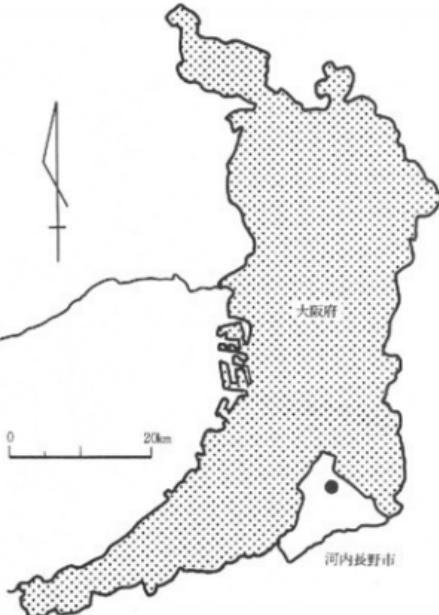
当該遺跡は、大阪府の南東に位置する河内長野市三日市町及び片添町に広がる。河内長野市域は旧河内国錦部郡に該当する。遺跡は約20haにわたって分布するものである。標高は130m～160m。遺跡の西側には南海電鉄高野線及び国道310号線・旧高野街道が走り、これより天見谷を北行し紀見峠を越えて和歌山県橋本市へと至る。また、石見川谷をさかのばれば奈良県五條市へと至る。更に西へ向けば和泉地域へ至る街道が走る。つまり、この遺跡の立地するところは、旧大和、和泉、紀伊の国へ至る街道の要所に位置する。

2. 自然的環境

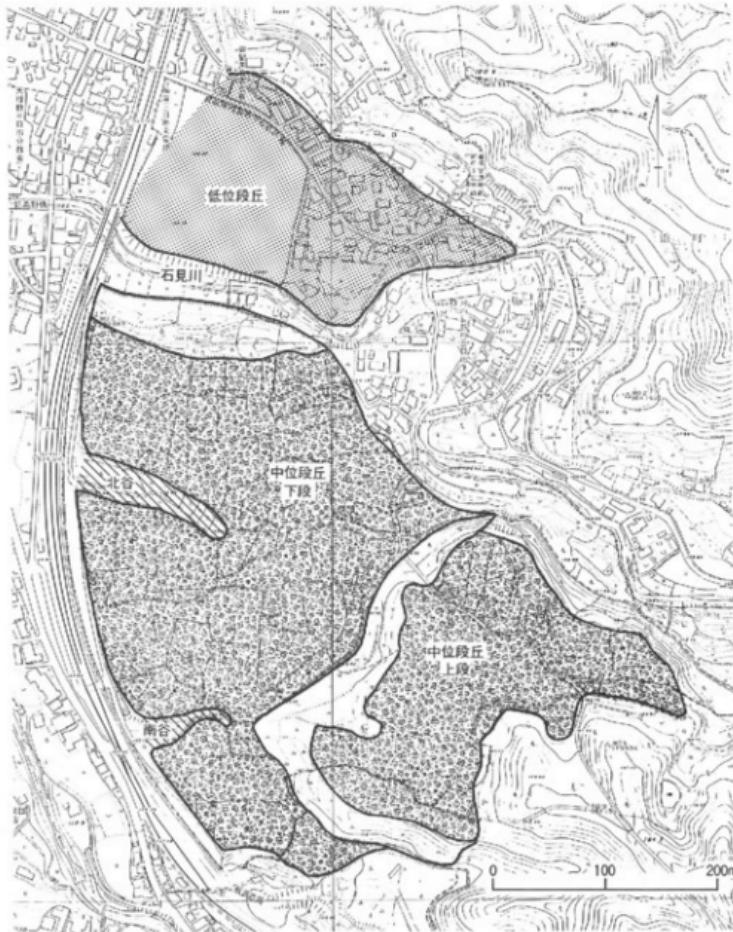
河内長野市は金剛・葛城山から派生する山地性丘陵が大部分を占めている。そして、この山系に源を発する石見川・天見川・石川・加賀田川・天野川に因って作られた狭小な谷と、天野川を除く他の小河川が合流した大和川の支流石川によって作られた河岸段丘により形成されている。

遺跡は、北西から西に流れる石見川の北川谷と南側丘陵つまり北流してきた天見川の東側丘陵に位置するところである。谷側は低位段丘、丘陵は中位段丘となる。

遺跡の立地する地形・地質を微視的に見ると、石見川の北岸標高120mが低位段丘である。そして、天見川の東側は、標高135～145mの下段と標高155～160mの上段の2面から形成されている中位段丘である。この中位段丘の下段には、石見川から南に100mごとに東西に入り込む2条の小谷によって画されている。いずれの谷も調査の結果、上段と下段の段丘崖の裾まで入り込んでいるのが確認された。



第2図 遺跡位置図



第3図 調査地区地形区分図



第4図 河内長野市遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	塩谷遺跡	弥生時代中期～中世	48	膳所藩陣屋跡	近世
2	千代田神社遺跡	中世	44	本多藩陣屋跡	近世
3	菱子尻遺跡	弥生時代～中世	45	長野神社遺跡	中世
4	小山田2号古墓	奈良時代	46	上原北遺跡	
5	小山田1号古墓	奈良時代	47	鳥帽子形八幡神社本殿	中世
6	寺ヶ池遺跡	旧石器時代～彌文時代		鳥帽子形城跡	中世
7	佐古神社遺跡	中世		鳥帽子形古墳	古墳時代
8	伝「仲哀廟」		48	末広窯跡	中世
9	長池窓跡群	中世	49	河合寺城跡	中世
10	青ヶ原神社遺跡	中世	50	河合寺境内	中世
11	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	51	福田家住宅	近世
12	高向遺跡	古墳時代後期～中世	52	大師山遺跡	弥生時代中期
13	忍持寺跡	中世		大師山古墳	古墳時代前期
14	上原町墓地		58	大師山南古墳	古墳時代
15	高向南遺跡		54	觀心寺	平安時代～
16	高向神社遺跡	中世	55	釋迦	
17	宮山古墳	古墳時代後期	56	三日市遺跡・石仏遺跡	旧石器時代～近世
18	高木遺跡	旧石器時代～彌文時代	57	加賀田神社遺跡	
19	峯山城跡	中世	58	ジョウノマエ遺跡	
20	日ノ谷城跡	中世	59	延命寺	
21,22	仁王山城跡	中世	60	川上神社遺跡	中世
23	摩尼院書院		61	石仏城	中世
23	金剛寺		62	左近城跡	中世
24	日野龍音寺遺跡	中世	63	涌水遺跡	中世
25	福荷山城跡	中世	64	樂師寺石造五輪	
26	旗藏城跡	中世	65	千早口駅南遺跡	中世
27	国見城跡（小瀬城跡）	中世	66	岩瀬森地	
28	瀧尻跡跡空跡		67	地藏寺	
29	権現城跡	中世	68	伝大江時親邸跡	
30	清水阿弥陀堂跡	近世	69	旗尾城跡	中世
31	庵畠埋墓	近世	70	堀城第18岩城経塚	
32	堂村地蔵堂跡	近世	71	天見駅北方遺跡	中世
33	中村阿弥陀堂跡	近世	72	堀城第16經塚	
34	宮ノ下内墓	近世	73	蟹井郡北遺跡	中世
35	天神社遺跡	中世	74	蟹井郡神社遺跡	中世
36	西の村阿弥陀堂跡	近世	75	蟹井郡南遺跡	中世
37	東の村阿弥陀堂跡	近世	76	流谷八幡神社遺跡	中世
38	光福寺遺跡	近世	77	岩瀬寺多宝塔	
39	向野遺跡		78	堀城第15經塚	
40	五木古墳	古墳時代後期	79	岩瀬山	
41	古野古墳	古墳時代後期	80	尾崎遺跡	
42	古野町遺跡	中世	81	加藤遺跡	古墳時代
			82	小塙遺跡	古墳時代

第1表 河内長野市遺跡地名表

第2節 歴史的環境

当市内には数多くの文化財が残されている。そして、その大半は建造物などの有形文化財が占めている。しかし、最近の開発行為により埋蔵文化財の存在も注目されるようになった。

1. 繩文時代

旧石器時代の確実な遺跡は知られていないが、寺ヶ池遺跡（6）からは有舌ポイントが出上しており、他にも縄文時代の石器も採取されている。また、菱子尻遺跡（3）からも石匙が出土している。最近の調査では高向遺跡（12）からもこの時代の遺物が確認されている。このような結果から、石川の最上流部においても縄文時代の遺跡が確認され、石川流域には下流域の著名な国府遺跡を初めとして全域に遺跡が分布することが判明した。

2. 弓生時代

前期の遺跡はまだ確認されていないが、中期になると塙谷遺跡が出現する。この遺跡は昭和46年に調査され鐵内第II様式から第IV様式の土器と石器類が出土している。後期になると石川を望む丘陵上に、大師山遺跡（52）が現れる。この遺跡は昭和45年に住宅開発において市教育委員会と関西大学によって調査された。その結果、住居跡と焼土壌が発見され、高地性集落と考えられている。

3. 古墳時代

この時代に入ると大師山遺跡と同じ丘陵上に前期古墳の大師山古墳（52）が築造されている。この古墳は昭和6年の発見時の調査で多くの車輪石や鍔形石などの石製腕輪類や内行花文鏡が粘土郭から棺材とともに発見された。また、当初円墳と考えられていたが戦後の調査で前方後円墳であることが判明した。

中期の古墳は三日市遺跡から検出された以外確認されていない。

後期になると、市内においても若干の古墳が確認されている。まず、石川の本流域を見ると、北部では左岸の向野地区に五の木古墳（40）が位置していた。この古墳はすでに工場造成で削平され消滅したが、横穴式石室を有していたもので破壊される直前に奥壁部から多くの須恵器と上彫器が出土している。また、この周辺には鉄道建設によって破壊されたと伝えられる双子塚古墳・法師塚古墳などが存在していたようである。石川の左岸段丘上に上原地には横穴式石室を有する塚穴古墳（11）がある。この古墳は、江戸時代に一度破壊を受けた後再構築されたもので、現状の石室の石材は基の石材を割って再使用している。塚穴古墳の後背の丘陵裾部には、伝仲哀天皇陵（8）と伝承されている古墳状の高まりがある。また、右岸の丘陵の裾部にも横穴式石室を有すると言われる宮山古墳が位置している。

天見川流域を見ると、石川との合流付近の左岸の鳥帽子形の丘陵上には円墳の横穴式石室の鳥帽子形古墳（47）が位置している。更に、右岸の大師山古墳の位置する丘陵の裾部には大師山南古墳（53）が存在する。いずれも未調査で詳細は判明しない。

古墳時代の集落遺跡は三日市遺跡以外では、天見川の左岸の段丘上から工事中に須恵器と土師器が発見された尾崎遺跡（80）が確認されているだけである。

加賀田川の左岸には、6世紀代の住居と建物、土器が出土した加塩遺跡（81）、7世紀代の遺物が散布する小塩遺跡（82）がある。

4. 奈良時代～平安時代

奈良時代の遺跡は少なく、高向遺跡（12）で若干の上器が出土している。その他には、小山田地区に2基の火葬墓（4・5）が存在していたことが確認されている。

平安時代においても前述の尾崎遺跡から黒色土器を伴った掘立柱建物が一棟検出されているだけである。他には、観心寺（54）境内から古瓦の出土が伝えられているだけである。

この時期の遺跡はまだまだ未確認の状態であるが、文献上から見れば今後の開発によって増加することは間違いない。

5. 鎌倉時代～室町時代

いわゆる中世の遺跡は市内各所で発見されている。集落遺跡としては東高野街道が市域に入るところの向野遺跡（39）、西高野街道沿いの古野町遺跡（42）、両高野街道が合流し天見川に沿って北行すると、南から尾崎遺跡（80）・石仏遺跡（56）・清水遺跡（63）・千早口南遺跡（66）・天見駅北方遺跡（71）・蟹井淵北遺跡（73）・蟹井淵南遺跡（75）が狭小な谷部に分布している。更に石川の左岸の河岸の段丘上には高向遺跡（12）・高向南遺跡（15）・上原遺跡（11）など面的に広がる遺跡が分布している。

寺院跡では、石川の上流部の日野地区には日野觀音寺遺跡（24）、石川本流域では長野神社遺跡（45）があり瓦や中世土器が出土している。これ以外には観心寺（54）や岩湧寺（77）の境内から同様に瓦や土器が出土している。また、金剛寺（23）では旧寺域内で中世墓が調査されている。

神社では、高向神社（16）や加賀田神社（57）では中世土器が出土し、鳥帽子形八幡宮（47）の修理では、文明12年銘の棟札と共に羽釜の中に土師皿が納められた地鎮具が出土している。

また、本市の特徴として南北朝から戦国時代にかけて30余りの城砦が分布している。これらの城の中で、鳥帽子形城（47）と仁王山城（21・22）は河内国守護畠山氏の内紛による大永4年（1524年）の畠山植長と畠山義英との合戦の文献に登場する。植長が鳥帽子形城に義英が仁王山城に拠ってたたかっている。仁王山城は和泉山脈から派生する険しい山地の尾根上に位置する。鳥帽子形城は高野街道と石川と天見川との合流部を望む丘陵上に位置する。鳥帽子形城はこれ以後元和8年（1622年）の廃城までこの地域一帯の要の城として一時期を除き存続していた。

前述の遺跡以外に生産遺跡として炭焼き窯の検出がある。大師山遺跡や小山田地区長池窯跡群（9）、更には日野觀音寺遺跡でも確認されている。時代をきめるべき出土遺物は少ないが平安時代から中世にかけての小型窯が多い。

7. 江戸時代

市内の一部は近江膳所藩の所領となり、膳所藩の河州出張所が置かれており、近世末の染付な

どの陶磁器類が出土している。また、江戸時代末から明治時代にかけて廃寺となった近世寺院の跡も、開発によって調査対象となってきた。

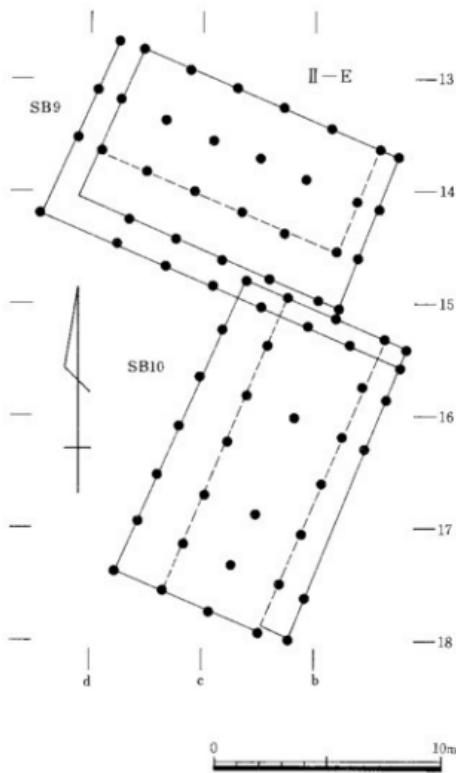
(尾谷)

〔参考文献〕

- 河内長野市教育委員会 1971 『大師山古墳・大師山遺跡発掘調査概要』
- 河内長野市教育委員会 『大師山古墳』
- 河内長野市教育委員会 1971. 9 河内長野市文化財調査概要『長池窯跡発掘調査概要—河内長野市小山田地区一』
- 大阪府教育委員会 1973. 3 大阪府文化財調査概要1972-11『菱子尻遺跡 発掘調査概要—河内長野市楠町東所在一』
- 金剛寺坊跡調査会 1975. 2 河内長野市文化財調査概要『天野山金剛寺 中世墓地発掘調査 河内長野市天野町所在』
- 河内長野市教育委員会 1976. 3 河内長野市文化財調査概要『棚原窯跡発掘調査概要—河内長野市上原町所在一』
- 関西大学 昭和52年3月 関西大学文学部考古学研究 第5冊『河内長野大師山一大師山古墳・大師山遺跡発掘調査報告一』
- 大阪府教育委員会 1982. 3 『石仏遺跡発掘調査概要—河内長野市石仏所在一』
- 大阪府教育委員会 1982. 8 『栗山遺跡—河内長野市清見台用地内一』
- 財團法人 大阪文化財センター 1984. 3 『三日市地区特定土地区画整理 事業施工地区内 片添遺跡第1次発掘調査報告書』
- 三日市遺跡調査会 昭和60年3月 『三日市遺跡調査概要 I』
- 財團法人 大阪文化財センター 1985. 4 『河内長野市上原地区 区画整理事業予定地内 分布調査報告書』
- 河内長野市教育委員会 1987. 4 河内長野市文化財調査報告書 第11輯『河内長野市埋蔵文化財調査報告書 I』

第3章 遺構

第1節 5地区



第5図 SB9・SB10配置図

m、深さ0.5m。柱痕径0.2m。建物の西側から南側に柵列S A 3を伴う。柵列は西側3間、南側7間で柱間ほぼSB9の桁行と梁行と一致する。また、P10・P11から遺物が出土している。

「遺物」 遺物はP1から土師質小皿(3)・瓦器皿(14)、P2から瓦器塊(18)、P3から土師質小皿(5)、P4から土師質小皿(6)・土師質杯(9)・黒色土器(13)・鉄製品(22)、P5土師質皿(1・8)・黒色土器(12)・瓦器塊(16)、P6から瓦器皿(15)、P7から黒色

1. 概略(付図1)

石見川の南側に位置する当調査地区は、三日市遺跡のなかでは南端に位置する。地形的にも、他の調査区が中位段丘上に位置するのに比べ、石見川によって開析された谷の出口に当る位置である。丘陵との比高差は約20mを計る。

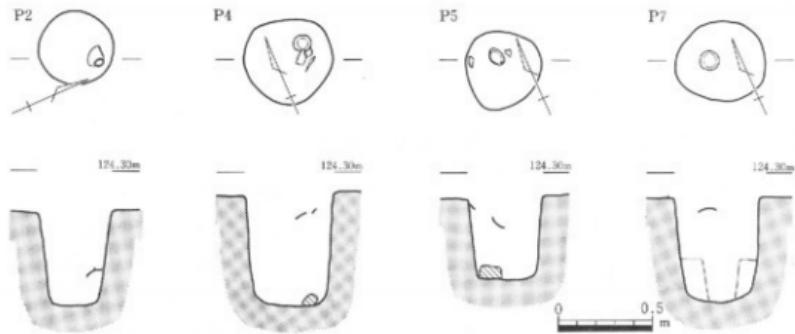
遺構は、縄文から古墳時代の遺物を含む包含層上面から切込まれている掘立柱建物が2棟だけである。

2. 遺構

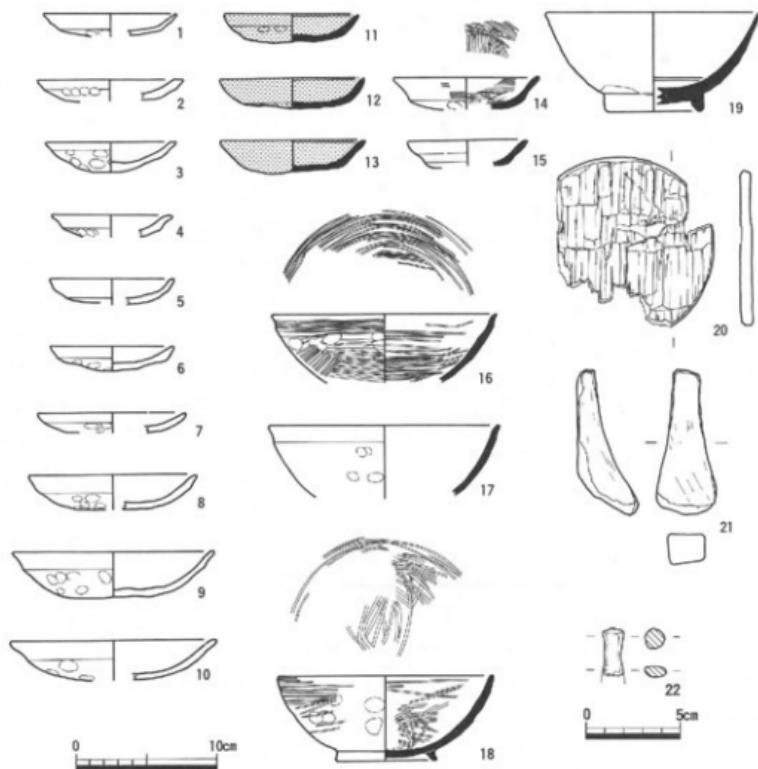
建物(SB)

SB9(第5~8図、図版2・85)

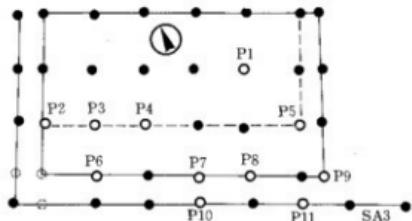
【遺構】 調査区の中央、II-E-a ~d-12~15付近に位置する。主軸方向はN-67°-Wを示す。桁行6間(12.7m)×梁行3間(7.2m)の建物で、南面に庇、東側に付け庇をもつ。建物は一部、SB10と重複する。P1~P9の柱穴から遺物が出土している。特にP7からは白磁が出土している。柱間は梁行2.5m、桁行2.3mで、付け庇幅は1.1mである。柱穴の規模は径0.4



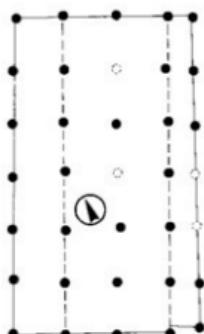
第6図 SB 9 ピット内遺物出土状況図 (1/30)



第7図 SB 9 遺物実測図



第8図 S B 9遺構図



第9図 S B 10遺構図

土器（11）・白磁碗（19）、P 8から土師質小皿（4）・砥石（21）、P 9から土師質小皿（2）・瓦器塊（17）、P 10から土師質皿（10）、P 11から土師質小皿（7）・木製曲物底部（20）が出土している。

S B 10 (第5・9図、図版2)

〔遺構〕 II-E-a～d-15～18付近

に位置し、S B 9の南側に一部重複する。主軸方向はN-24°-Eを示す。桁行6間(14.1m)×梁行4間(8.2m)の建物で、西面に庇、東側に付け庇をもつ建物である。東側の付け庇は北から4間と5間目が削平を受けて消失している。柱間は梁行2.3m、桁行2.3mで、付け庇幅は1.1mである。柱穴は径が0.3m、深さ0.5m。

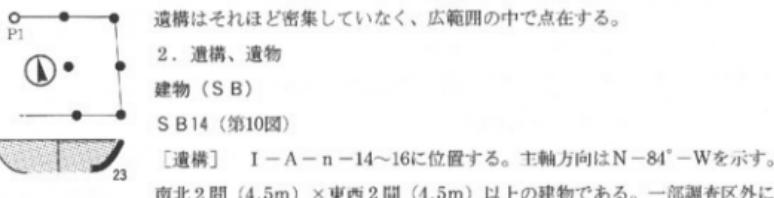
〔遺物〕 柱穴から土師質皿、瓦器片が出土しているが、図示可能な遺物は出土していない。

S B 9と10は柱穴の切り会い関係からS B 10が新しいと考えられるが、時期的な差は大過ないものである。

第2節 2地区

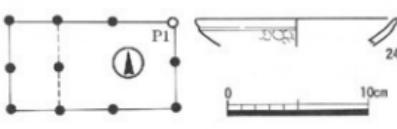
1. 概略（付図2～4）

丘陵上に広がる調査区で、北側の石見川の谷と丘陵上にある南側小谷とに挟まれた地域である。



第10図 S B14遺構図
及び遺物実測図

S B15 (第11図、図版3)

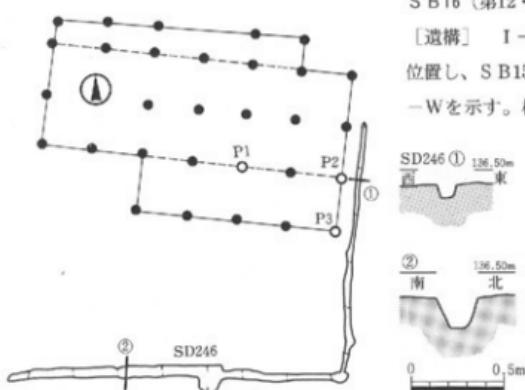


〔遺物〕 遺物はP1から土質質皿(24)が出土している。

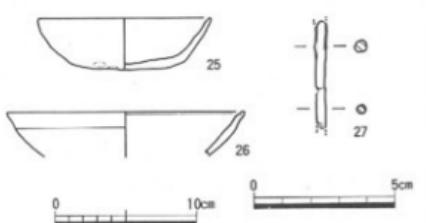
S B16 (第12・13図、図版3・86)

〔遺構〕 I-A~B-t~b-19~20付近に位置し、S B15と重複する。主軸方向はN-87°-Wを示す。桁行6間(13.3m)×梁行4間(8.4m)で東側南から4間分が庇、西側北から5間分が付け庇である。柱間は桁行2.2m、梁行2.3m、付け庇幅1.4m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

建物の東側を南から西に逆L型に幅0.22m、深さ0.15mのS D246が巡っている。



第12図 S B16遺構図及び溝断面図



第13図 SB16遺物実測図

【遺物】 遺物はP1から土師質皿(26)、P2から不明鉄製品(27)、P3から土師器杯(25)が出土している。

S B17 (第14図、図版3)

【遺構】 I-A-d~e-19付近に位置する。主軸方向はN-12°-Wを示す。桁行3間(6m)×梁行2間(3.8m)の建物である。北側から一間の梁行中央にも柱穴があり、



第14図 SB17遺構図及び遺物実測図

柱間は桁行2m、梁行西から2m、1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.2m。

【遺物】 遺物はP1から土師器壺(28)が出土している。

S B18 (第15図、図版4)

【遺構】 III-E-t-16付近に位置する。主軸方向はN-70°-Wを示す。桁行5間(7m)×梁行2間(3.5m)の建物である。西側の梁行のみ中央に柱穴がある。柱間は桁行1.5m、1.3m、1.2m、1.3m、1.5mで不揃いである。梁行は1.75m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

【遺物】 遺物は出土していない。

第15図 SB18遺構図 S B19 (第16図、図版4)

【遺構】 III-J-o-3付近に位置する。主軸方向N-80°-Eを示す。桁行3間(5.7m)×梁行2間(3.7m)の建物である。柱間は桁行1.9m、梁行は北から1.9m、1.8m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。

【遺物】 遺物は出土していない。

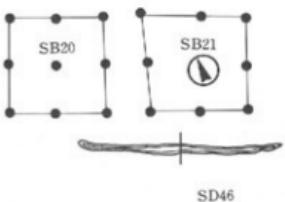
第16図 SB19遺構図 S B20 (第17図、図版5)

【遺構】 III-J-o-10付近に位置する。主軸方向N-20°-Eを示す。桁行2間(4.3m)×梁行2間(4.2m)の建物である。中央に柱穴を有する。柱間は桁行2.15m、梁行は2.15m、庇幅1.1m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。

【遺物】 遺物は出土していない。

S B21 (第17図、図版5)

【遺構】 III-J-n-11付近に位置す



第17図 SB20・SB21遺構図及び溝断面図

る。主軸方向N-20°-Eを示す。桁行2間(4.5m)×梁行2間(4.3m)の建物である。柱間は桁行2.25m、梁行は2.15m。柱穴の径0.2m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

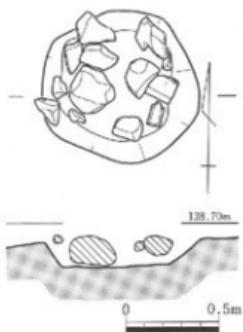
井戸 (S E)

S E 1 (第18図)

〔遺構〕 III-J-r-6に位置する。平面が橢円形を呈するものである。長径2.8m、短径2.3m、深さ0.7m。井戸内には南北に0.2mから0.3mの間隔で径0.03mの自然木の先端を削っただ



第18図 S E 1 遺構実測図 (1/30)



第19図 S K158遺構実測図
(1/30)

けの杭が5本打ち込まれてあった。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

土壤 (S K)

S K158 (第19図、図版5)

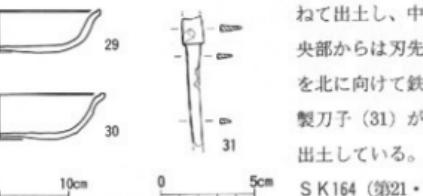
〔遺構〕 III-J-r-3に位置する。平面形は円形を呈する。内部には最大 $0.25\text{m} \times 0.25\text{m}$ 程度の河原石が充填されている。径 0.84m 、深さ 0.15m 。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S K161 (第20図、図版6・86・150)

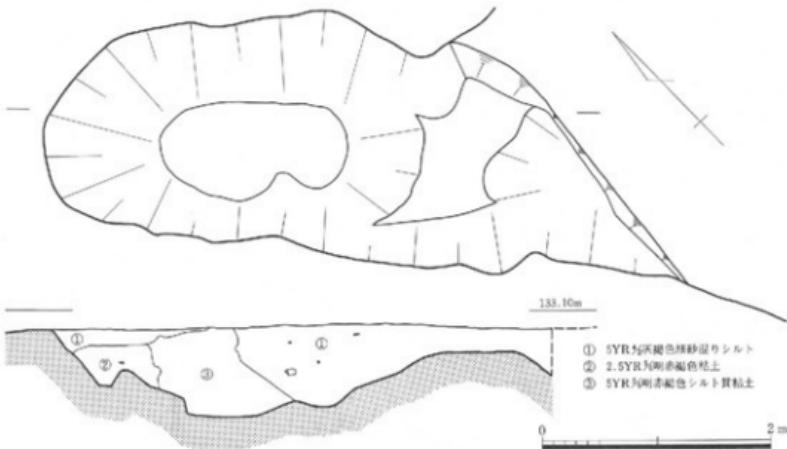
〔遺構〕 III-J-K-2に位置する。平面形は隅丸の長方形を呈する。長軸 0.7m 、短軸 0.64m 、深さ 0.11m 、主軸方向はN-32-Wを示す。

〔遺物〕 遺物は北東隅から土師器皿2枚(29・30)が口縁を重ねて出土し、中央部からは刃先を北に向けて鉄製刀子(31)が出土している。

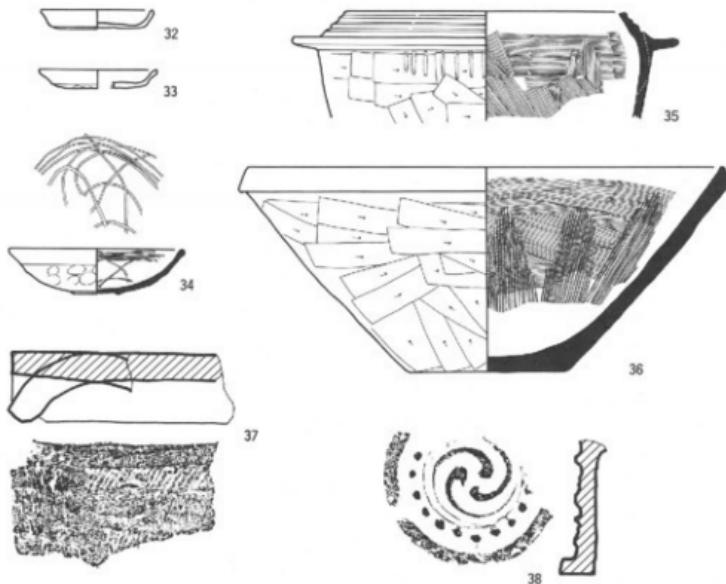


第20図 S K161遺構 (1/30) 及び遺物実測図

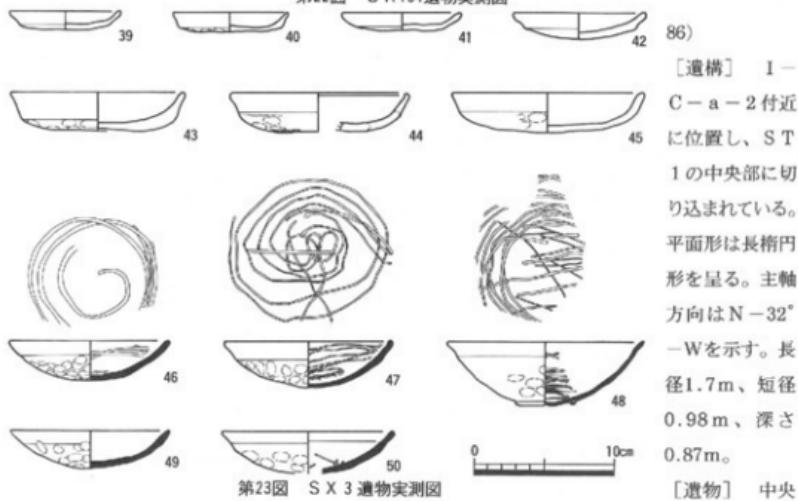
S K164 (第21・22図、図版6・



第21図 S K164遺構実測図 (1/50)



第22図 SK 164遺物実測図



第23図 SX 3 遺物実測図

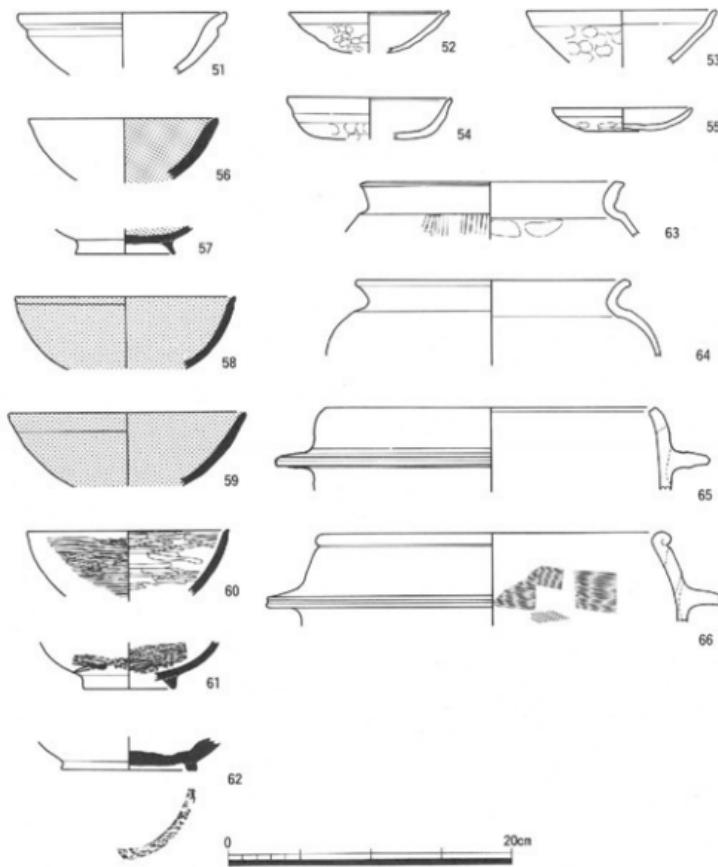
部から土師質皿（32・33）、瓦器塊（34）、瓦質羽釜（35）、瓦質摺鉢（36）、軒丸瓦（37）、丸瓦（38）が出土している。

その他の遺構（S X）

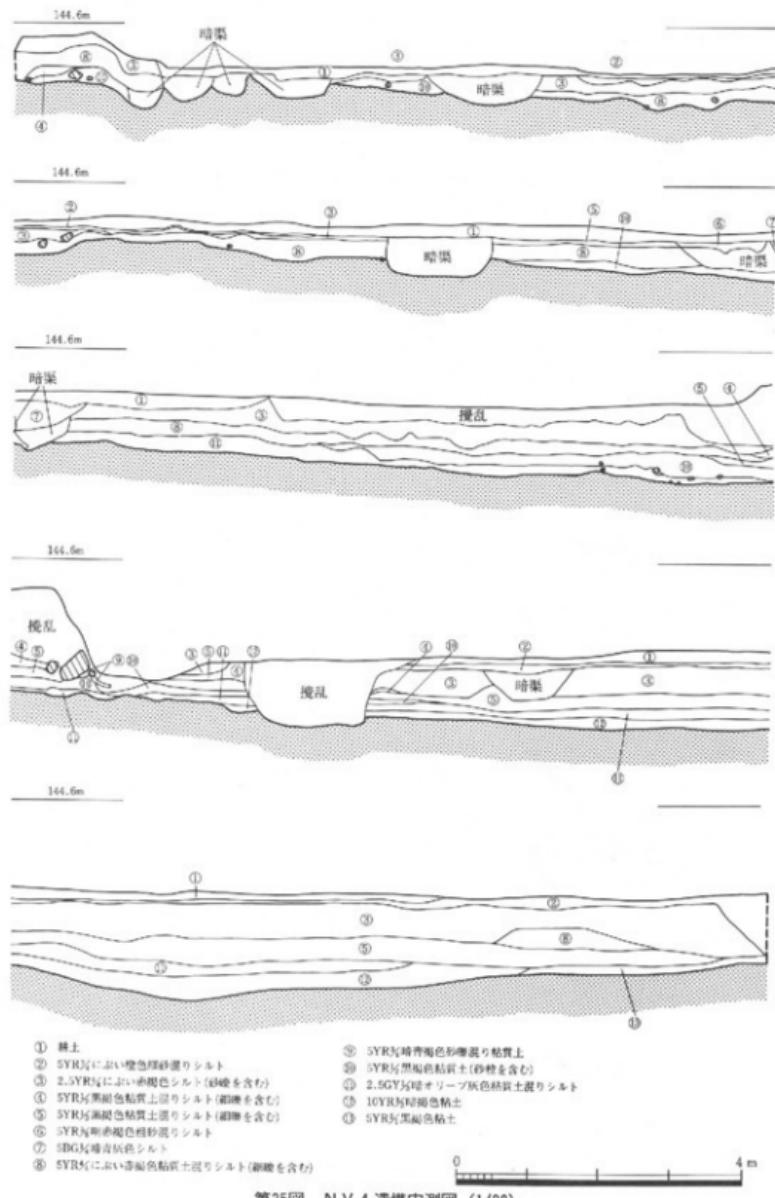
S X 3（第23図、図版6・7・86・87）

[遺構] I-C-a-4に位置する道状の遺構である。西側の天見川の谷から上ってきている様である。幅1.2m、深さ0.6m、検出長14m。

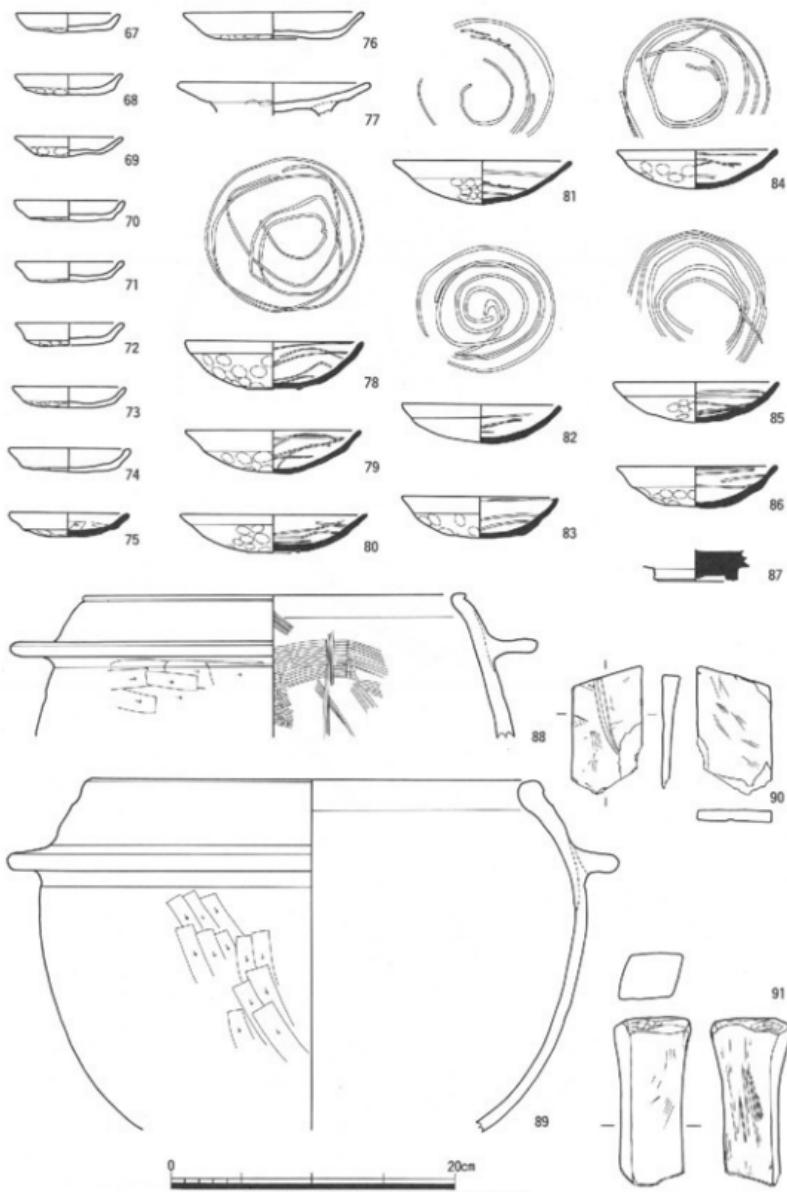
[遺物] 遺物は土師質小皿（39～42）、土師質大皿（43～45）、瓦器塊（46～50）が出土している。



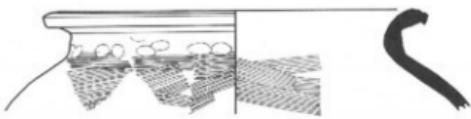
第24図 NV 4 下層遺物実測図(1)



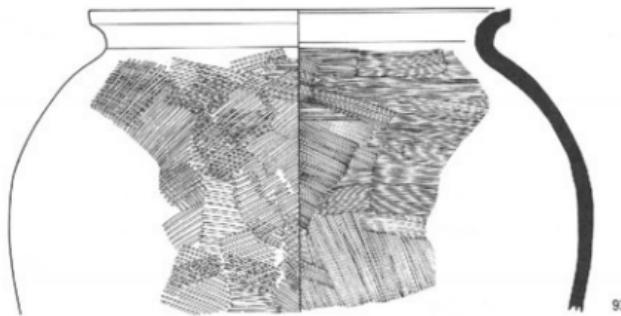
第25図 N-V4 遺構実測図 (1/80)



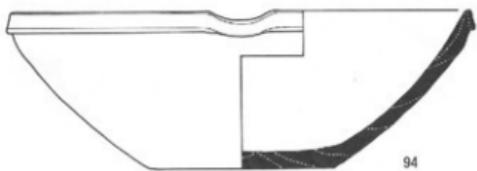
第26図 NV 4 中層遺物実測図 (2)



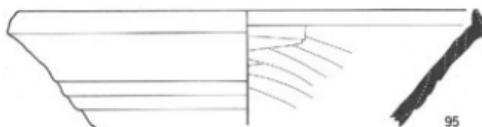
92



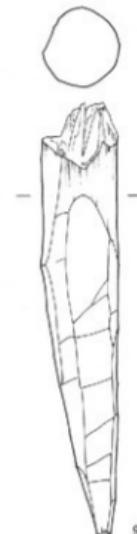
93



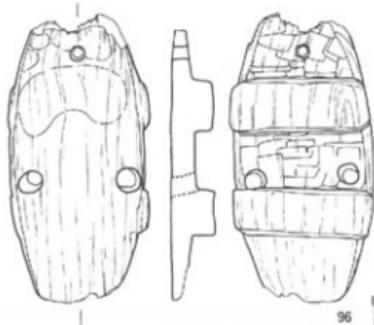
94



95

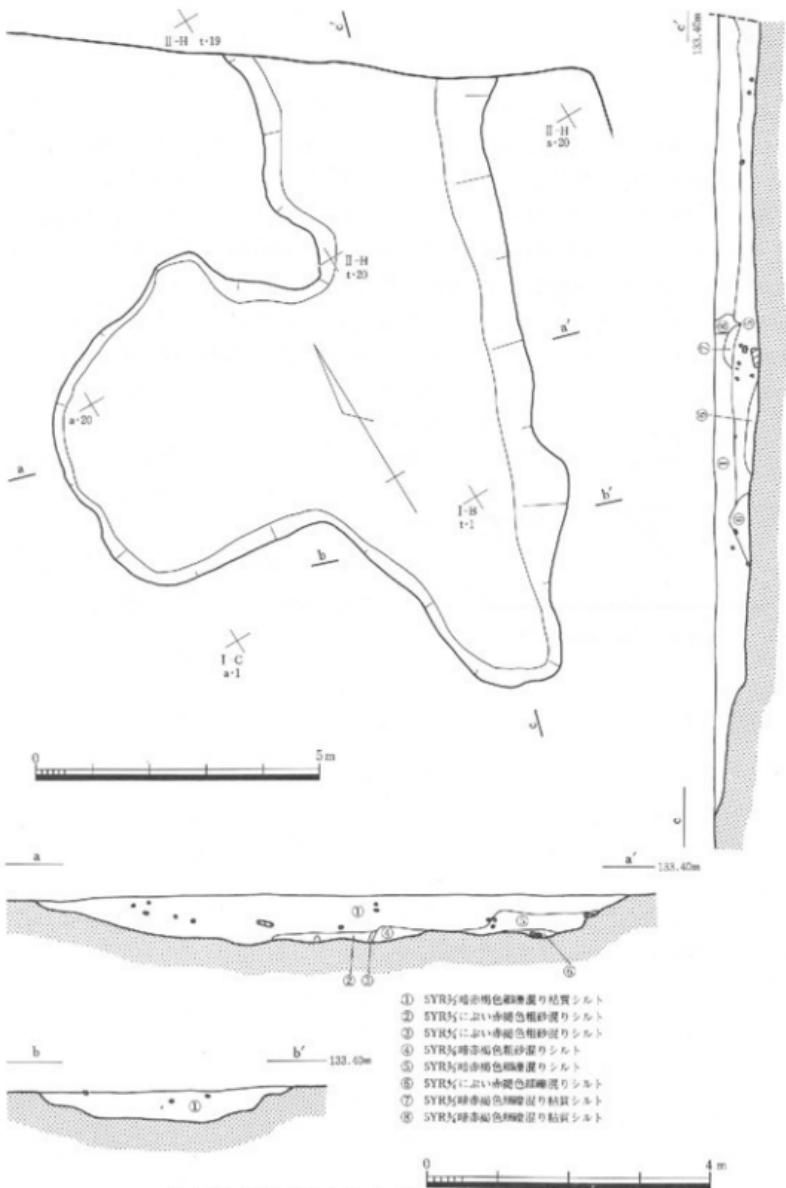


97



96

第27図 NV 4 中層遺物実測図 (3)



第28図 NV 6 遺構実測図 平面(1/100)・断面(1/80)

自然地形 (N V)

N V 4 (第24~27図、図版7・87・88)

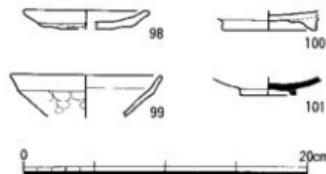
〔遺構〕 I-D-c~e-18~20・I-D-c~e-18~20・III-O-r~t-4~13に位置する。北谷の延長部と考えられ、北西に向かってレベルを下げる。埋土は大きく3層に分層できる。上層はシルト層、中層は粘土質のシルト、下層は粘土層となっている。

〔遺物〕 遺物は中層では土師質小皿(67~74)、土師質大皿(76)、土師質台付皿(77)、瓦器皿(75)、瓦器塊(78~86)、青磁碗高台(87)、土師質羽釜(88・89)、砥石(90・91)、瓦質甕(92)、須恵質甕(93)、須恵質片口鉢(94)、須恵質練鉢(95)、木杭(97)、下駄(96)が出土している。下層からは土師質塊(51~53)、土師質杯(54)、土師質皿(55)、土師器甕(63・64)、土師質羽釜(65・66)、黒色土器塊(56~59)、瓦器塊(60・61)、須恵器底部(62)が出土している。

N V 6 (第28・29図、図版6)

〔遺構〕 II-H-t~s-20に位置する。北側の石見川に開口する谷状地形である。検出長6m、最大幅4m、深さ0.6m。一部S T 1を削平している。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(98)、土師質塊(99)、土師質台付皿(100)、瓦器塊高台(101)が出土している。



第29図 N V 6 遺物実測図

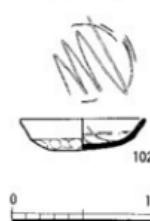
第3節 1地区

1. 概略(付図5)

4地区と接するが4地区の北端とは約1m低く、また、2地区とは南小谷を挟んで位置する。遺構は建物8と土壙、井戸が検出された。

2. 遺構、遺物

建物(SB)



第30図 S B 1 遺物
実測図

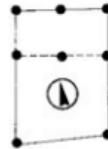
S B 1 (第30・35、図版8・89)

【遺構】 I-E-n~p-17~18付近に位置する。主軸方向はN-81°-Wを示し、S B 2と並列する。桁行6間(11m)×梁行4間(9m)で南側と北側に庇をもつ。南面庇は西から3間分が幅が狭くなり付け庇となっている。柱間は桁行2.25m、梁行は2.15m、庇幅1.25m。柱穴径0.5m、深さ0.03m、柱痕径0.2m。

東側には、梁行から1.25mに梁行柱間と同間隔でS A 1の櫛列が8間分(17m)平行に北にのびる。

【遺物】 遺物はP 2から瓦器焼(102)が出土している。

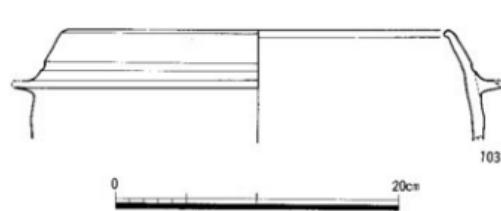
S B 2 (第31図、図版8)



第31図 S B 2
遺構図

【遺構】 I-E-p-19に位置する。主軸方向はN-8°-Eを示し、S B 1とは1.2m離れて直行する。桁行3間(6m)×梁行2間(4m)で南側は土壙によって搅乱を受けている。北から1間の梁行中央に柱穴を伴い北側と南側の2室に分けることが可能である。柱間は桁行2m、梁行は2m。柱穴の径0.3m、深さ0.03m、柱痕径0.1m。

【遺物】 遺物は出土していない。



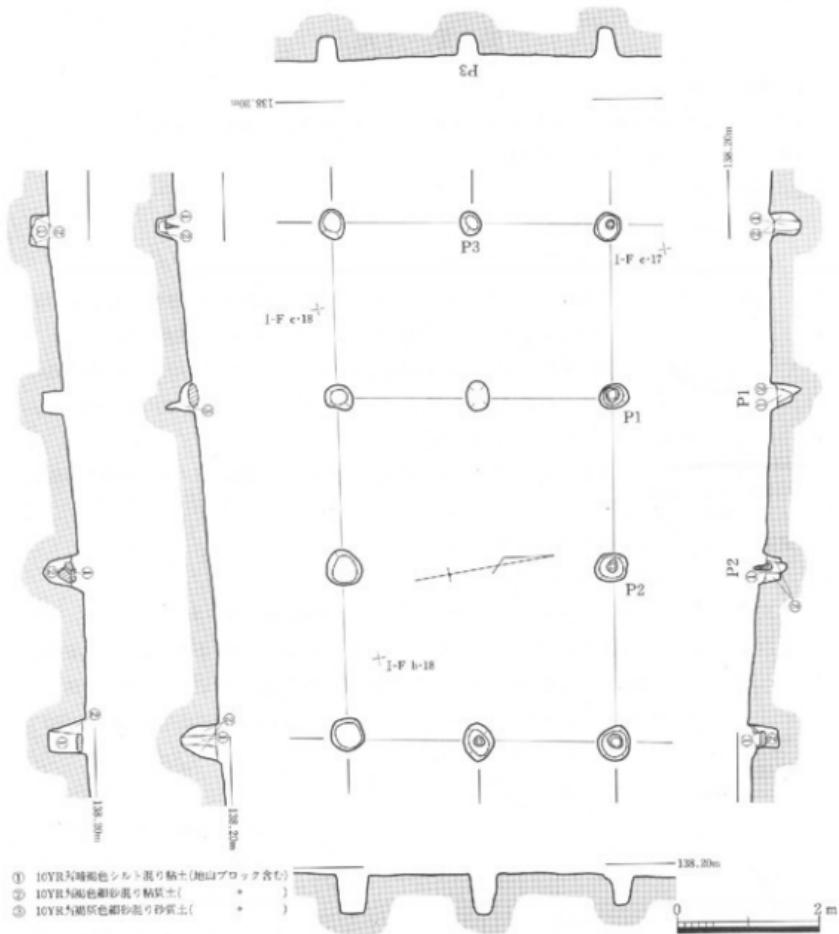
第32図 S B 3 遺物実測図

S B 3 (第32・33図、図版9)

【遺構】 I-F-a~c-17付近に位置する。主軸方向はN-80°-Wを示す。桁行3間(7.3m)×梁行2間(4m)で西から1間の梁行中央に柱穴を伴い西側と東側の2室に分けることが可能である。柱穴埋上

には焼土、炭化物を含まれていた。柱間は桁行2.35m、梁行は2m。柱穴の径0.5m、深さ0.03m、柱痕径0.2m。

【遺物】 遺物はP 1から土師質羽釜(103)が出土している。



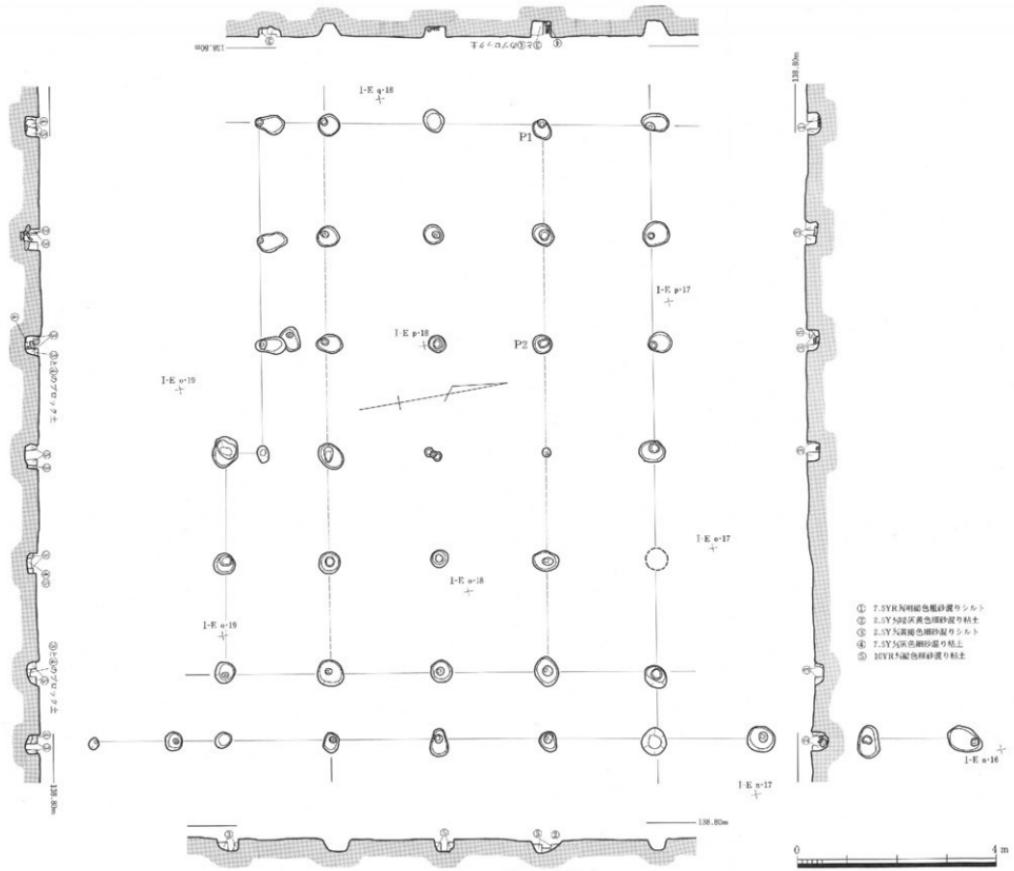
第33図 S B 3 遺構実測図 (1/80)

S B 4 (第34図、図版10)

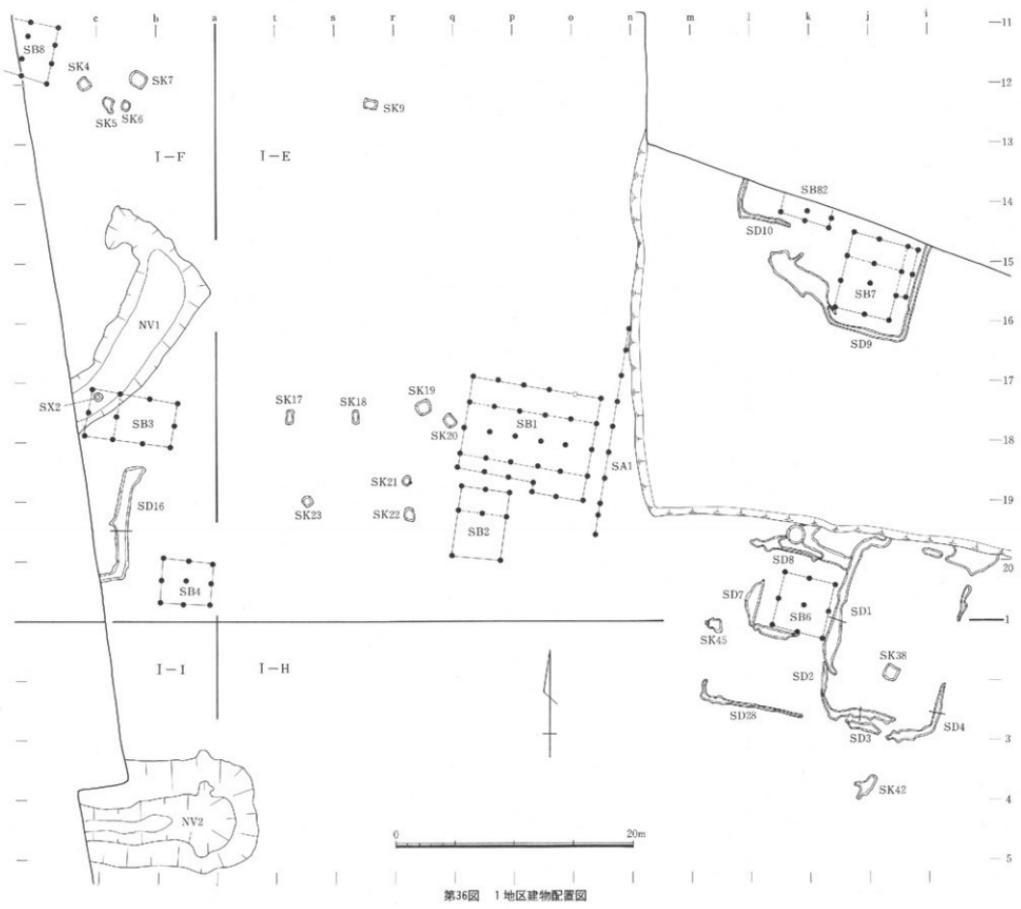
【遺構】 I-F-a-20付近に位置する。主軸方向はN-83°-Wを示す。桁行2間(4.2m)×梁行2間(3.8m)の建物である。柱間は桁行2m、梁行は1.85m。柱穴の径0.2m、深さ0.03m。

【遺物】 遺物は出土していない。

第34図 S B 4
遺構図



第35図 SB1 造構実測図 (1/80)

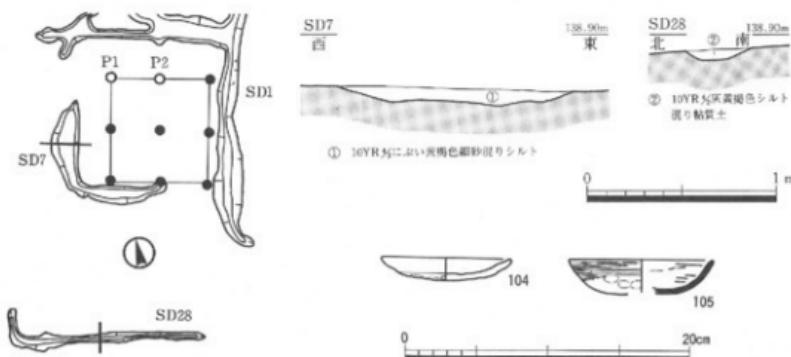


S B 6 (第37図、図版10・89)

〔遺構〕 I-E-j-k-20付近に位置する。主軸方向はN-13°-Eを示す。桁行2間(4.6m)×梁行2間(4.4m)で中央に柱穴を有する。柱間は桁行2.3m、梁行は2.2m。柱穴の径0.3m、深さ0.03m。

建物周囲にはS D 7, 8が巡る。また、S D 1~6と28が1つの屋敷を構成するものと考えられる。

〔遺物〕 遺物はP 1から土師質皿(104)、P 2から瓦器皿(105)が出土している。



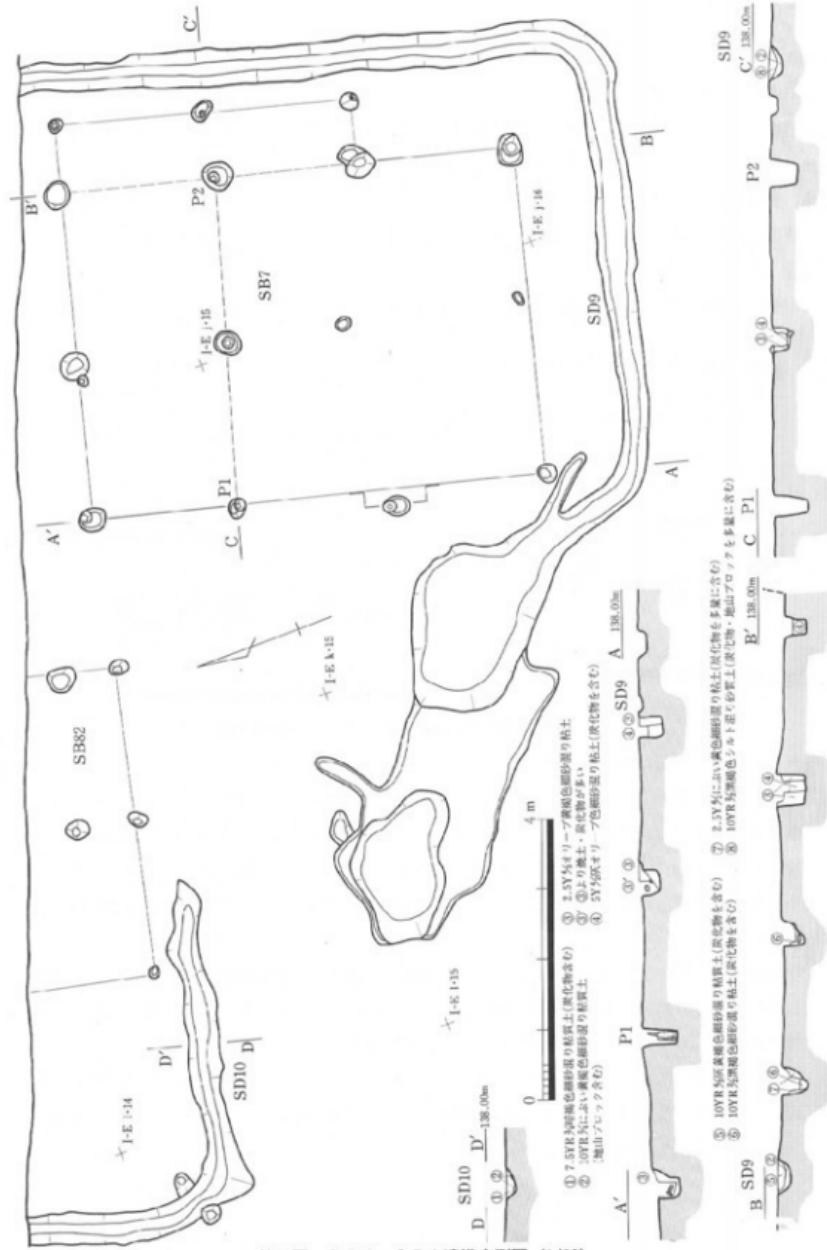
第37図 S B 6 遺構図・溝断面図(1/30)・遺物実測図

S B 7 (第38・39図、図版11・89)

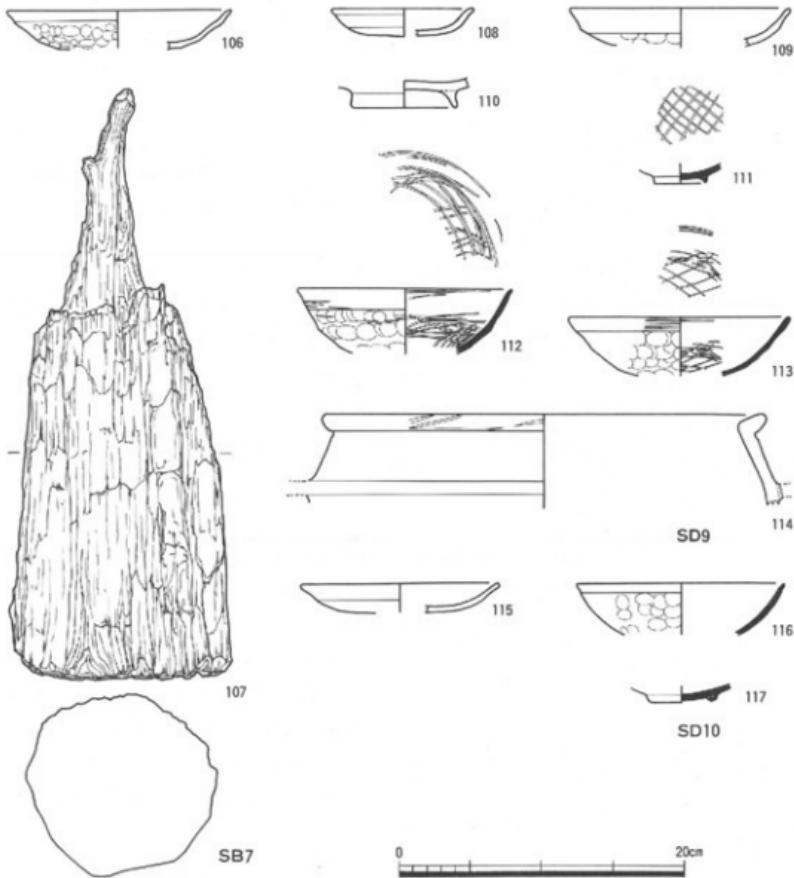
〔遺構〕 I-E-i-I-13~16付近に位置する。主軸方向はN-13°-Eを示し、S B 6の北側20mに位置する。北側は後世の畑の開墾によって削平されている。桁行3間(6.5m)以上×梁行3間(5.5m)で、南側から2間目の東側に付け庇をもつ。西側に柱列があり、北側にのびるS B 82が予想される。桁行2.1m、梁行は2.2m、庇幅0.95m。柱穴径0.4m、深さ0.03m、柱痕径0.3m。

建物周囲にはS D 9と10の溝が巡る。S D 9は建物の東側から南側を走り、幅0.5m深さ0.3m。S D 10は建物の西側から南側を走り、幅0.5m、深さ0.3m。S D 9と柱穴の埋土内には焼土と炭化物が含まれており、この建物は焼失家屋の可能性がある。

〔遺物〕 遺物はP 1から柱痕(107)、P 2から土師質皿(106)、またS D 9から土師質皿(108・109)、土師質土器高台(110)、瓦器塊(111~113)、土師質羽釜(114)、S D 10からは土師質皿(115)、瓦器塊(116)、瓦器塊高台(117)が出土している。



第38図 SB7・SB8遺構実測図 (1/80)



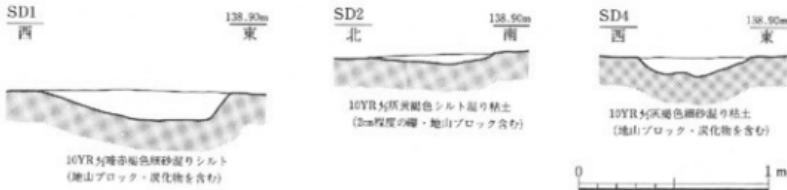
第39図 SB7 及びSB7に伴うSD9・SD10遺物実測図

SB8 (第40図、図版12)

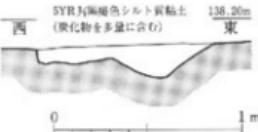
〔造構〕 I-F-c～d-11付近に位置する。主軸方向はN-14°-Wを示し、半分以上は調査区外にのびる建物である。桁行3間(3.7m)×梁行2間(2.5m)以上。柱間は桁行1.5m、梁行は2.6m。柱穴の径0.4m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

第40図 SB8
造構図



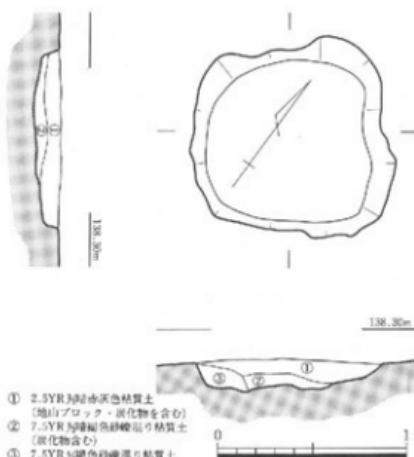
第41図 SD1・SD2・SD4溝断面図(1/30)
溝(SD)



第43図 SD16溝断面図(1/30)及び遺物実測図

が、内側のピットでは建物に復元するまでは至っていない。

[遺物] 遺物は白磁皿(118)が出土している。



第44図 SK4遺構実測図(1/30)

SD16(第43図、図版13・89)

[遺構] I-F-b-18～20付近に位置する。調査区の西端、SB3の南に9.5m走り、西に屈曲する溝である。断面V字形を呈する。最大幅1m、深さ0.3m、検出長10m。

[遺物] 遺物は土師質皿(119・120)、瓦器塊(121)、不明鉄製品(122)が出土している。

土壤(SK)

SK4(第44図、図版12)

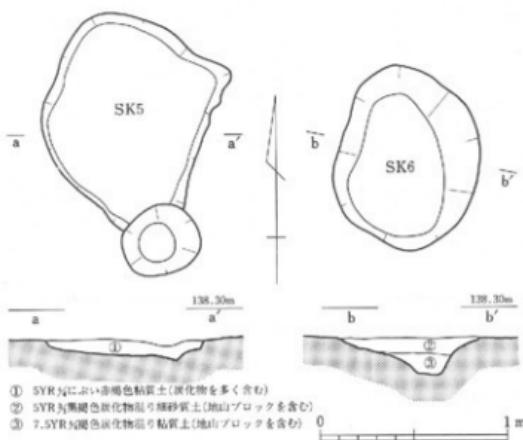
[遺構] I-F-c-12で調査区の北側、SB8の東2.5mに位置する。平面形は不定形な隅丸方形を呈する。主軸方向はN-33°-Wを示し、一辺1m、深さ0.18m。

埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S K 5 (第45図、図版12)

〔遺構〕 I-F-b-12でSK4の南東1.5mに位置する。平面形は不定形な方形を呈する。



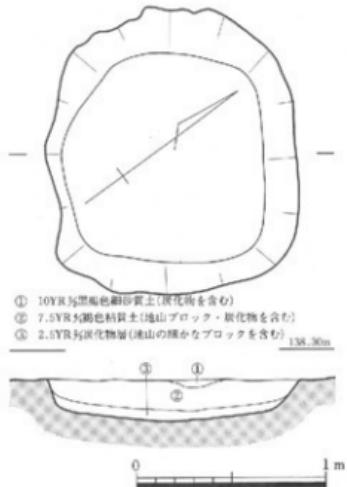
第45図 SK5・SK6 遺構実測図 (1/30)

長軸1m、短軸0.8m、深さ0.11m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S K 6 (第45図、図版12)

〔遺構〕 I-F-b-12でSK5の東1mに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.2m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。



第46図 SK7 遺構実測図 (1/30)

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S K 7 (第46図、図版12)

〔遺構〕 I-F-b-12に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向はN-80°-Wを示し、長辺1.1m、短辺0.7m、深さ0.16m。埋土内には焼土のブロックと炭化物を含んでいた。壁面は火を受けている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

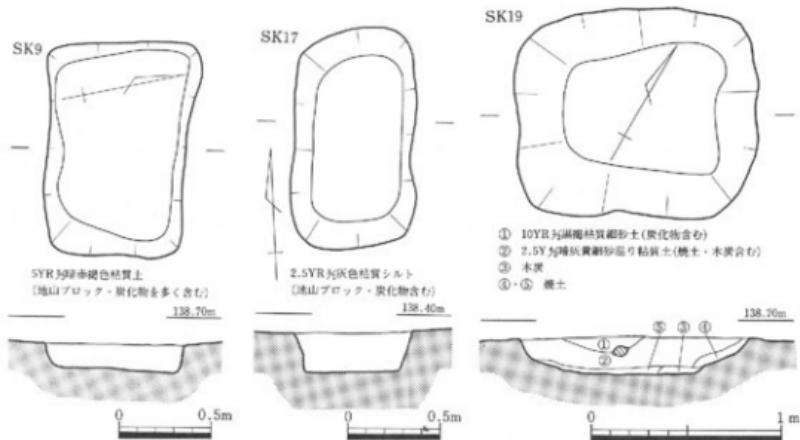
S K 9 (第47図、図版12)

〔遺構〕 I-E-r-12に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向はN-77°-Wを示し、長辺1.14m、短辺0.75m、深さ0.14m。埋土内には地山のブロックと炭化物を含む。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S K 11 (第47図、図版12)

〔遺構〕 I-E-s-17に位置する。平面形は隅



第47図 SK9・SK17・SK19遺構実測図 (1/30)

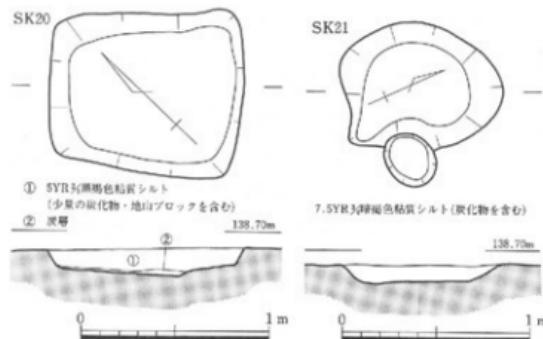
丸長方形を呈する。主軸方向はN-4°-Eを示し、長軸1.2m、短軸0.6m、深さ0.25m。埋土内は焼土のブロックと炭化物を含む。壁面は火を受けている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

SK19 (第47図、図版12)

〔遺構〕 I-E-q-17でSK18の東5mに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方向はN-58°-Eを示し、長軸1.25m、短軸1.1m、深さ0.24m。埋土内は焼土のブロックと炭を含む。底面は約5cmの層厚で赤褐色の炭化層となっている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

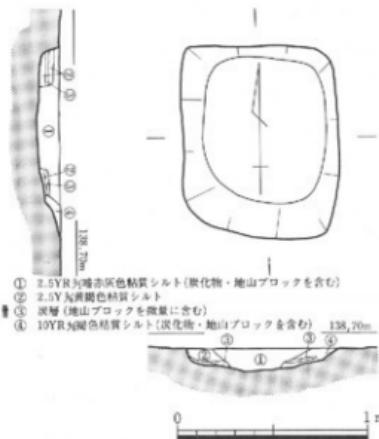


第48図 SK20・SK21遺構実測図 (1/30)

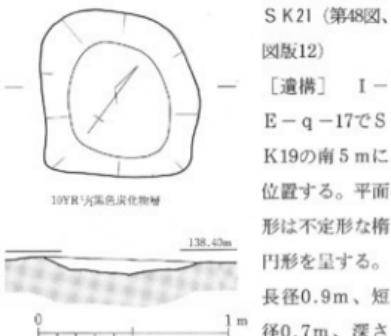
SK20 (第48図、図版12)

〔遺構〕 I-E-q-17でSK19の南東1mに位置する。平面形は不定形な長方形を呈する。主軸方向はN-55°-Wを示し、長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.16m。埋土内は焼土のブロックと炭を含み最下層は層厚2cmの炭層である。

〔遺物〕 遺物は出土していない。



第49図 SK 22遺構実測図 (1/30)



第50図 SK 23遺構実測図 (1/30) 0.96m。埋土内には焼土のブロックと炭を含む。

[遺物] 遺物は出土していない。

S K 22 (第49図、図版12)

[遺構] I - E - q - 19で S K 21の南 2 m に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向は N - 2° - W を示し、長軸 1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.12 m。埋土内には焼土のブロックと炭を含む。中層に厚層 2 cm の炭層を挟在する。

[遺物] 遺物は出土していない。

S K 23 (第50図、図版12)

[遺構] I - E - s - 19で S K 17の南 6 m に位置する。平面形はやや丸味を帯た長方形を呈する。主軸方向は N - 50° - W を示し、長軸 0.9 m、短軸 0.8 m、深さ 0.05 m。埋土内は焼土を含む炭層である。

[遺物] 遺物は出土していない。

S K 38 (第51図、図版10)

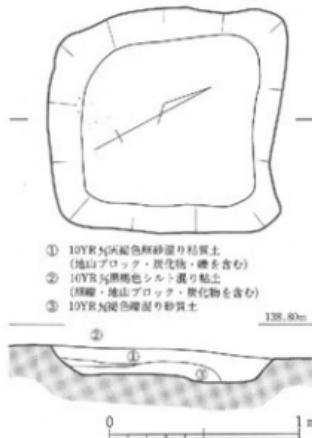
[遺構] I - H - i - 1 に位置する。平面形は方形を呈する。主軸方向は N - 28° - E を示し、一辺 1.2 m、深さ 0.2 m。埋土内は炭化物を含む。

[遺物] 遺物は出土していない。

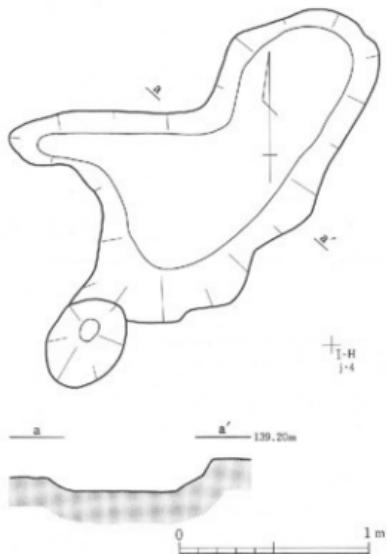
S K 42 (第52図)

[遺構] I - H - j - 3 付近で S B 5 の 5 m 南に位置する。平面形は不定形を呈する。一辺 1.2 m、深さ 0.2 m。埋土内は炭化物を含む。

[遺物] 遺物は出土していない。



第51図 SK 38遺構実測図 (1/30)



第52図 SK 42遺構実測図 (1/30)

S K 45 (第53図、図版10)



第53図 SK 45遺構実測図 (1/30)

土器溜め (S X)

S X 2 (第54図、図版13・89・90・91・93・150)

【遺構】 I - F - b ~ c - 17付近のN V 2の堆積層の上層に位置する。径0.7mの範囲で土器が集中している。上層から切り込まれた土壤の可能性が高い。

【遺物】 遺物は土師質小皿 (123~130)、瓦器皿 (131~137)、瓦器塊 (138~140)、青磁碗高台 (141)、小型鉄刀 (142) が出土している。

自然地形 (N V)

N V 1 (第55・57図、図版13・91・92・93)

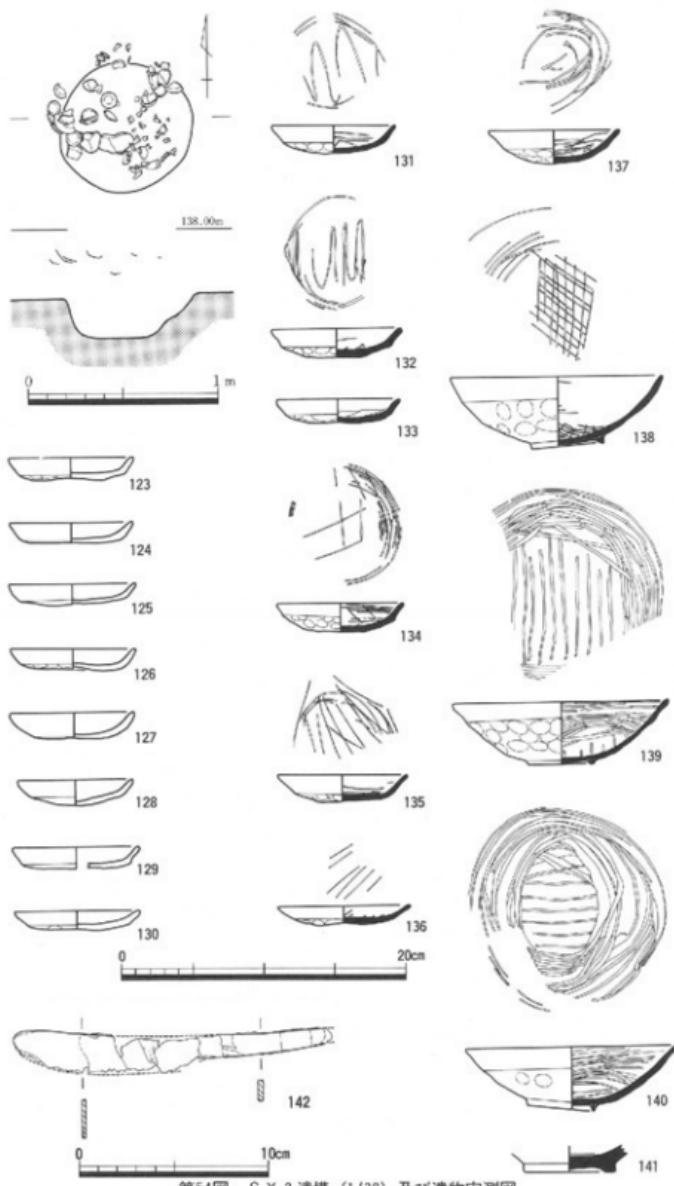
【遺構】 I - F - a ~ c - 14 ~ 16付近に位置する。西に出口をもち北東にのびる谷状地形である。検出長18m、幅6m、深さ5m。埋土内は炭化物を含む。

【遺物】 遺物は土師質小皿 (143~148)、土師質大皿 (149)、瓦器皿 (150~153)、瓦器塊 (154~156)、瓦質羽釜 (157)、青磁皿 (158)、青磁碗高台 (159)、白磁碗 (160~162) が出土している。

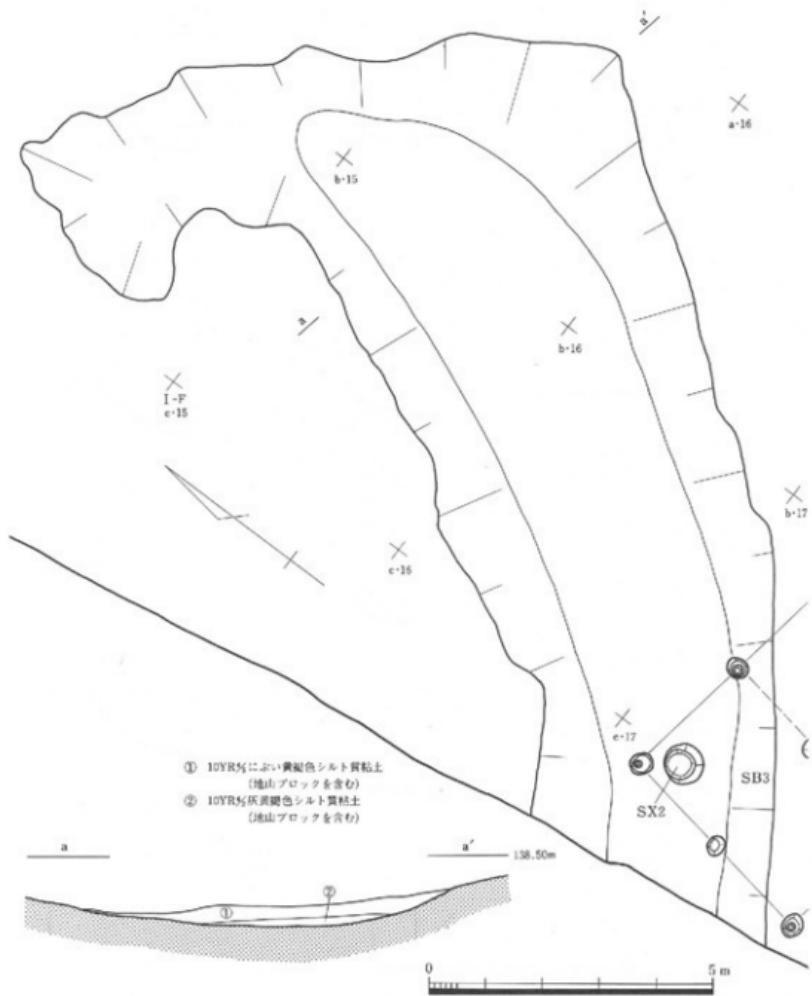
N V 2 (第56図・58図、図版92・93)

【遺構】 I - I - t ~ c - 3 ~ 4付近に位置する。西に出口をもち東にのびる谷状地形である。検出長15m、幅10m、深さ5m。埋土内は炭化物を含む。

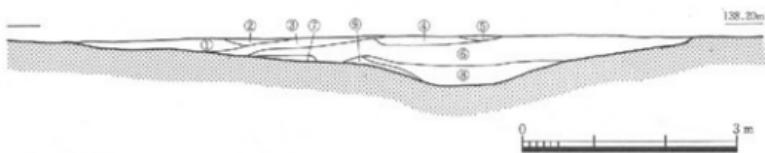
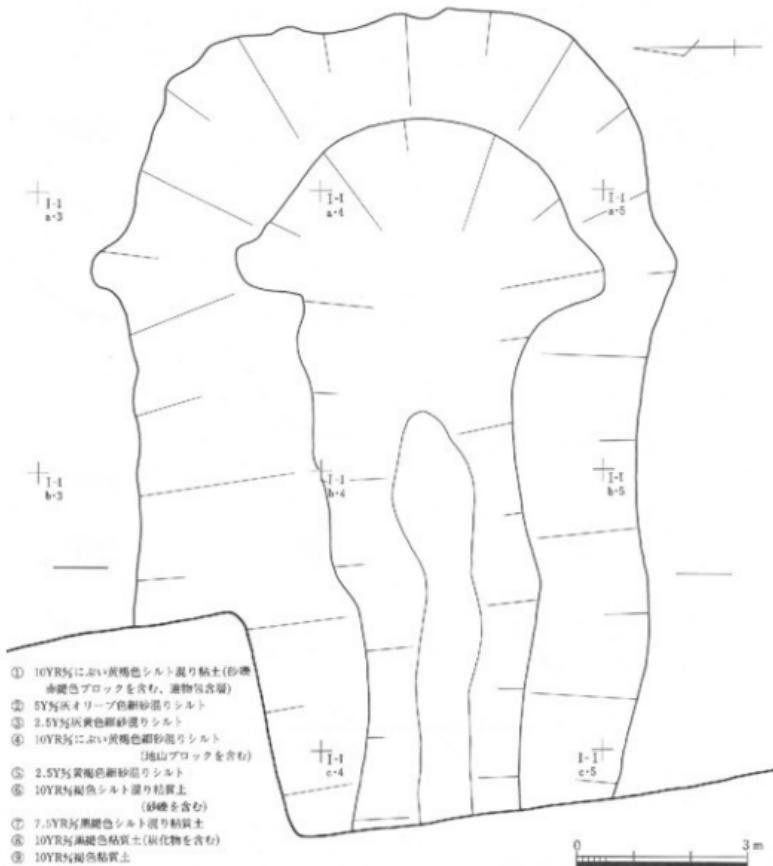
【遺物】 遺物は土師質小皿 (163~172)、瓦器皿 (173~175)、瓦器塊 (176)、白磁碗 (177)、白磁碗高台 (178)、土師質甕 (179) が出土している。



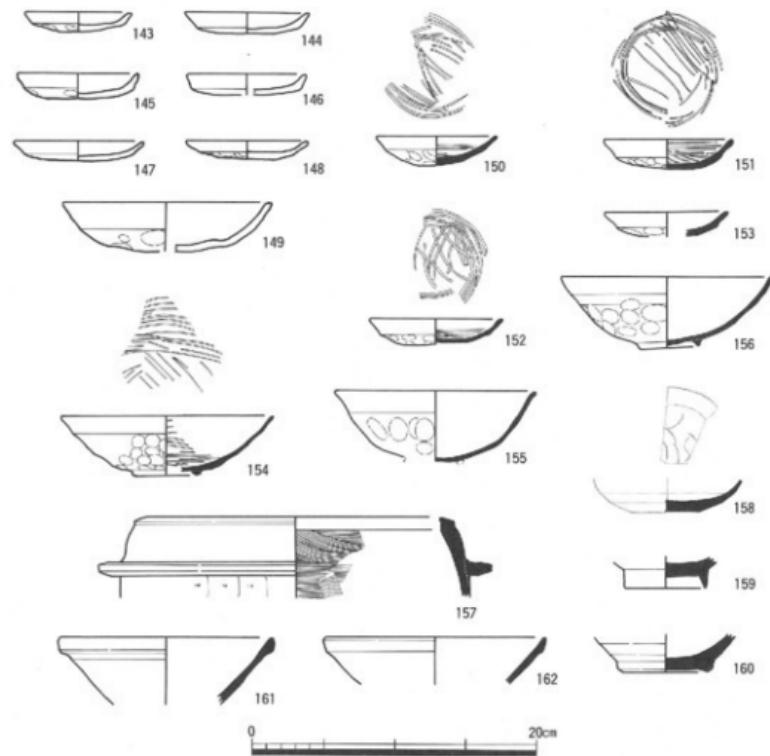
第54図 S X 2 遺構 (1/30) 及び遺物実測図



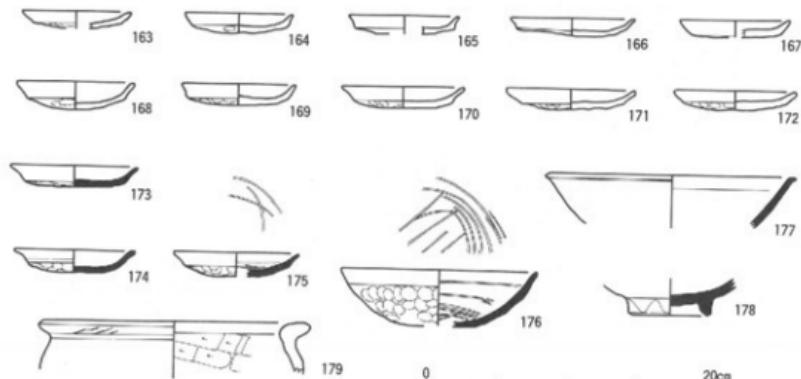
第55図 NV1 遺構実測図 (1/100)



第56図 NV 2 遺構実測図 平面 (1/100)・断面 (1/80)



第57図 N V 1 遺物実測図



第58図 N V 2 遺物実測図

第4節 4地区

1. 概略（付図6・7）

1地区の南側の調査区で地形的には中央に北谷が入り、大きく南側と北側の2地区に分けることができる。建物、井戸等の遺構も調査区中では一番多く検出されている。この地区は古墳時代の遺構も多く複合している。

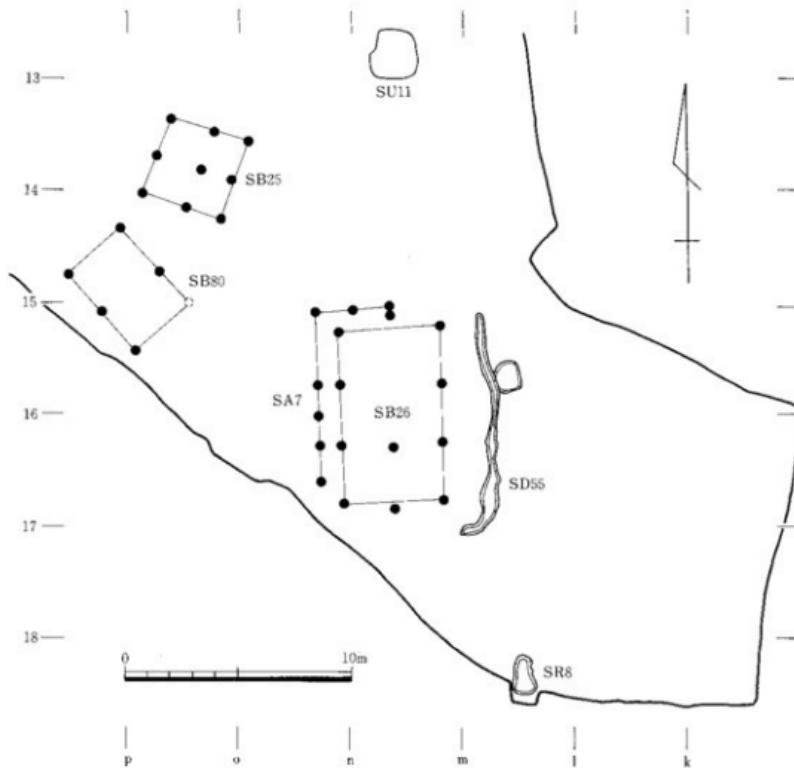


2. 遺構・遺物

建物 (SB)

SB25 (第59図、図版14)

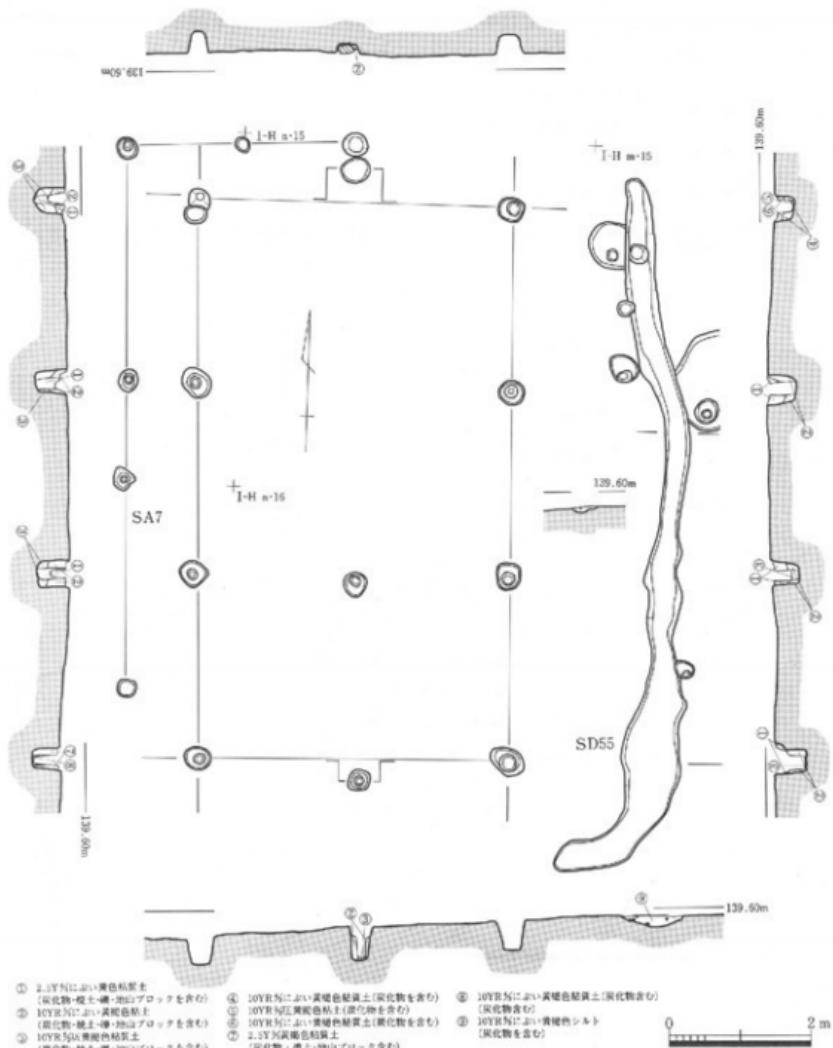
第59図 SB25
遺構図 [遺構] I-H-o-13付近に位置する。主軸方向はN-19°-Eを示す。



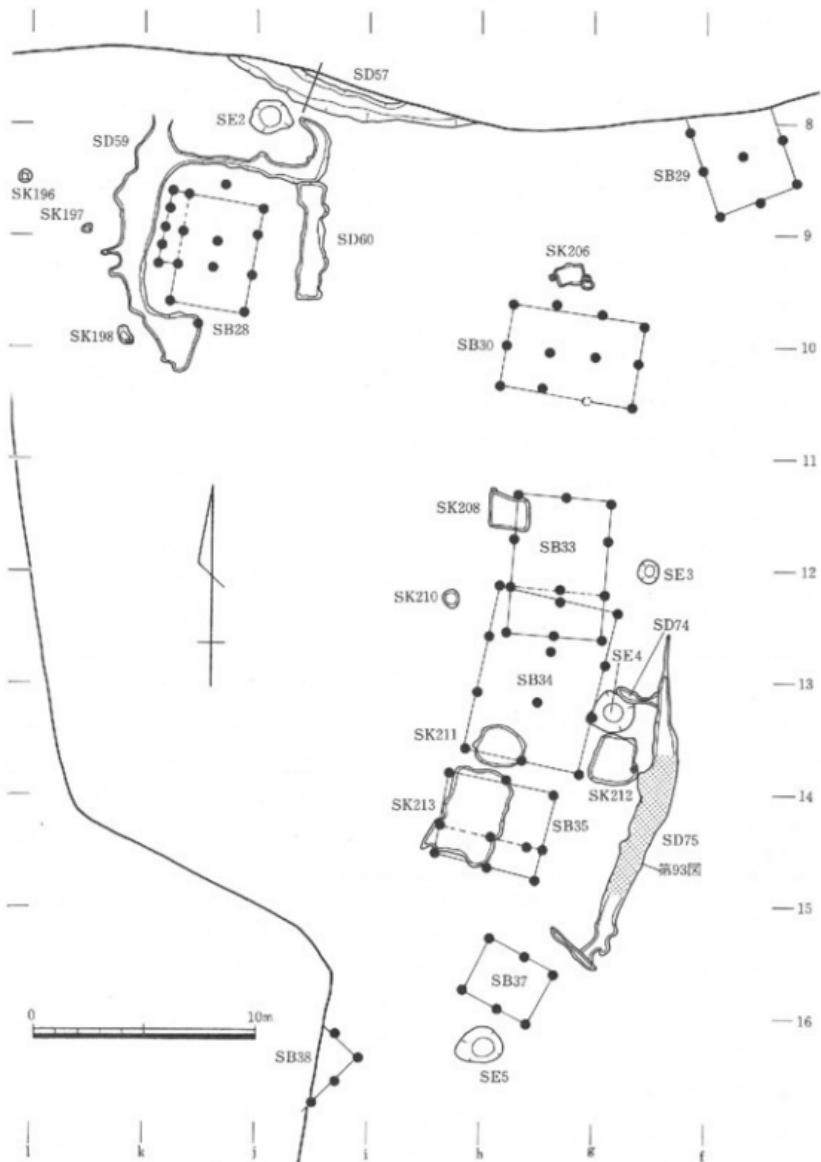
第60図 4地区I-H建物配置図(1) (1/250)

桁行2間(3.8m)×梁行2間(3.6m)の建物である。柱間は桁行1.9m、梁行は西側2m、1.6m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m、柱痕径0.15m。

[遺物] 図示可能な遺物は出土していない。



第61図 S B 26遺構実測図 (1/80)



S B26 (第61図、図版15)

〔遺構〕 I-H-m-15~16付近に位置する。主軸方向がN-2°-Wを示す。桁行3間(8m)×梁行2間(4.4m)の建物である。南北端の梁行中央で、0.3m外側に棟持ち柱をもつ建物である。南から桁行1間目中央に柱穴を有し、2室に分割することが可能である。柱間は桁行2.6m、梁行は2.2m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m、柱痕径0.2m。

また、建物の北から西にS A7の柵列を伴っている。北側2間(3.2m)、西側5間(8m)柱間が1.6m。東側には桁行に平行して、幅0.7m、深さ0.16mのS D55が走る。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S B80 (第63図、図版14)

〔遺構〕 I-H-q-14~15付近でS B25の南側2mに位置する。主軸方向はN-41°-Wを示す。桁行2間(4.6m)×梁行1間(3.1m)の建物である。柱間は桁行2.3m、梁行は3.1m。

第63図 S B80 「遺物」 遺構図

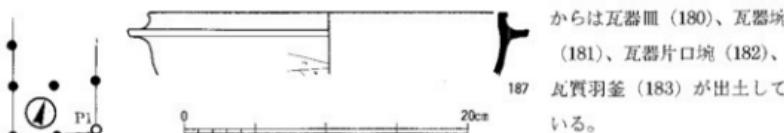
遺構図

S B28 (第66・67図、図版14・93・94)

〔遺構〕 I-H-j-8~9付近に位置する。主軸方向はN-7°-Eを示す。桁行3間(4.9m)×梁行2間(4.1m)の建物である。南北端の梁行中央で、0.7m外側に棟持ち柱をもつ建物である。柱間は桁行2.4m、梁行は1.7m。また、西側には北から4間の幅0.7m、柱間0.8mの付け庇を有する。柱穴径0.6m、深さ0.5m、庇の柱穴はやや小さく径0.2m、深さ0.3m。

建物の周囲はS D59、S D60が巡る。S D59は建物の南側から西側、北側そして、東端で更に北側にのびる。S D60は東側に位置する。いずれも、最大幅2m、深さ0.5m。

〔遺物〕 遺物はP1から土師質塊(184)、瓦器塊(185)、須恵質練鉢(186)が出土し、S D59



第64図 S B29遺構図及び遺物実測図

からは瓦器皿(180)、瓦器塊(181)、瓦器片口塊(182)、瓦質羽釜(183)が出土している。

S B29 (第64図、図版16)

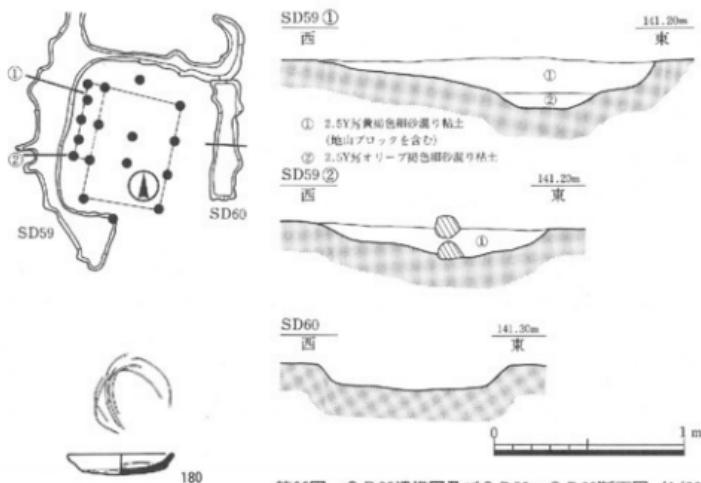
〔遺構〕 I-H-e~f-8付近に位置する。主軸方向がN-22°-Wを示す。桁行2間(4.1m)以上×梁行2間(3.8m)の建物で北側の調査区外にのびる可能性がある。柱間は桁行が2m、梁行が1.9m。柱穴の径0.6m、柱痕径0.1m深さ0.56m。

〔遺物〕 遺物はP1から瓦質羽釜(187)が出土している。

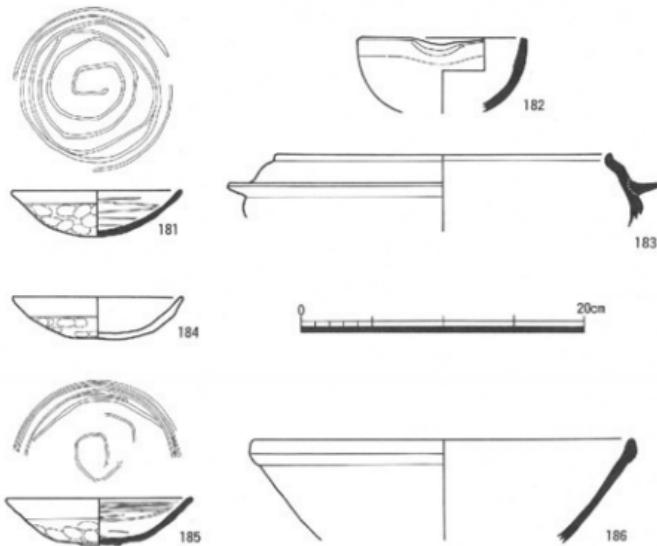
S B30 (第65図、図版16)

〔遺構〕 I-H-f~g-9~10付近でS B29の南西6mに位置する。主軸方向はN-82°-Wを示す。桁行3間(5.9m)×梁行2間(3.9m)の建物である。柱間は桁行が2m、梁行が2m。柱穴径0.3m、深さ0.5m。

第65図 S B30 遺構図



第66図 S B 28遺構図及びS D 59・S D 60断面図 (1/30)



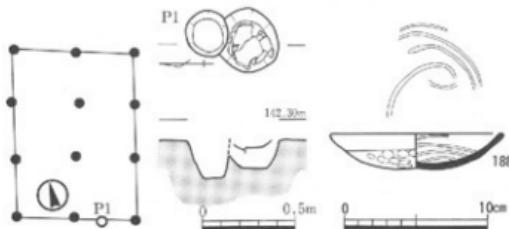
第67図 S B 28及びS B 28に伴うS D 59遺物実測図

[遺物] 遺物は出土していない。
S B 33 (第68図、図版17)

[遺構] I - H - f ~ g - 11~12付近で S B 30 の南 4 m に位置し、S B 34 と重複する。主軸方向は N - 3° - E を示す。桁行 3 間 (6.3m) × 梁行 2 間 (4.3m) の建物で、南側から 1 間目の中央に柱穴をもつ。柱間は桁行が 2.2m、梁行が 2.1m。柱穴径 0.4m、深さ 0.5m、柱痕径 0.2m。

第68図 S B 33
遺構図

[遺物] 図示可能な遺物は出土していない。

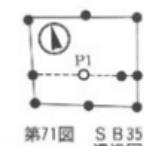


第69図 S B 34遺構図及びピット1
遺物出土状況図 (1/30)
りは先行する。

S B 34 (第69図・70図、図版17・94)

[遺構] I - H - f ~ h - 12~13 付近で S B 33 と重複している。主軸方向は N - 13° - E を示す。桁行 3 間 (7.4m) × 梁行 2 間 (5.4m) の建物で、柱間は桁行が 2.5m、梁行が 2.4m。柱穴径 0.58m、深さ 0.5m、柱痕径 0.2m。この建物は S B 33 よ

第70図 S B 34遺物
実測図



第71図 S B 35
遺構図

[遺物] 遺物は建物の南から桁行 1 間目の東端柱穴と中央の柱穴の間に P 1 があり、瓦器皿 (188) が出土している。

S B 35 (第71・72図、図版17)

[遺構] I - H - g ~ h - 14 付近で S B 34 の南側 2.5m に位置している。主軸方向は N - 80° - W を示す。桁行 2 間 (4.8m) × 梁行 2 間 (4.0m) の建物で、柱間は桁行が 2.5m、梁行が 2.7m。南側部分は幅 1.2m の庇となっている。柱穴径 0.4m、深さ 0.5m、柱痕径 0.15m。



第72図 S B
35遺物実測図

[遺物] 遺物は P 1 から瓦器皿 (189) が出土している。



第73図
S B 37遺構図

S B 37 (第73図、図版17)
[遺構] I - H - g ~ h - 15 付近で S B 35 の南側 3m に位置している。主軸方向は N - 62° - W を示す。桁行 2 間 (3.2m) × 梁行 1 間 (2.6m) で、柱間は桁行が 1.6m、梁行が 2.6m。柱穴径 0.4m、深さ 0.5m、柱痕径 0.2m。

[遺物] 遺物は出土していない。

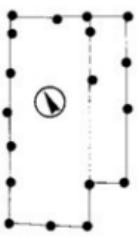


第74図
S B 38遺構図

S B 38 (第74図)

[遺構] I - H - i - 16 付近で S B 35 の西南側 6m に位置している。主軸方向は N - 45° - E を示す。桁行 2 間 (3m) × 梁行 1 間 (1.5m) 以上の建物で、調査区外に伸びる。柱間は桁行が 1.5m、梁行が 1.5m。柱穴径 0.6m、深さ 0.5m。

[遺物] 遺物は出土していない。

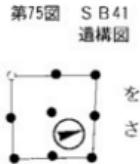


第76図 S B41
遺構図

S B41 (第75図、図版18)

〔遺構〕 I-K-h～i～5付近に位置する。主軸方向はN-30°-Eを示す。桁行6間(9.4m)×梁行2間(3.6m)の建物で、東側に北から4間分の幅1.4mの庇が付く。柱間は桁行が1.8m、梁行が1.8m。柱穴径0.5m、深さ0.5m、柱痕径0.2m。この建物の柱穴の一部は暗渠によって削平を受けている。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

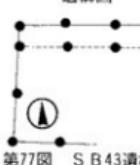


第76図 S B42
遺構図

〔遺構〕 I-K-j～k～6～7付近に位置する。主軸方向はN-75°-Wを示す。桁行2間(3.7m)×梁行2間(3.5m)の建物で、南西隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行が1.8m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S B43 (第77図、図版19)

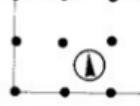


第77図 S B43遺構図

〔遺構〕 I-J-r～s～19～20付近に位置する。主軸方向はN-88°-Wを示す。桁行3間(6.4m)×梁行2間(4.4m)の建物で、北側に幅1mの庇が付く。柱間は桁行が2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物南東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S B44 (第78、図版19)

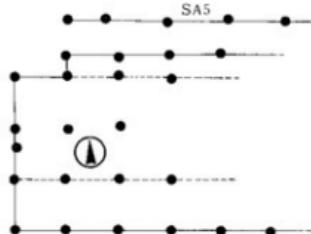


第78図 S B44遺構図

〔遺構〕 I-J～K-t～s～19～20付近でS B43の西側3mに位置する。主軸方向はN-88°-Wを示す。桁行3間(6.4m)×梁行2間(4.4m)の建物で、柱間は桁行2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物の南東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

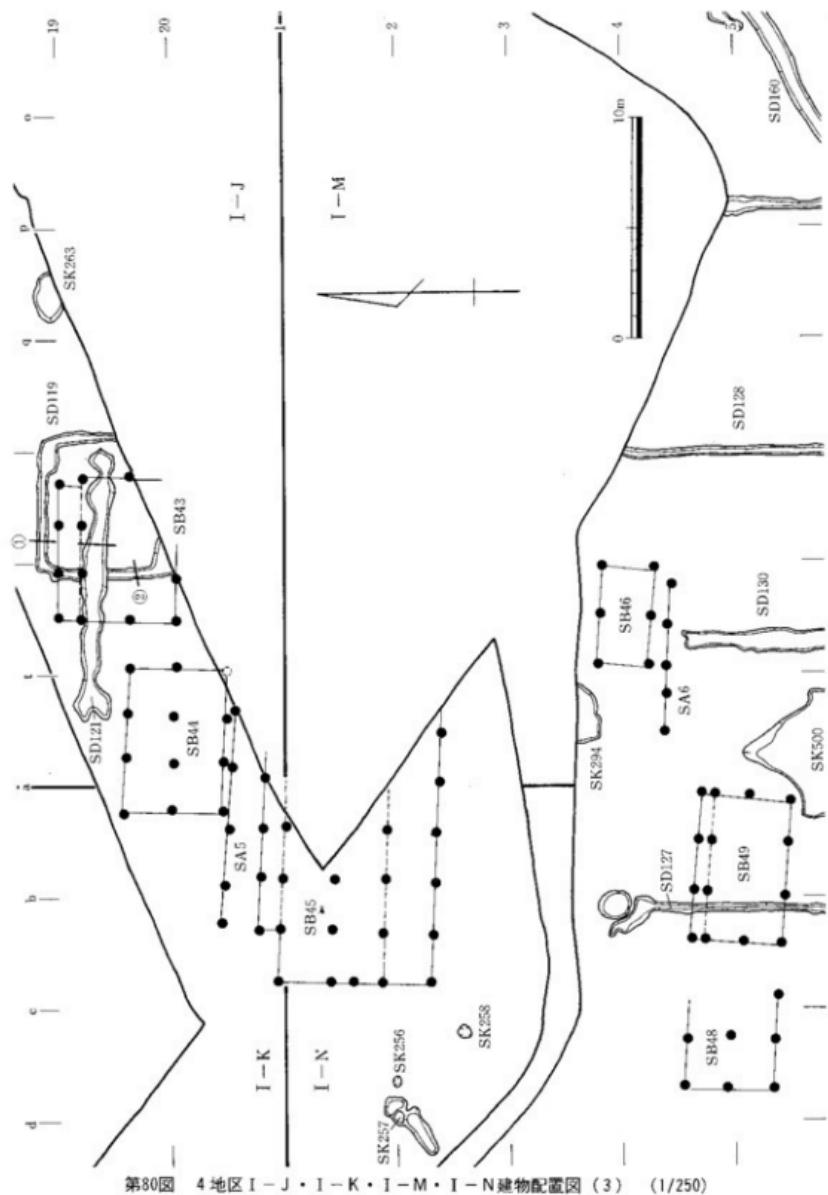
S B45 (第79図)

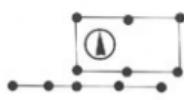


第79図 S B45遺構図

〔遺構〕 I-K～N-a～b～20～21付近でS B44の西側3mに位置する。主軸方向はN-87°-Wを示す。桁行5間(11.2m)以上×梁行2間(7.9m)の建物で、南側1間分が庇部分、北側は幅0.9mの付け庇に相当する。柱間は桁行2.2m、梁行が1.7m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。この建物の東側の柱穴の一部は調査区外に位置する。建物の北側1.6mには、桁行に平行して柵列SA5が走る。柱間は3m、柱穴径0.2m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。





第81図 SB 46遺構図

S B 46 (第81図、図版19)

【遺構】 I-M-s-3~4付近に位置する。主軸方向はN-87°-Wを示す。桁行2間(4.5m)以上×梁行1間(2.4m)の建物で、柱間は桁行が2.2m、梁行が2.4m。柱穴径0.5m、深さ0.5m。建物の北側0.8mに桁行に平行して4間分の棚列S A 6が走る。柱間は1.8m、柱穴径0.2m、深さ0.3m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

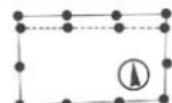
S B 48 (第82図、図版20)

【遺構】 I-N-b-c-4~5付近に位置する。主軸方向はN-87°-Wを示す。桁行2間(4.3m)以上×梁行2間(3.9m)で、柱間は桁行が2.1m、梁行が1.9m。柱穴径0.4m、深さ0.5m。

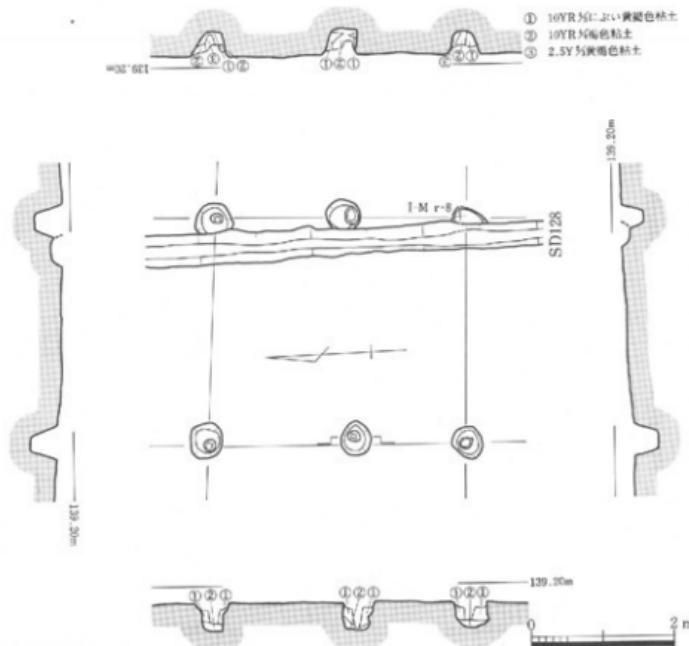
【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。



第82図 SB 48遺構図



第83図 SB 49遺構図



第84図 SB 50遺構実測図 (1/80)

S B 49 (第83図、図版20・34)

【遺構】 I-N-a～b-4～5付近でS B 48の東側2mに位置する。主軸方向はN-87°-Wを示す。桁行3間(6.4m)以上×梁行3間(4.1m)で、梁行北側1間分は幅0.6mの付け庇になる。柱間は桁行が2.1m、梁行が1.9m。柱穴径0.4m、深さ0.5m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

S B 50 (第84図、図版21)

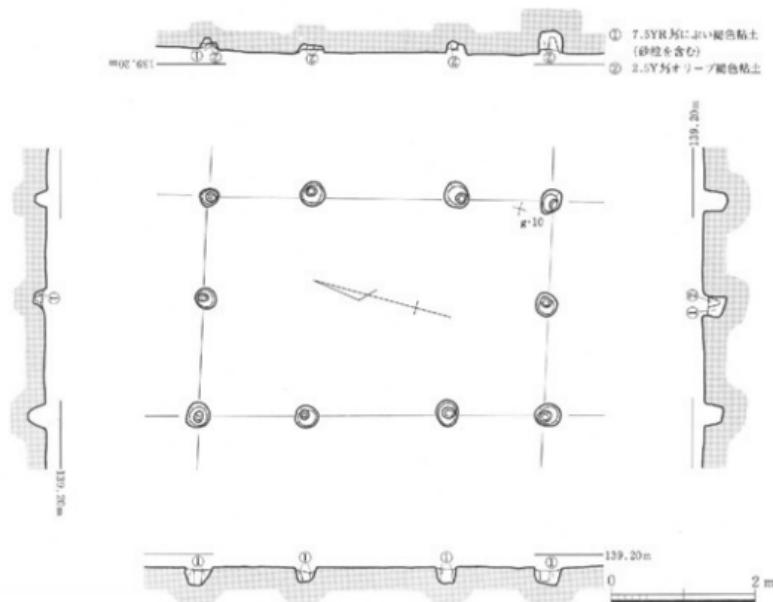
【遺構】 I-N-r～q-7～8付近に位置する。主軸方向はN-3°-Eを示す。桁行2間(3.6m)×梁行1間(3.3m)で、柱間は桁行が1.8m、梁行が3.3m。柱穴径0.5m、深さ0.4m、柱痕径0.18m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

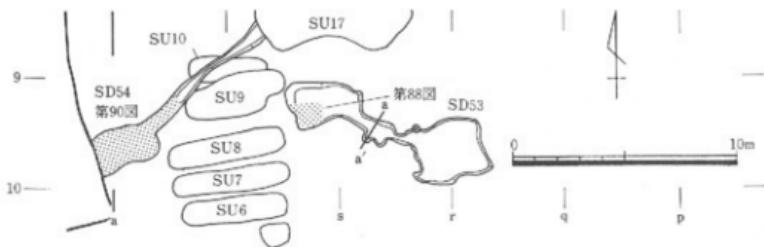
S B 51 (第85図、図版21)

【遺構】 I-M-p～q-9～10付近でS B 50の南側6mに位置する。主軸方向はN-14°-Wを示す。桁行3間(5m)×梁行2間(3m)で、柱間は桁行が1.7m、梁行が1.5m。柱穴径0.3m、深さ0.3m、柱痕径0.1m。

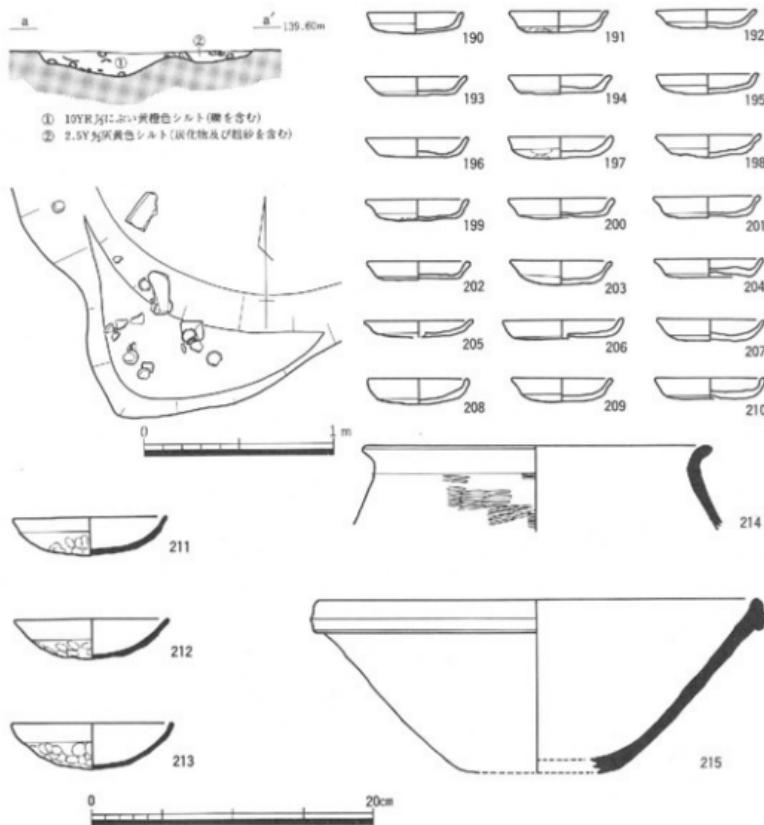
【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。



第85図 S B 51遺構実測図 (1/80)



第86図 SD53・SD54造構配置図 (1/250)



第87図 SD53断面実測図・遺物出土状況図 (1/30)・遺物実測図

溝 (S D)

S D 53 (第86・87図、図版22・94・95)

【遺構】 I - H - r ~ s - 9 付近に位置する。平面形は不定形な土壙が2基繋ったような形態を呈する。最大幅3m、深さ0.2m、検出長9.5m。溝の北西側のテラス状部分から遺物が出土している。

【遺物】 遺物は土師質小皿(190~210)、瓦器塊(211~213)、瓦質甕(214)、須恵質練鉢(215)が出土している。

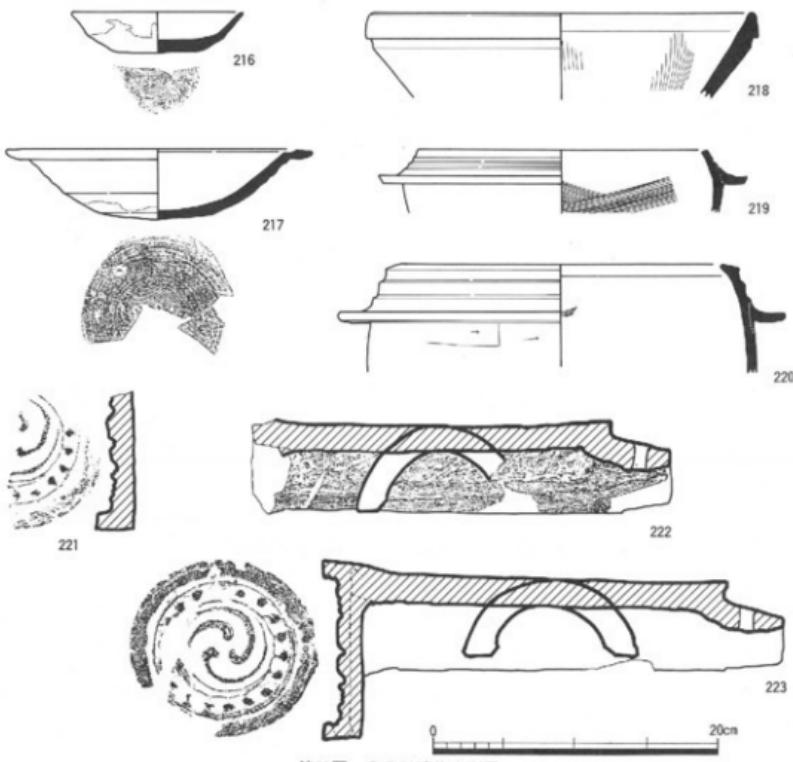
S D 54 (第88・89図、図版23・95)

【遺構】 I - H - t - 8 ~ 9 付近に位置する。平面形は南西側で幅を広げる。断面形はU字形を成す。幅0.4m、深さ0.2m、南西側最大幅2.9m、深さ0.15m、検出長11.3m。南西側の拡張部から河原石と共に遺物が出土している。

【遺物】 遺物は灰釉皿(216)、灰釉深皿(217)、瓦質搗鉢(218)、瓦質羽釜(219・220)、軒丸瓦(221~223)が出土している。



第88図 S D 54遺構実測図 (1/30)

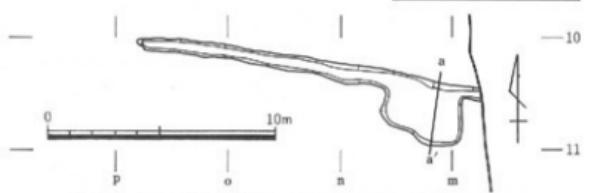


第89図 S D54遺物実測図



S D56 (第90図)

- ① 2.5Y分褐色粘質土(炭化物及び繊維を含む)
- ② 2.5Y分褐色粘質土(①より粘質が高いため)
- ③ 2.5Y分に近い褐色粘土(2.5Y分褐色粘質上のブロックを含む)
- ④ 2.5Y分に近い褐色粘土上(炭化物を多量に含む)



第90図 S D56遺構実測図 平面(1/250)・断面(1/30)

【遺構】 I-H-h～j-7付近に位置し、調査区の北端中央を走り、両端は削平され検出長11m。断面形はU字形を成すが、北側肩は南側肩より0.5mさがる。最大上端幅1.5m、

深さは南肩より0.85m、下端幅0.5m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D57 (第91図、図版14・95)

〔遺構〕 I-H-1~o-10付近に位置し、やや北に降りながら東西に走る。東側は南側に土壇状に広がる。最大上端幅1.5m、深さは0.3m、下端幅1.1m。

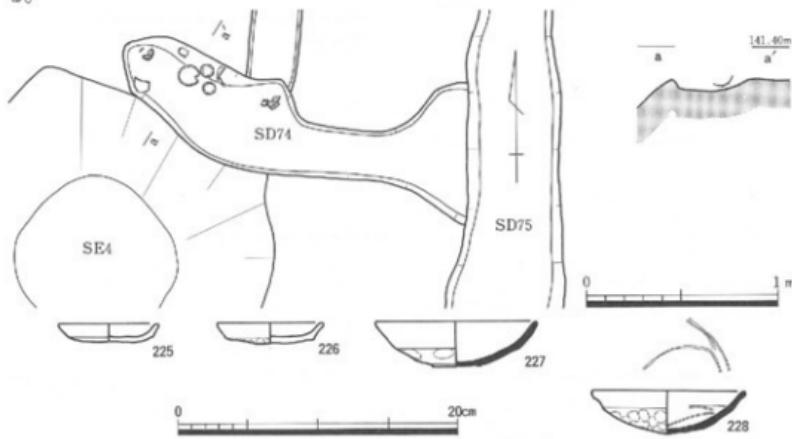


第91図 S D57遺構(1/30)及び遺物実測図

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(224)が出土している。

S D74 (第92図、図版17・23・95・96)

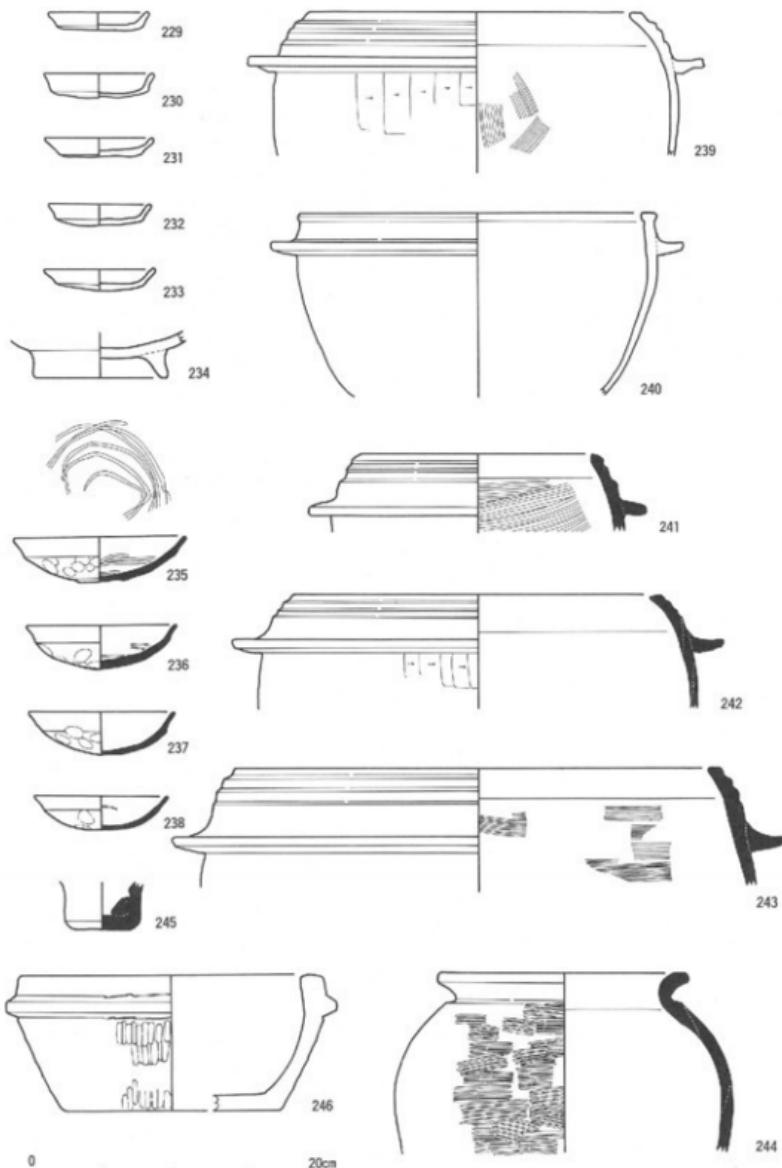
〔遺構〕 I-H-f-13付近に位置し、S D75によって削平されて、SE 4を切っている。検出長2m。最大上端幅0.75m、深さは0.15m、下端幅0.6m。溝の西端より、遺物が出土している。



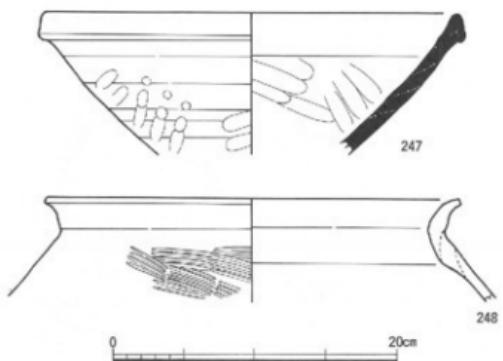
第92図 S D74遺構(1/30)及び遺物実測図



第93図 SD 75遺構実測図 (1/30)



第94図 S D 75遺物実測図 (1)

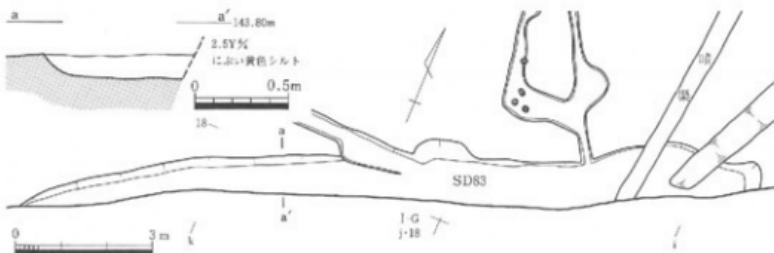


第95図 S D75遺物実測図(2)

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(229～233)、土師質塊底部(234)、瓦器塊(235～238)、瓦質小形鉢(245)、土師質羽釜(239・240)、瓦質羽釜(241～243)、瓦質壺(244)、石鍋(246)、須恵質練鉢(247)、土師質壺(248)が出土している。

S D83(第96図)

〔遺構〕 I-G-i～g-12～15付近に位置し、南方が調査区外の為、全容は判明しない。検



第96図 S D83遺構実測図(1/30)

出長16.5m。最大上端幅1.37m、深さは0.33m、下端幅0.9m以上。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D87(第97図、図版24、97)

〔遺構〕 I-K-b-2付近に位置し、平面形は逆L字形を呈する。断面形はU字形を成す。検出長8m。最大上端幅1m、深さは0.39m、下端幅0.55m。溝西側部分から遺物が出土している。

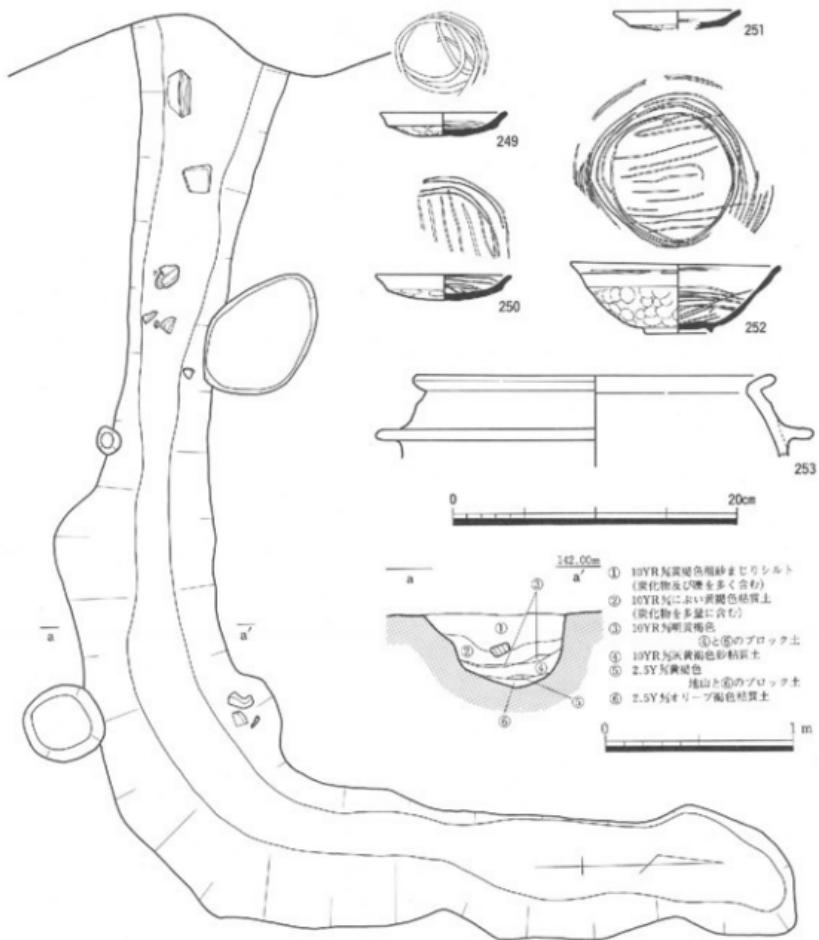
〔遺物〕 遺物は瓦器皿(249～251)、瓦器塊(252)、土師質羽釜(253)が出土している。

S D100(図版24)

〔遺構〕 I-J-n～p-11～13付近に位置し、直線的に伸びる溝である。北側部分では幅を

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(225・226)、瓦器塊(227・228)が出土している。
S D75(第93～95図、図版17・96)

〔遺構〕 I-H-f～g-12～15付近に位置し、S B34・35の東側3mの平行方向に平行に走る。検出長15.3m。最大上端幅1.2m、深さは0.32m、下端幅0.7m。溝の中央付近で河原石と共に遺物が出土している。



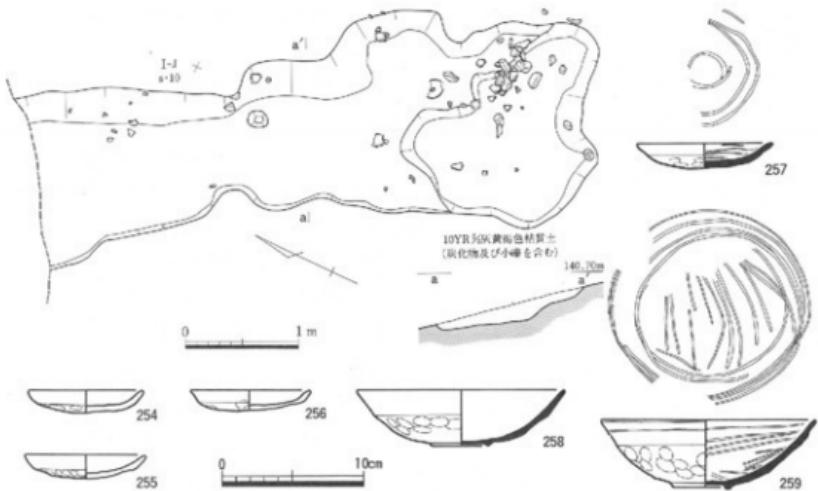
第97図 S D87遺構 (1/30) 及び遺物実測図

広げ、西側肩は調査区外に位置する。検出長20.7m。最大上端幅1.6m以上、深さは0.35m、荷端幅1.55m以上であるこの溝はS D101と切り会い、S D101よりは新しい。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D101 (図版24)

〔遺構〕 I-J-m-o-12-15付近に位置し、北西側部分をS D100と切り会いながら直線



第98図 SD 106遺構 (1/50) 及び遺物実測図

的に走る。南東端は調査区外にのびる。北側肩は南側肩より0.5mさがる。最大上端幅1.2m、深さ0.15m、下端幅0.9m。

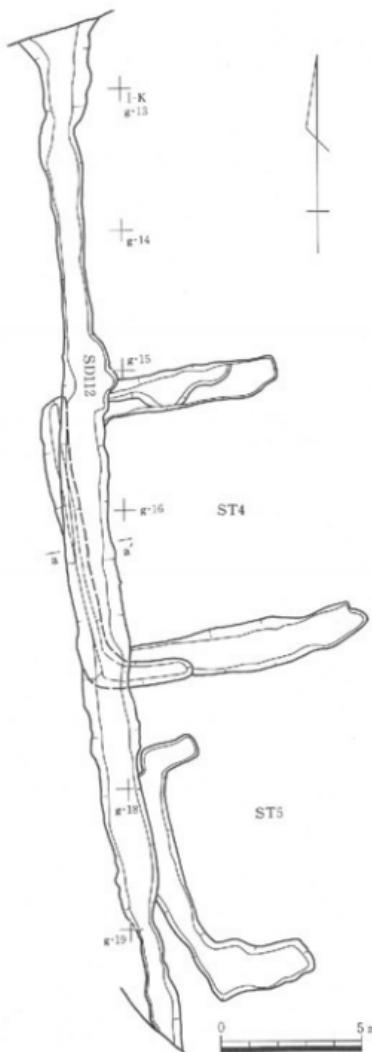
〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D 106 (第98図、図版31・97)



第99図 SD 108遺構実測図 平面 (1/100)・断面 (1/30)

〔遺構〕 I
— J — r ~ s
— 9 ~ 10付近
に位置し、検
出長5mで北
西部分は調査
区外にのびる。
南東端が径1.5
mで落ち込み、
遺物が出土し
ている。最大
上端幅1.9m、
深さ0.22m、
下端幅1.8m。



〔遺物〕 遺物は土師質小皿（254～256）、瓦器塊（258・259）、瓦器小皿（257）が出土している。

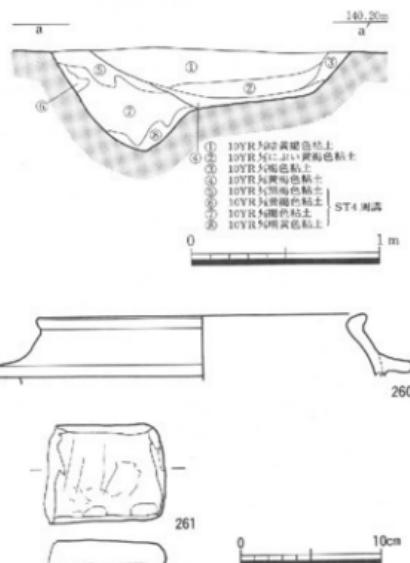
S D108（第99図、図版31）

〔遺構〕 I-K-b～c-11～12付近に位置し、東西に走り、東で3m南に屈曲し、西端で枝状南に2m走る。西側は調査区外に伸びる。最大上端幅2m、深さ0.22m、下端幅1.2m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D112（第100図）

〔遺構〕 I-K-g-12～19付近に位置し、南北に直線的に走る。北、南端共に調査区外に伸びる。この溝はST4・5の周溝を切って走っている。最大上端幅1.7m、深さ0.25m、下端幅1m。

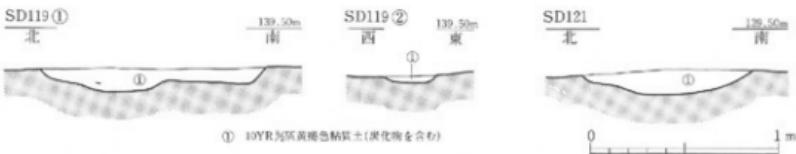


第100図 S D112遺構実測図 平面(1/200)・断面(1/30)及び遺物実測図

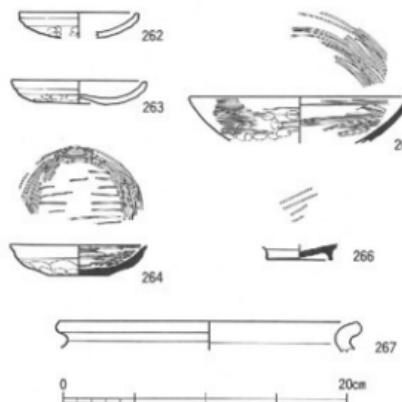
〔遺物〕 遺物は土師質羽釜（260）、不明瓦質製品（261）が出土している。

S D119（第101・102図、図版19・97）

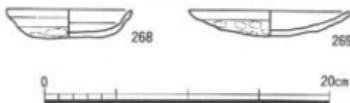
〔遺構〕 I-J-q～s-18～20付近に位置し、長方形周溝状に巡るものと思われる。南東部



第101図 SD119・SD121断面実測図 (1/30)



第102図 SD119遺物実測図



第103図 SD127遺物実測図

分は調査区外の為不明である。埋土中に炭化物を含んでいる。周溝の規模は東西北側7m、南北西側6.5m、最大上端幅1.7m、深さ0.25m、下端幅1m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(262・263)、瓦器塊(265・266)、瓦器小皿(264)、紀伊型の羽釜(267)が出土している。

S D121 (第101図、図版19)

〔遺構〕 I-J-r-t-19付近に位置し、東西に直線的に走り、SD119を切っている。埋土中に炭化物を含んでいる。検出長12m、最大上端幅1.4m、深さ0.13m、下端幅1m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D127 (第103・104図、図版34・97)

〔遺構〕 I-N-b-3~6付近に位置し、南北に直線的に走る。検出長17.7m、最大上端幅0.6m

m、深さ0.15m、下端幅0.2m。

〔遺物〕 遺物は瓦器小皿(268・269)が出土している。

S D128 (第104図、図版34)

〔遺構〕 I-M-r-3~11付近に位置し、rラインに沿って南北に走り、SB50を切っている。両端は調査区外に伸びる。断面はU字形を成す。最大上端幅0.4m、深さ0.13m。

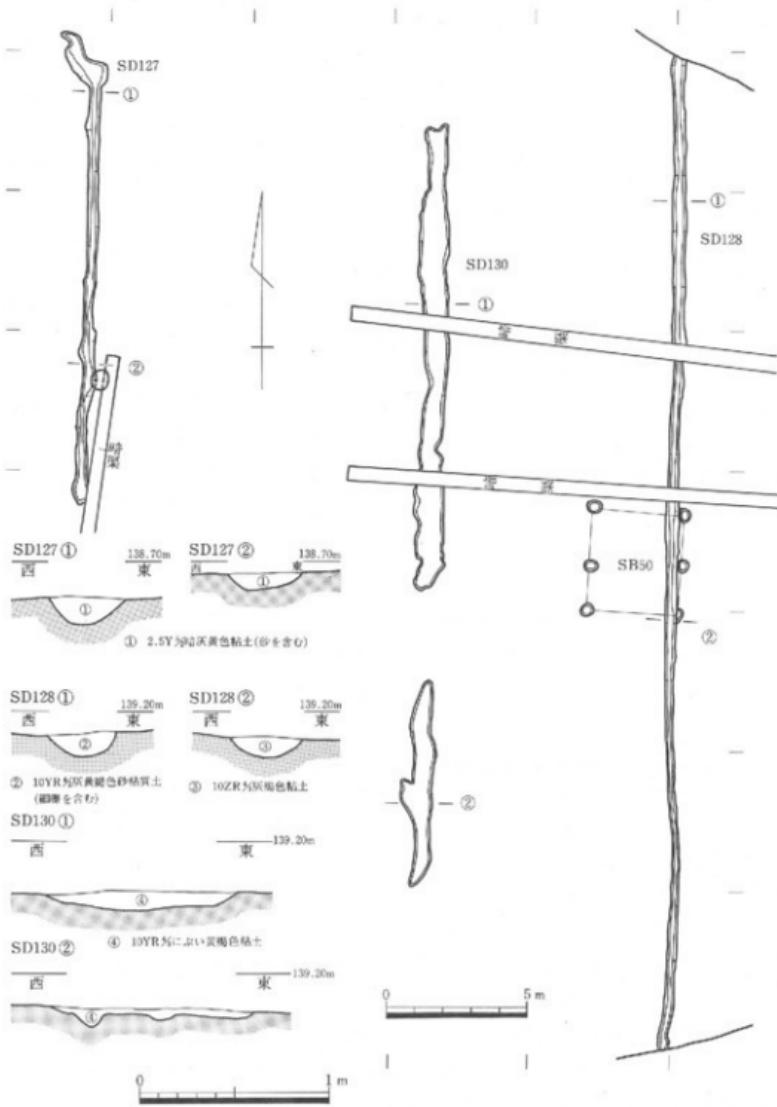
〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D130 (第104図、図版34)

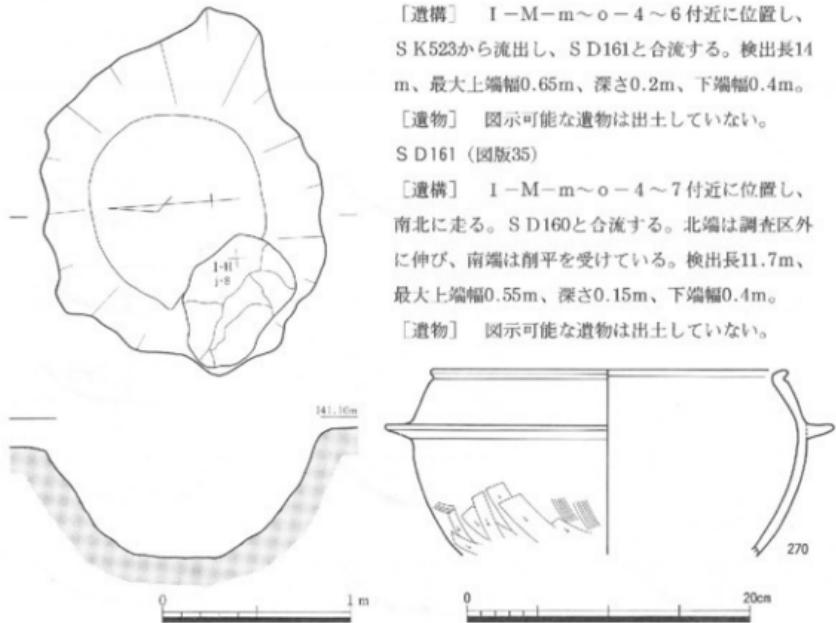
〔遺構〕 I-M-s-4~9付近に位置し、南北に走り、SD128・127と並列する。検出長35.7m、最大上端幅1.1m、深さ0.1m、下端幅0.95m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D160 (図版35)



第104図 SD127・SD128・SD130遺構実測図 平面(1/200)・断面(1/30)



第105図 S E 2 遺構 (1/30) 及び遺物実測図

井戸 (S E)

S E 2 (第105図、図版14)

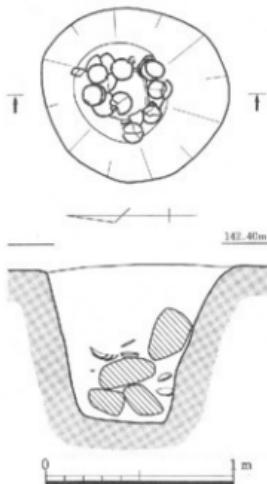
【遺構】 I - H - i ~ j - 7 ~ 8 付近で、S B33の東 2 m に位置する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の肩部、西側には 50cm × 70cm の石がある。埋土中より瓦器片、土師質土器片が出土している。長径 1.9m、短径 1.5m、深さ 0.92m。

【遺物】 図示できたのは土師質羽釜 (270) だけである。

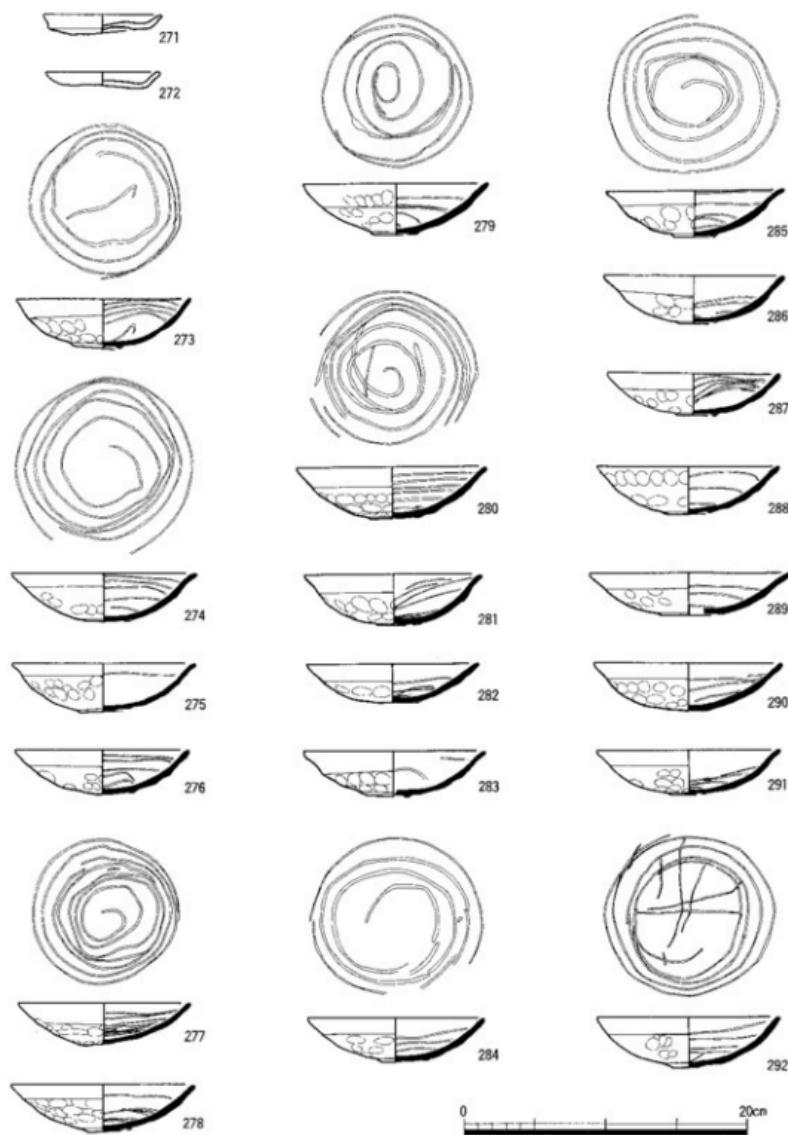
S E 3 (第106・107図、図版17・25・98・99)

【遺構】 I - H - f - 11~12 付近で、S B28 の北 5 m に位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の底部には 30cm × 15cm の自然石 4 個が落ち込んでおり、石周囲から瓦器片、土師質土器片が一括で出土している。径 0.9m、底径 0.45m、深さ 0.85m。

【遺物】 遺物は土師質小皿 (271・272)、瓦器塊 (273~292)



第106図 S E 3 遺構実測図 (1/30)



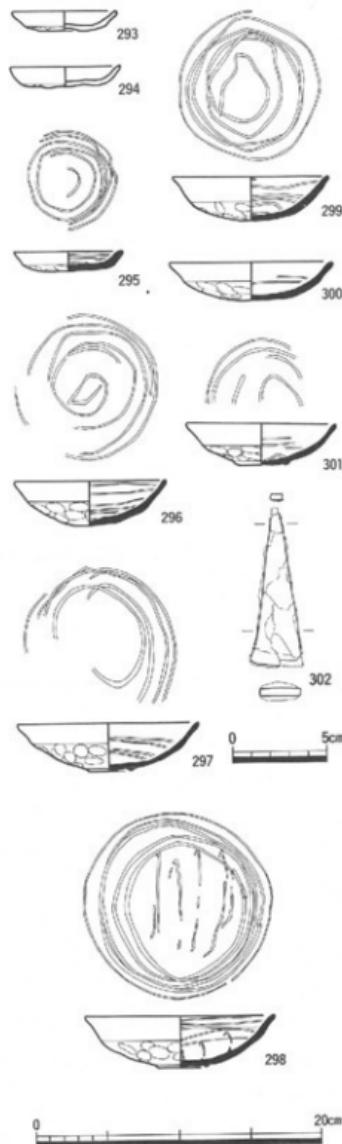
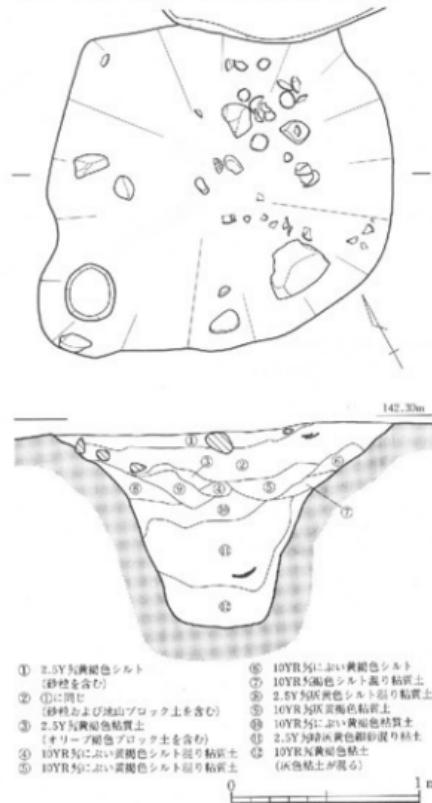
第107図 S.E.3 遺物実測図

が出土している。

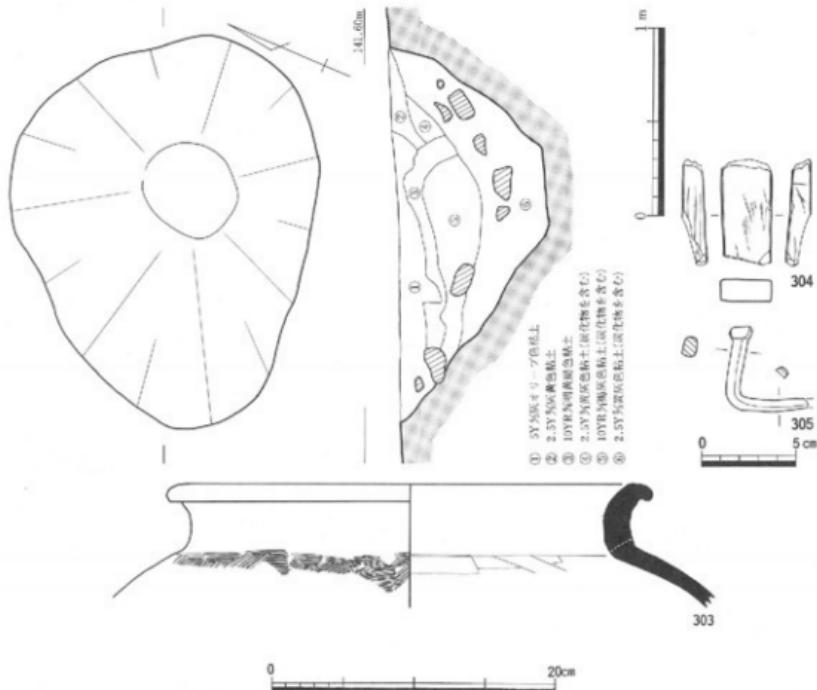
S E 4 (第108図、図版17・25・99・150)

〔遺構〕 I-H-f-13付近で、S B34に接し、S E 3の南5mに位置する。平面形は不定円形を呈する。素掘りの井戸である。井戸は、一度埋まつた後、土壤状に再掘削されており、瓦器類、土師質土器類、鉄器が出土し、埋土下層からも瓦器類が出土している。径1.82m、底径0.8m、深さ1.05m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(293・294)、瓦器塊(296~301)、瓦器皿(295)、楔状鉄製品(302)が



第108図 S E 4 遺構 (1/30) 及び遺物実測図



第109図 S E 5 遺構 (1/30) 及び遺物実測図

出土している。瓦器塊 (298) のみが埋下下位からの出土である。

S E 5 (第109図、図版17・26・150)

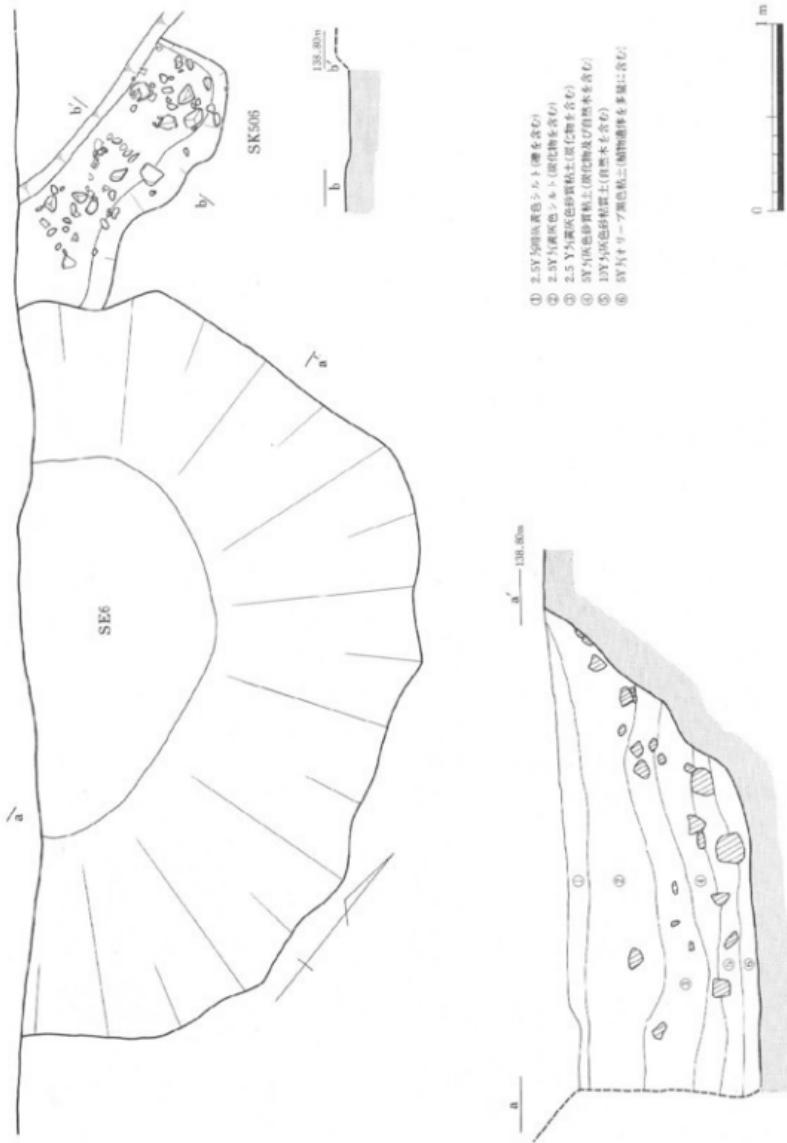
【遺構】 I - H - g ~ h - 16付近に位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。井戸の内部には30cm×15cmの河原石が落ち込んでいる。埋土中位から下位の黄灰色から褐灰色の粘土には炭化物が含まれている。長径2m、短径1.66m、深さ0.89m。

【遺物】 遺物は瓦質甕 (303)、磁石 (304)、鉄釘 (305) が出土している。

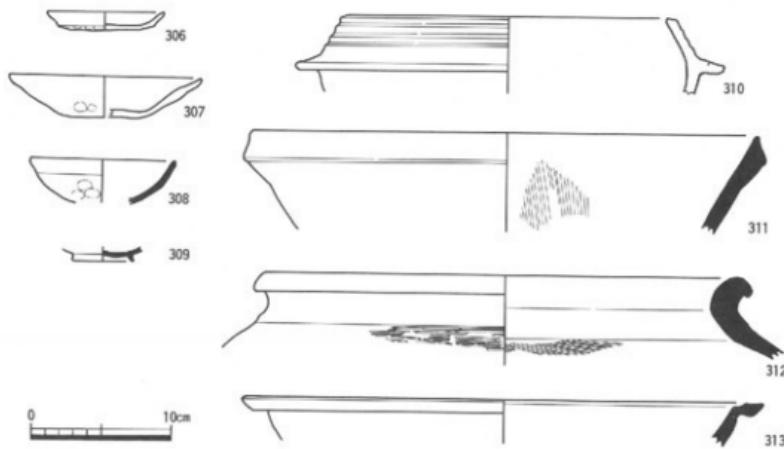
S E 6 (第110・111図、図版26)

【遺構】 I - N - b - 8 に位置し、SK506を切っている。西側は調査区外に広がる。平面形は梢円形を呈すると思われる素掘りの井戸である。井戸の内部には30cm×15cmの河原石が落ち込んでいる。埋土中位から下位の黄灰色から褐灰色の粘土には炭化物が含まれている。長径2m、短径1.66m、深さ0.89m。

【遺物】 遺物は土師質小皿 (306)、土師質鉢 (307)、土師質羽釜 (310)、瓦器塊 (308・309)、瓦質練鉢 (311)、瓦質甕 (312)、灰釉大皿 (313) が出土している。



第110図 SE6・SK506遺構実測図 (1/30)



第111図 S E 6 遺物実測図

土壤 (SK)

— SK173 (第112図)

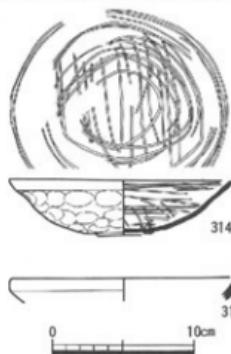
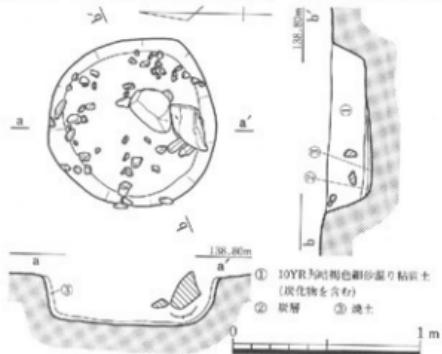
【遺構】 I - H - t - 12付近に位置し、平面形は不定円形を呈する。底面は西側半分がやや深い。長軸1.13m、短軸0.63m、深さ0.5m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

SK175 (第113図、図版27・100)

【遺構】 I - H - t - 12~13付近で、SK173の南側1.5mに位置する。平面形は円形を呈する。全体に火を受け断

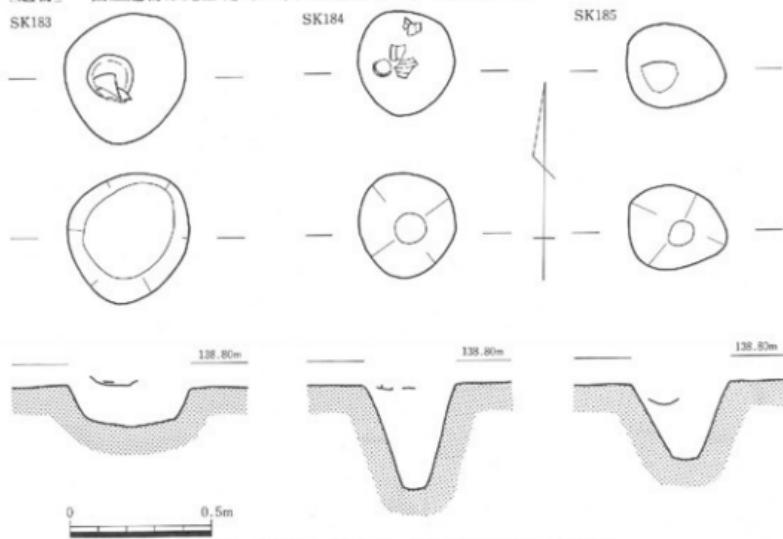
第112図 SK173遺構実測図 (1/30)



第113図 SK175遺構 (1/30) 及び遺物実測図

面では一部厚さ2cmの焼土が見られ、更に炭化物が堆積し、埋土中にも炭化物が含まれている。埋土中には河原石と底面から瓦器塊が出土している。径0.9m、深さ0.26m。

〔遺物〕 出土遺物は瓦器塊(314)、白磁碗(315)が見られる。



第114図 S K183・S K184・S K185遺構実測図(1/20)

S K183(第114・115図、図版27・100)

〔遺構〕 I-H-t-13付近で、S K175の南東側3mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から土師質皿と台付皿が重複して出土している。径0.48m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は土師質皿(316)と土師質台付皿(317)が出土している。

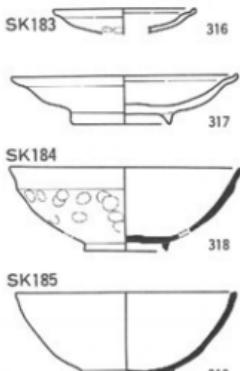
S K184(第114・115図、図版28・100)

〔遺構〕 I-H-t-13付近で、S K183の南側0.7mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から瓦器塊が出土している。径0.38m、深さ0.38m。

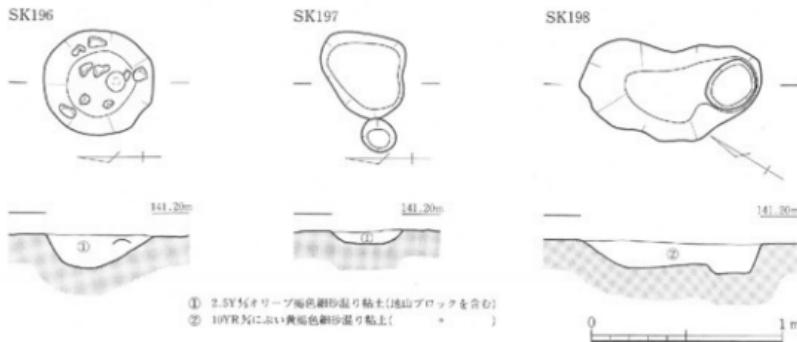
〔遺物〕 遺物は瓦器塊(318)が出土している。

S K185(第114・115図、図版28・100)

〔遺構〕 I-H-t-13付近で、S K184の南側1.5mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土上位から瓦器塊が出土している。径0.31m、深さ0.28m。



第115図 S K183・S K184・S K185遺物実測図



第116図 S K196・S K197・S K198遺構実測図 (1/30)

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(319)が出土している。

S K196 (第116・117図、図版14・29・100)

〔遺構〕 I-H-1-8付近で、S B28の西側6mに位置する。平面形は円形を呈する。埋土底面から河原石の小石と埋土上位から瓦器塊が出土している。径0.59m、深さ0.18m。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(320)が出土している。

S K197 (第116図、図版14)

〔遺構〕 I-H-k-8付近で、S B28の西側3mに位置する。平面形は不定円形を呈する。長径0.45m、短径0.41m、深さ0.07m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

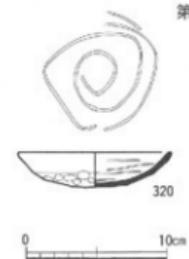
S K198 (第116図、図版14)

〔遺構〕 I-H-k-9付近で、S K197の南側5mに位置する。平面形は不定長椭円形を呈する。南端は径0.5m、深さ0.04mに落ち込んでいる。長径0.96m、短径0.45m、深さ0.17m。

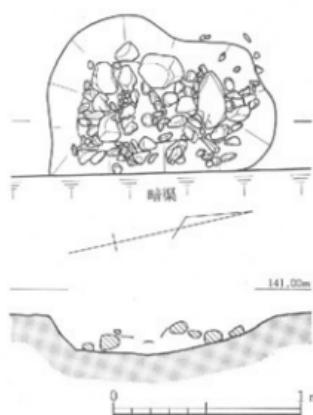
〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S K201 (第118・119図、図版29・100)

〔遺構〕 I-H-i-14付近で、東側は暗渠によって削平されている。平面形は不定椭円形を呈する。土壤内には30cm以上の河原石と小石がつまり、瓦器塊が出土している。長径1.2m、検出部分短径0.85m、深さ0.2m。

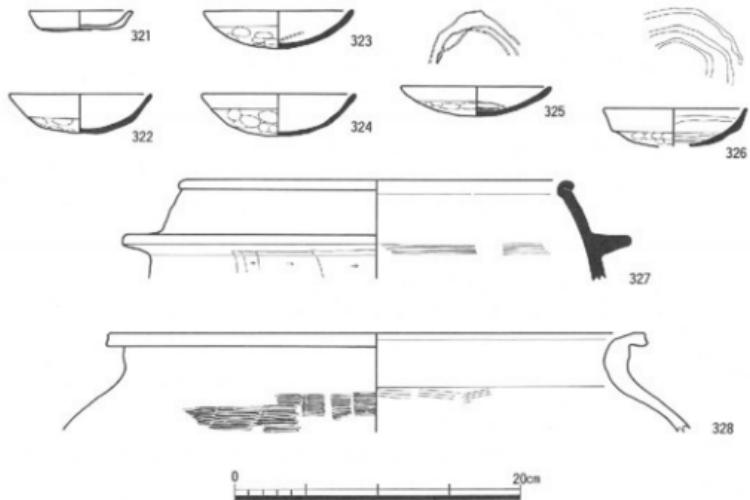


第117図 S K196
遺物実測図

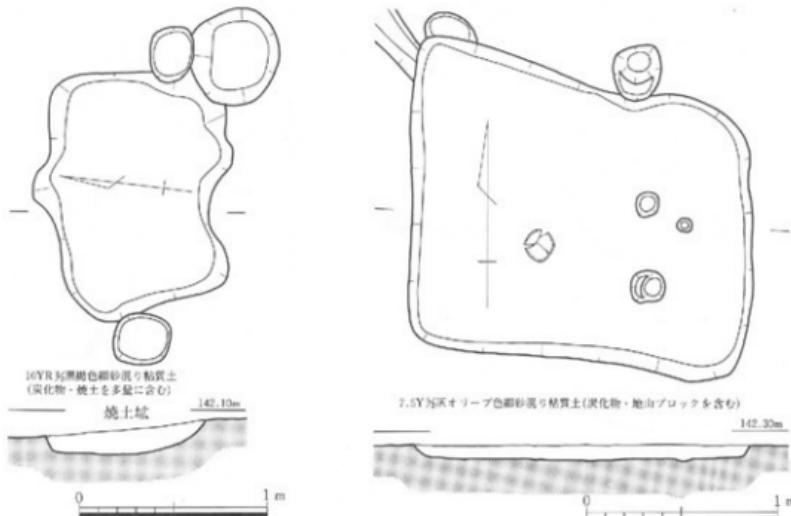


第118図 S K201遺構実測図 (1/30)

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(321)、瓦器塊(322～326)、瓦質羽釜(327)、土師質甕(328)が



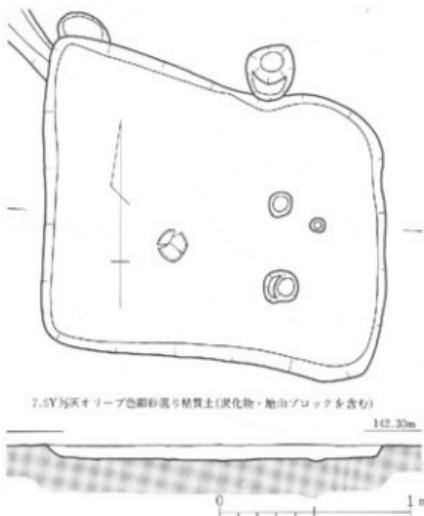
第119図 S K 201遺物実測図



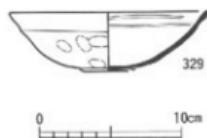
第120図 S K 206遺構実測図 (1/30)

出土している。

S K 206 (第120図、図版16)



第121図 S K 208遺構実測図 (1/30)



第122図 S K 208遺物実測図



第123図 S K 210遺構
実測図 (1/30)

【遺構】 I-H-q-9付近で、東側は暗渠によって削平されている。平面形は不定長方形を呈する。埋土中には炭化物と焼上が含まれている。長軸1.25m、短軸0.96m、深さ0.12m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

S K 208 (第121・122図、図版17・100)

【遺構】 I-H-q-11付近で、S B33と重複し、S B33に切られれている。平面形はやや不定形な台形を呈する。埋土中には炭化物が含まれており、底面から瓦器塊が口縁部を上にして出土している。長軸1.8m、短軸1.4m、深さ0.13m。

【遺物】 遺物は瓦器塊(329)が出土している。

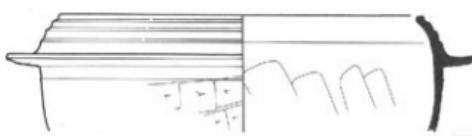
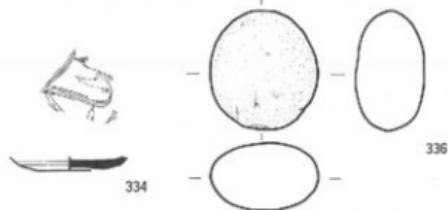
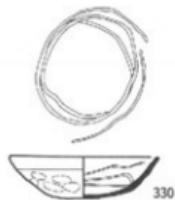
S K 210 (第123図、図版17)

【遺構】 I-H-h-12付近で、S B34の西2mに位置する。平面形は梢円形を呈する。長径0.82m、短径0.7m、深さ0.22m。

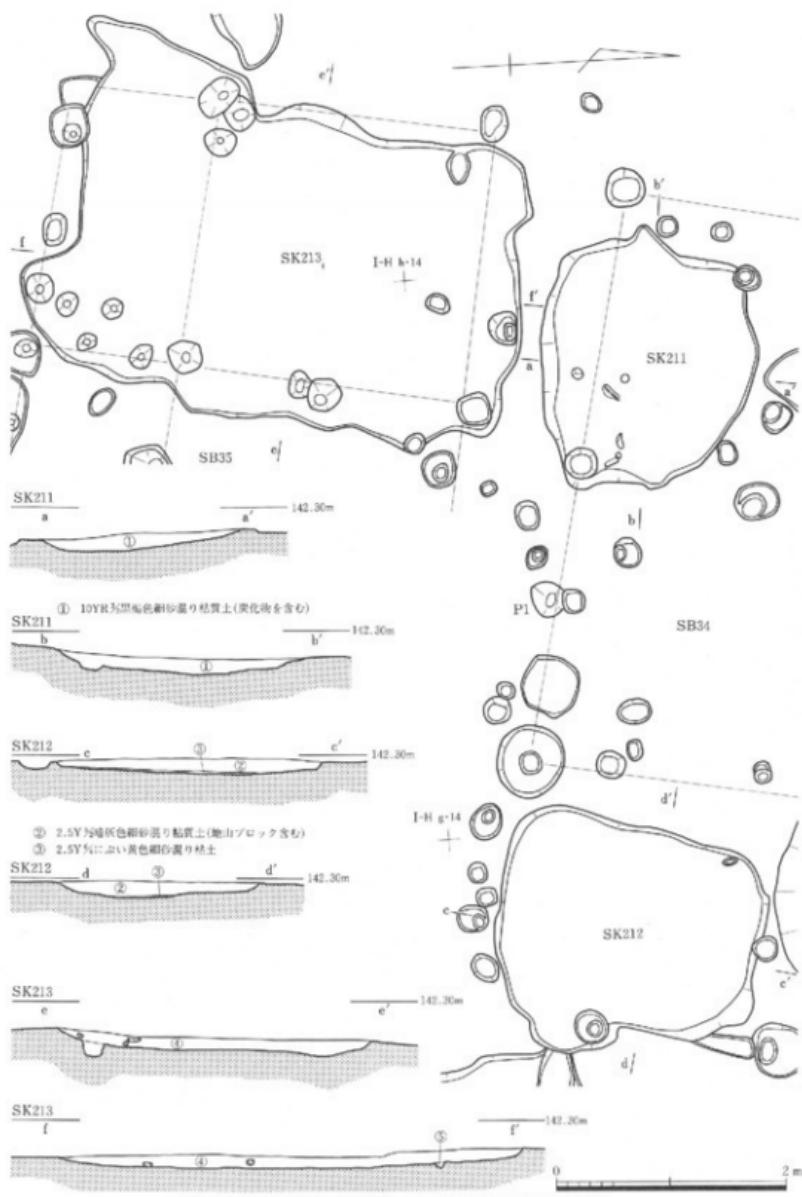
【遺物】 遺物は青磁碗や瓦器類、土師質土器が出土しているが、図示可能な遺物は出土していない。

S K 211 (第124・125、図版17・100・101)

【遺構】 I-H-g~h-13付近で、S K213の北に隣接しS B34と重複して位置する。平面形は不定梢円形を呈する。底面から瓦器塊や羽釜片が出土している。



第124図 S K 211・S K 213遺物実測図



第125図 SK211・SK212・SK213構造実測図 (1/50)

長径1.1m、短径0.93m、深さ0.26m。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(330~333)、瓦質羽釜(335)、青磁皿(334)、叩石(336)が出土している。

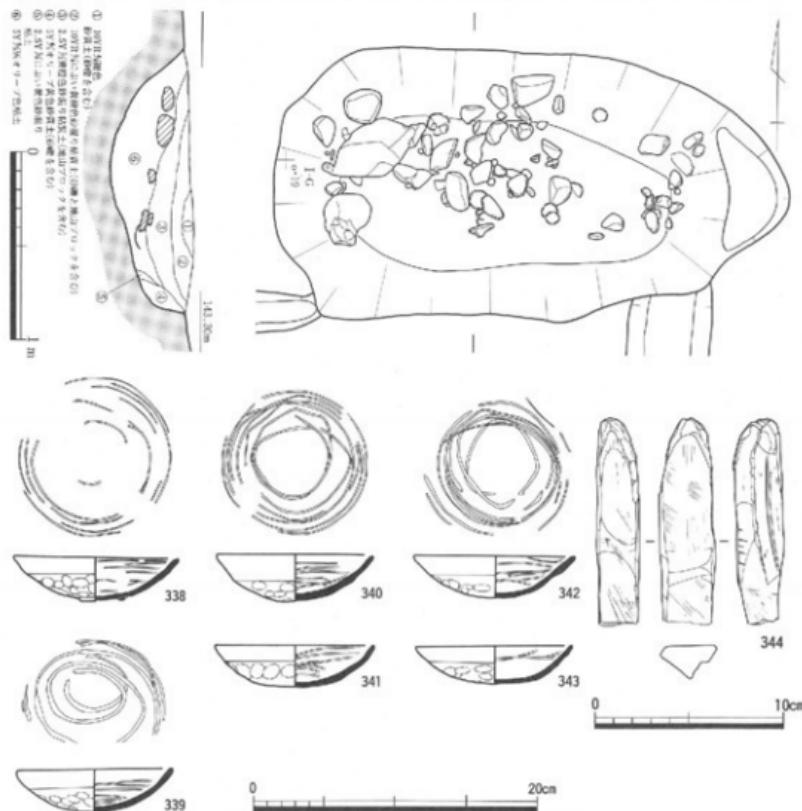
S K212 (第125図、図版17)

〔遺構〕 I-H-f-13付近で、S K211の東3mに位置する。平面形は不定長方形を呈する。長軸2.33m、短軸1.78m、深さ0.15m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S K213 (第124・125図、図版17)

〔遺構〕 I-H-g~h-13~14付近で、S K211に隣接しS B35と重複して位置する。平面形は不定長方形を呈する。埋土中には炭化物が含まれている。長軸2.07m、短軸1.4m、深さ0.2m。



第125図 S K212遺構 (1/30) 及び遺物実測図

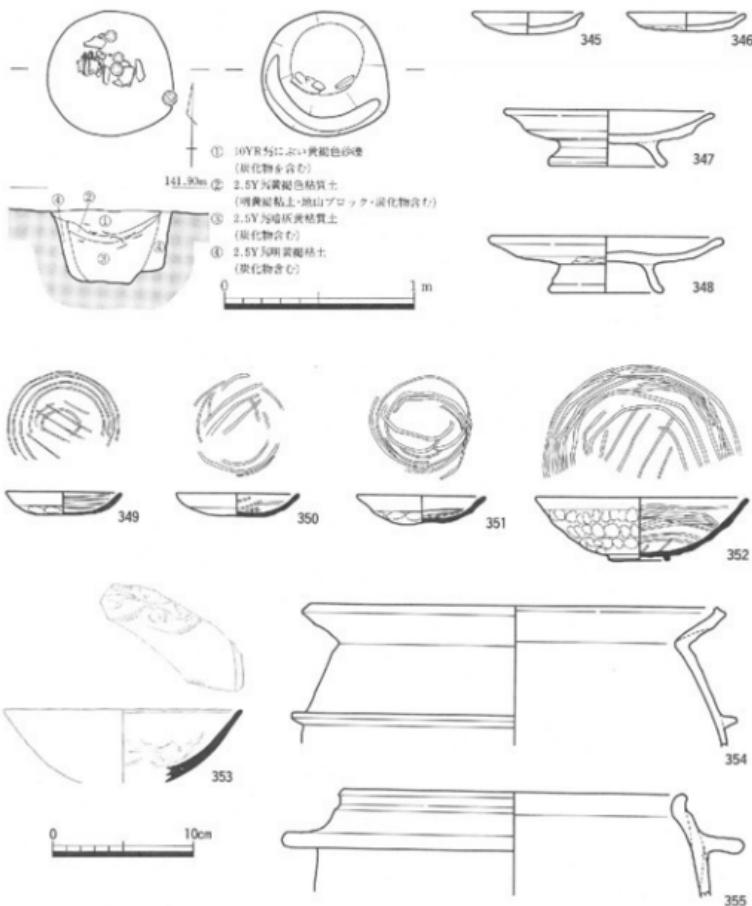
〔遺物〕 遺物は瓦器塊(337)が出土している。

S K 222 (第126図、図版30・101)

〔遺構〕 I-H-n-18~19付近に位置する。平面形は長椭円形を呈する。主軸方向は東西を示す。埋土の下位層からは最大50cmの河原石と瓦器塊6点と砥石1点が出土した。長径2.75m、短径1.41m、深さ0.44m。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(338~343)、砥石(344)が出土している。

S K 228 (第127図、図版30・101・102)



第127図 S K 228遺構(1/30) 及び遺物実測図

【遺構】 I-K-a-2付近のS D87の東側に位置する。平面形は円形を呈する。断面からは再掘削された径0.5mの埋土の中位層から瓦器類、土師質土器類、羽釜類、青磁碗片が一括して出土している。又埋土中には炭化物が含まれている。径0.68m、深さ0.52m。

【遺物】 遺物は瓦器塊(352)、瓦器小皿(349~351)、土師質小皿(345・346)、土師質台付皿(347・348)、青磁碗(353)、土師質羽釜(354・355)が出土している。羽釜(354)は紀伊型である。

S K231 (第128図、図版102)

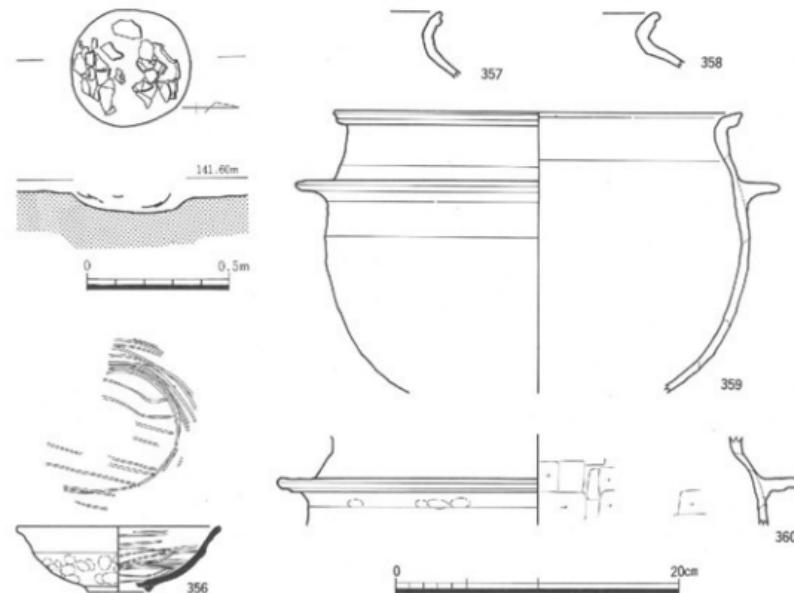
【遺構】 I-K-F-3付近に位置する。平面形は円形を呈する。削平を受けているが土壤内には羽釜が掘形一杯に納められている。羽釜内部には瓦器塊が埋納されている。径0.42m、深さ0.08m。

【遺物】 遺物は瓦器塊(356)、土師質甕(357・358)、土師質羽釜(359・360)が出土している。

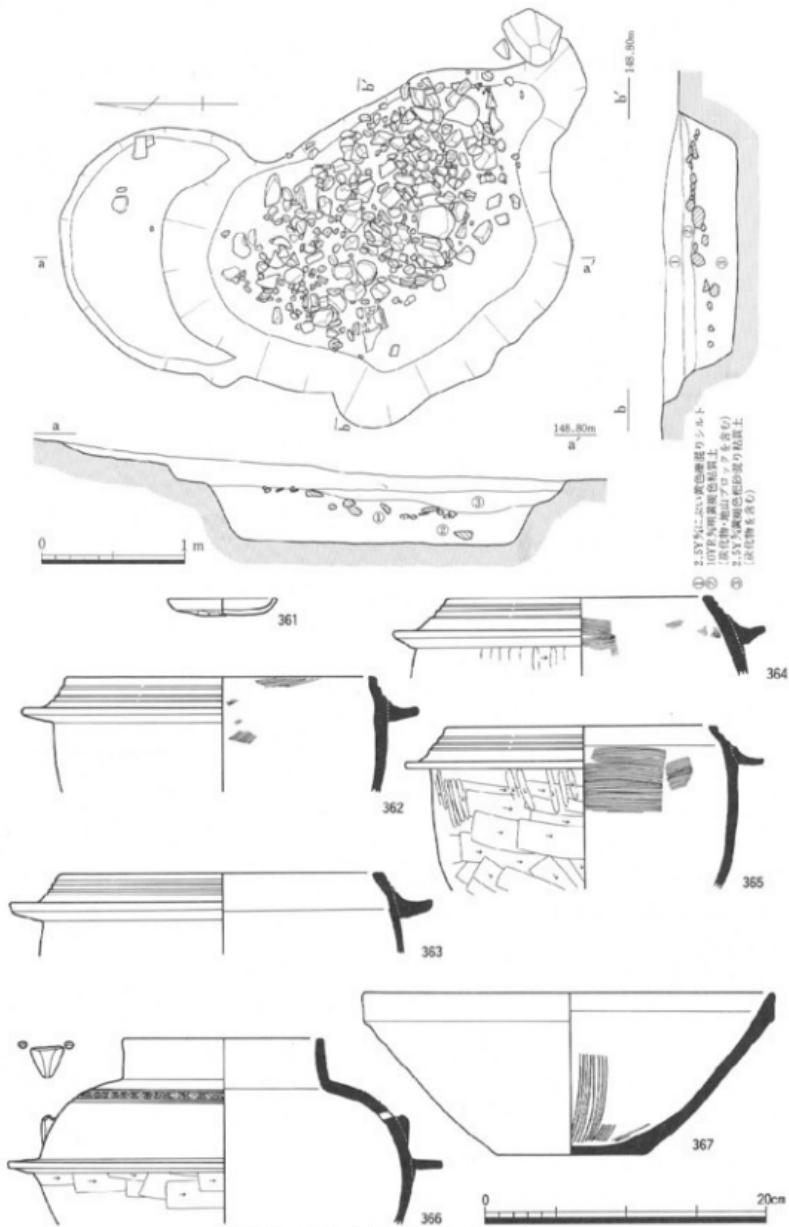
S K236 (第129図、図版31・102)

【遺構】 I-J-K-11付近に位置する。平面形は不定形橢円形を呈する。北側部分はテラス状を呈する。土壤内からは埋土中位に最大30cmの河原石が充填されている。遺物は瓦質の羽釜片が出土している。長径3.62m、短径2.2m、深さ0.73m。

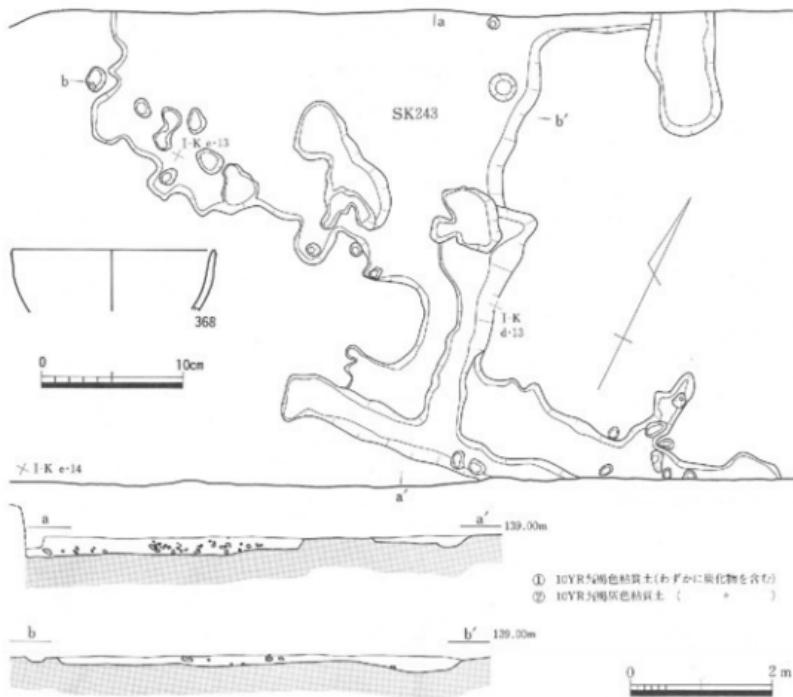
【遺物】 出土遺物は土師質小皿(361)、瓦質羽釜(362~365)、茶釜(366)、瓦質摺鉢(367)



第128図 S K231遺構 (1/20) 及び遺物実測図



第129図 SK 236遺構 (1/40) 及び遺物実測図



第130図 SK243遺構 (1/80) 及び遺物実測図

が出土している。

S K243 (第130図、図版31)

〔遺構〕 I - K - c ~ e - 12~13付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壌というより自然地形的なものである。埋土内にはわずかに炭化物が含まれている。長軸6m、短軸3.9m、深さ0.28m。

〔遺物〕 土師質の鉢 (368) が出土している。

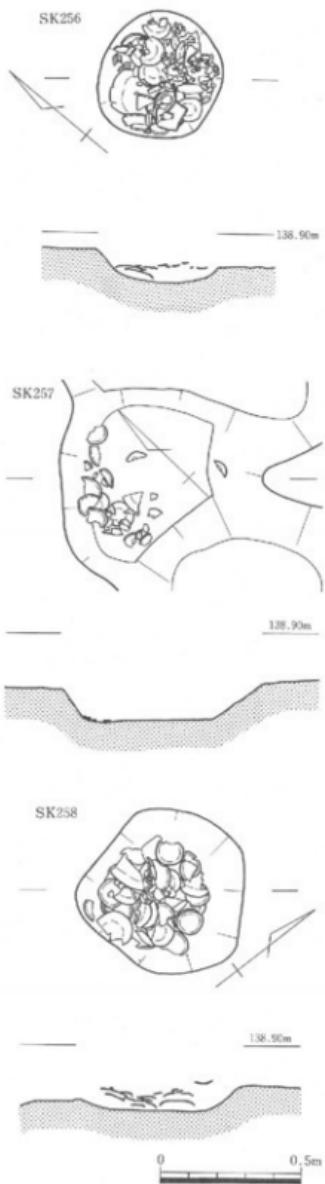
S K256 (第131・132図、図版32・103・104)

〔遺構〕 I - N - c - 1付近に位置する。S T 7の墳丘を切り込んでいる。平面形は円形を呈する。上部分は削平を受けているが土壌内には土師質の皿類が42以上充填されている。径0.46m、深さ0.11m。

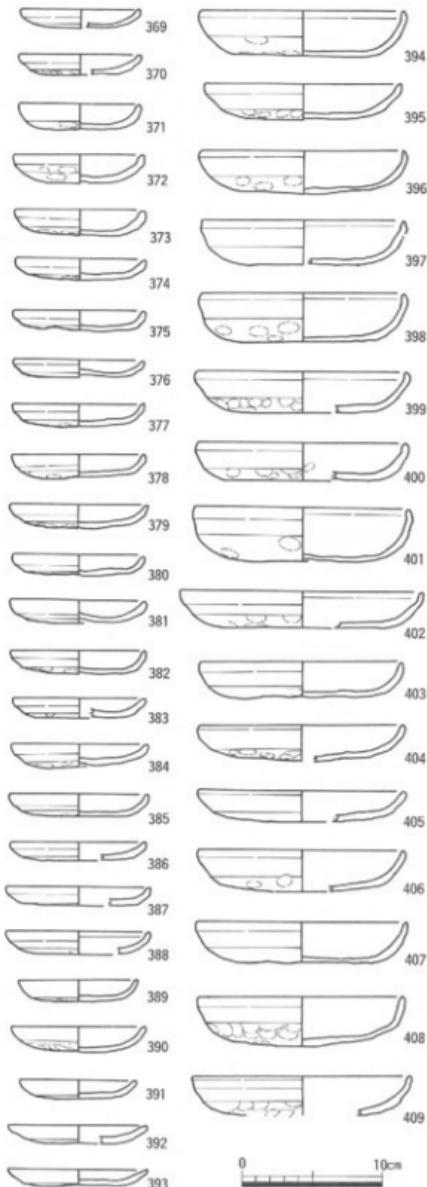
〔遺物〕 遺物は土師質小皿 (369~393)、土師質大皿 (394~409) が出土している。

S K257 (第131・133図、図版104・105)

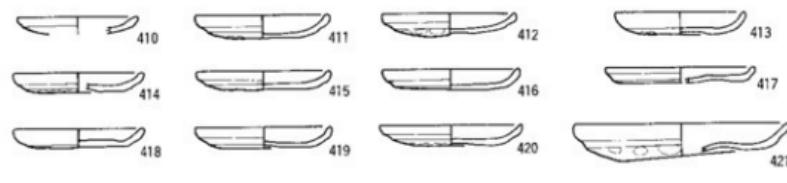
〔遺構〕 I - N - c - 1付近のS K256の西1mに位置し、S K256と同様にS T 7の墳丘を切



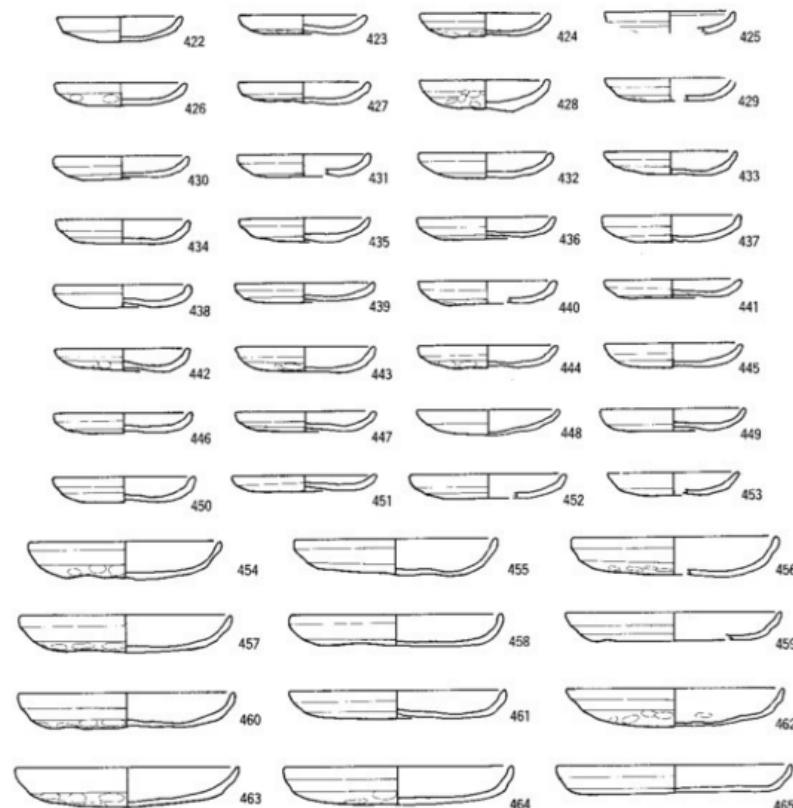
第131図 SK256・SK257・SK258遺構実測図 (1/20)



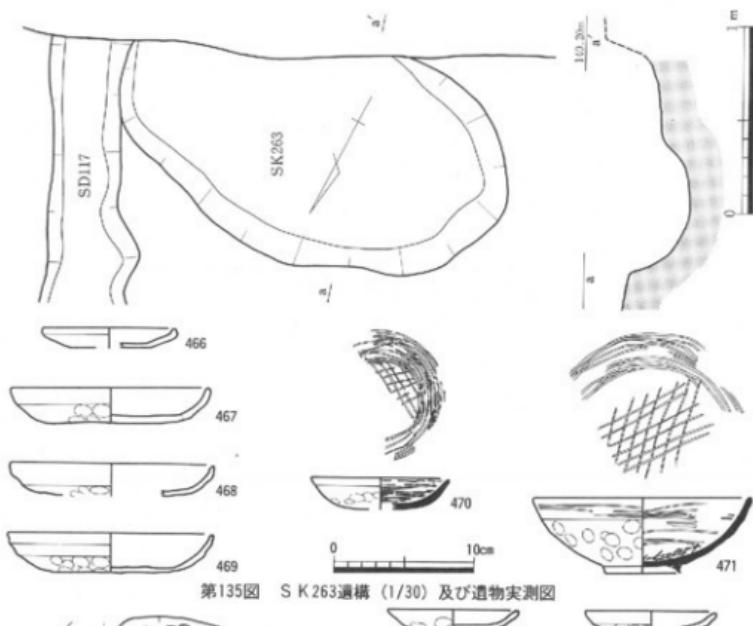
第132図 SK256遺物実測図



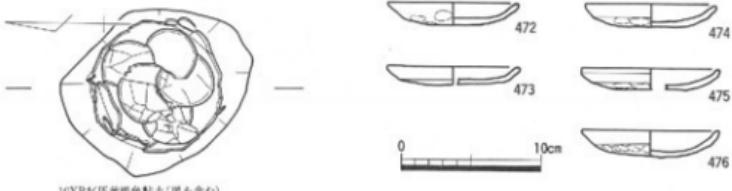
第133図 S K 257遺物実測図



第134図 S K 258遺物実測図



第135図 SK 263遺構 (1/30) 及び遺物実測図



10YR4/5灰褐色粘土(炭を含む)



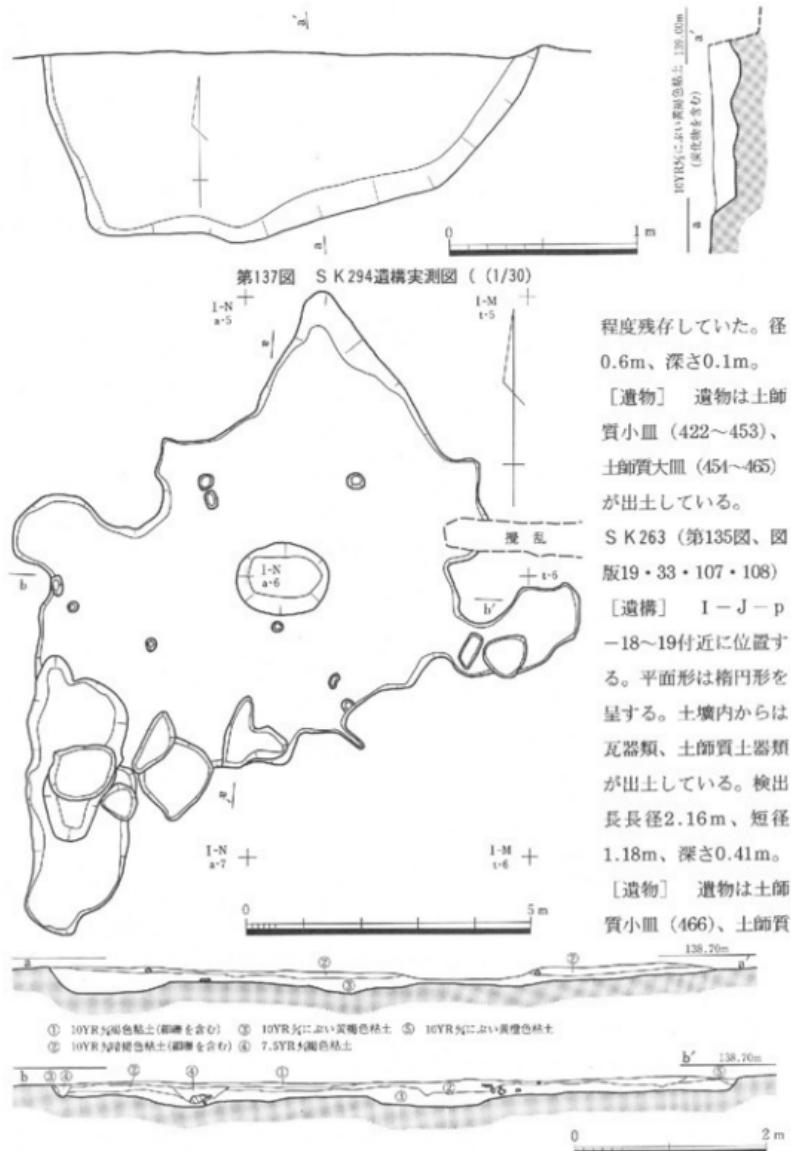
第136図 SK 292遺構 (1/20) 及び遺物実測図

り込んでいる。平面形は削平を受けているが梢円形を呈していたようである。土壙内には土師質の皿類が15個程度残存していた。長径0.7m、短径0.5m、深さ0.12m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（410～420）、土師質大皿（421）が出土している。

S K 258（第131・134図、図版32・105～107）

〔遺構〕 I-N-c-2付近のSK256の南東3mに位置し、S T 7の周溝を切り込んでいる。平面形は不定梢円形を呈している。上部分は削平を受けているが土壙内には土師質の皿類が41個



大皿（467～469）、瓦器皿（470）、瓦器塊（471）が出土している。

S K 292 (第136図、図版33・108)

〔遺構〕 I - N - d - 3 付近に位置する。S X 1 の埋土上面を切り込んでいる。平面形は椭円形を呈する。土壤内からは上部を削平された羽釜と羽釜内部から土師質皿が出土している。長径 0.32m、短径 0.23m、深さ 0.12m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（472～476）、羽釜（477）が出土している。

S K 294 (第137図、図版19)

〔遺構〕 I - M - t - 3 付近で S B 46 の西 1 m に位置する。北側は調査区外となる。平面形は検出部分で長椭円形を呈するようである。土壤内からは土師質土器片、瓦器片が出土している。検出長 2.67m、幅 1.1m、深さ 0.27m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S K 500 (第138図、図版34)

〔遺構〕 I - M - N - t - a - 5 ~ 6 付近に位置する。平面形は不定形な落ち込み状を呈する。土壤内からは土師質土器片、瓦器片が出土している。長軸 10.3m、短軸 9.7m、深さ 0.27m。

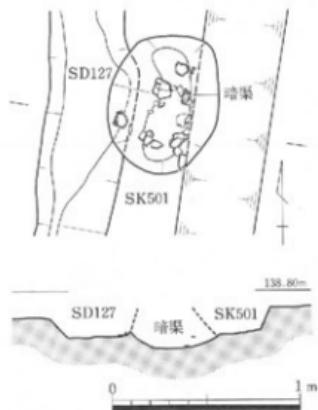
〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S K 501 (第139・140図、図版34・108)

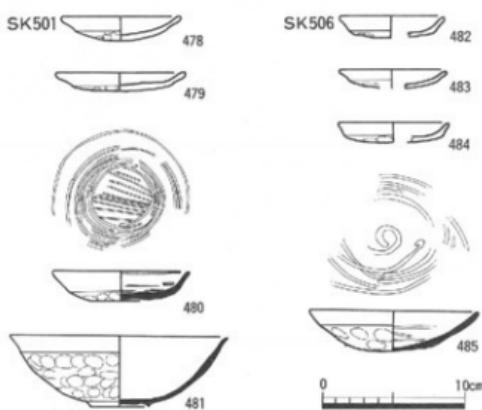
〔遺構〕 I - N - b - 6 付近に位置し、S D 127 と暗渠によって削平を受けている。平面形は椭円形を呈する。土壤内から瓦器類、土師質土器類が出土している。長径 0.59m、短径 0.45m、深さ 0.22m。

〔遺物〕 遺物は土師質皿（478・479）、瓦器塊（481）、瓦器皿（480）が出土している。

S K 506 (第140図、図版34・108)



第139図 SK 501遺構実測図 (1/30)



第140図 SK 501・SK 506遺物実測図

〔遺構〕 I-N-b-8付近に位置し、S E 6によって削平を受け、西側は調査区外になる。土壌内から河原石の小石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。検出長1.7m、幅0.55m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は土師質皿(482~484)、瓦器塊(485)が出土している。

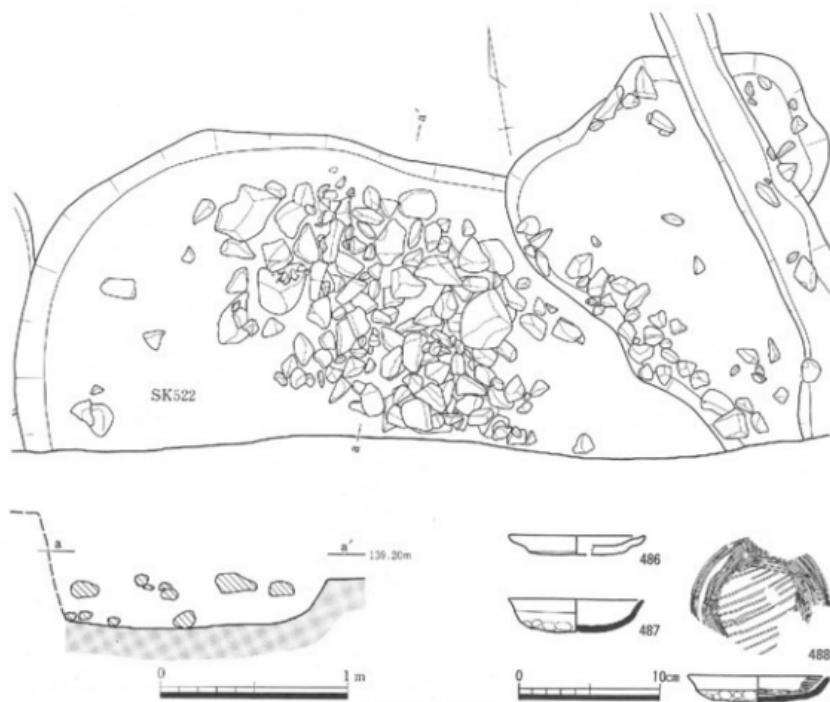
S K522 (第141図、図版34・108)

〔遺構〕 I-M-o-10付近に位置し、他の遺構によって東側は削平を受け、南側は調査区外になる。平面形は楕円形を呈していたと思われる。土壌内から最大30cm位の河原石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。検出長3.75m、幅1.7m、深さ0.25m。

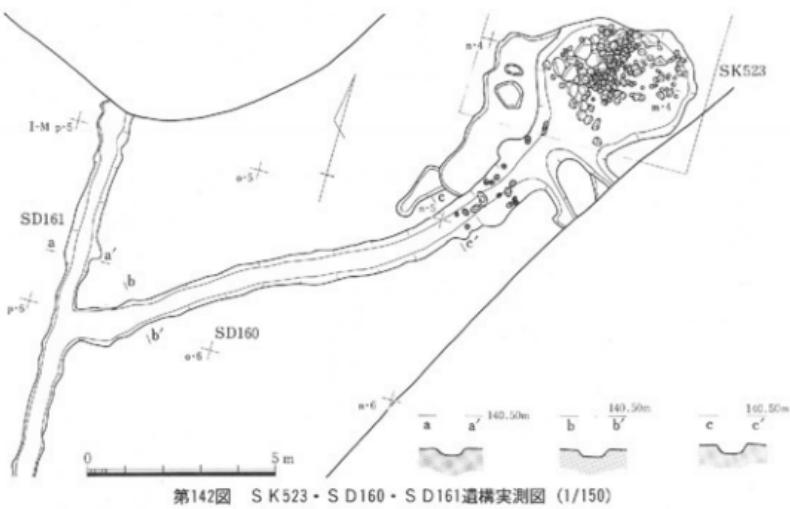
〔遺物〕 遺物は土師質皿(486)、瓦器皿(487・488)が出土している。

S K523 (第142~144図、図版35・108~110)

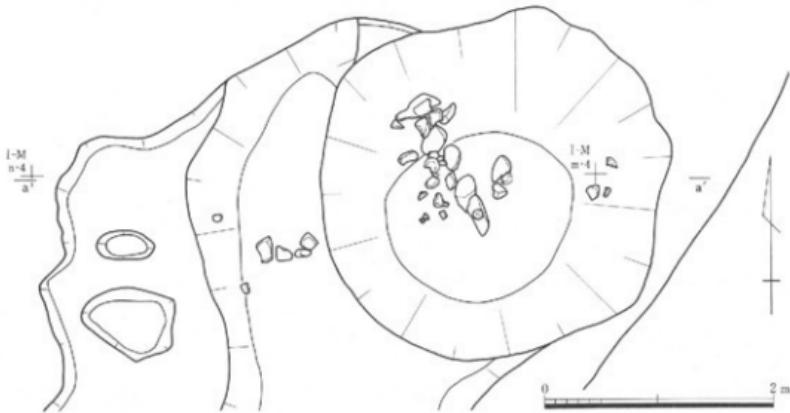
〔遺構〕 I-M-m-3~4付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。この土壌から南西に向かってS D160がのびている。また、土壌内部には最大50cmの河原石が詰まっており、水利関係遺構と思われる。河原石と共に瓦器類、土師質土器類が出土している。長径4m、幅3.5m、



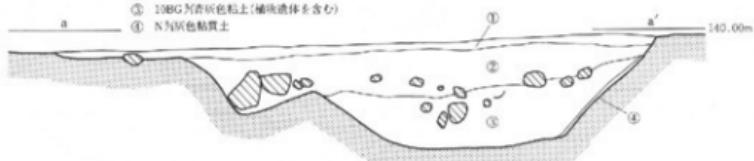
第141図 S K522遺構 (1/30) 及び遺物実測図



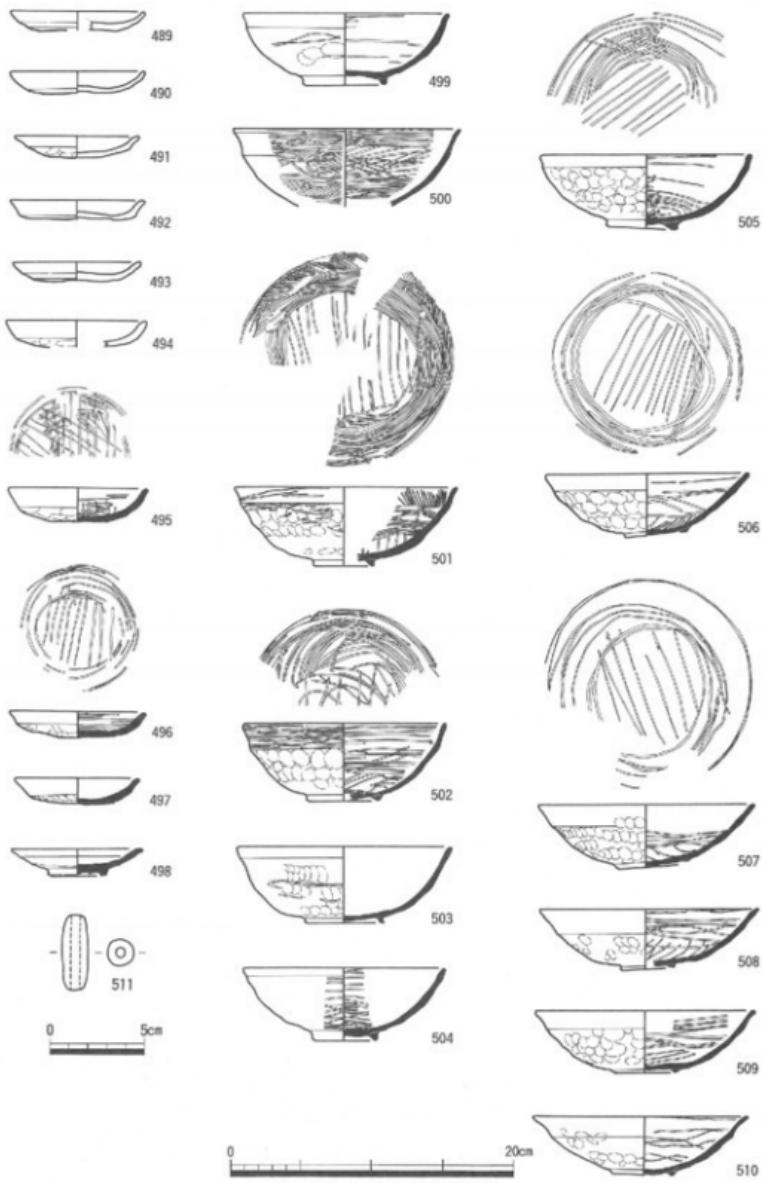
第142図 SK523・SD160・SD161遺構実測図 (1/150)



- ① 10YR 5/2区黄褐色粘質土
- ② 2.3Y 5/2区黄褐色砂質り粘土
- ③ 10BG 5/2区黄褐色粘土(植生遺体を含む)
- ④ N 为灰色粘質土



第143図 SK523遺構実測図 (1/50)



第144図 S K 523遺物実測図

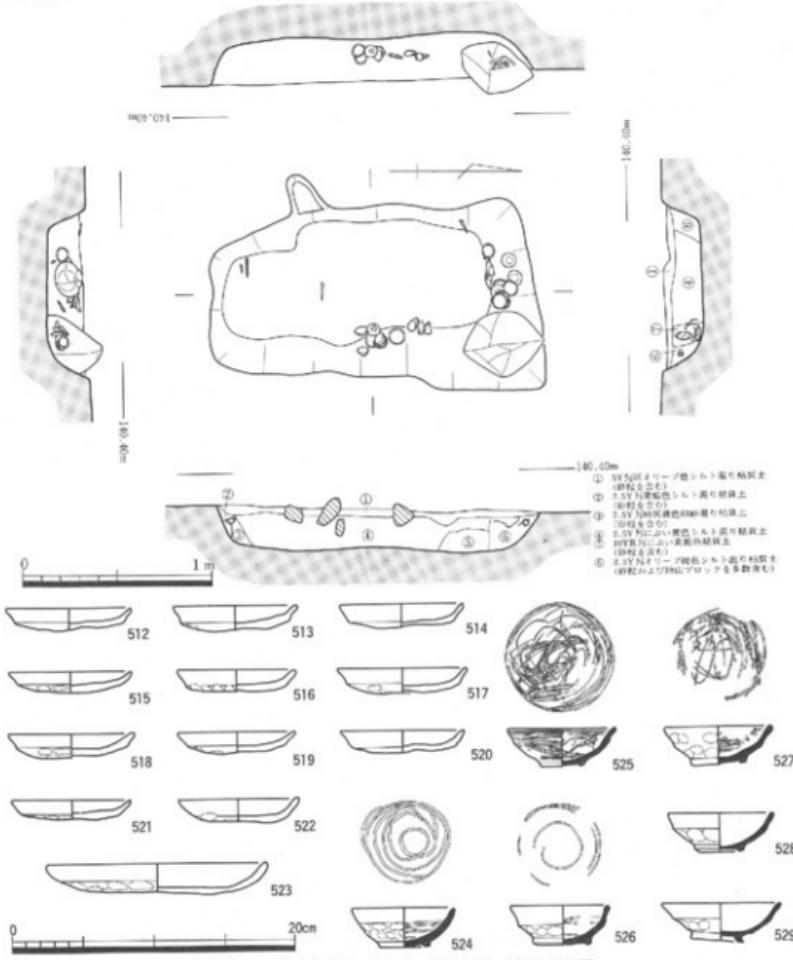
深さ0.3m。

〔遺物〕 遺物は土師質皿（489～494）、瓦器皿（495～498）、瓦器塊（499～510）、土錘（511）が出土している。

土塙墓（SR）

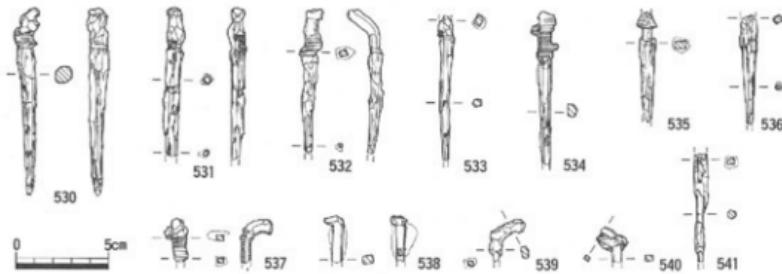
SR 6（第145・146図、図版35・110・111）

〔遺構〕 I-H-n-9に位置し、SR 7と並列する。断面と鉄釘の出土から木棺墓の可能性

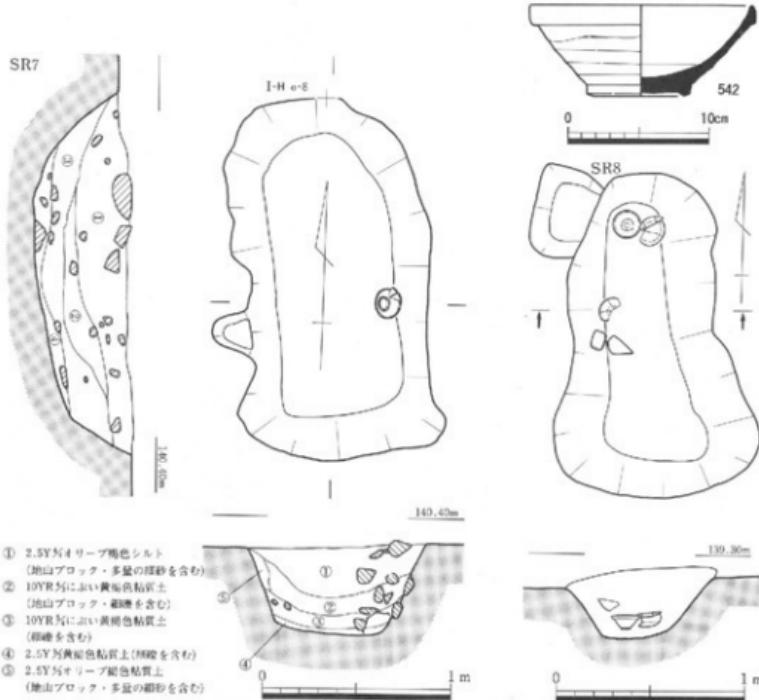


第145図 SR 6 遺構 (1/30) 及び遺物 (1) 実測図

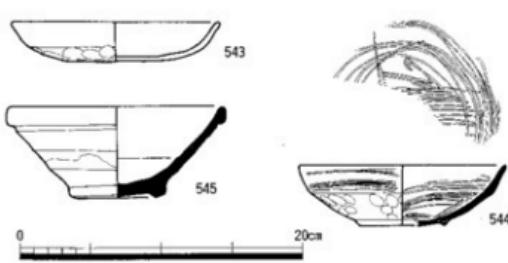
が高い。掘形平面は台形を呈する。棺外北側と西側に供獻用の土器が出土している。北側からは土師質大皿と小皿、西側からは土師質小皿と小型瓦器塊がそれぞれ一括で出土している。主軸方向はN-Oを示す。掘形長1.8m、北側幅1m、南側幅0.65m、深さ0.21m。木棺復元長1.3m、小口幅0.55m。



第146図 SR 6遺物実測図(2)



第147図 SR 7・SR 8 遺構(1/30) 及び SR 7 遺物実測図



第148図 SR 8 遺物実測図

やや丸味をもった長方形を呈する。埋土内には10cmの小石が含まれている。底面東側壁に接して、白磁碗が倒立して出土している。主軸方向はN-2°-Wを示す。長軸1.94m、短軸1.14m、深さ0.42m。

〔遺物〕 出土した遺物は白磁碗（542）のみである。

S R 8 (第147・148図、図版36・111・112)

〔遺構〕 I-H-e-18に位置する。平面形は長楕円形を呈する。底面北側壁に接して、白磁碗が正立して土師質皿と共に出土している。また、西側壁に接して土師質皿が出土している。主軸方向はN-2°-Wを示す。長径1.21m、短径0.89m、深さ0.3m。

〔遺物〕 遺物は白磁碗（545）、土師質皿（543）、瓦器塊（544）である。

集石 (S U)

S U 1 (第149~156図、図版37・112~114)

I-J-e-i-4~5付近に位置する。平面形は河原石の集石が帶状を呈し、等高線にそってはしる。集石は東側と西側との大区画に分けることができる。東側は長さ6.15m、幅1.2m。西側は西端で広がる。長さ18.8m、最大幅3mである。これらの大区画をさらに石の構成の観察によって任意に小区画に分けて説明する。これらは、墳墓の可能性が高い。

S U 1-1 (東側大区画)

〔遺構〕 I-J-e-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。長辺1m、短辺0.9m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は土師質杯（555）、瓦器小皿（556、558、559、562）、瓦器塊（564、565）、須恵質鉢（582）、須恵質壺（588）が出土している。

S U 1-2 (東側大区画)

〔遺構〕 I-J-e-4付近に位置する。平面形は区画の東側が水道管によって削平されているが方形の区画と思われる。短辺0.7m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は鉄製品（587）が出土している。

S U 1-3 (東側大区画)

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（512~522）、土師質大皿（523）、小型瓦器塊（524~529）、鉄釘（530~541）が出土している。

S R 7 (第147図、図版36・111)

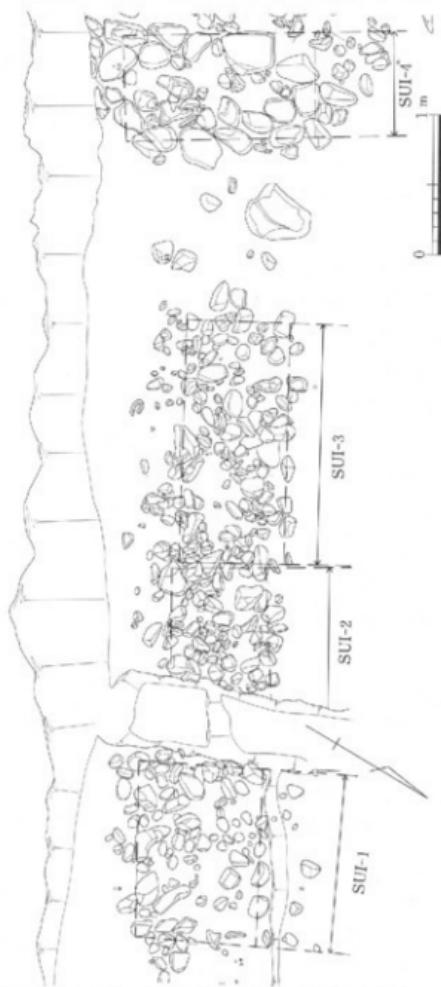
〔遺構〕 I-H-n~o-8に位置し、S R 6の西側1.2mに並列する。平面形は



第149図 SU 1 遺構実測図 (1/150)

【遺構】 I-J-e-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。東側以外は石の流失が激しい。長辺1.1m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

【遺物】 遺物は瓦器小皿(560)、瓦器塊(566)、



第150図 SU 1-1~SU 1-4 遺構実測図 (1/40)

土師質羽釜（576）が出土している。

S U 1 - 4 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-f-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画は南側の調査区外にのびるものと思われる。検出長1.7m、検出幅1m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は土師質土器高台部（554）、瓦質摺鉢（581）が出土している。

S U 1 - 5 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-f-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画内は拳大の石が充填されている。長辺1.7m、短辺1.6m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（550）、瓦器小皿（557）、瓦質摺鉢（584）、須恵質甕（589）が出土している。

S U 1 - 6 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-f-4付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。区画内は拳大の石が充填されている。検出長1.3m、検出幅1m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊（561）が出土している。

S U 1 - 7 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-f-4付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。区画内は10~15cmの石が充填されている。長辺0.9m、短辺0.6m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊（563）、瓦質摺鉢（583）が出土している。

S U 1 - 8 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-g-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈する。区画の右は他の区画にくらべ大きい。下部にも人頭大の石が入っていた。長辺0.8m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S U 1 - 9 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-g-4付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。北西と西南の区画は明確でない。区画内には拳大の石が充填されている。長辺1m、短辺0.6m。下部には施設は認められないが瓦質羽釜が意識的に破壊された状態で出土している。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（547・548）、瓦質羽釜（577・580）が出土している。

S U 1 - 10 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-g-4付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は確認できない。長辺1m、短辺0.8m。下部には施設は認められない。

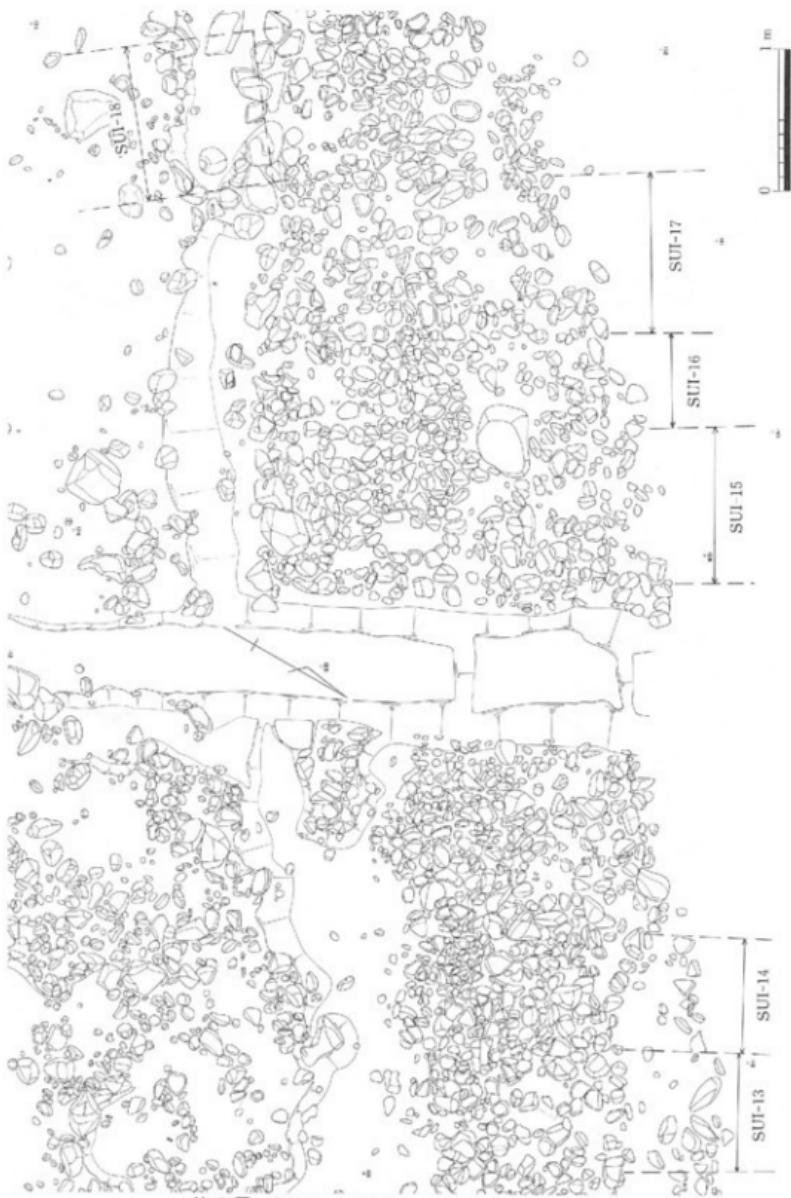
〔遺物〕 遺物は出土していない。

S U 1 - 11 (西側大区画)

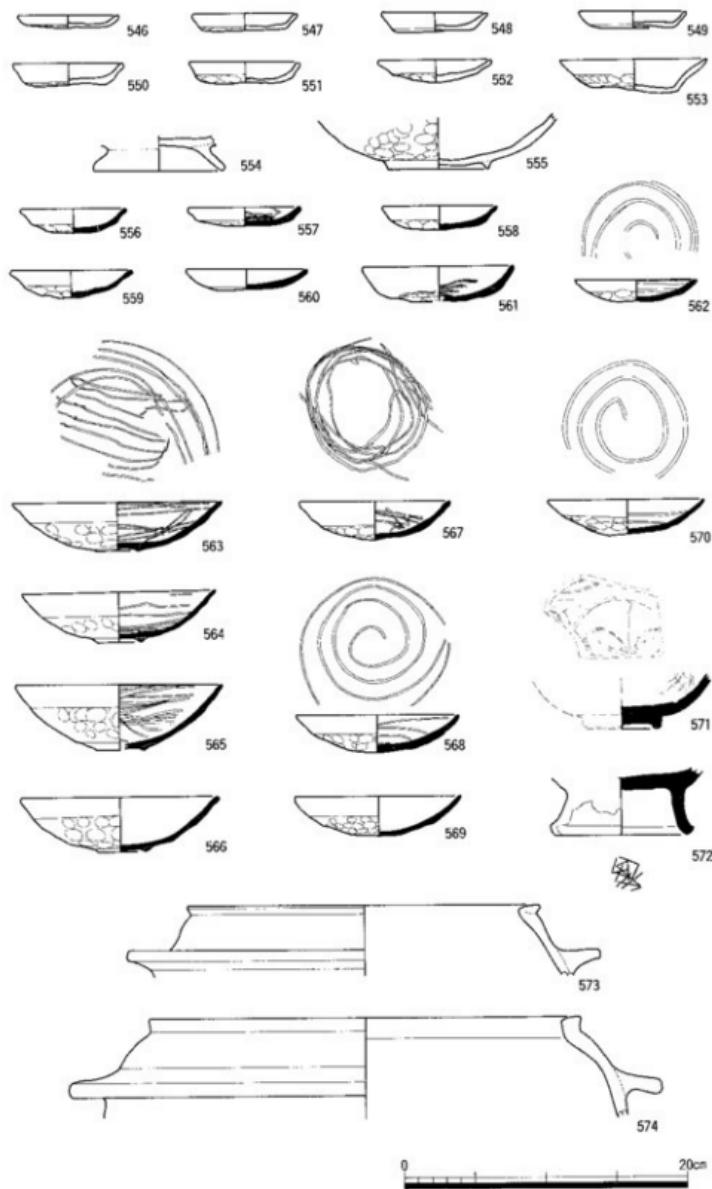
〔遺構〕 I-J-g-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区



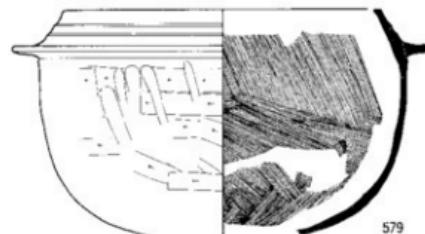
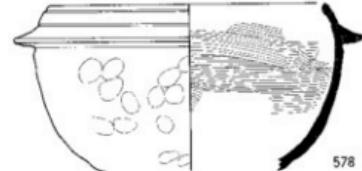
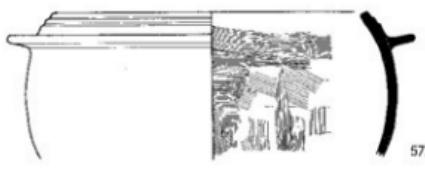
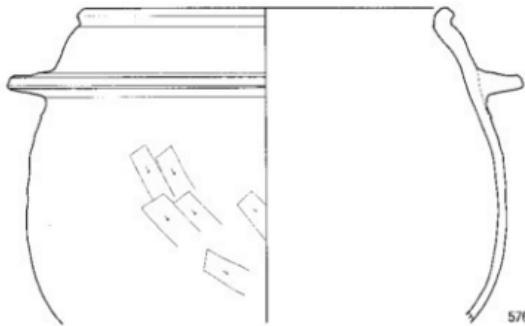
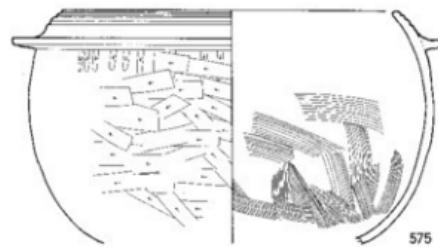
第151図 S U 1 - 5 ~ S U 1 - 12遺構実測図 (1/40)



第152図 SU 1-13~SU 1-18遺構実測図 (1/40)

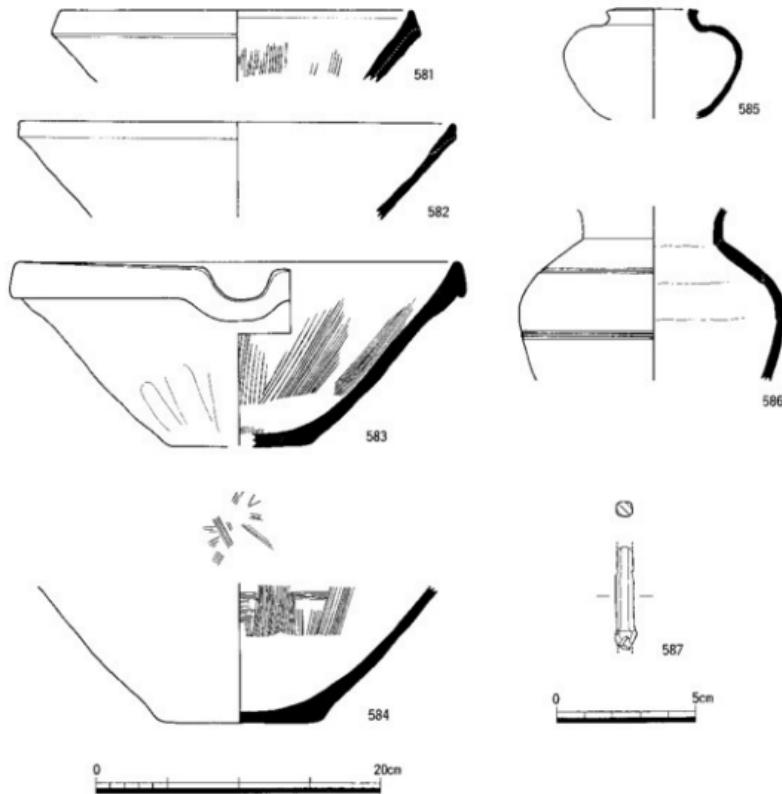


第153図 S U 1 遺物実測図 (1)



20cm
0

第154図 S U 1 遺物実測図 (2)



第155図 S U 1 遺物実測図 (3)

画構成石は確認できない。長辺0.95m、短辺0.85m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S U 1-12 (西側大区画)

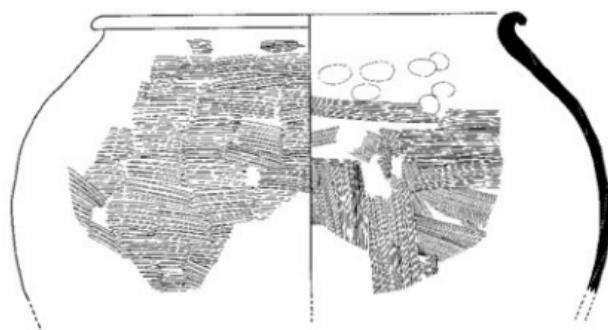
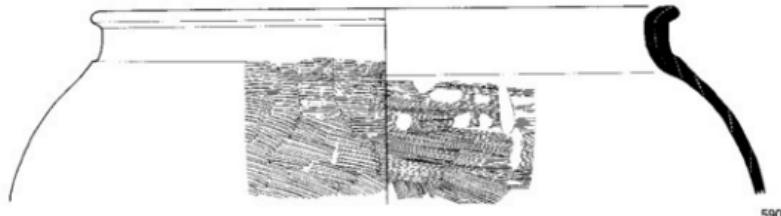
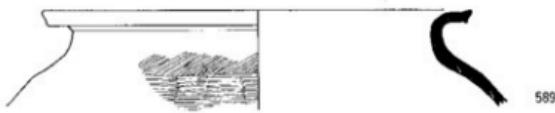
〔遺構〕 I-J-g-4付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は一部流出がある。長辺0.75m、短辺0.45m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は出土していない。

S U 1-13 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-h-4付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は確認できない。一辺0.8m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は出土していない。



第156図 S U 1 遺物実測図 (4)

S U 1-14 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-h-5付近に位置する。平面形は方形の区画を呈すると思われるが明確な区画構成石は少ない。長辺0.8m、短辺0.7m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(552)が出土している。

S U 1-15 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-h-5付近に位置する。平面形は長方形の区画を呈する。北西隅には50×70cmの右が置かれている。長辺1.4m、短辺1.1m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(546・551)、土師質皿(553)、瓦器塊(568~570)、土師質羽釜(575)、瓦質羽釜(579)、瓦質壺(585)、瓦質甕(590・591)が出土している。

S U 1-16 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-h-i-5付近に位置する。区画構成石は明確でないが、南北方向の右の並び方から長辺1.1m、短辺0.7mと考えられる。

〔遺物〕 遺物は上師質小皿(549)、土師質羽釜(573)、瓦質羽釜(578)、備前壺(586)が出土している。

S U 1-17 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-i-5付近に位置する。方形の区画を呈する。区画構成石は北側は流失している。一辺1mと考えられる。

〔遺物〕 遺物は青磁碗(571)、瀬戸施釉陶器脚部(572)が出土している。

S U 1-18 (西側大区画)

〔遺構〕 I-J-i-6付近に位置する。長方形の区画を呈する。長辺1.2m、短辺0.6m。下部からは施設等は検出されなかった。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(567)、土師質羽釜(574)が出土している。

S U 6~10

いずれも、遺構面上層から検出された集石遺構である。東西に長方形に伸び、南北に並ぶ。

S U 6 (第157・161図、図版38)

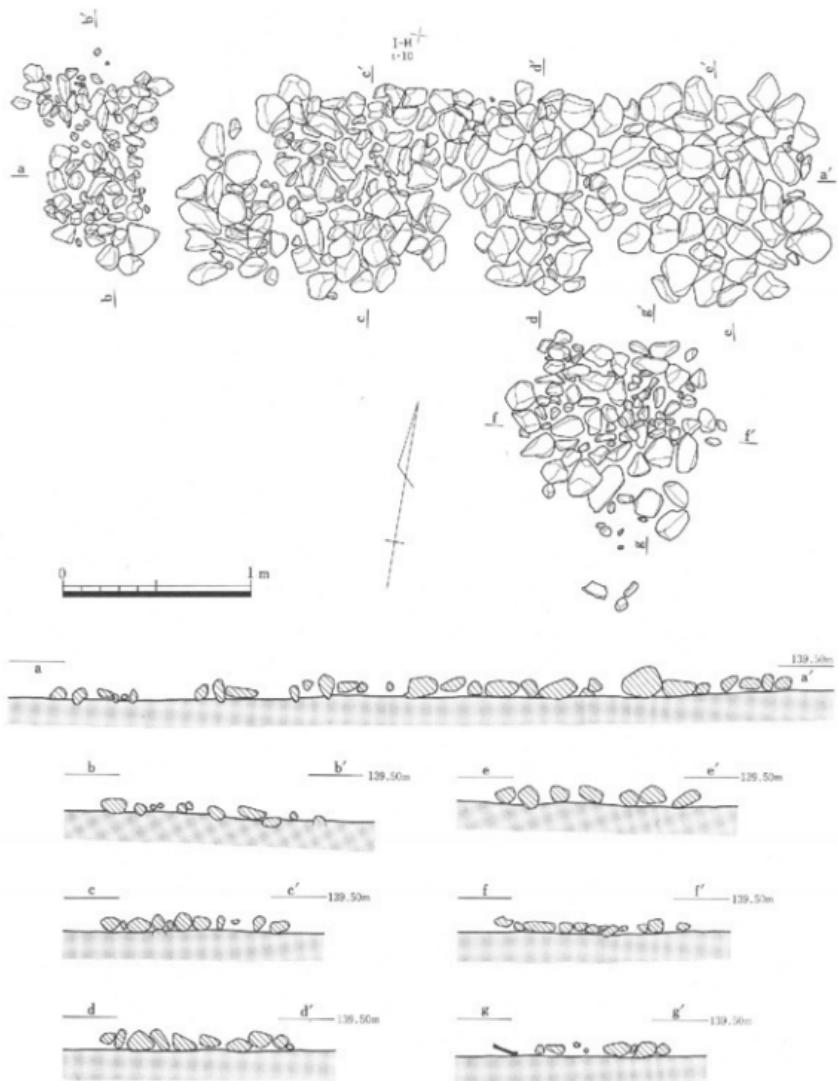
S U 6-1

〔遺構〕 I-H-s-t-10付近に位置する。平面形は梢円形を呈する。石は一重で平らに敷かれている。南側にはやや大きめの石(15×20cm)がある。長軸1.17m、短軸1.05m。下部には施設は認められない。

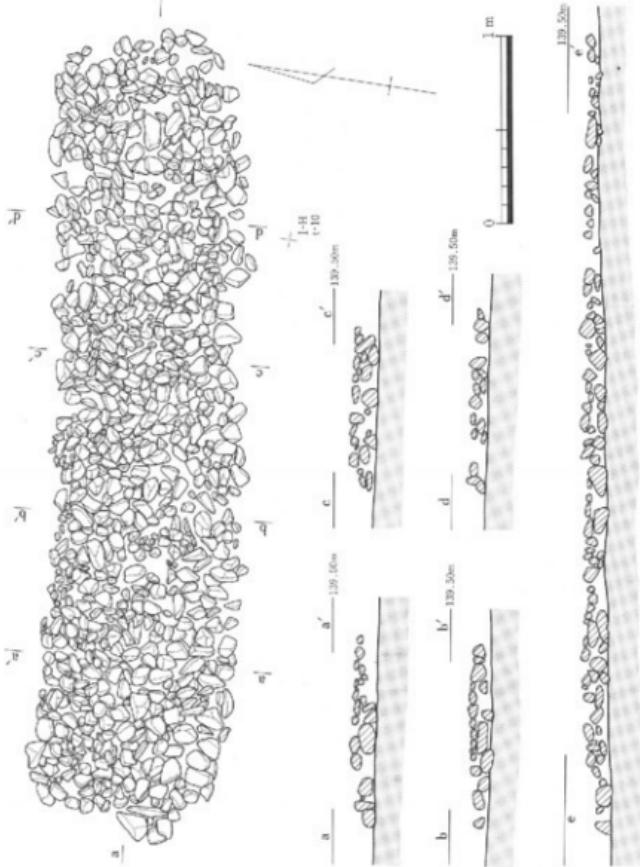
〔遺物〕 遺物は陶器摺鉢(592)が出土している。

S U 6-2

〔遺構〕 I-H-s-t-10付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重でやや大きめの石(15×20cm)が、ほぼ平らに敷かれている。この区画は更に5区画に細分できる可能性がある。長軸4.41m、短軸1.26m。下部には施設は認められない。



第157図 SU 6 造構実測図 (1/30)



第158図 S U 7 遺構実測図 (1/30)

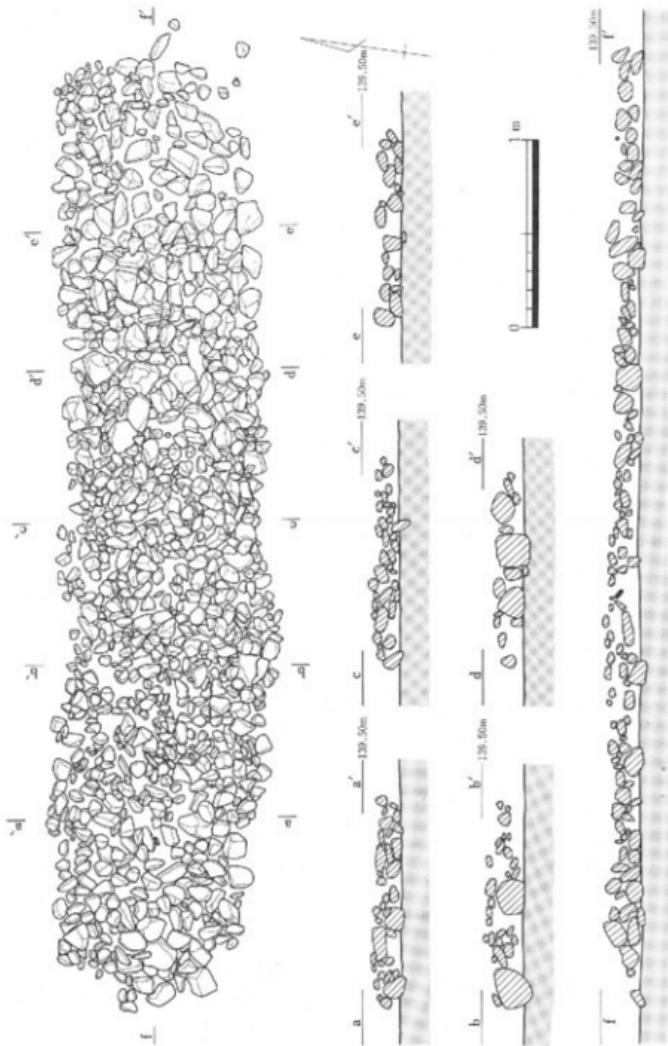
〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

〔遺構〕 I - H - s ~ t - 10付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重でやや大きめの石 ($15 \times 20\text{cm}$) が、ほぼ平らに敷かれている。この区画は更に5区画に細分できる可能性がある。長軸4.41m、短軸1.26m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S U 7 (第158・161図、図版38)

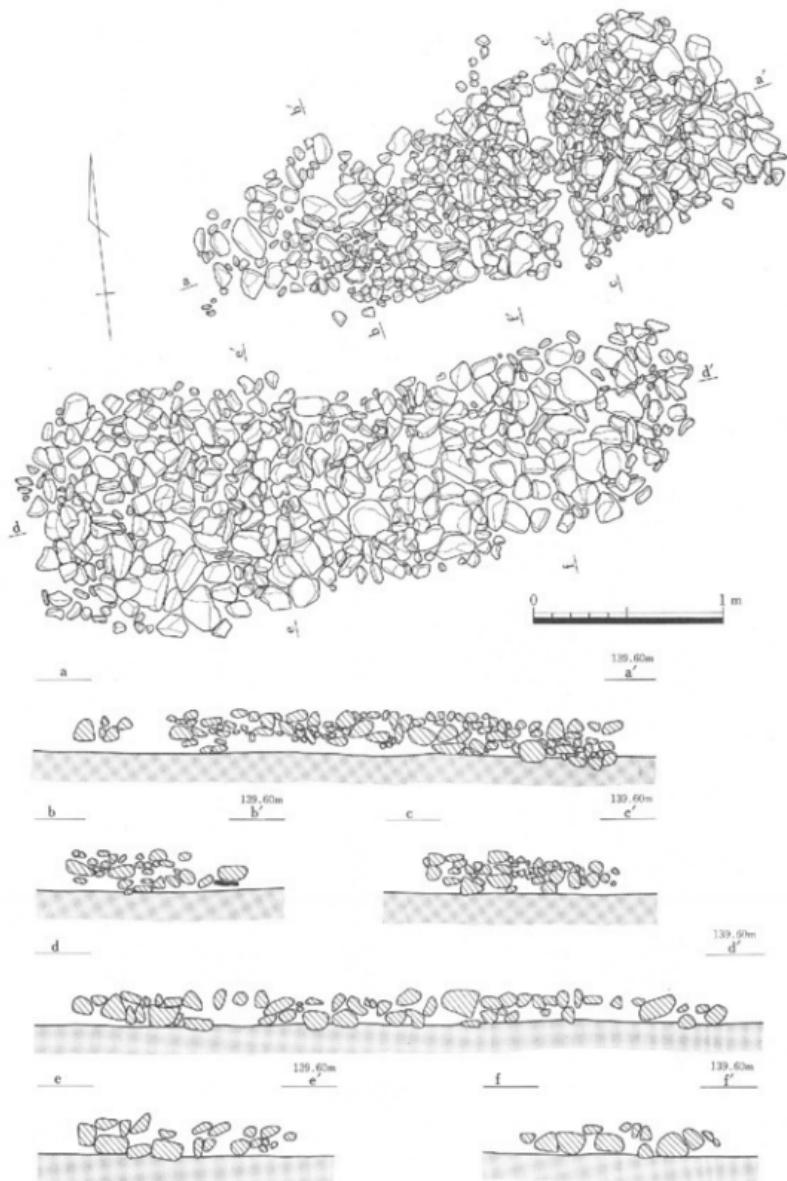
〔遺構〕 I - H - s ~ t - 9付近に位置し、S U 6 の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大 $10 \times 10\text{cm}$ の石が、ほぼ平らに敷かれている。この区画



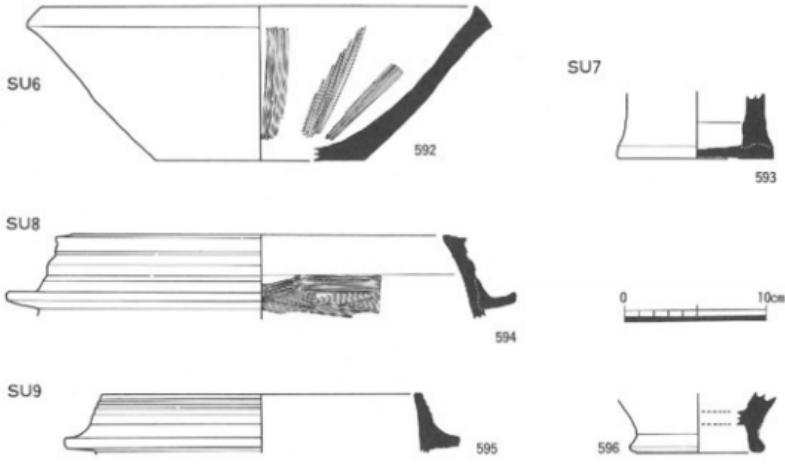
第159図 S.U.8 遺構実測図 (1/30)

も更に小区画に細分できる可能性がある。長幅1.13m、短軸1.08m。下部には施設は認められない。

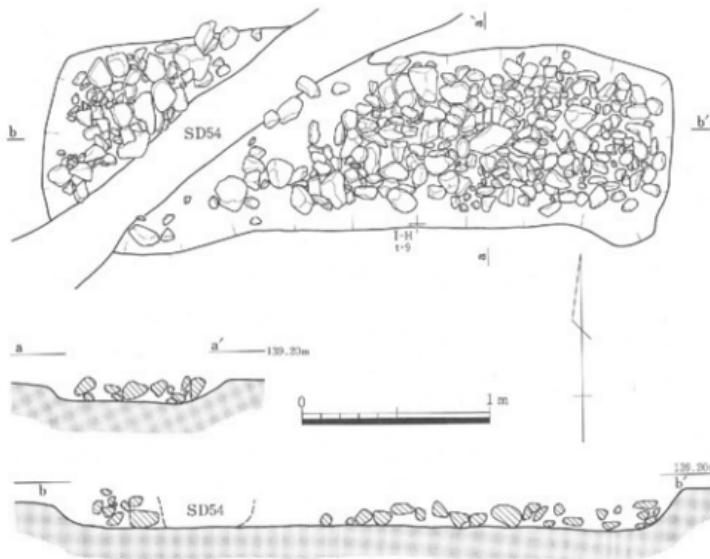
〔遺物〕 遺物は瀬戸瓶子底部(593)が出土している。



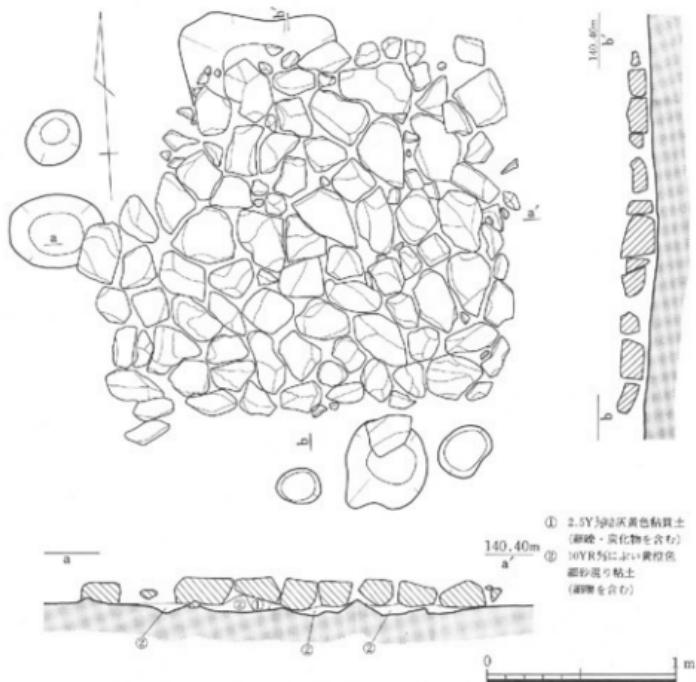
第160図 S U 9 造構実測図 (1/30)



第161図 S U 6 + S U 7 + S U 8 + S U 9 遺物実測図



第162図 S U 10 遺構実測図 (1/30)



第163図 SU 11造構実測図 (1/30)

S U 8 (第159・161図、図版38)

〔造構〕 I-H-s~t-9付近に位置し、SU 7の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大10×10cmの石が、ほぼ平らに敷かれている。東、西端は石がやや大きく石の集石もやや粗である。長軸4.81m、短軸1.11m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は瓦質羽釜(594)が出土している。

S U 9 (第161・161図、図版38)

S U 9-1

〔造構〕 I-H-s~t-8~9付近に位置し、SU 8の北側に並列する。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大15×20cmの石が、ほぼ平らに敷かれている。SU 1~10の中では集石の状態は比較的やや粗である。長軸3.51m、短軸1.34m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S U 9 - 2

〔遺構〕 I - H - s ~ t - 9 付近に位置し、S U 8 の北側に並列する。平面形は長楕円形を呈する。主軸はやや南に降る。石は一重で最大 10×10 cmの石が、ほぼ平らに敷かれている。S U 1 ~ 10の中では比較的やや粗である。この集石は土壌状を呈している。長軸3.28m、短軸1.88m、深さ0.16m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 遺物は瀬戸灰釉陶器高台部（596）、瓦質羽釜（595）が出土している。

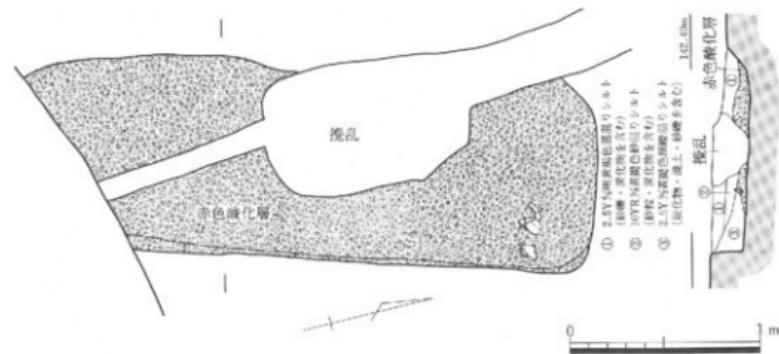
S U 10 (第162図・図版39)

〔遺構〕 I - H - s ~ t - 8 付近に位置し、S U 8 の北側に並列する。S U 9 と暗渠によって一部削平を受けている。平面形は長方形を呈する。主軸はやや南に降る。石は集石で薄い。最大 15×10 cmの石が、ほぼ平らに敷かれている。西側は集石の状態がやや粗である。この集石も土壌状を呈している。長軸3.25m、短軸1.12m、深さ0.16m。下部には施設は認められない。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S U 11 (第163図・図版39)

〔遺構〕 I - H - m - 12 付近に位置する。平面形は方形を呈するが北西隅の部分は一部欠損している。主軸は南北を示す。石上面が平らなやや角ばった最大 20×15 cmものを選び敷かれており、上面は平らな状態に集石されている。一边2.23m、高さ0.25m。下部には施設は認められない。



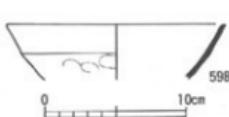
第164図 SY 4 遺構実測図 (1/30)

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

窯状遺構 (SY)

S Y 4 (第164・165図・図版40)

〔遺構〕 I - G - s - 20 付近に位置する。平面形は方形を呈するが南側の部分と中央部は暗渠によって削平されている。窯全体部は赤色を帶た酸化層が残存し、窯内部床面は瓦器塊が残



第165図 SY 4 遺物実測図

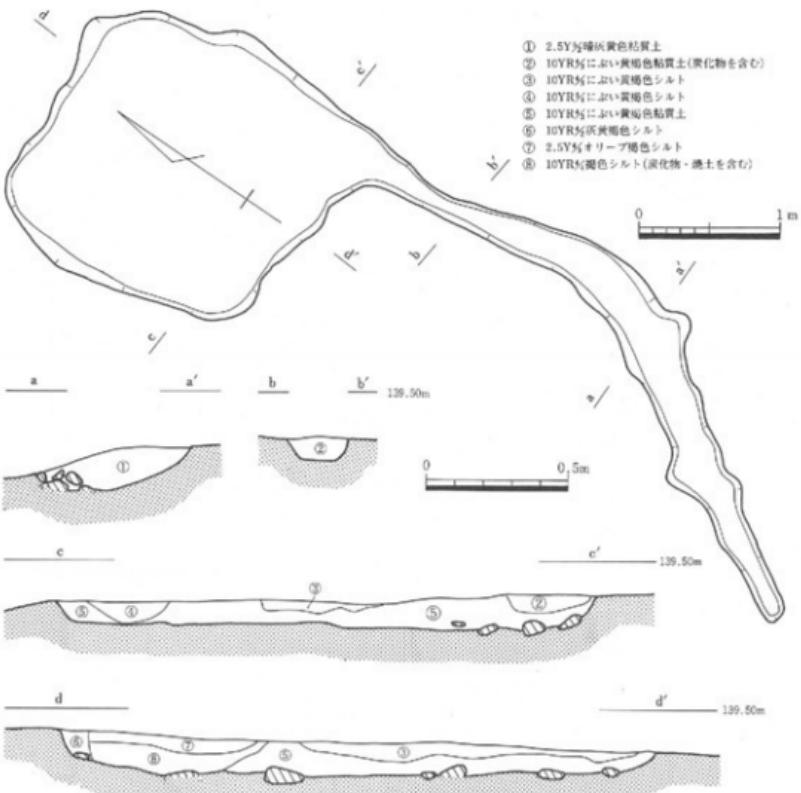
存していた。主軸方向N-18°-E、残存長3.1m、残存幅1.15m、壁の残存高0.17m、酸化層の層厚0.02~0.07m。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(597・598)が出土している。

S Y10 (第166図、図版40)

〔遺構〕 I-H-r-10~11付近に位置する。平面形が不定方形を呈する北側部分と溝状遺構がセットとなっている。窓体と考えられる北側部分の西側壁は一部残存し、赤色を帯た酸化層が残存していた。埋土中には焼土、炭化物が含まれている。この南隅から検出長4.5mの溝がはしつている。窓体部長軸2.1m、短軸1.5m、壁の残存高0.17m、酸化層の層厚0.1m。溝の幅0.5m、深さ0.2m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。



第166図 S Y10遺構実測図 平面(1/40)・断面(1/20)

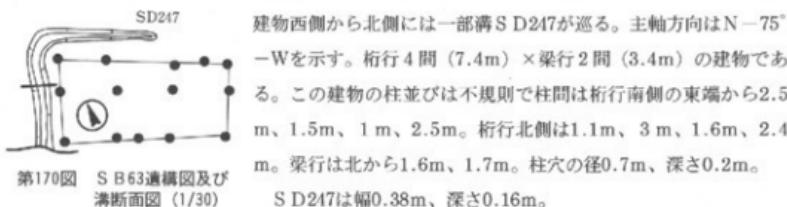
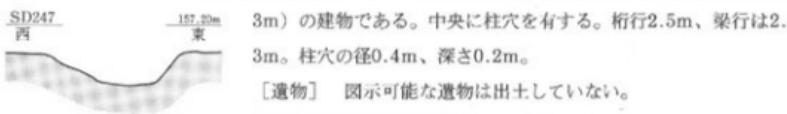
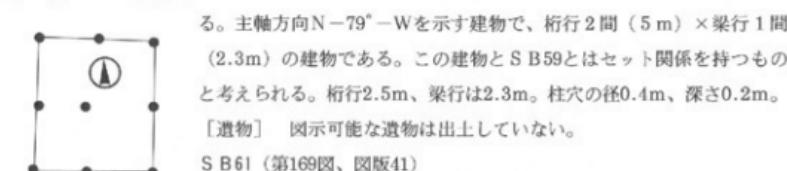
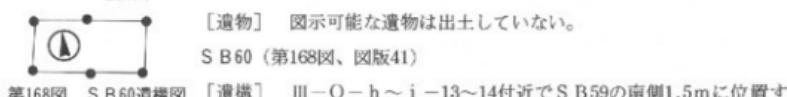
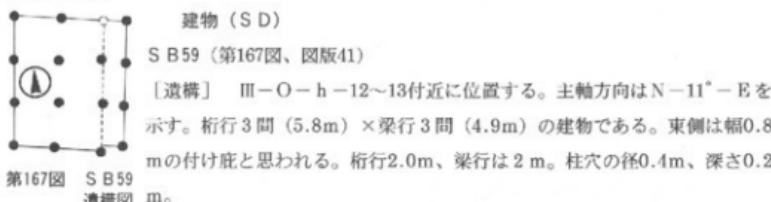
第5節 3地区

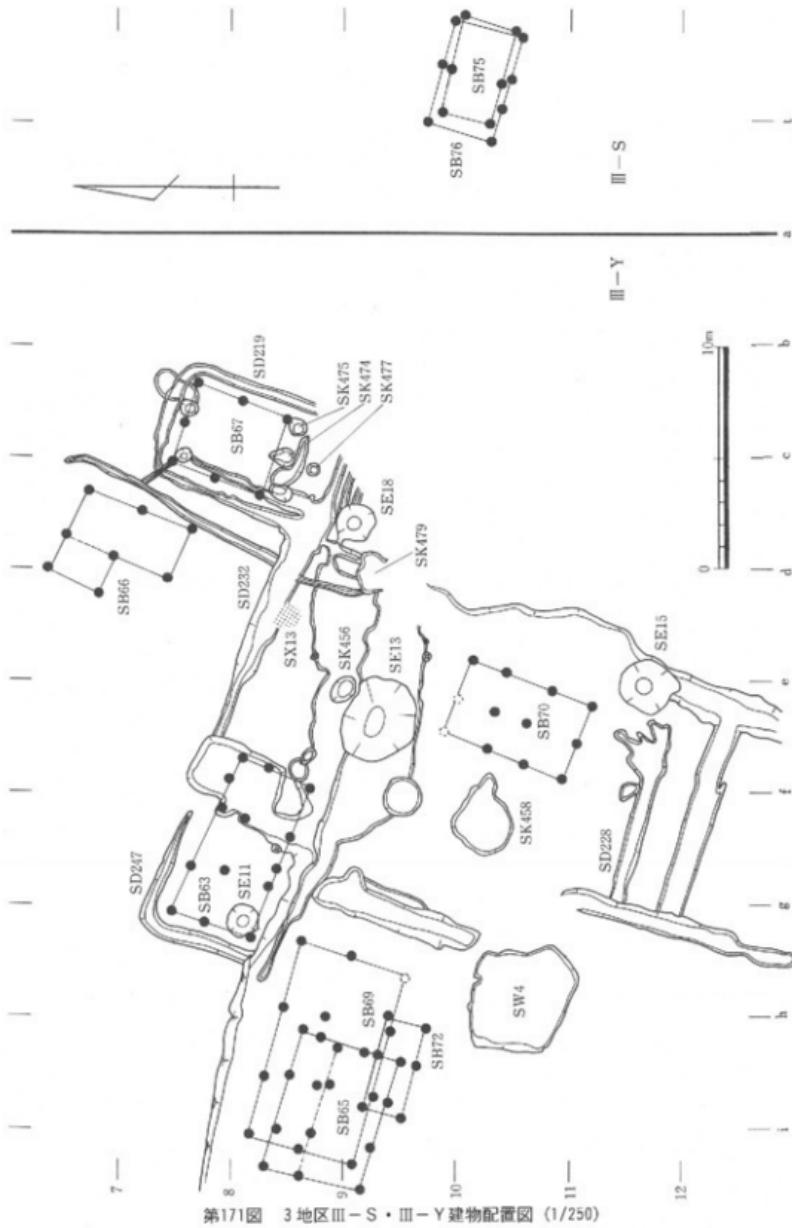
1. 概略（付図9）

3地区と6地区は中位段丘の上段に位置する。3地区では中世と近世に属する遺構が集中している。特に、近世は3地区の北側から6地区に渡って分布している。

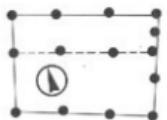
検出された遺構は建物、溝、土壙、井戸、集石などが検出されている。

2. 遺構、遺物





第171図 3地区III-S・III-Y建物配置図 (1/250)

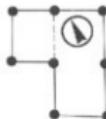


〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S B 65 (第172図、図版42)

〔遺構〕 III-T-h~j-8~9付近でS B 69・72と重複する。主軸方向N-70°-Wを示す建物で、桁行3間(7.2m)×梁行2間(4.8m)の第172図 S B 65遺構図建物である。東側梁行は4間である。北側は幅2mの庇と考えられる。桁行1.7m、梁行は2.8m。東側の梁行は1.5m、1.5m、1m、0.8m。柱穴の径0.4m、深さ0.2m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。



S B 66 (第173図)

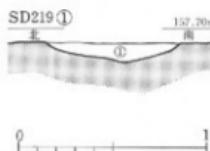
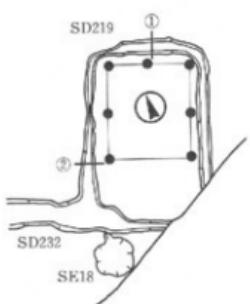
〔遺構〕 III-T-c~d-6~7付近に位置する。主軸方向N-20°-Eを示し、桁行2間(5m)×梁行2間(4m)の建物である。西側隅の柱穴は削平されているようである。柱間は桁行2.5m、梁行は2m。柱穴の径0.3m、深さ0.2m。

第173図 S B 66 遺構図 さ0.2m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

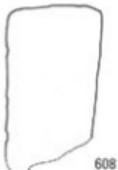
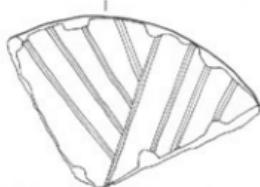
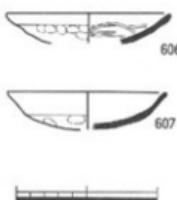
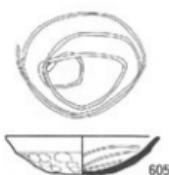
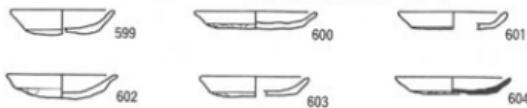
S B 67 (第174・175、図版43・114・115)

〔遺構〕 III-T-b~c-7~8付近でS B 66の東2.5mに位置する。主軸方向N-20°-Eを示し、桁行2間(4.2m)×梁行2間(3.4m)の建物である。建物の周囲にはS D 219が巡る。柱間は桁行2.1m、梁行は1.7m。柱穴の径0.6m、深さ0.5m。



1 m
① 5YR 4/6褐色細砂まさじ粘土
② 7.5YR 4/6褐色細砂混り粘土(炭化物を含む)
③ 7.5YR 4/6褐色粘土まさじ粗砂

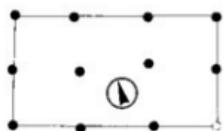
第174図 S B 67遺構図及び溝断面図(1/30)



第175図 S B 67に伴う S D 219遺物実測図

S D219は建物の外側0.7mで周囲を巡り、南西隅でS D232と合流する。S D232は建物に対し直角に西に5.7mのびる。S D219は最大上端幅0.7m、下端幅0.6m、深さ0.15m。

〔遺物〕 建物からは図示可能な遺物は出土しなかったがS D219からは土師質小皿(599~603)、瓦器皿(604)、瓦器塊(605~607)、石臼(608)が出土している。

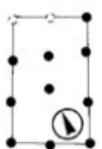


第176図 S B69遺構図

S B69(第176図、図版42)

〔遺構〕 III-T-g~i-8~9付近でS B65・72と重複する。主軸方向はN-75°-Wを示し、桁行3間(9m)×梁行2間(5m)の建物である。南東隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行3m、梁行は2.5m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。



S B70(第177図、図版43)

〔遺構〕 III-T-e-10付近に位置する。主軸方向はN-20°-Eを示し、桁行3間(5.7m)×梁行2間(3.6m)の建物である。北西の柱穴は削平されている。柱間は桁行1.9m、梁行は1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

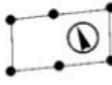
第177図 S B70
遺構図 S B72(第178図、図版42)



第178図 S B72
遺構図

〔遺構〕 III-T-g~i-8~9付近でS B65・69と重複する。主軸方向はN-75°-Wを示し、桁行2間(4.2m)×梁行1間(1.8m)の建物である。柱間は桁行2.1m、梁行は1.8m。柱穴の径0.3m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。



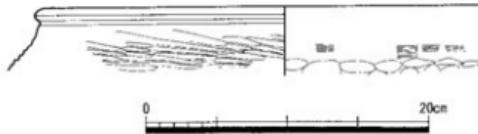
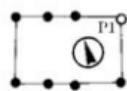
第179図 S B75
遺構図

〔遺構〕 III-S-s-10付近でS B76と重複する。主軸方向はN-75°-Wを示し、桁行2間(4.5m)×梁行1間(2.4m)の建物である。柱間は桁行2.3m、梁行は2.4m。柱穴の径0.2m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

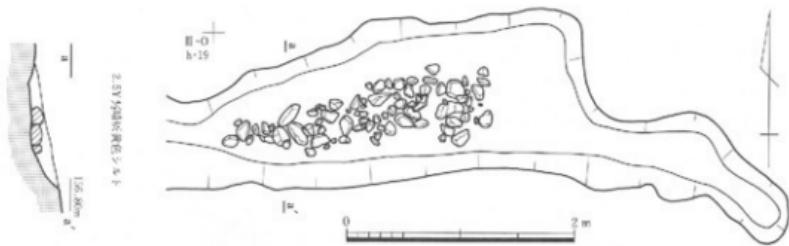
S B76(第180図)

〔遺構〕 III-S-s-10付近でS B75と重複する。主軸方向はN-75°-Wを示し、桁行3間(5m)×梁行1間(3m)の建物である。柱間は桁行2.5m、梁行は3m。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

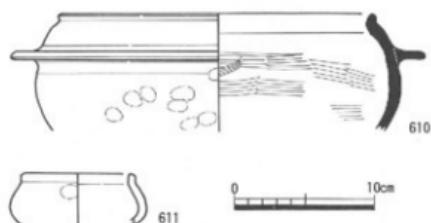


609

第180図 S B76遺構図及び遺物実測図



第181図 S D 209遺構実測図 (1/50)



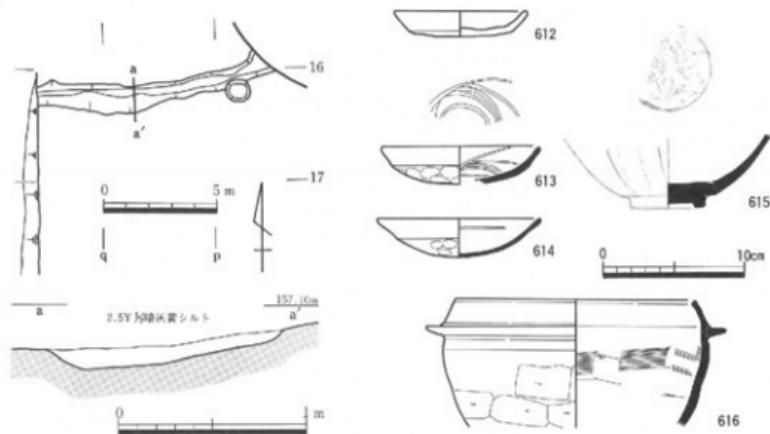
第182図 S D 209遺物実測図

下端幅1.1m、深さ0.2m。

[遺物] 遺物は土師質壺（611）と瓦質の羽釜（610）が出土している。

S D 213 (第183図、図版114・115)

[遺構] III-N-o～q-16付近に位置し、東西に走る溝である。西側は削平され、東側は調



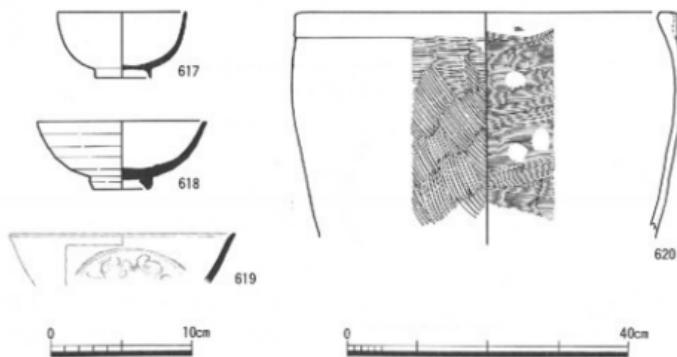
第183図 S D 213遺構実測図 平面 (1/250)・断面 (1/30) 及び遺物実測図

査区外にのびる。検出長10.3m、最大上端幅1.35m、下端幅0.45m、深さ0.17m。

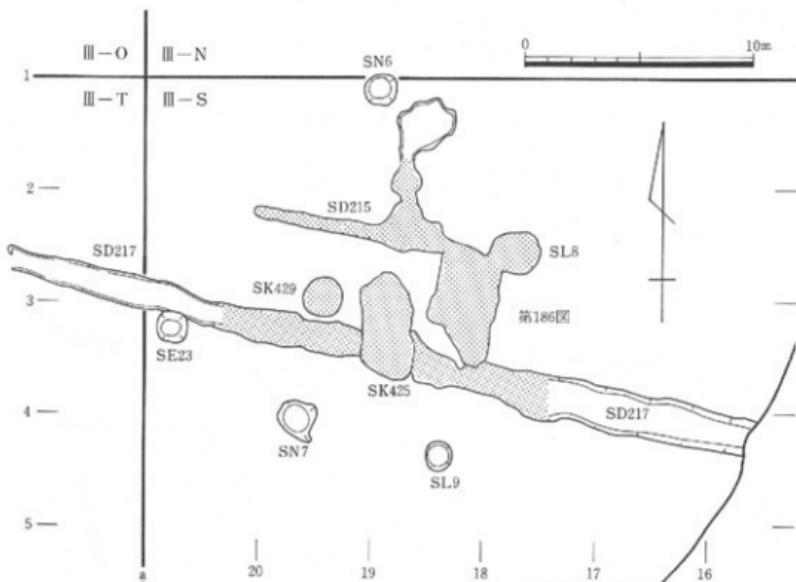
〔遺物〕 遺物は土師質小皿（612）と瓦器皿（613・614）、瓦質羽釜（616）、青磁碗（615）が出土している。

S D215（第184～186図、図版44・114）

〔遺構〕 III-S-q～s-1～3付近に位置し、東西に走り、東端で南側に屈曲する。満底部



第184図 S D215遺物実測図



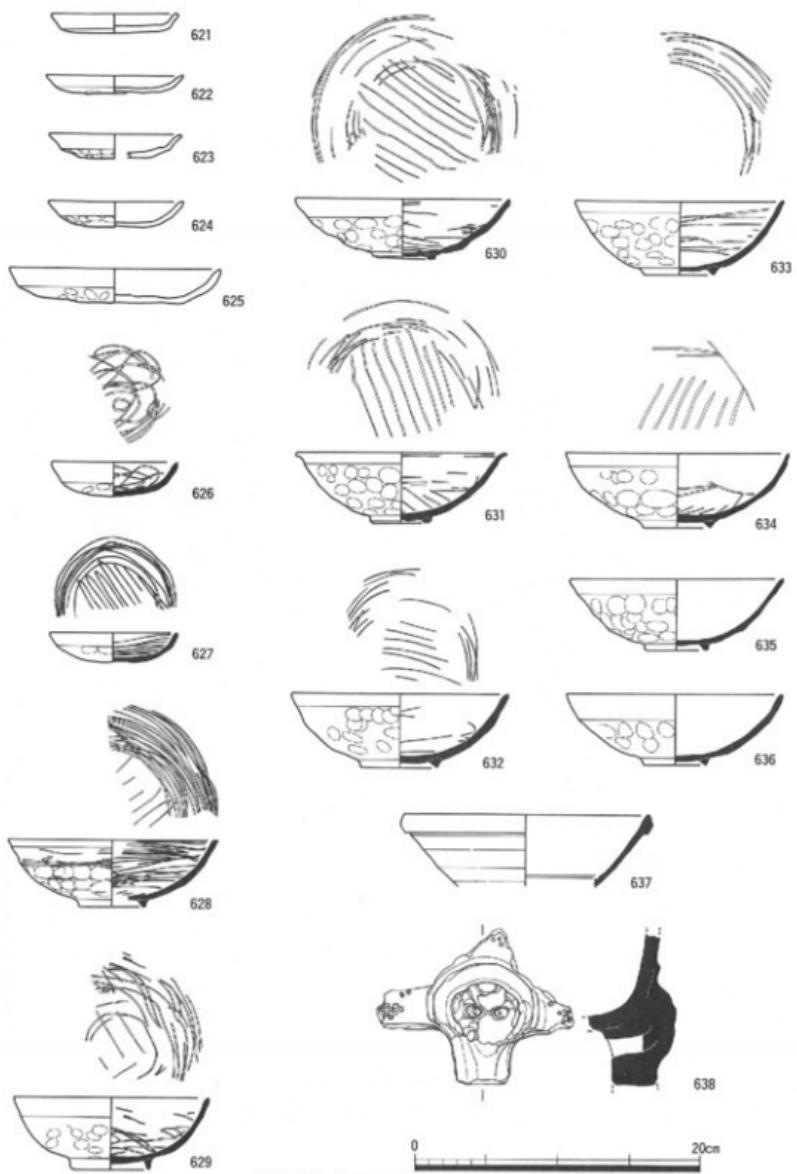
第185図 S D215・S D217遺構配置図 (1/250)



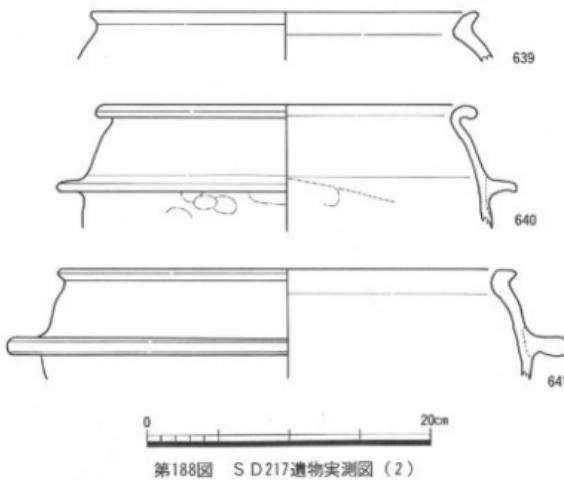
第186図 S D215・S D217遺構実測図 平面(1/80)・断面(1/40)

の南側には最大10×10cmの河原石の集石がある。検出長27.2m、最大上端幅1.5m、下端幅1.1m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は土師質壺(620)、施釉陶器(617・618)、青磁碗(619)が出土している。



第187図 SD 217遺物実測図 (1)



第188図 S D 217遺物実測図(2)

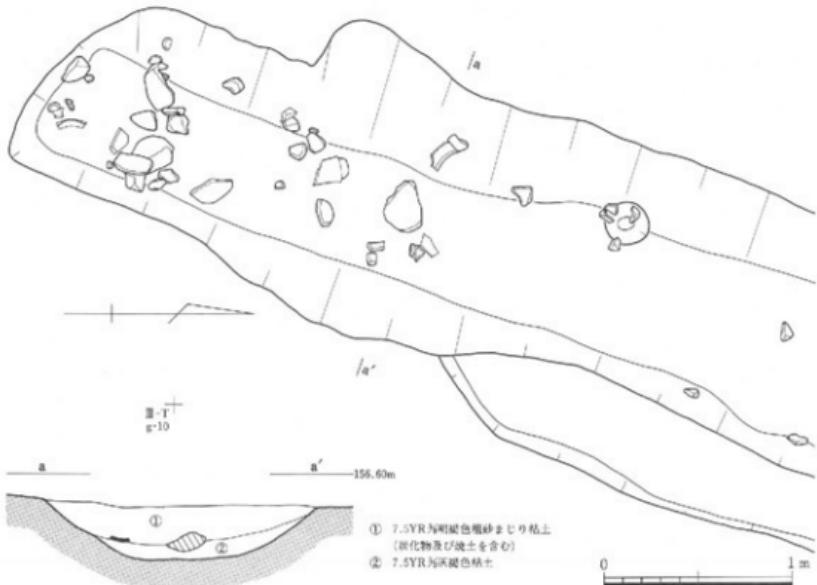
S D 216

【遺構】 III-O-b-18~19付近に位置し、南北に走る溝である。北側は削平されている。溝底部の南側には最大10×10cmの河原石の集石がある。検出長6.31m、最大上端幅2.35m、下端幅0.7m、深さ0.6m。

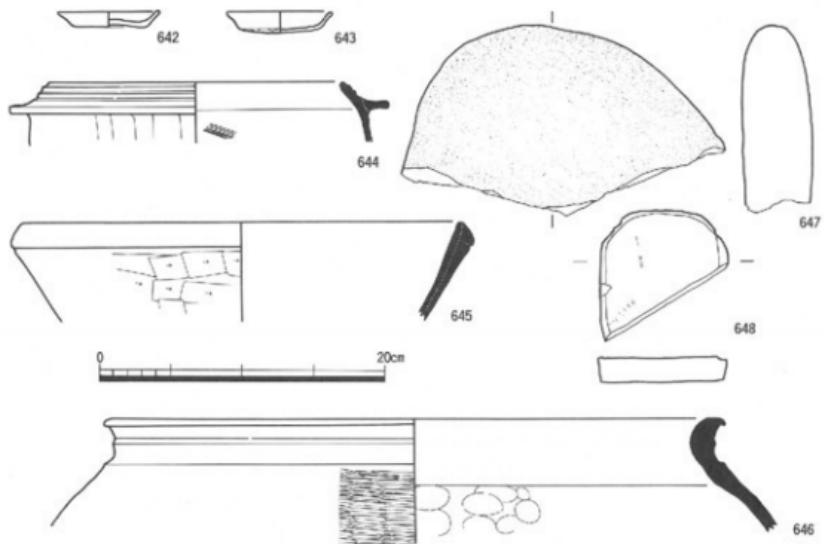
【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。

S D 217 (第185~188図、図版44・115・116)

【遺構】 III-S~T-o-a-2~4付近に位置し、約20度北に振って東西に走る直線的な溝である。東側は調査区外に伸びる。s-3付近とa-2付近で遺物が出土している。検出長33.5m



第189図 S D 222遺構実測図(1/30)



第190図 S D222遺物実測図

m、最大上端幅2.25m、下端幅1.4m、深さ0.1m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（621～624）、土師質大皿（625）、土師質羽釜（639～641）、瓦器皿（626・627）、瓦器塊（628～636）、白磁碗（637）、瓦質獸足（638）が出土している。

S D222 (第189・190図、図版43・116)

〔遺構〕 III-T-f～g-10付近に位置し、約20度東に降って南北に直線的に走る溝である。南端は削平されているがSW4に接続する可能性がある。検出長7.6m、上端幅2m、下端幅1.2m、深さ0.32m。

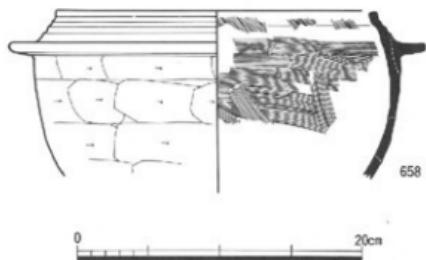
〔遺物〕 遺物は土師質小皿（642・643）と瓦質羽釜（644）、瓦質摺鉢（645）、瓦質甕（646）、砂岩製の自然石の砥石（647）、風字硯を転用した砥石（648）が出土している。

S D226 (第191・192図、図版45・117)

〔遺構〕 III-T-o-14付近に位置し、南北に直



第191図 S D226遺構実測図 (1/30)



第192図 SD 226遺物実測図

線的に走る溝である。南端長方形の土壤状に広がる。この土壤状の部分から遺物が出土している。検出長6.5m、上端幅1m、下端幅0.6m、深さ0.1m。

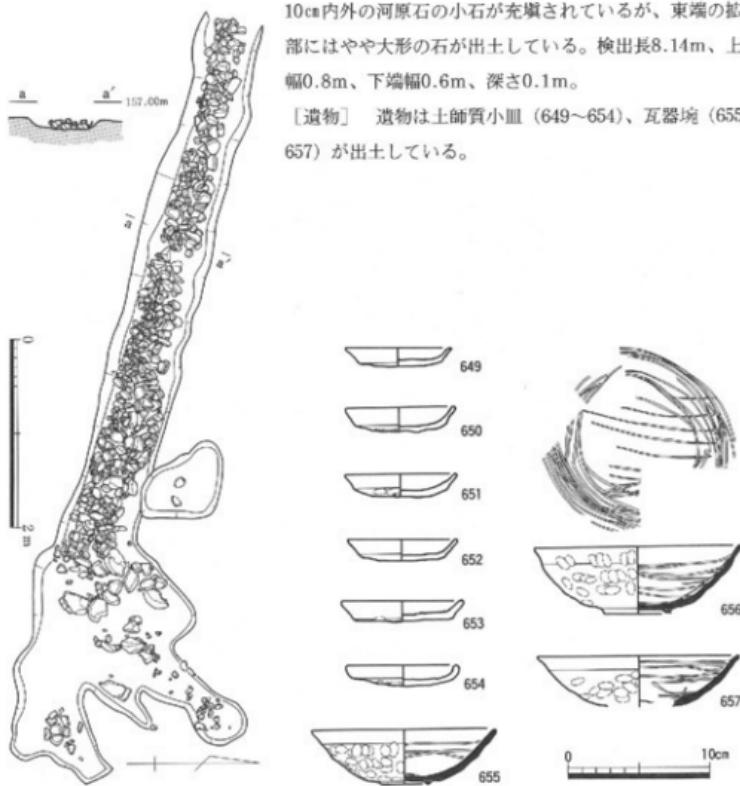
【遺物】 遺物は瓦質羽釜（658）が出土している。

S D 228 (第193図、図版43・116・117)

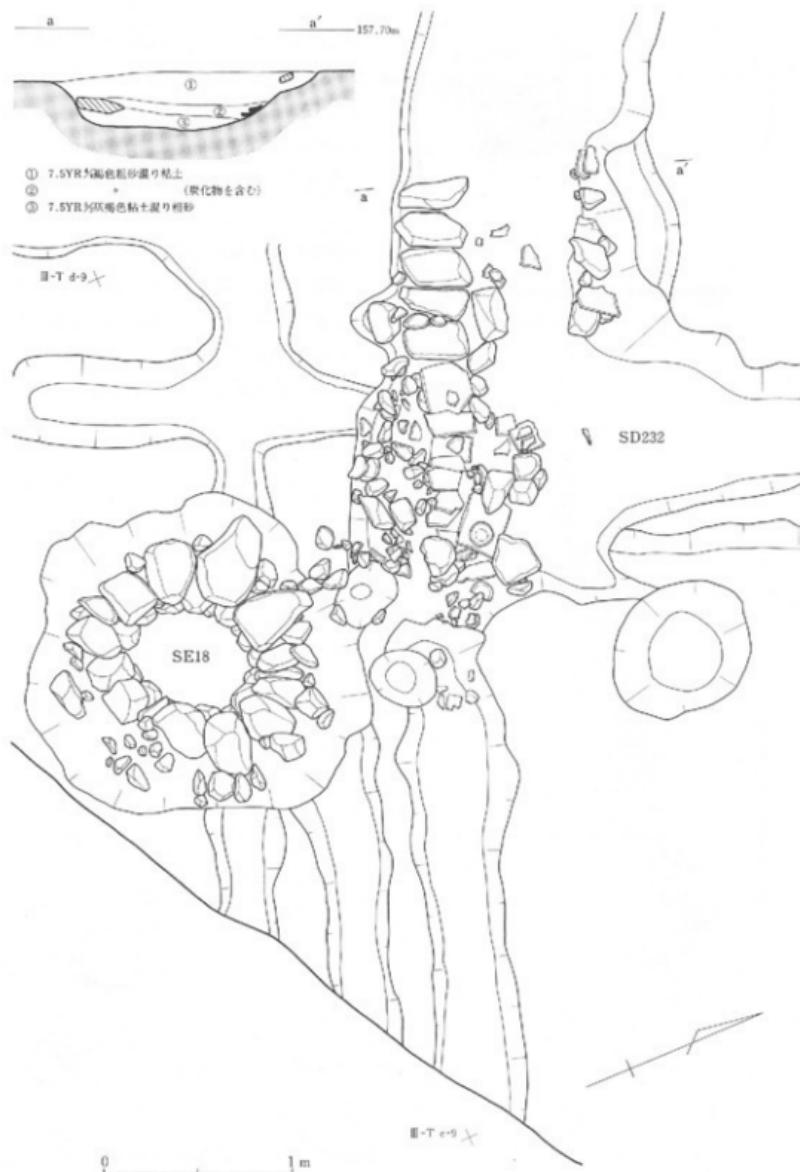
【遺構】 III-T-e~f-11付近に位置し、約75度西に振って直線的に走る溝である。

東端が大きく広がり端部は明瞭でない。溝内部に最大10cm内外の河原石の小石が充填されているが、東端の拡張部にはやや大形の石が出土している。検出長8.14m、上端幅0.8m、下端幅0.6m、深さ0.1m。

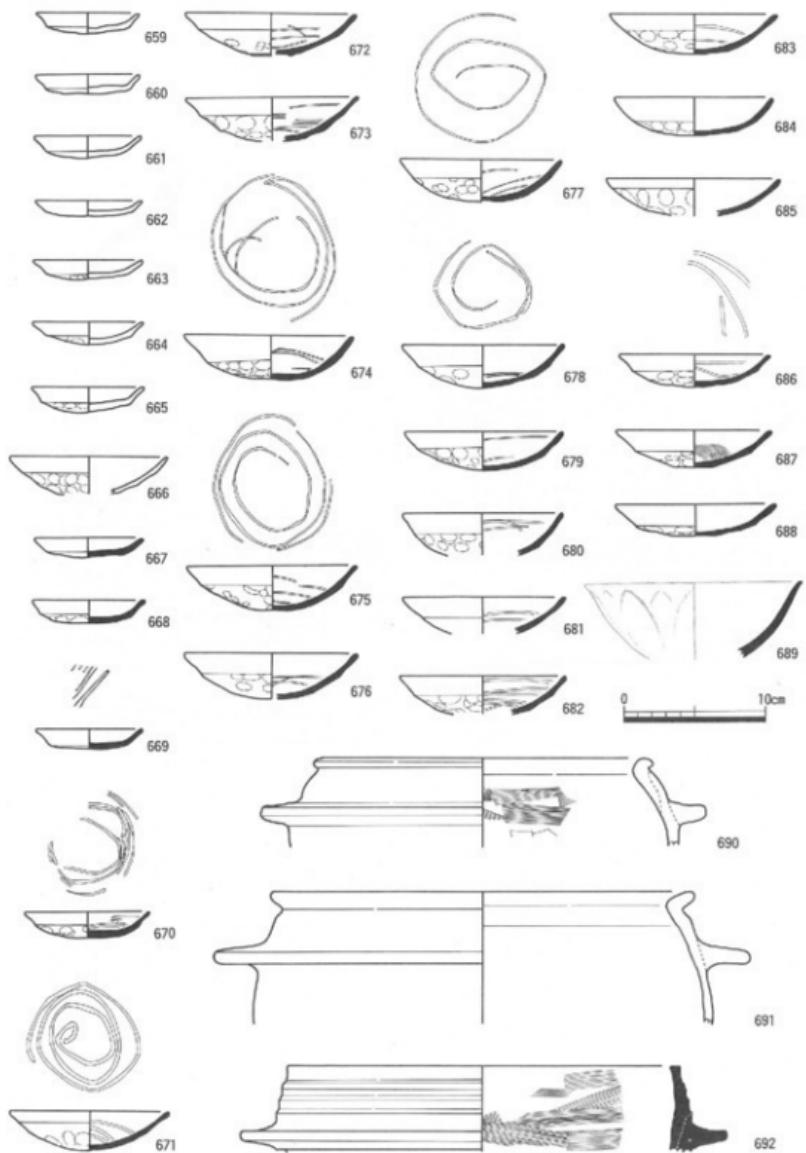
【遺物】 遺物は土師質小皿（649～654）、瓦器塊（655～657）が出土している。



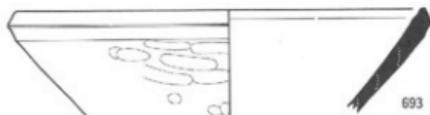
第193図 SD 228遺構 (1/60) 及び遺物実測図



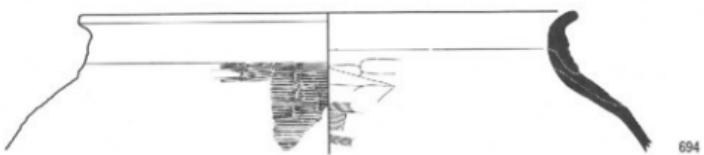
第194図 SD232 + S E 8 道構実測図 (1/30)



第195図 S D 232遺物実測図 (1)



693



694



695



696



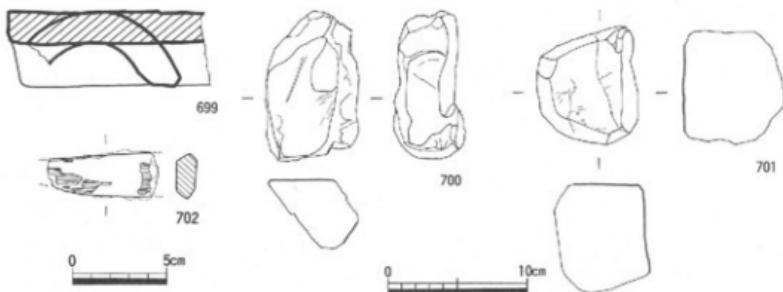
697



698



第196圖 S D232遺物實測圖（2）



第197図 SD 232遺物実測図（3）

S D 232 (第194~197図、図版43・45・117~119)

〔遺構〕 III-T-c~d-8付近に位置し、約65度西に振って直線的に走る溝である。溝はS B67の周縁を巡るSD 219南西隅から始まり、約5.7m検出された。東端の南肩に約2mの長さに平瓦と河原石(40×20cm)が暗渠状に付設されている。これらは、近接するSE 18と関連するものと思われる。上端幅1.4m、下端幅0.1m、深さ0.1m。

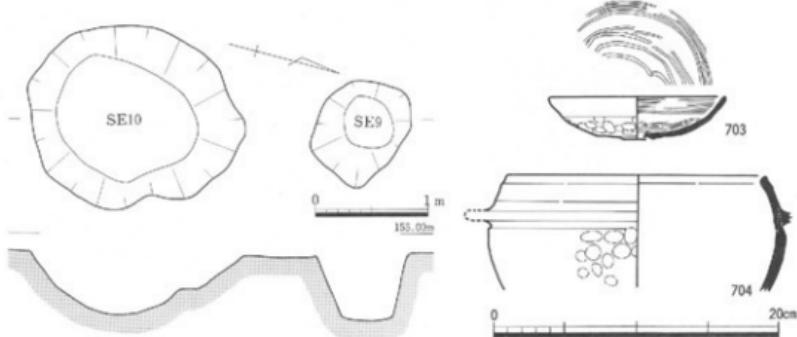
〔遺物〕 遺物は土師質小皿(659~665)、土師質壺(666)、瓦器皿(667~670)、瓦器塊(671~688)、土師質羽釜(690・691)、瓦質羽釜(692)、須恵質摺鉢(693)、須恵質甕(694)、青磁碗(689)、鉄製品(702)、平瓦(695~698)、丸瓦(699)、砥石(700・701)が出土している。

井戸 (SE)

SE 9 (第198図、図版41・46)

〔遺構〕 III-O-g-14に位置し、平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。上端長径1m、上端短径0.8m、下端長径0.5m、下端短径0.4m、深さ0.6m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。



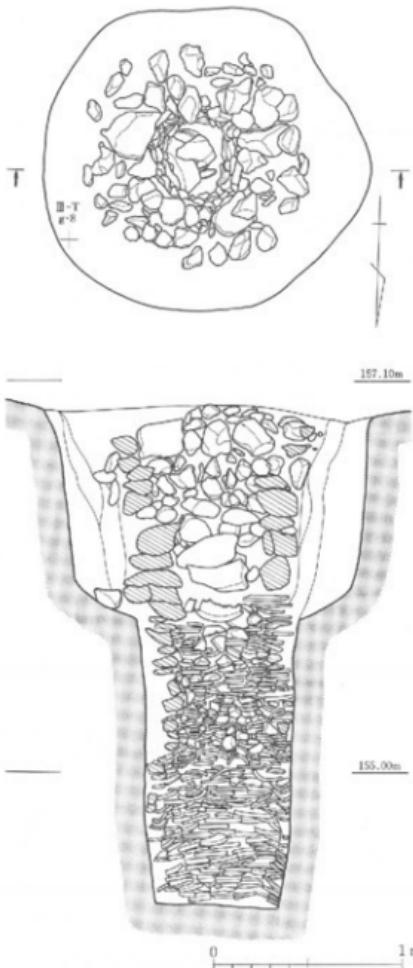
第198図 SE 9・SE 10遺構 (1/50) 及び SE 10遺物実測図

S E 10 (第198図、図版41・46)

【遺構】 III-O-g-14でS E 9の南側0.6mに位置し、平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。上端長径2m、下端長径1.7m、深さ0.6m。

【遺物】 遺物は瓦器皿(703)、瓦質羽釜(704)が出土している。

S E 11 (第199~202図、図版42・47・48・119・120)



第199図 S E 11遺構実測図 (1/30)

【遺構】 III-T-g-8でS B 63と重複する。掘方平面形は円形を呈する石積みと瓦積みを併用した内部構造をもつ井戸である。掘り方は断面を見ると上端から1m下まで径1.75mで掘られ、更に1.75m下の底部まで径0.75mで掘りさげられている。井戸の深さは2.75mである。

井筒部分は上端から下端まで径0.5mである。上端から1.5mは最大35×30cmの河原石の石積みで、その下0.8mは河原石と平瓦によって積まれ、さらに、底部までは平瓦のみによって積まれている。また、底部には破損した瓦質の井筒が敷かれている。

使用されている平瓦は総数719枚で少量の丸瓦と軒平瓦が交わっている。

【遺物】 遺物は井戸埋土中より、土師質小皿(705)、瓦器台付皿(706)、紀伊型の土師質羽釜(707)、瓦質羽釜(710~713)、瓦質井筒(714・715)、丸瓦(716~718)、木製曲物底部(708・709)が出土している。また、井筒を構成している瓦には、丸瓦(719・720)、軒平瓦(726・727)、平瓦(721~725)がある。

S E 12 (第203・204図、図版48・119~122)

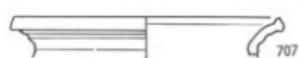
【遺構】 III-T-g-16でS E 14の北側に隣接する。平面形は楕円形を呈する素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。井戸埋土上位東側に最大長150cm、径25cmの自然木が数本横たわっている。その下層から



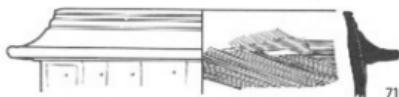
705



706



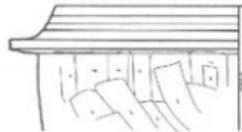
707



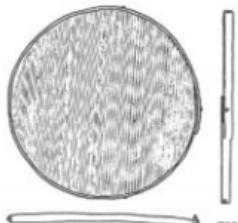
710



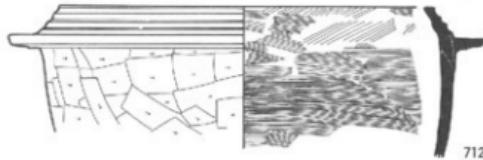
708



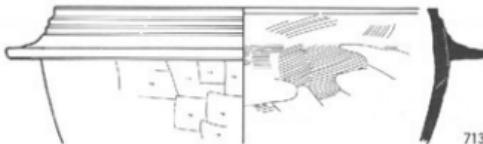
711



709



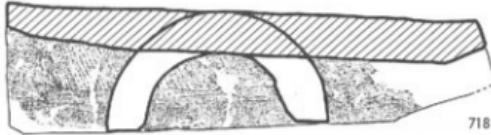
712



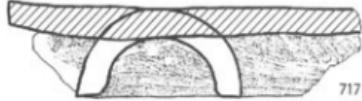
713



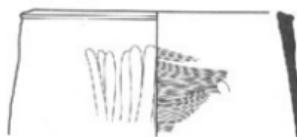
716



718



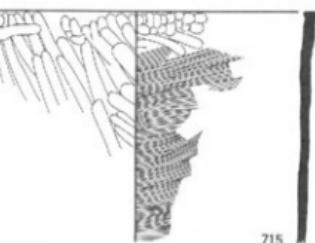
717



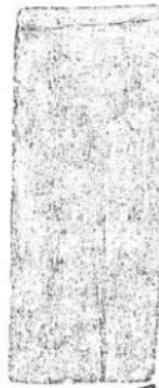
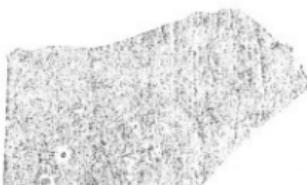
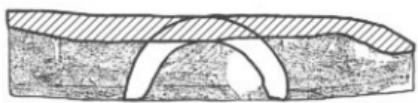
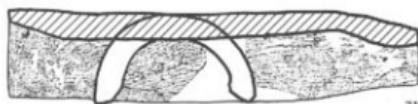
714



第200図 S E 11遺物実測図 (1)

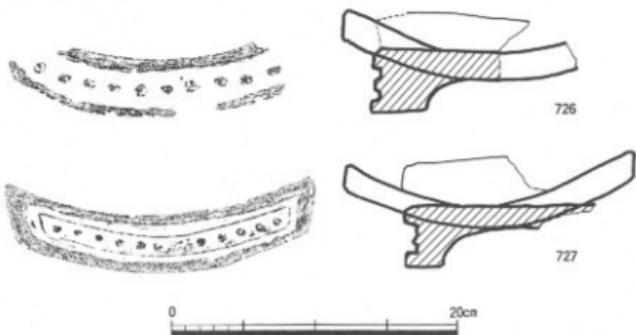


715



0 20cm

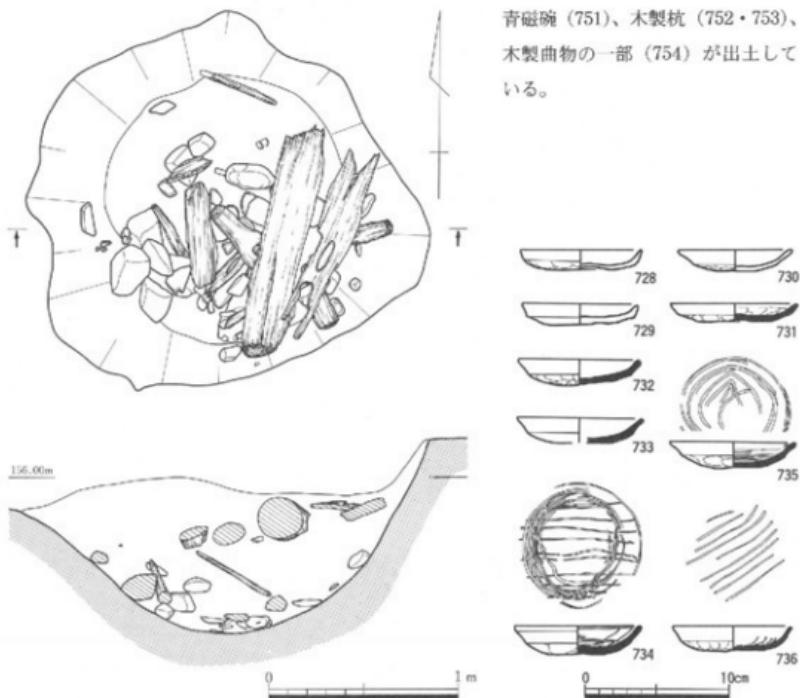
第201図 S E 11遺物実測図(2)



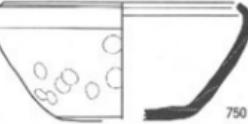
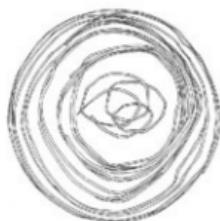
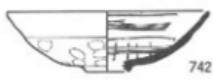
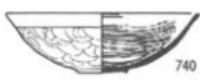
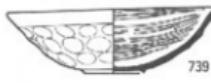
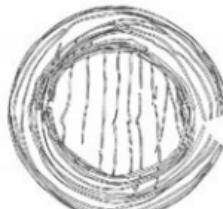
第202図 S E 11遺物実測図（3）

部には最大 $25 \times 20\text{cm}$ の河原石が遺物とともに入っている。長径 2.09m 、短径 1.93m 、深さ 0.75m 。

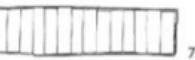
【遺物】 遺物は土師質皿（728～730）、瓦器皿（731～736）、瓦器塊（737～749）、瓦質鉢（750）、青磁碗（751）、木製杭（752・753）、木製曲物の一部（754）が出土している。



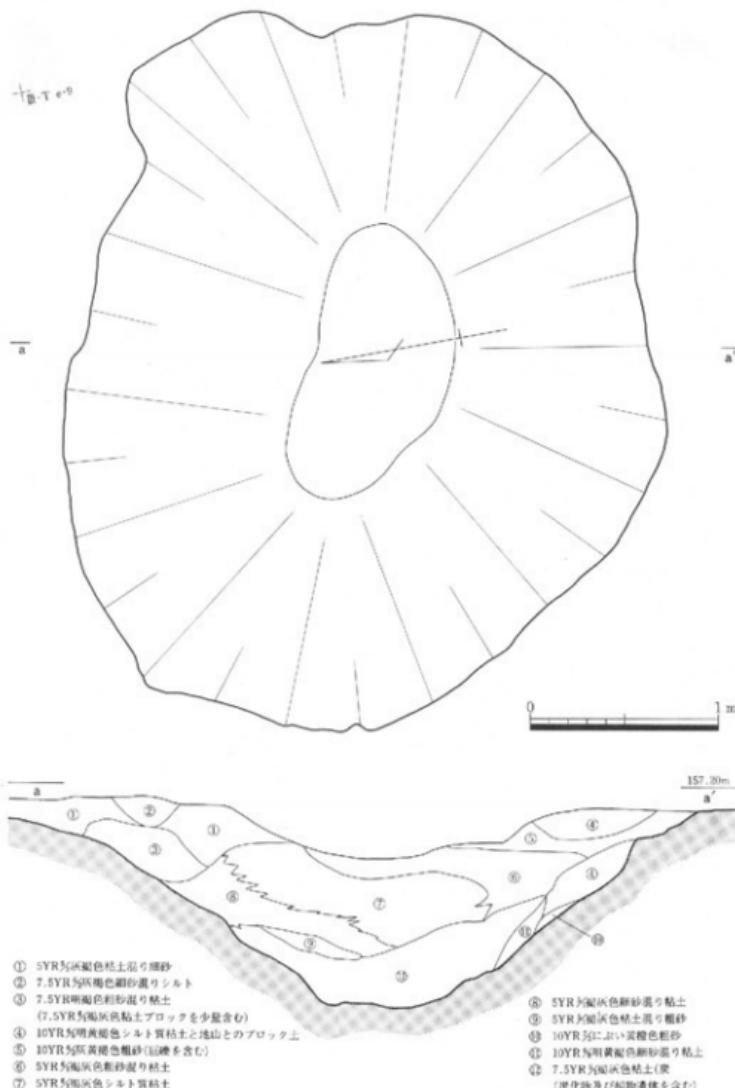
第203図 S E 12遺構（1/30）及び遺物（1）実測図



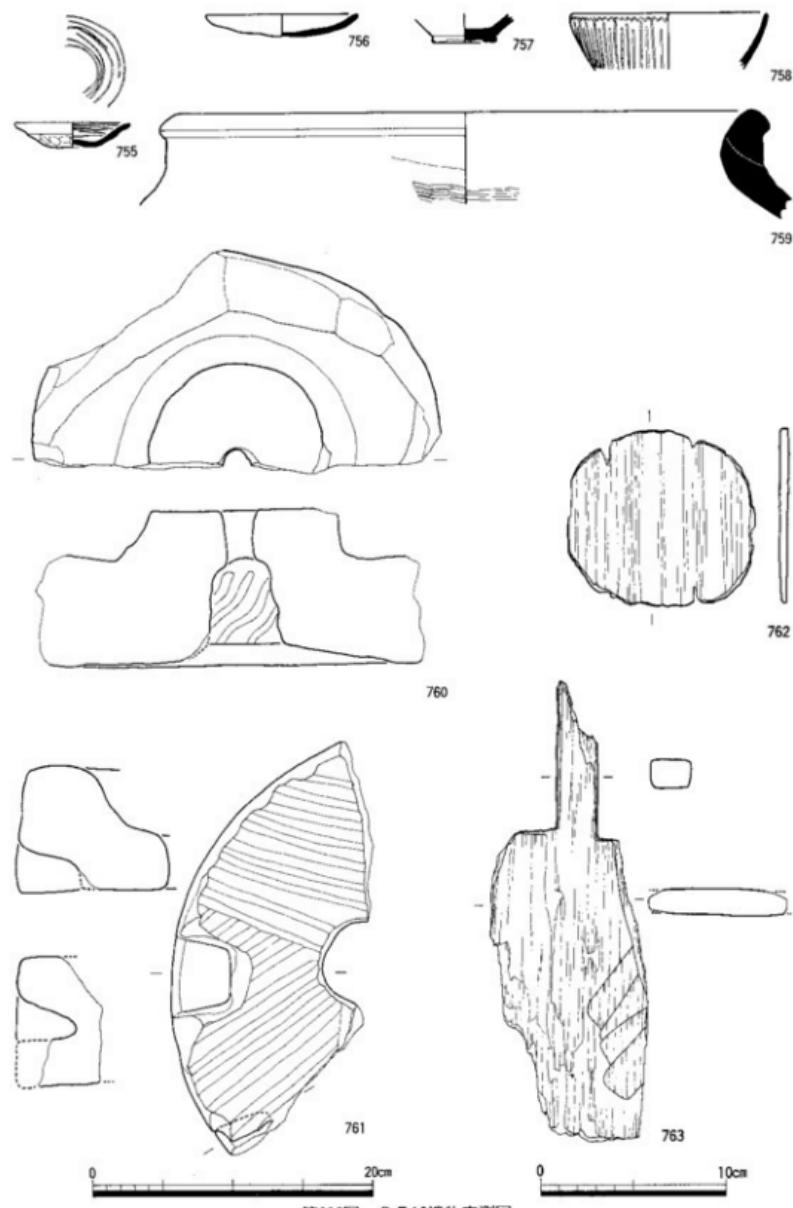
第204図 S E 12遺物実測図 (2)



S E 13 (第205・206図、図版43・49・121・122)



第205図 S E 13造構実測図 (1/30)



第206図 S E 13遺物実測図

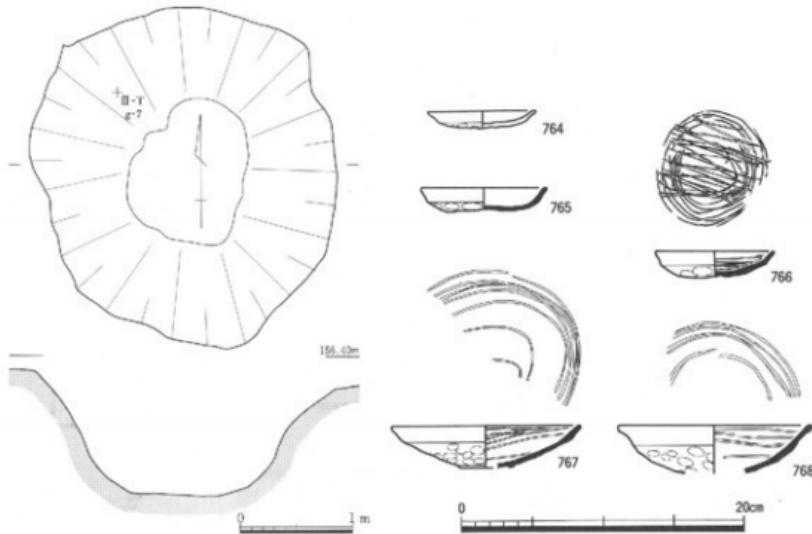
〔遺構〕 III-T-c-9でS B70の北側1mに位置する。平面形は梢円形を呈する大型の素掘りの井戸である。底部は丸味をもつ。井戸埋土は上位がシルトを中心に粗砂が交わっているが中位は砂が中心で、下位は粘土が中心となり植物遺体も含まれている。このことは、井戸の水の動きが激しいことをものがたっている。長径3.80m、短径3.20m、深さ0.92m。

〔遺物〕 出土遺物は瓦器皿(755・756)、瓦質甕(759)、天目茶碗(757)、青磁碗(758)、石臼(760・761)、木製曲物底部(762)、木製動の一部(763)が出土している。

S E 14 (第207図、図版49・121・122)

〔遺構〕 III-T-f-16~17でS E 12の南側1mに位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。長径3.00m、短径2.70m、深さ0.95m。

〔遺物〕 出土遺物は瓦器皿(765・766)、瓦器甕(767・768)、土師質小皿(764)が出土している。

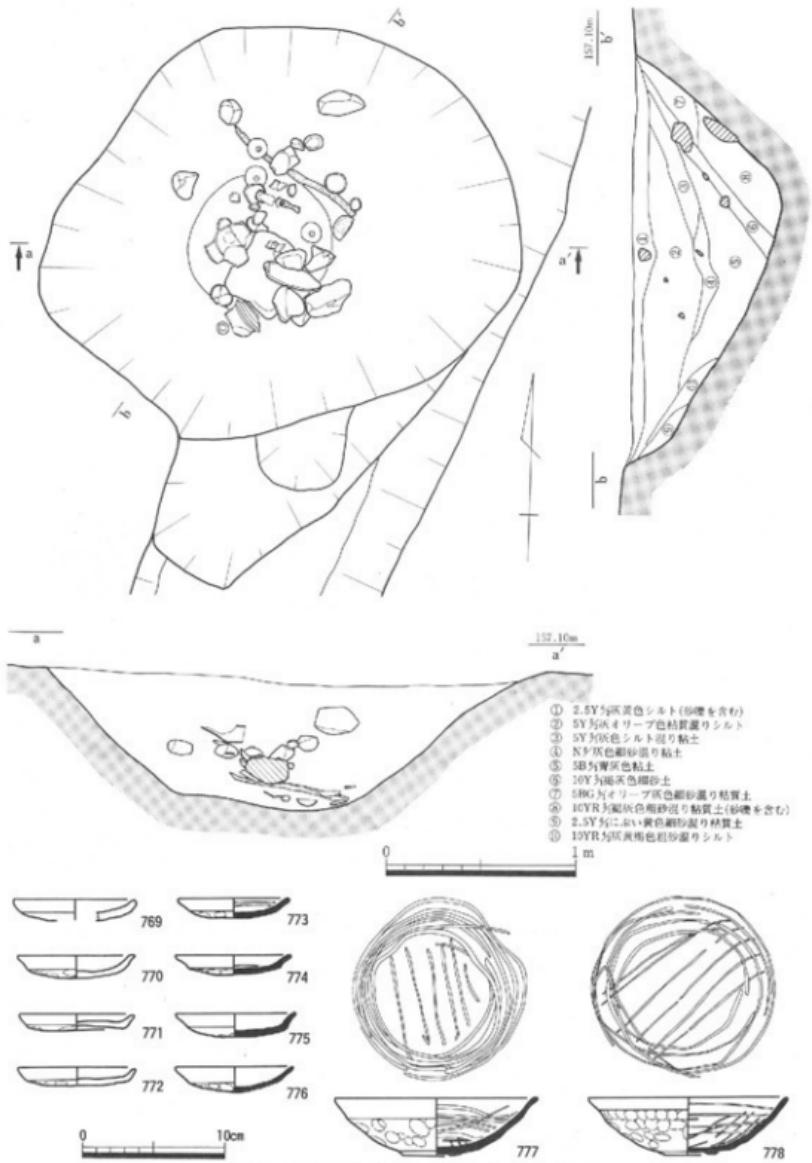


第207図 S E 14遺構 (1/50) 及び遺物実測図

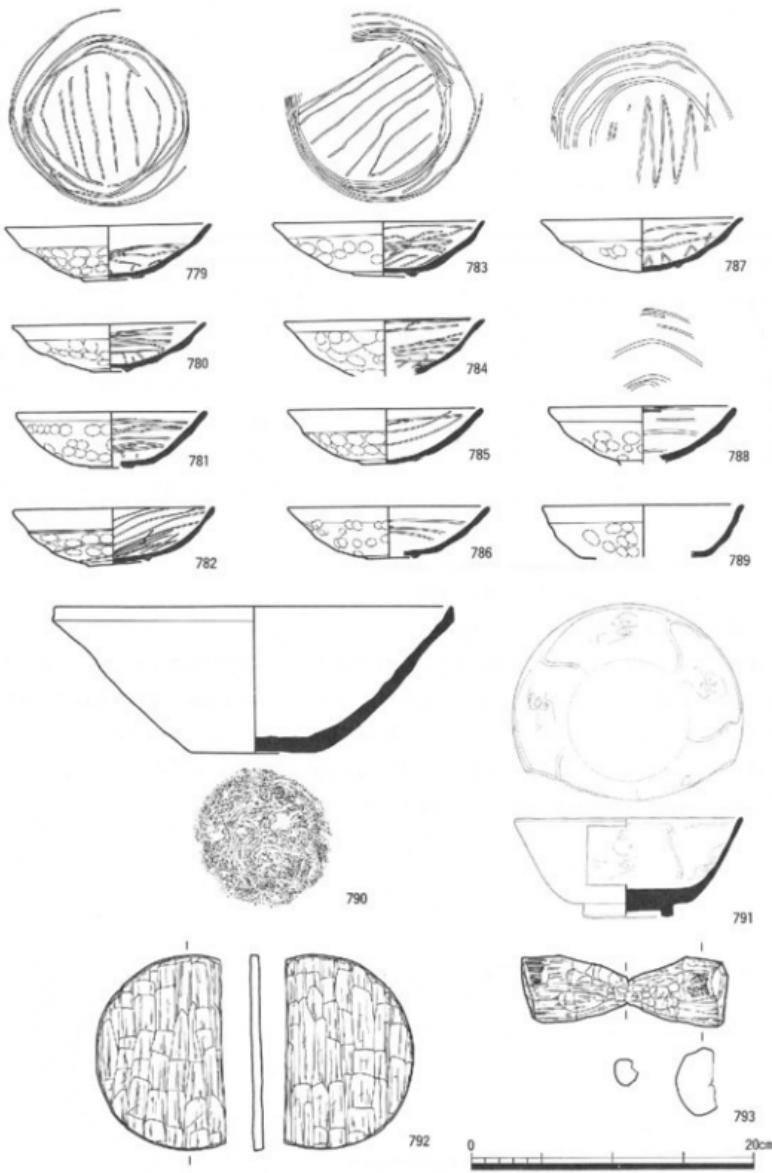
S E 15 (第208~210図、図版43・50・123・124)

〔遺構〕 III-T-d~e-11でS B70の南側1.5mに位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。井戸埋土中に最大30×15cmの河原石と共に木器、および土器類が出土している。長径3.00m、短径2.54m、深さ0.75m。

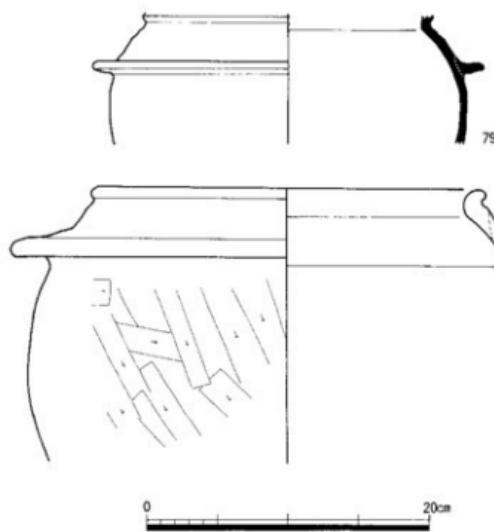
〔遺物〕 出土遺物は土師質小皿(769~772)、土師質羽釜(795)、瓦器皿(773~776)、瓦器甕(777~789)、瓦質羽釜(794)、須恵質練鉢(790)、青磁碗(791)、曲物底部(792)、木鍤(793)



第208図 SE 15遺構 (1/30) 及び遺物 (1) 実測図



第209図 S E 15遺物実測図 (2)

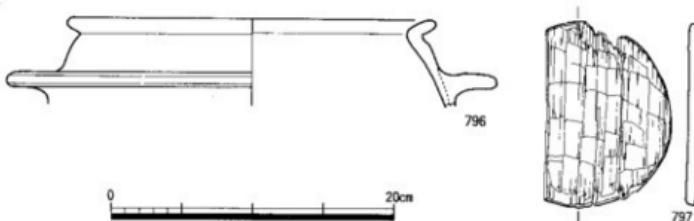


第210図 S E 15遺物実測図（3）

S E 18（第211図、図版43・45・51・124）

【遺構】 III-T-c-9 で S B 67 の南側 1.8m に位置する。平面形は梢円形を呈する石積みの井戸である。掘り方は上端で径 1.9m、井筒の内径長径 0.7m、短径 0.6m、井筒を構成する河原石は最大 50 × 30 cm のものを用いている。深さは断面調査中に崩壊した為、不明である。この井戸に接する S D 232 には井戸に接して平瓦による暗渠状の遺跡が 2 m 西にのびる。

【遺物】 遺物は土師質羽釜（796）、曲物底部（797）が出土している。



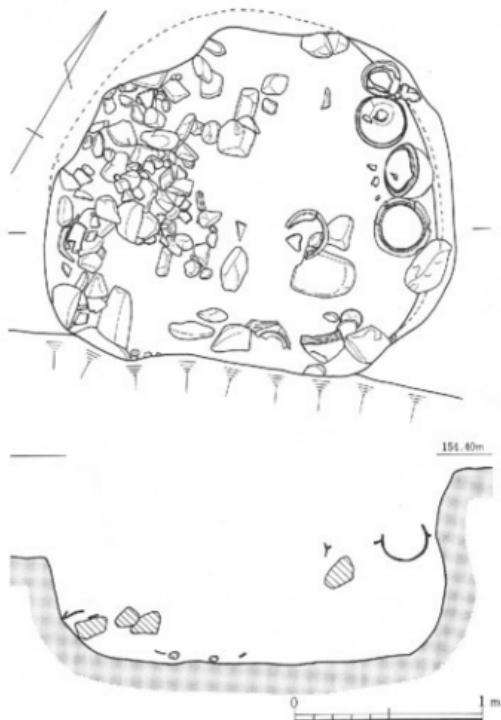
第211図 S E 18遺物実測図

が出土している。

S E 17（図版50）

【遺構】 III-T-e-15 に位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。井戸底部東側には長さ 190 cm、径 15 cm の自然木が横たわり、他に長さ 50 cm の自然木が 5 本と最大 30 × 10 cm の河原石が出土している。長径 2.30 m、短径 1.9 m、深さ 0.45 m。

【遺物】 図示可能な遺物は出土していない。



第212図 S E 22遺構実測図 (1/30)

S E 22 (第212~215図、図版51・124・125)

〔遺構〕 I - J - a - 16に位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。井戸埋土中位で、井戸東側からは羽釜が5点が出土し、下位の西側からは最大30×18cmの河原石が集中して出土している。上端長径2.2m、短径1.8m、下端長径2.1m、短径1.9m、深さ0.95m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(798~804)、土師質大皿(805)、土師質鍋(817)、土師質羽釜(834)、瓦器皿(806~808)、瓦器塊(809~813)、瓦質鉢(816)、瓦質羽釜(818~833)、瓦質甕(836)、白磁(814)、青磁(815)、常滑甕(835)が出土している。

S E 23 (第216図、図版44・52・126)

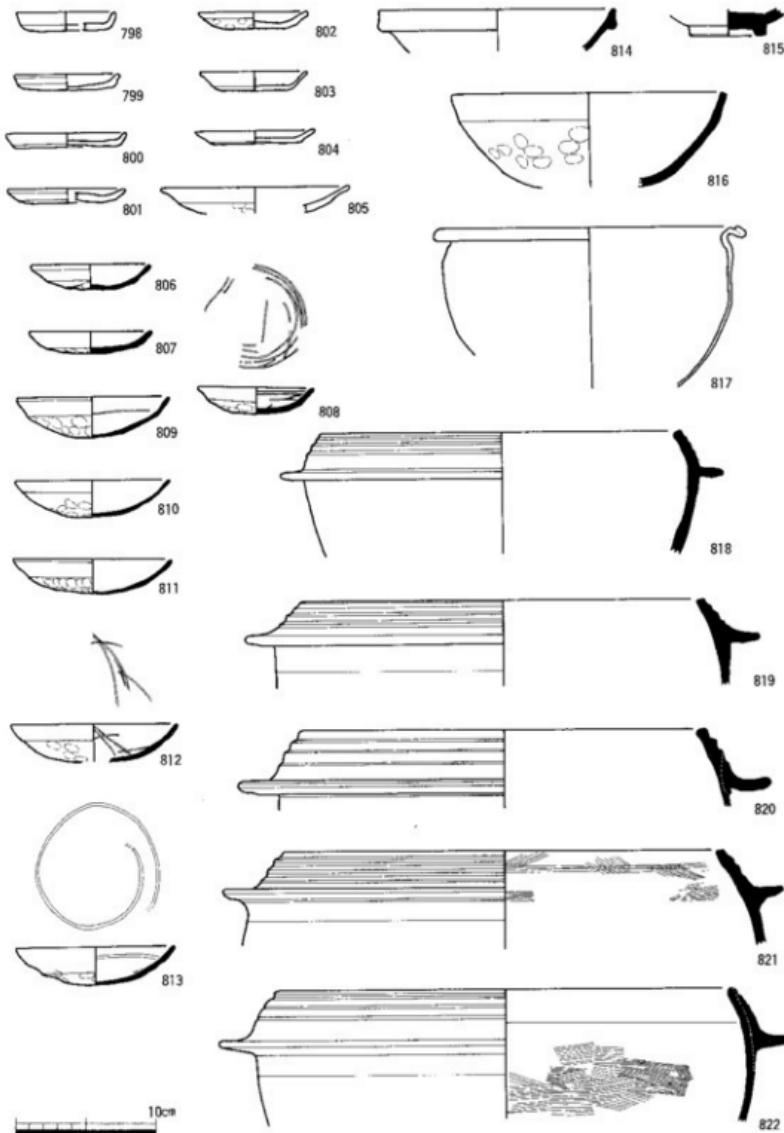
〔遺構〕 III-S-t-3に位置する。平面形は隅丸方形を呈する素掘りの井戸である。井戸内部に最大15×10cmの河原石と長さ60cm、径5cmの自然木が3本組み合う様に出土している。長軸0.9m、短軸0.85m、深さ0.7m。

〔遺物〕 遺物は瓦器塊(837)が出土している。

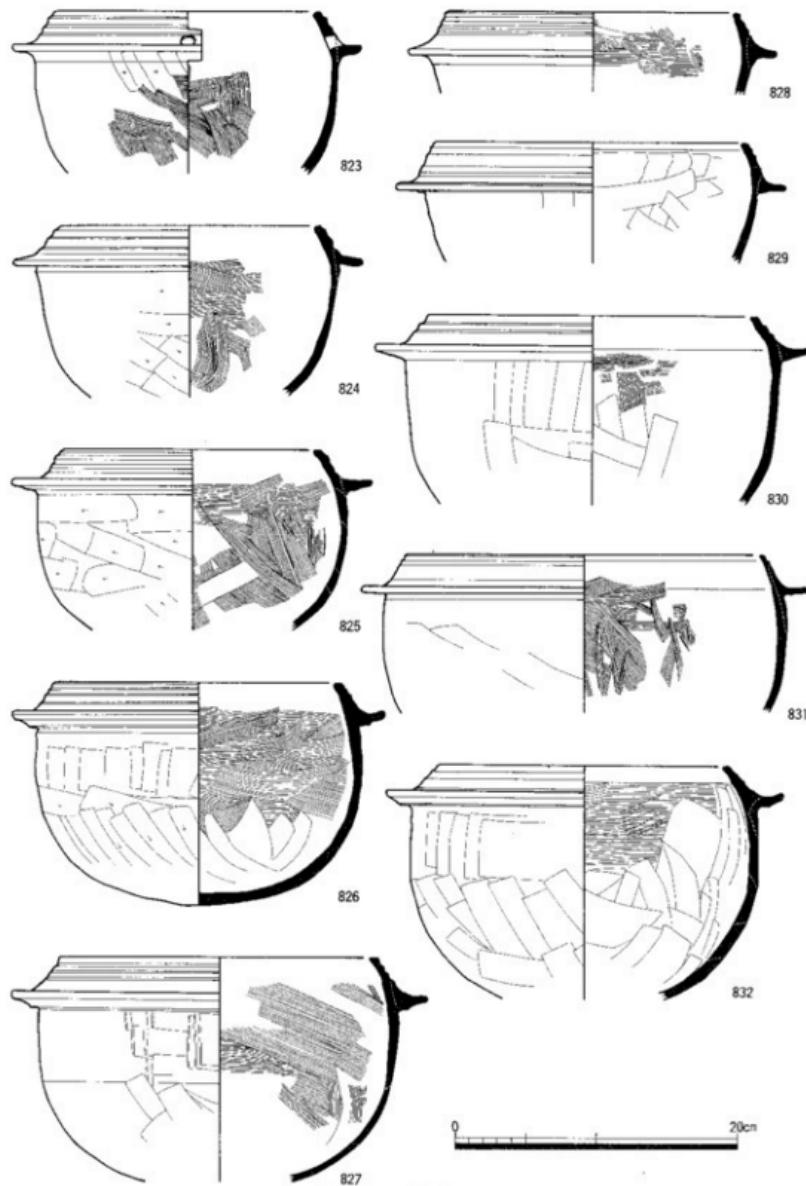
S E 24 (第217~218図、図版52・126・127)

〔遺構〕 III-T-r-16付近に位置する。平面形は梢円形を呈する素掘りの井戸である。井戸底部からは瓦器塊等の土器類が出土している。上端長径1.3m、短径0.6m、深さ1.3m。

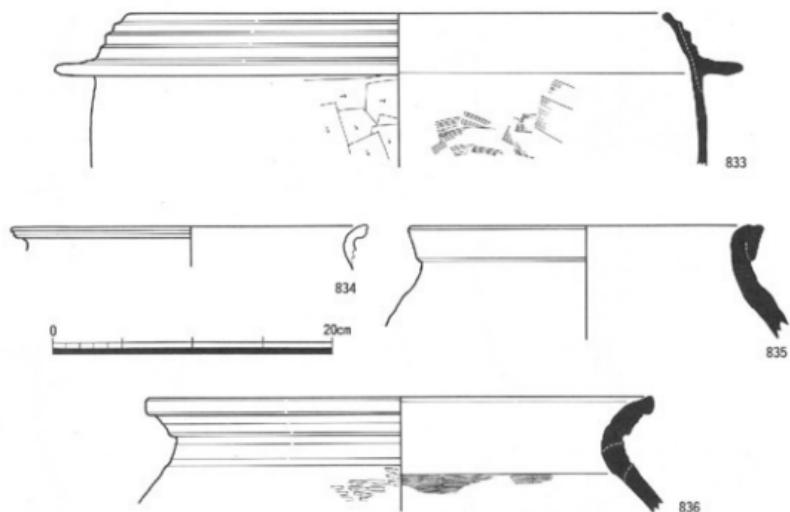
〔遺物〕 遺物は土師質小皿(838~840)、土師質羽釜(856・857)、紀伊型の土師質羽釜(858)、瓦器塊(845~853)、瓦器小皿(841~844)、青磁碗(855)、青磁皿(854)が出土している。



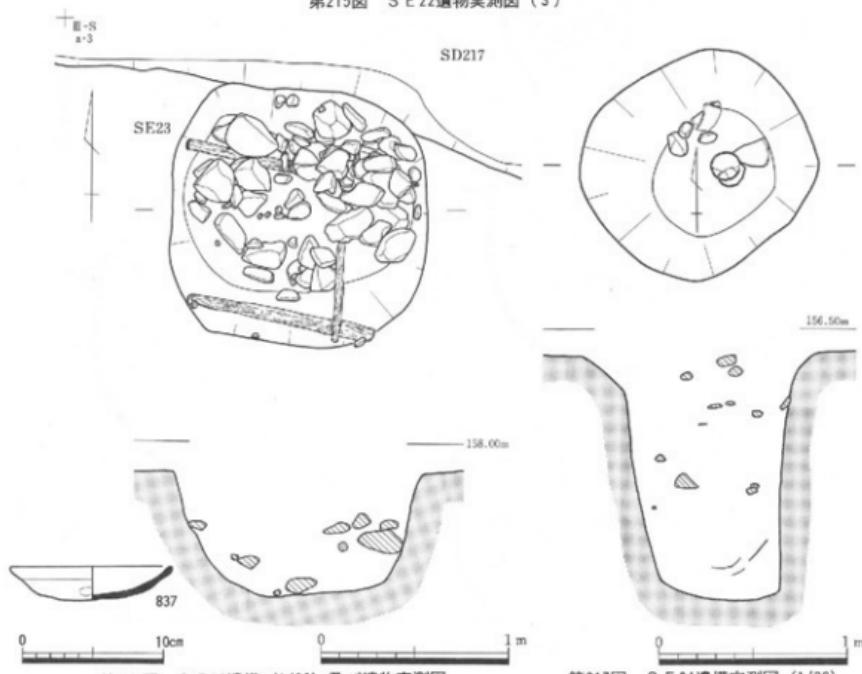
第213図 S E 22遺物実測図 (1)



第214図 S.E. 22遺物実測図（2）

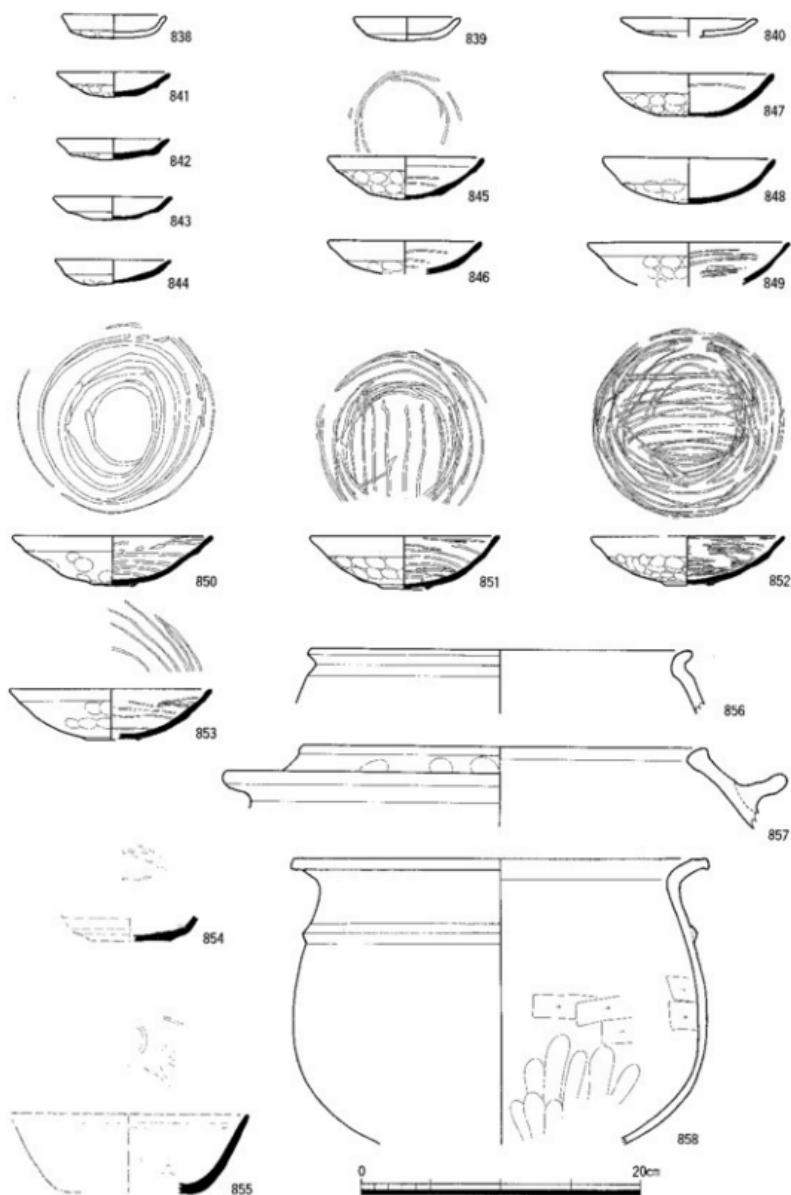


第215図 SE 22遺物実測図 (3)



第216図 SE 23遺構 (1/30) 及び遺物実測図

第217図 SE 24遺構実測図 (1/30)



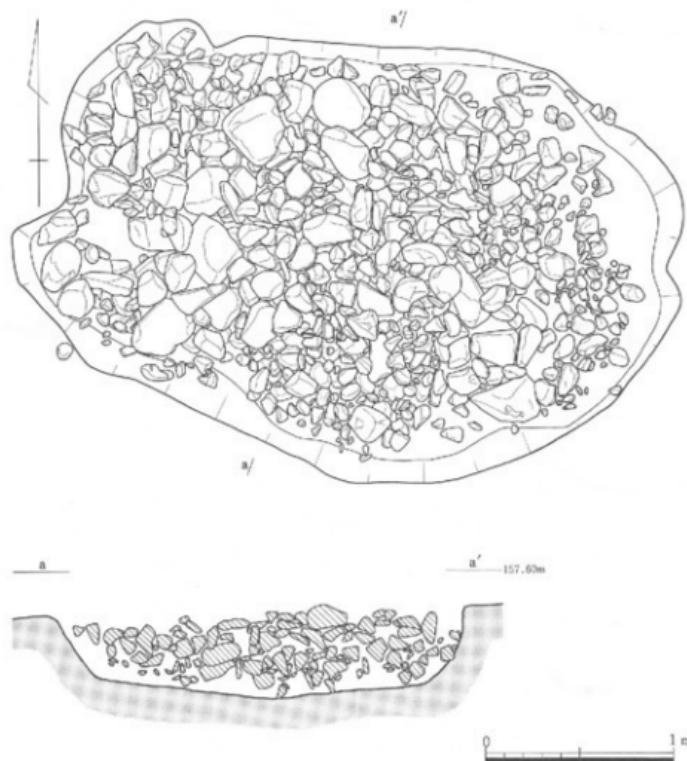
第218図 S E 24遺物実測図

土壤 (SK)

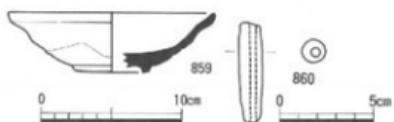
SK 388 (第219・220図、図版42・53)

【遺構】 III-T-e-5 付近に位置し、平面形は不定形な椭円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壤内には最大40×30cmの河原石が充填されている。長径3.35m、短径2.28m、深さ0.5m。

【遺物】 遺物は施釉陶器 (859) と土鍤 (860) が出土している。



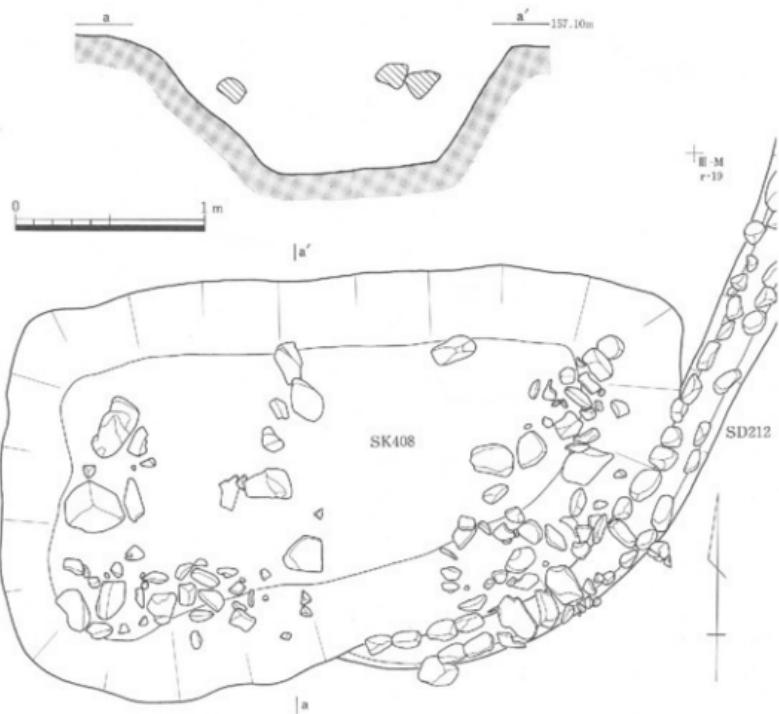
第219図 SK 388遺構実測図 (1/30)



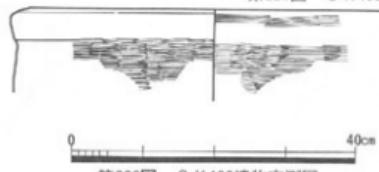
第220図 SK 388遺物実測図

S K 408 (第221・222図、図版53)

【遺構】 III-N-r-19付近に位置し、平面形は不定形な椭円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壤内には最大40×30cmの河原石が落ち込んでいる。長径3.65m、短径2.1m、深さ0.75m。



第221図 SK408遺構実測図 (1/30)



第222図 SK408遺物実測図

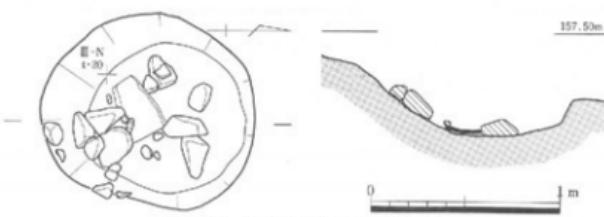
〔遺物〕 遺物は土師質甕(861)が出土している。

S K 416 (第223図、図版54)

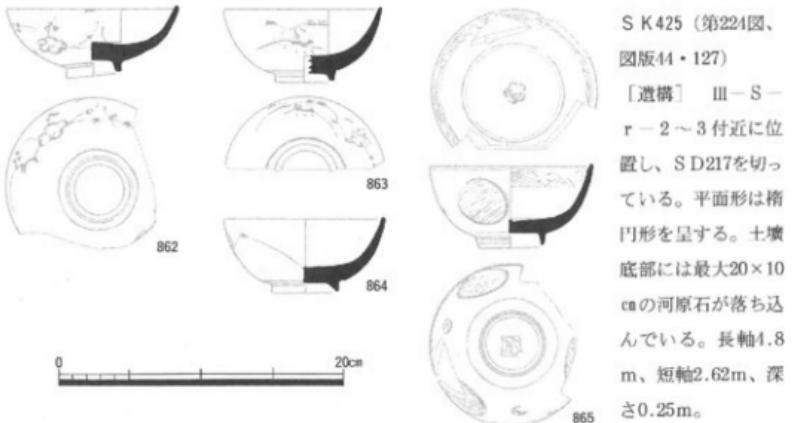
〔遺構〕 III-N-s-t-19~20付近に位置し、平面形は橢円形を呈する。土壌底

部には最大20×10cmの河原石が落ち込んでいる。長径1.14m、短径1m、深さ0.43m。

〔遺物〕 遺物は平瓦が一点出土し



第223図 SK416遺構実測図 (1/30)

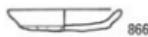


第224図 S K425遺物実測図

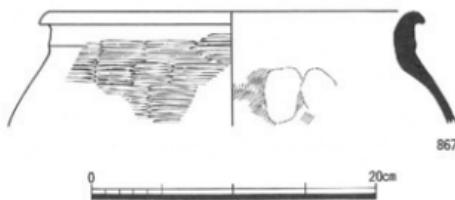
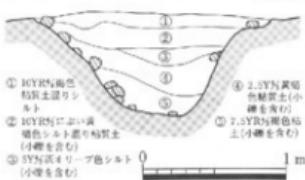
付碗（862～865）が出土している。

S K429（第225図、図版44・54・127）

【遺構】 III-S-r-2に位置する。平面形は長椭円形を呈する。S D217を一部切り込んでいる。土壤底部の南側には最大35×30cmの河原石が落ち込んでいる。径1.43m、深さ0.25m。



158.30m



第225図 S K429遺構(1/40) 及び遺物実測図

【遺物】 遺物は土師質小皿（866）と瓦質甕（867）が出土している。

S K435（第226図、図版42・55）

【遺構】 III-T-d-5に位置する。平面形は円形を呈する。土壤底部には最大35×30cmの河原石が落ち込んでいる。径1.43m、深さ0.25m。

【遺物】 遺物は土師質甕（873）が出土している。

ている。

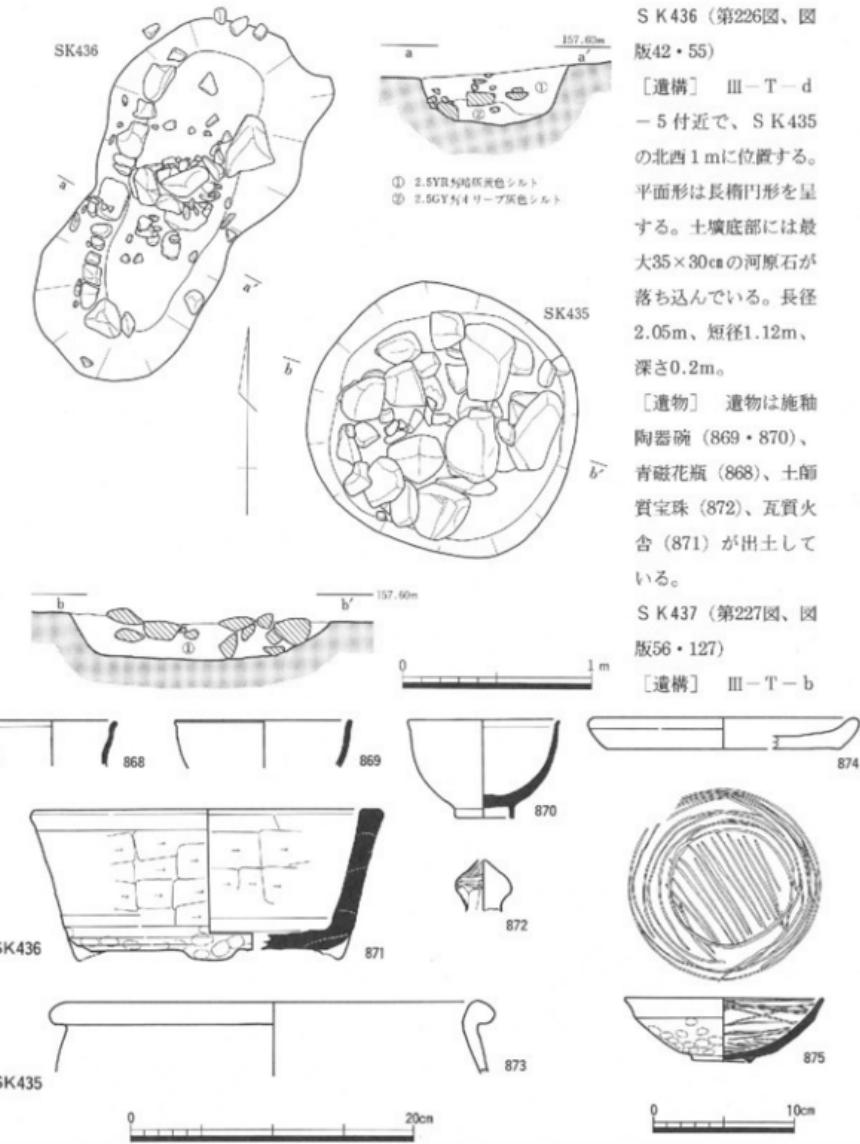
S K425（第224図、

図版44・127）

【遺構】 III-S-r-2～3付近に位置し、S D217を切っている。平面形は梢円形を呈する。土壤底部には最大20×10cmの河原石が落ち込んでいる。長軸1.8m、短軸2.62m、深さ0.25m。

【遺物】 遺物は染

— 146 —



第226図 S K435・S K436遺構 (1/30) 及び遺物実測図

S K436 (第226図、図版42・55)
〔遺構〕 III-T-d付近で、S K435の北西1mに位置する。

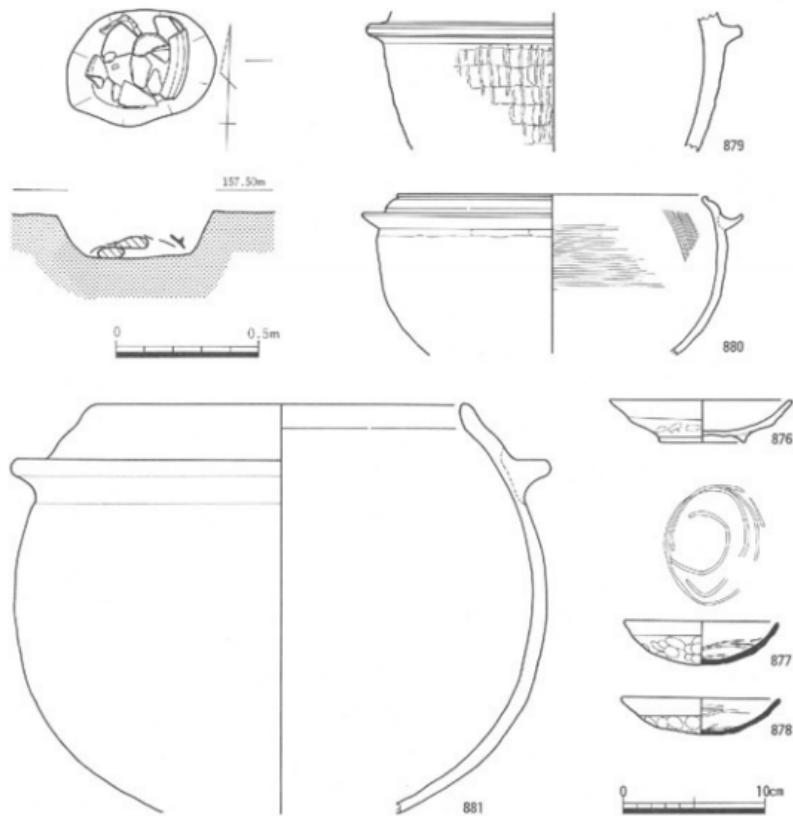
平面形は長椭円形を呈する。土壤底部には最大35×30cmの河原石が落ち込んでいる。長径2.05m、短径1.12m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は施釉陶器碗 (869・870)、青磁花瓶 (868)、土師質宝珠 (872)、瓦質火舍 (871) が出土している。

S K437 (第227図、図版56・127)

〔遺構〕 III-T-b

第227図 S K437
遺物実測図



第228図 S K 445遺構 (1/20) 及び遺物実測図

—5に位置する。平面形は円形を呈する。土壤底部中央に最大 15×10 cmの河原石と遺物が集中している。径0.9m、深さ0.1m。

【遺物】 遺物は土師質大皿(874)、瓦器壇(875)が出土している。

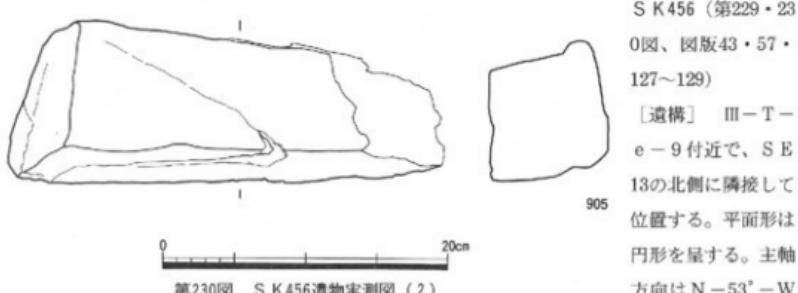
S K 445 (第228図、図版56・127)

【遺構】 III-N-q-17に位置する。平面形は梢円形を呈する。土壤内には羽釜とその内部に入っていたと思われる河原石が3点、その他瓦器類が出土した。長径0.53m、短径0.4m、深さ0.15m。

【遺物】 遺物は土師質壇(876)、土師質羽釜(880・881)、瓦器壇(877・878)、滑石製石鍋(879)が出土している。



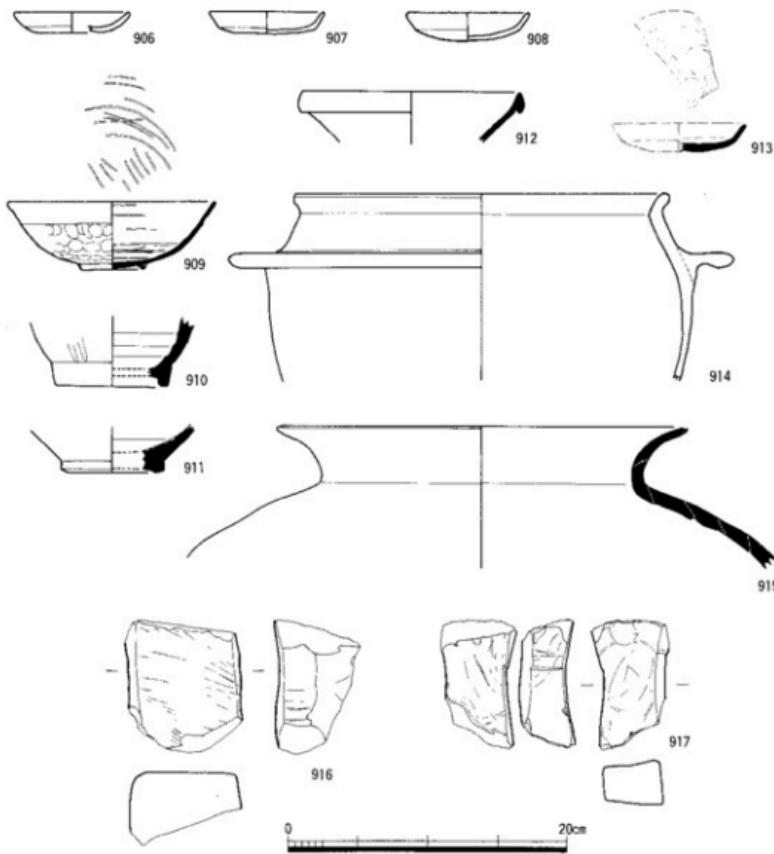
第229図 S K456遺構 (1/30) 及び遺物 (1) 実測図



を示す。土壤内部の南東側に一部面取りした花崗岩と土師質土器類、瓦器類が出土している。長径1.34m、短径1m、深さ0.48m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（882~885）、土師質台付皿（886・887）、瓦器皿（888~891）、瓦





第232図 S K458遺物実測図

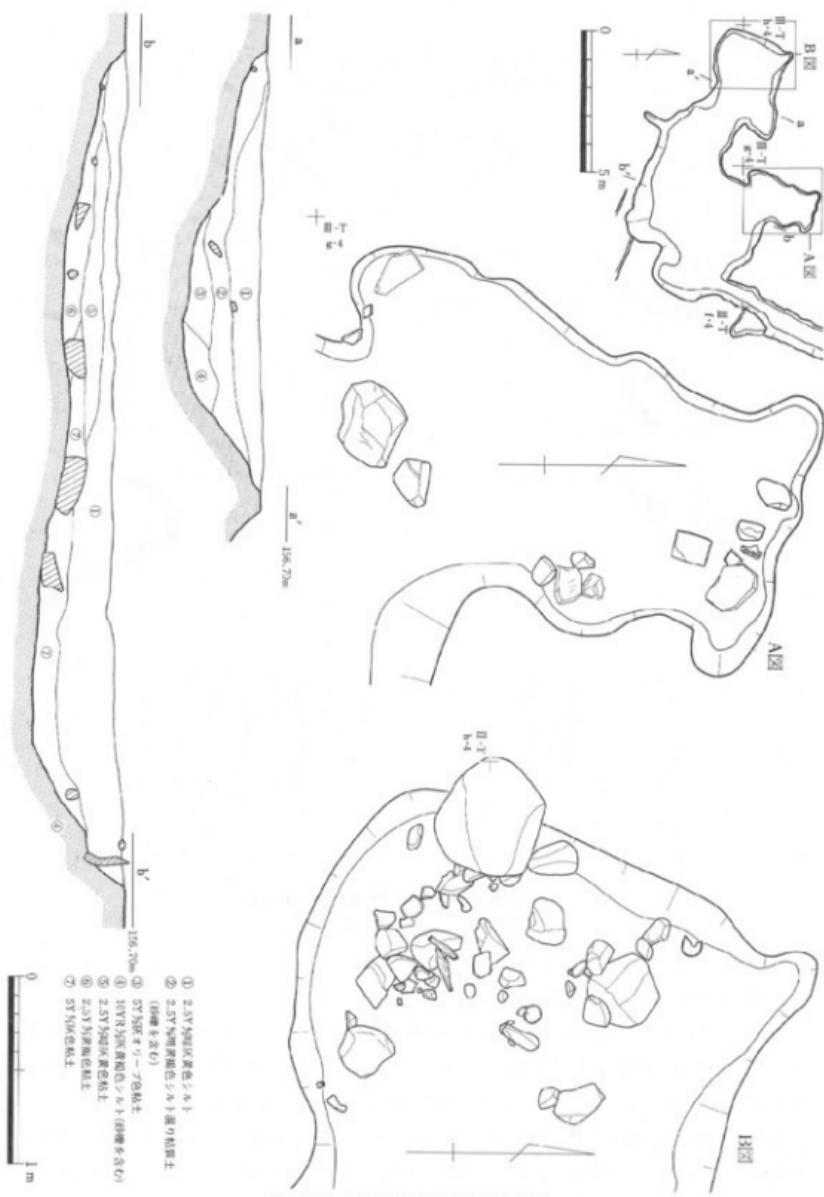
器塊（892～904）、面取り花崗岩（905）が出土している。

S K458（第231・232図、図版43・57・129）

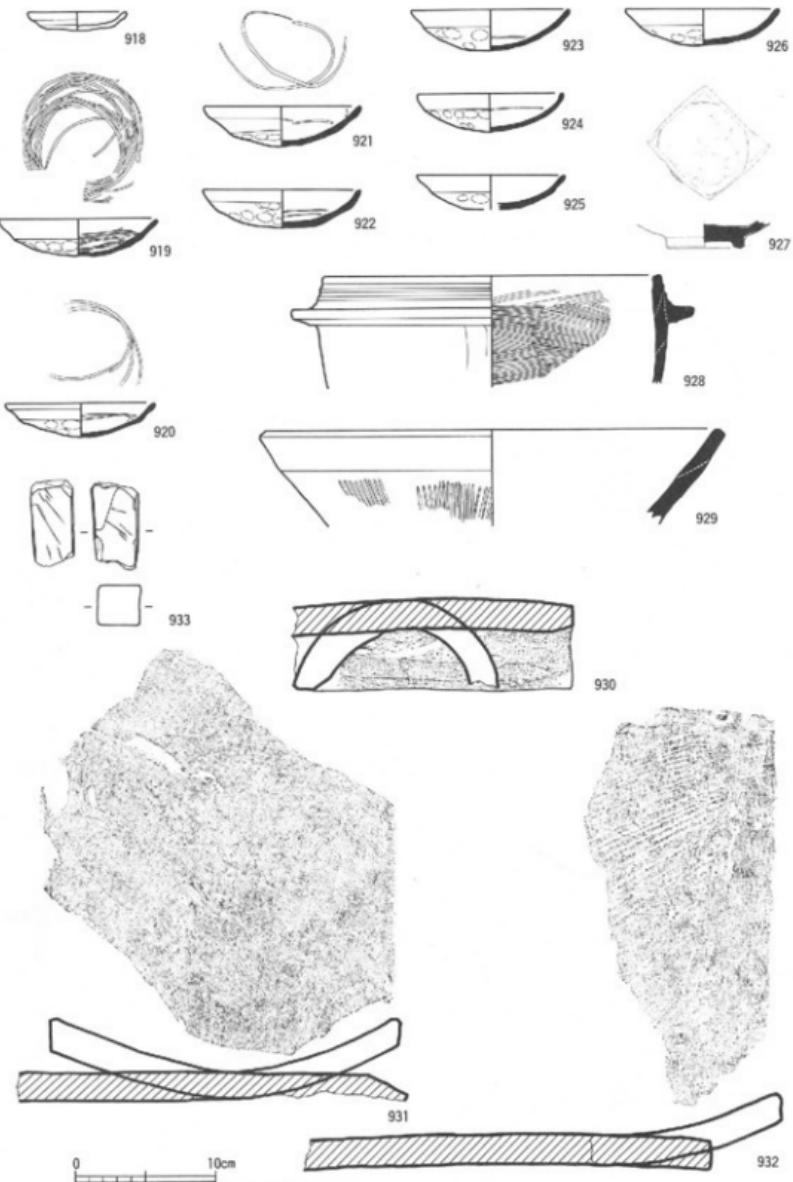
〔遺構〕 III-T-f-10付近で、SW4の東側4mに位置する。平面形は不定形な椭円形を呈する。土壌内部には河原石が充填されている。これらの石には二次的に火を受けたものもある。埋土中にも炭化物や焼土が含まれている。長径3.08m、短径2.7m、深さ0.14m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（906～908）、土師質羽釜（914）、瓦器塊（909）、青磁小皿（913）、白磁碗（911・912）、灰釉底部（910）、灰釉甕（915）、砥石（916・917）が出土している。

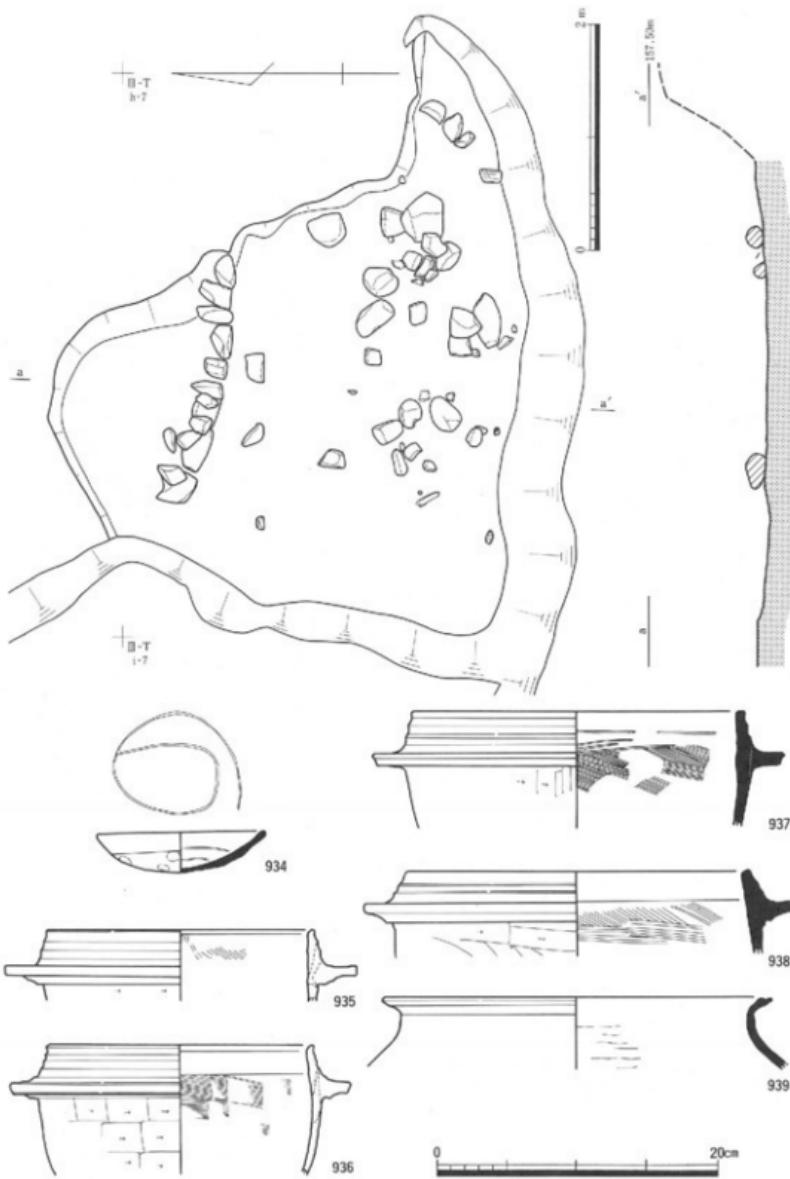
S K469（第233・234、図版129・130）



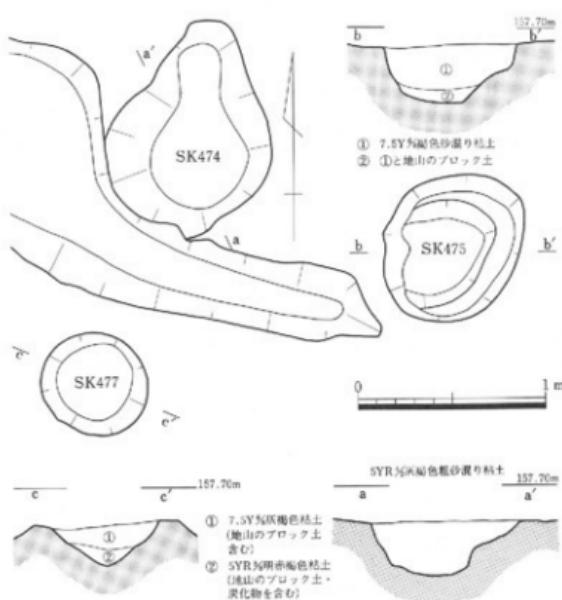
第233図 SK 469遺構実測図 (1/30)



第234図 S K 469遺物実測図



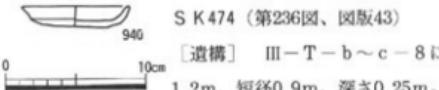
第235図 SK 470遺構 (1/50) 及び遺物実測図



第236図 SK474・SK475・SK477遺構実測図(1/30)

南側、西側は調査区外に広がる、平面形は不明である。土壤内北側には東西に2.2mの石列があり、一種の護岸であったようである。検出長軸5.16m、短軸4.18m、深さ0.142m。

〔遺物〕 遺物は土師質羽釜(935・936)、瓦器塊(934)、瓦質羽釜(937・938)、陶器(939)が出土している。



第237図 SK475
遺物実測図 〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

SK475(第236・237図、図版43・130)

〔遺構〕 III-T-b-8付近でSK474の東側0.8mに位置する。平面形は円形を呈する。長径0.8m、深さ0.25m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(940)が出土している。

SK479(第238図、図版43・58・130)

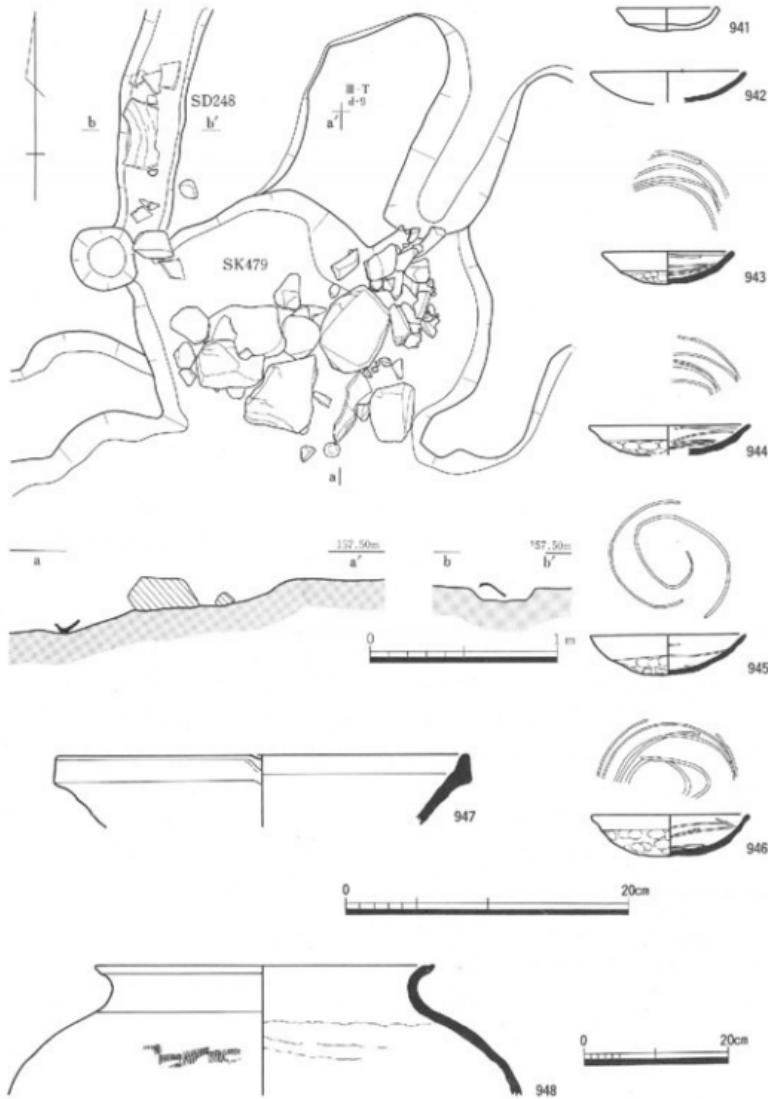
〔遺構〕 III-T-c-d-9付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壤内からは最大50×35cmの河原石と遺物が出土している。この土壤にはSD248(上端幅0.36m、下端幅0.25m、

〔遺構〕 III-T-f-g-13~14付近に位置する。平面形は不定形な大型の土壤である。土壤の西側と北側には河原石の集石が見られ、遺物も共伴している。長軸10m、短軸6m、深さ0.45m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(918)、瓦器塊(919~926)、青磁碗(927)、瓦質羽釜(928)、陶器練鉢(929)、丸瓦(930)、平瓦(931・932)、砥石(933)が出土している。

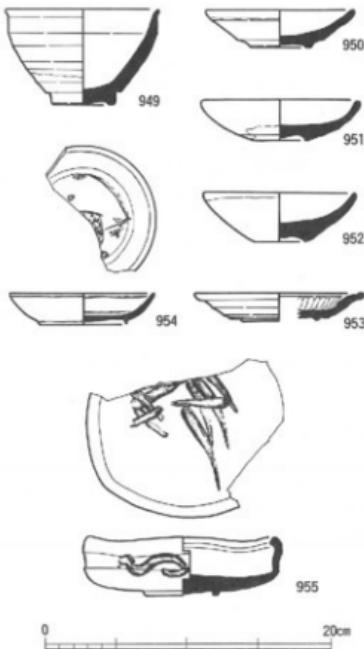
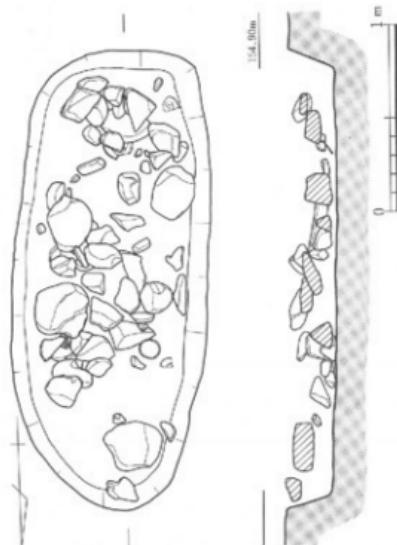
SK470(第235図、図版58・130)

〔遺構〕 III-T-h-16~17付近に位置する。土壤



第238図 SK479遺構 (1/30) 及び遺物実測図

深さ0.2m)が合流し、遺物もSD248の出土品と接合することができる。長軸1.88m、短軸1.5m、



第239図 SR 9 遺構 (1/30) 及び遺物実測図

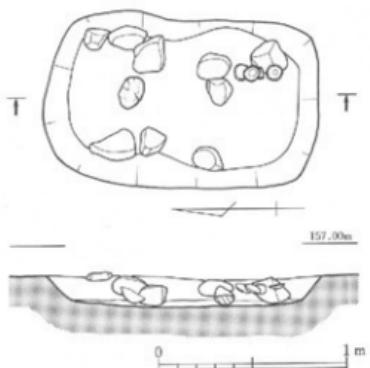
深さ0.23m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(941)、瓦器皿(942)、瓦器塊(943~946)、瓦質片口鉢(947)、常滑大甕(948)が出土している。

土壤墓 (SR)

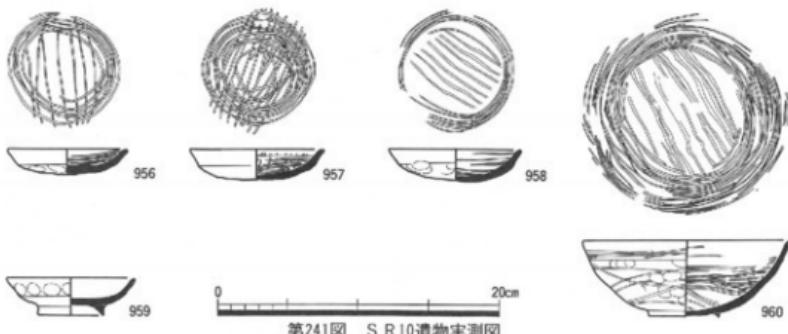
SR 9 (第239図、図版41・59・130)

〔遺構〕 III-O-h-12付近に位置する。平面形は長椭円形を呈する。主軸方向は南北を示す。土壤底部には最大35×25cmの河原石と遺物が出土している。特に北側からは二次的に火を受けた天目茶碗が完形で正立した状態で出土している。長径2.4m、短径1m、深さ0.27m。



第240 SR 10 遺構実測図 (1/30)

〔遺物〕 遺物は天目茶碗(949)、染付皿(950)、美濃折縁削ぎ菊皿(953)、織部鉢(955)、陶器皿(950~952)が出土している。



第241図 S R 10遺物実測図

S R 10 (第240・241図、図版59・130・131)

【遺構】 III-N-t-16付近に位置する。平面形は長方形を呈する。主軸方向は南北を示す。土壌底部には最大25×15cmの河原石が東側長辺に5点、西側長辺に3点並び、東側長辺の南端に瓦器類が4点、北側中央に1点出土している。

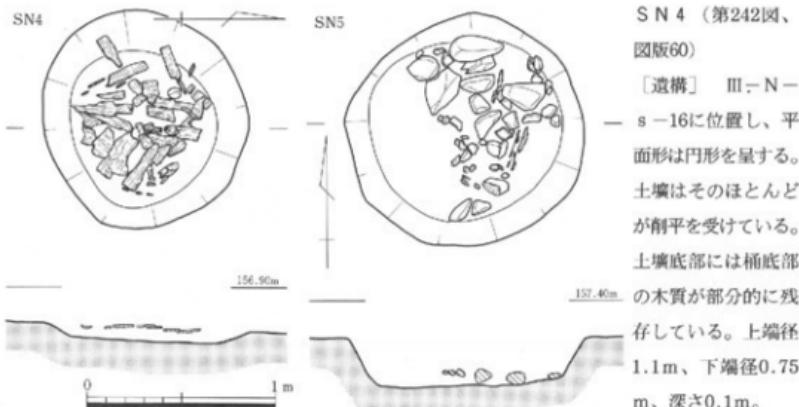
【遺物】 遺物は瓦器皿(956～958)、小型瓦器塊(959)、瓦器塊(960)が出土している。

埋構 (S N)

S N 3 (第248図、図版60)

【遺構】 III-O-c-18でS L 7と東西に並列して位置し、平面形は円形を呈する。土壌底部には桶底の木質が部分的に残存している。土壌内部には最大25×15cmの河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.33m、下端径0.95m、深さ0.26m。

【遺物】 遺物は出土していない。

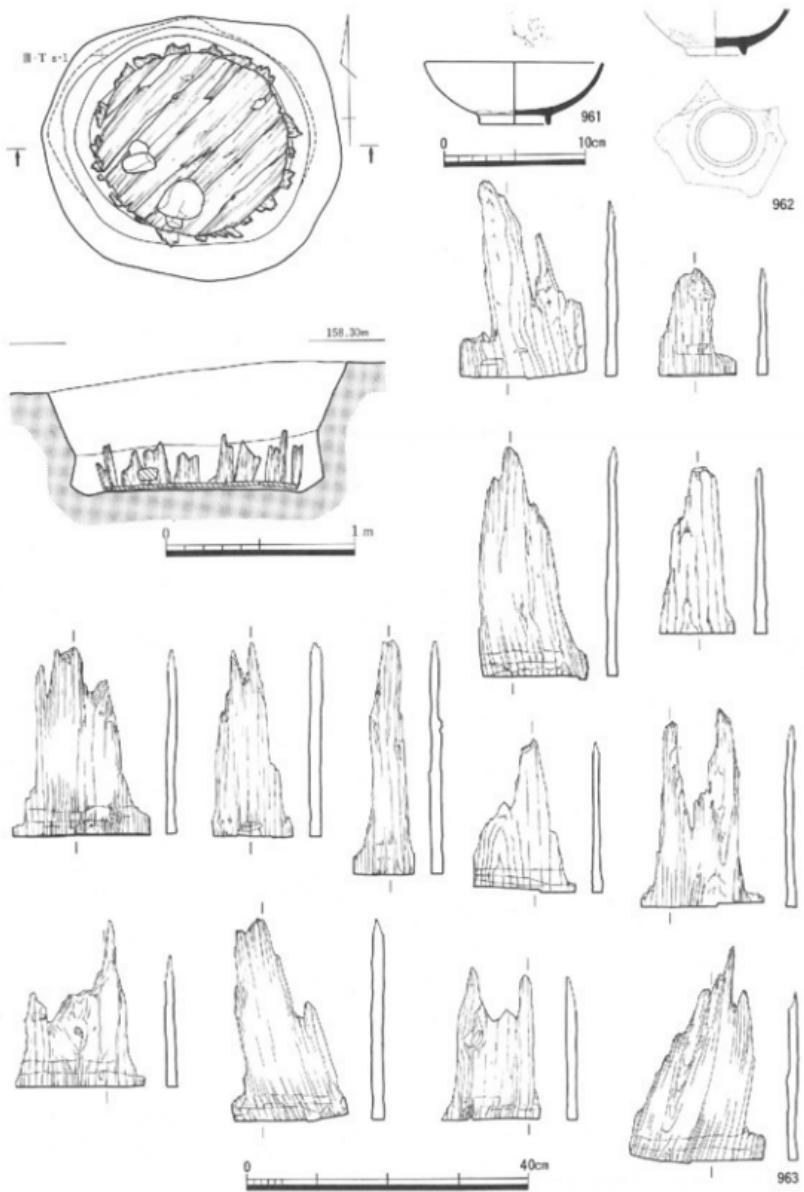


第242図 S N 4・S N 5遺構実測図 (1/30)

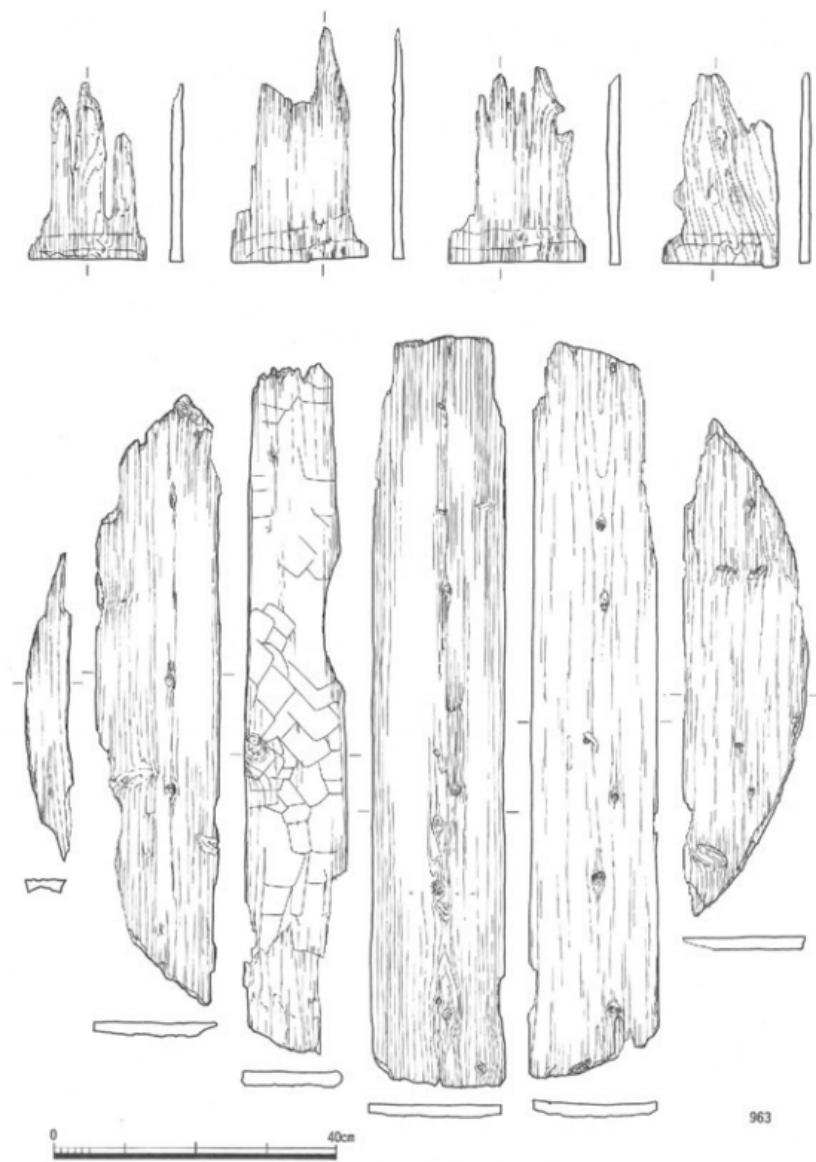
S N 4 (第242図、図版60)

【遺構】 III-N-s-16に位置し、平面形は円形を呈する。土壌はそのほとんどが削平を受けている。土壌底部には桶底部の木質が部分的に残存している。上端径1.1m、下端径0.75m、深さ0.1m。

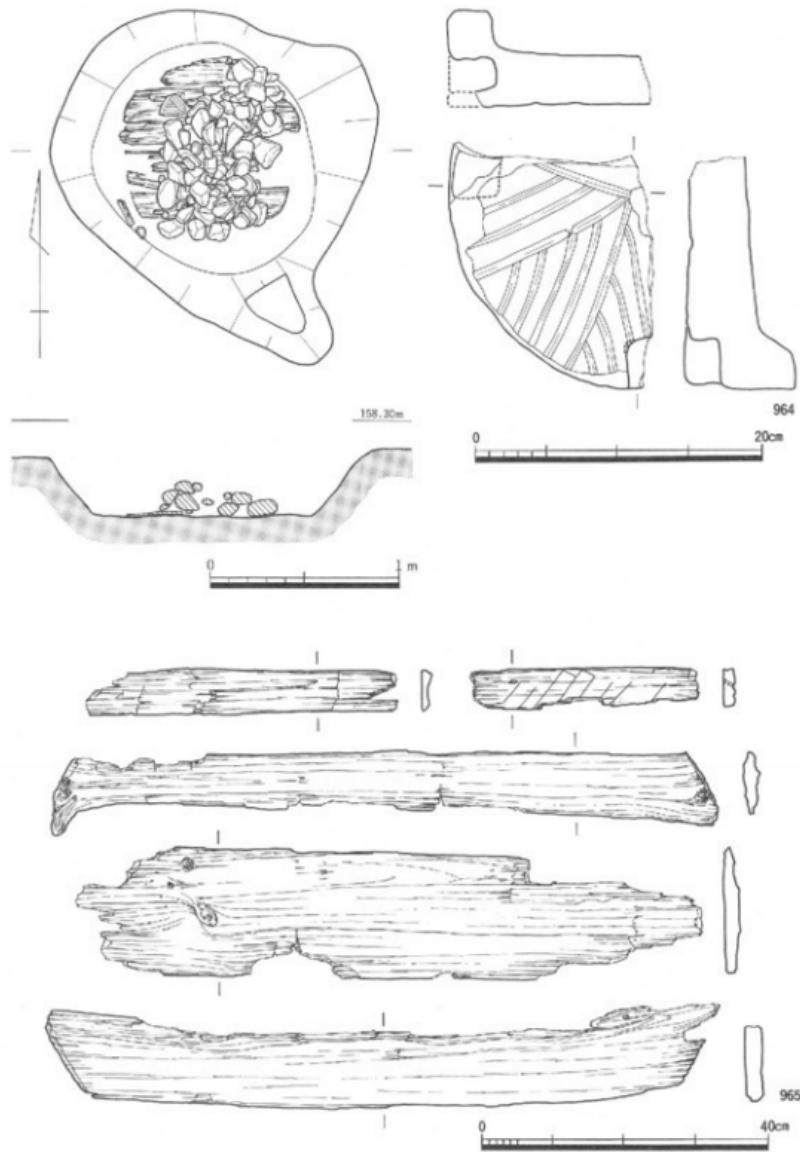
【遺物】 遺物は出



第243図 SN 6 造構 (1/30) 及び遺物 (1) 実測図



第244図 S N 6 遺物実測図 (2)



第245図 S N 7 遺構 (1/30) 及び遺物実測図

土していない。

S N 5 (第242図、図版61)

[遺構] III-T-i-2に位置し、平面形は円形を呈する。土壤はそのほとんどが削平を受けている。土壤底部には桶底部の木質が部分的に残存し、土壤内部には最大 25×15 cmの河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.25m、下端径1m、深さ0.28m。

[遺物] 遺物は出土していない。

S N 6 (第243・244図、図版44・61・131~133)

[遺構] III-S-r-1付近に位置し、平面形は円形を呈する。土壤底部には桶底部と側板の下半部が残存している。桶底部径65cm、側板残存長20cm。上端径1.6m、下端径1.15m、深さ0.7m。

[遺物] 遺物は染付碗(961・962)、桶(963)が出土している。

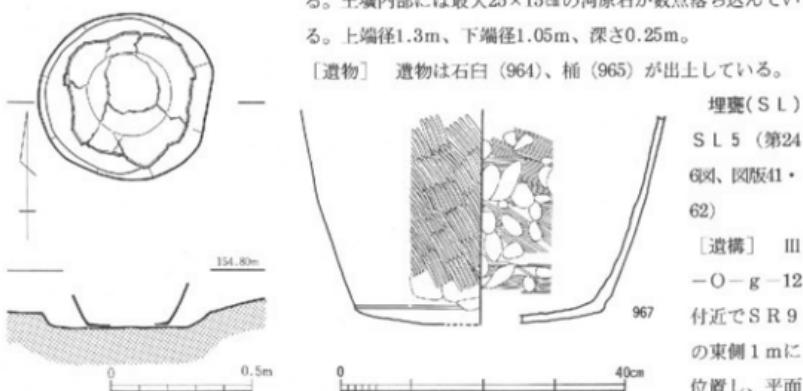
S N 7 (第245図、図版44・62)

[遺構] III-S-s-3~4付近に位置し、平面形はやや不定形な円形を呈する。土壤底部には桶底部が部分的に残存している。

第246図 S L 5 遺構 (1/20) 及び遺物実測図

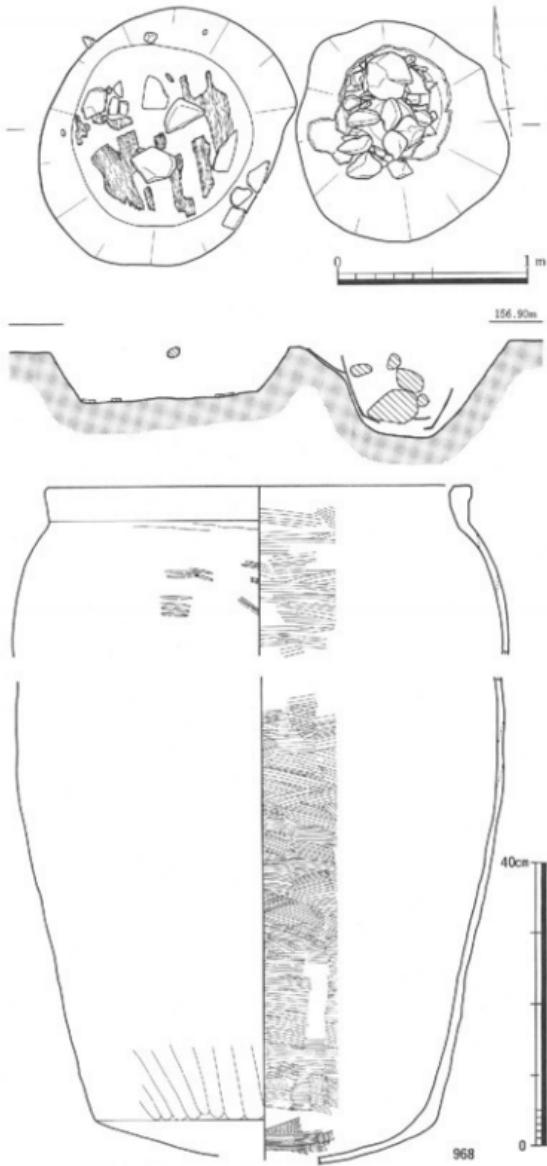
る。土壤内部には最大 25×15 cmの河原石が数点落ち込んでいる。上端径1.3m、下端径1.05m、深さ0.25m。

[遺物] 遺物は石臼(964)、桶(965)が出土している。



第247図 S L 5 遺構 (1/20) 及び遺物実測図

形は円形を呈



第248図 S N 3・S L 7 遺構 (1/30) 及び S L 7 遺物実測図

する。土壌中央に残存高8cmの甕底部が残存している。掘方上端径0.55m、下端径0.4m、深さ0.15m。

〔遺物〕 遺物は土師質甕(966)が出土している。

S L 6 (第247図、図版41・63・134)

〔遺構〕 III-O-i-14付近に位置し、平面形は円形を呈する。土壌中央に残存高15cmの甕底部が残存している。掘方上端径0.57m、下端径0.5m、深さ0.05m。

〔遺物〕 遺物は土師質甕(967)が出土している。

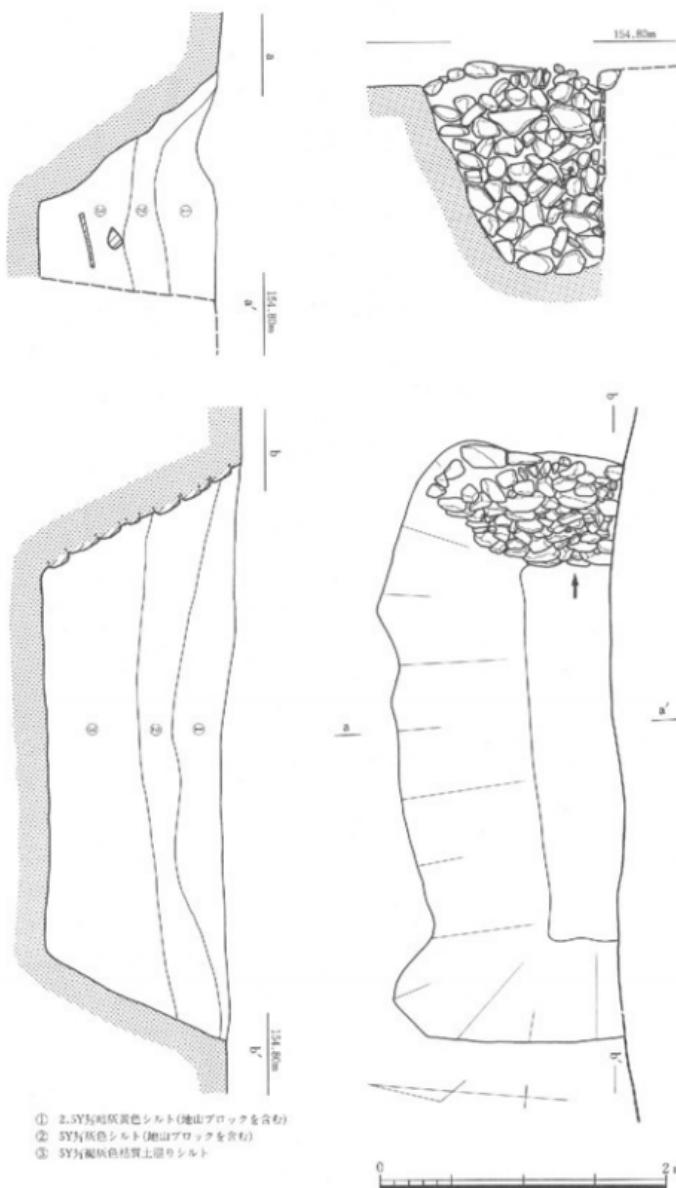
S L 7 (第248図、図版63・134)

〔遺構〕 III-O-c-18付近で、S N 3の東側に接して位置し、平面形は円形を呈する。土壌中央に残存高36cmの甕底部が残存している。甕の内部には最大35×25cmの河原石が充填されている。上端径1.0m、下端径0.35m、深さ0.5m。

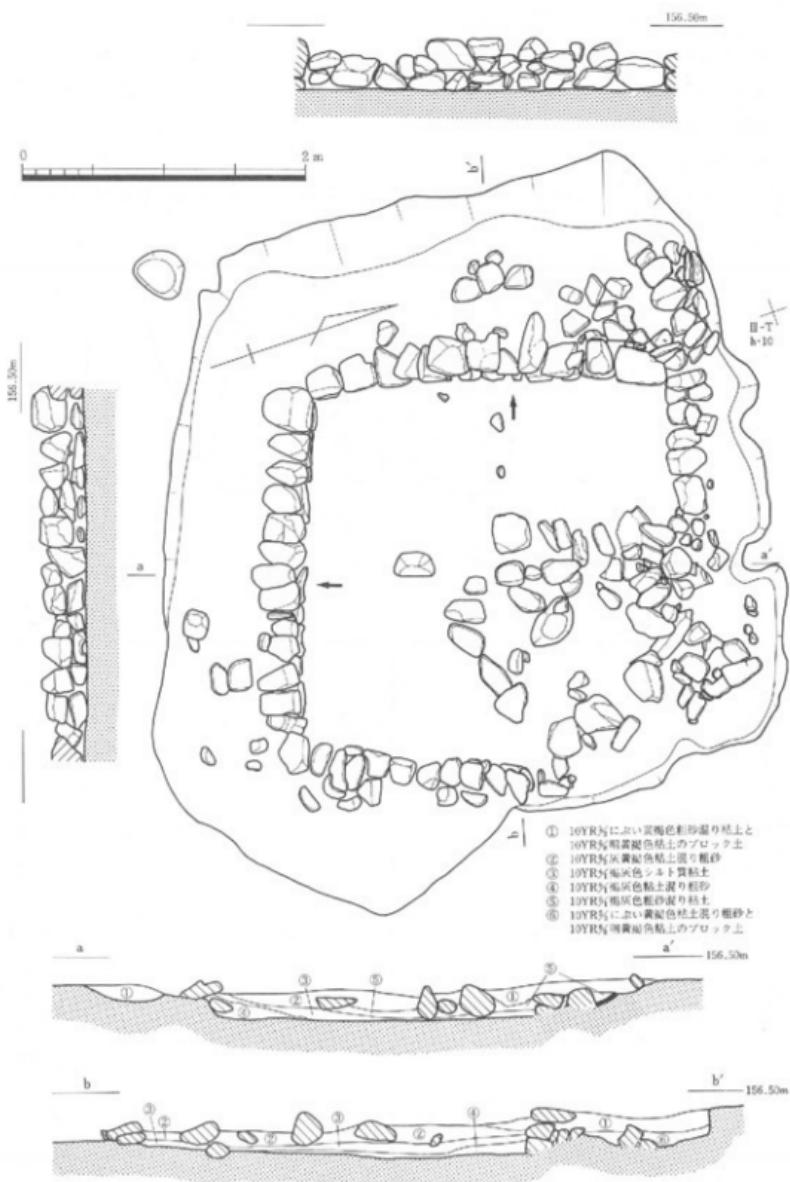
〔遺物〕 遺物は土師質甕(968)が出土している。

S L 8

〔遺構〕 III-S-q-2付近でSD215の北東側に位置し、平面形は不定円形を呈する。盗掘を受けた為、



第249図 SW 3 遺構実測図 (1/40)



第250図 SW 4 遺構実測図 (1/40)

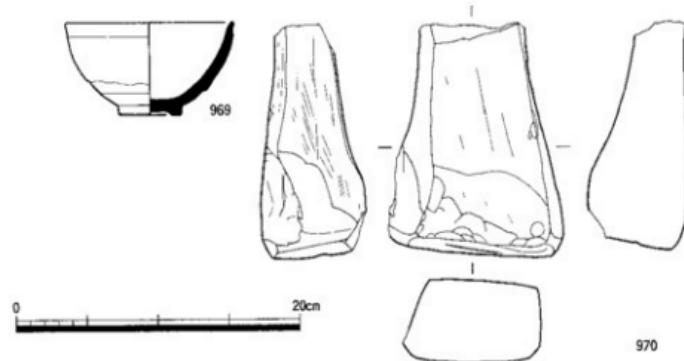
詳細は不明である。長径2.3m、短径1.85m、深さ0.26m。

〔遺物〕 遺物は不明である。

石列・石組み（S W）

S W 3 (第249図、図版64)

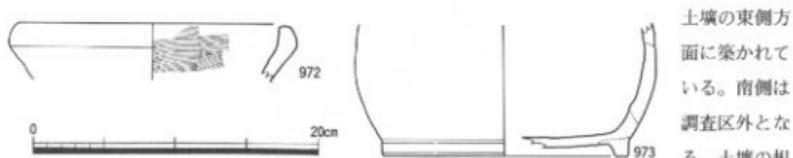
〔遺構〕 III-T-t-16付近で、S E 22の東側2mに位置し、平面形は長方形を呈する大型の



第251図 SW 4 遺物実測図



第252図 SW 5 遺構実測図 (1/40)



第253図 SW 5 遺物実測図



第254図 SW 6 遺構実測図 (1/40)

m、検出軸1.72m、深さ1.55m。石組みは高さ1.5m、傾斜角度60度、最大40×20cmの河原石により築かれている。

〔遺物〕 遺物は自然木が若干出土している。

SW 4 (第250・251図、図版43・64・134)

〔遺構〕 III-T-g～h-10付近に位置し、平面形が方形を呈する石組の遺構である。北東隅は崩壊しているが、部分的に2段の石組が残存している。石組の内面は平面を成している。これは、河原石の面を成す方を意識して積まれているようである。掘方は不定形な方形を呈している。石組みの内法は一辺2.5m、掘方の長軸5.0m、短軸4.1m、深さ0.32m、石組みの高さは0.4m。

〔遺物〕 遺物は天目茶碗(969)、土師質甕(971)、砥石(970)が出土している。

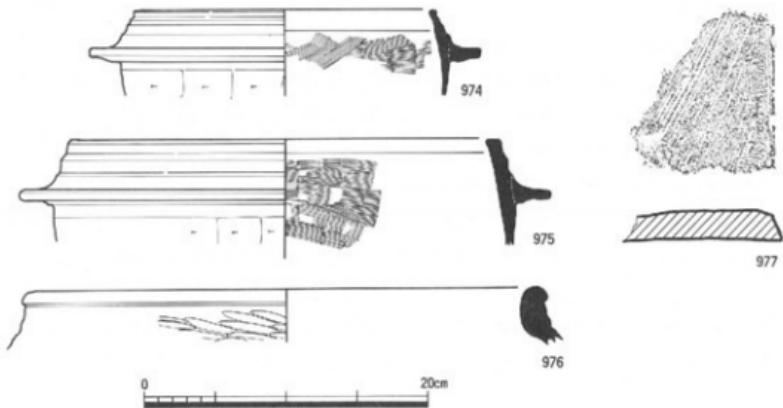
SW 5 (第252・253図、図版65)

〔遺構〕 III-T-h～i-14付近に位置し、平面形が長方形を呈する土壙の東側・北側・南側の3面の法面に築かれている。いずれも最大50×30cmのやや角ばった河原石の面を揃えて築かれている。また、北側・東面・南面の石組みの基礎には東面は長さ340cm、径14cm、南面は長さ80cm、径16cmの木材が置かれている。西側の上端には長さ500cm、径15cmの自然木が置かれている。土壙の規模は長軸が5.2m、短軸1.9m、深さ0.9m。東側石組みは上端長3.95m、下端長3.4m、高さ0.9m、傾斜角70度。南側上端長1.4m、下端長0.8m、高さ0.8m、傾斜角70度。北側上端長1.7m、下端長0.4m、高さ0.8m、傾斜角60度。

〔遺物〕 遺物は瓦質練鉢(972)、土師質火舎(973)が出土している。

SW 6 (第254・255図、図版65)

〔遺構〕 I-J-b-16付近に位置し、平面形が不定形な長方形を呈する土壙の北側の東西に築かれている。土壙は南側は調査区外に広がる。一段しか残存していないなかがいずれも最大50



第255図 SW 6 遺物実測図

×30cmのやや角ばった河原石の面を揃えて築かれている。長さ3.2m、高さ0.3m。

〔遺物〕 遺物は瓦質羽釜（974・975）、瓦質甕（976）、平瓦（977）が出土している。

窯状遺構（S Y）

S Y 8（第256～258、図版66・134）

〔遺構〕 III-Y-d-1付近に位置し、平面形が不定形な長方形を呈する竈窯状の瓦窯と考えられるが、崩壊が激しく、詳細は不明である。長さ5.9m、幅2.8m、焼成部は3.8m、焼成部の傾斜角20度、主軸方向N-37°-Wである。

残存状態は悪く床面が若干残る程度である。また、窯内には近世瓦類や土器類が堆積しており、これらは二次的な廃棄で埋められたようである。

〔遺物〕 遺物は軒丸瓦（980）、軒平瓦（981・982）、丸瓦（983・984）、平瓦（988）、熨斗瓦（985～987）、棟瓦（989・990）、施釉陶器鉢（978）、土製ミニチュア人形（991）、曲物底部（979）が出土している。

その他（S X）

S X 13（第259図、図版43・45・67・135・136）

〔遺構〕 III-T-d-1付近に位置する土器窯である。土器類はS D232の埋土上位に分布する。範囲は長径1.5m、短径1mである。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（992～1012）を中心で、瓦質小皿（1013・1014）、瓦器塊（1015～1022）、白磁皿（1023）が出土している。

自然地形（N V）

N V 5（第260～263図、図版66・136～138・150）

〔遺構〕 III-T-Y-c-f-16～1付近に位置する池状の遺構である。この遺構はS Y 8の位置する当遺跡の内では最上段になるテラス状地形の裾部分に開削されている。埋土は上層と下層に分層でき上層（1～3）からは近世土器類、下層（4・5）からは瓦器類が出土している。

〔遺物〕 遺物は下層から土師質小皿（1024・1025）、土師質高台部（1026）、瓦器小皿（1027）、瓦器塊（1028・1029）、天目茶碗（1030）、瓦質羽釜（1031）、瓦質甕（1032・1033）、瓦質火舎（1034・1035）、木製把手（1036）、木製不明製品（1037・1038）が出土している。

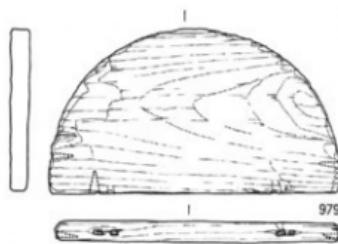
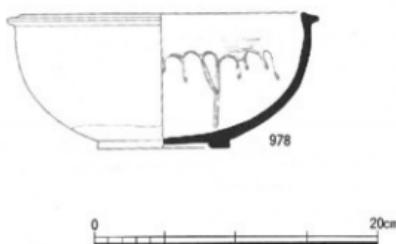
上層からは染付碗（1039～1051）、青磁碗（1052）、土師質炮烙（1055～1057）、土師質火舎（1053・1054）、土師質皿（1058～1060）、青磁皿（1061）、染付皿（1065）、染付筒茶碗（1064）、鉄釉蓋（1063）、施釉陶器碗（1062・1067～1071）、おろし皿（1066）、不明木製品（1072・1074・1075～1078）、曲物底部（1073）、木製荷札（1079）、陶器壺（1080・1081）、備前鋸鉢（1082）、平瓦（1083）、鉄製五徳（1084）、鉄製鋤先（1085）、不明銅製品（1088）、きせる雁首（1089）、刃子（1090）、土製ミニチュア仏像（1086）、土製ミニチュア人形（1087）が出土している。



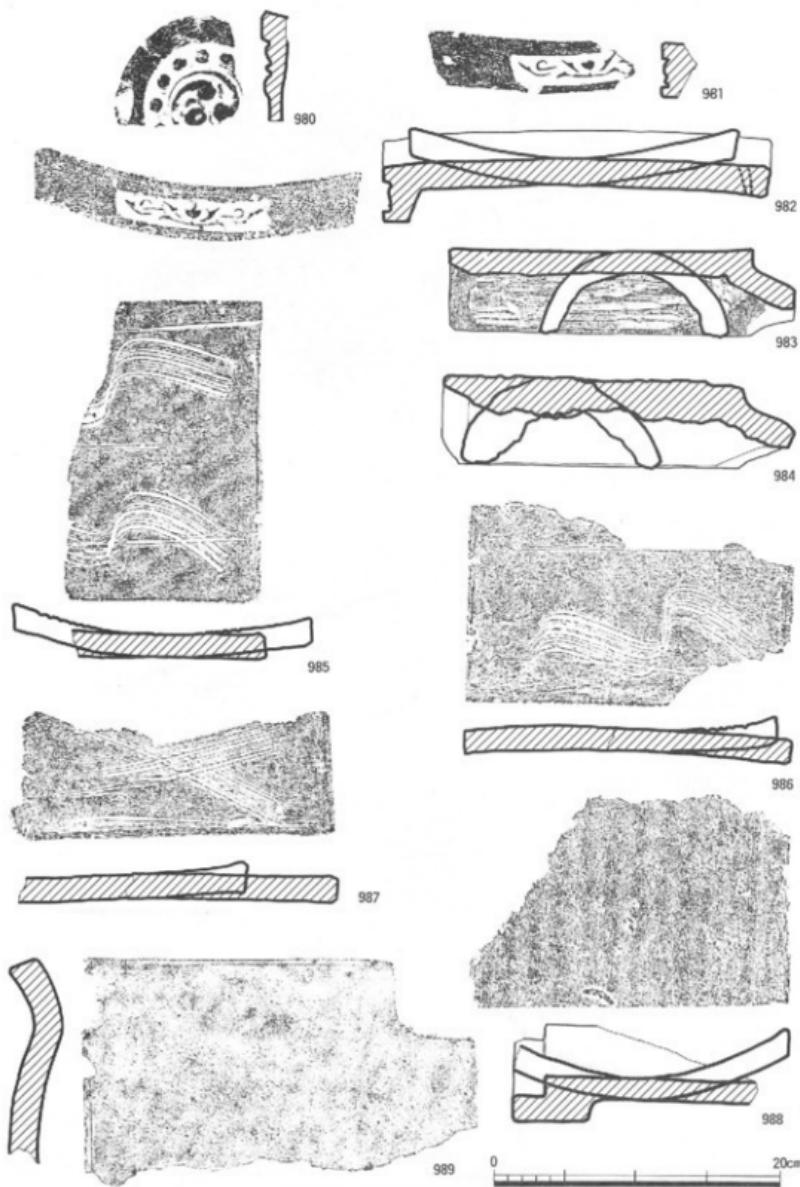
160.10m



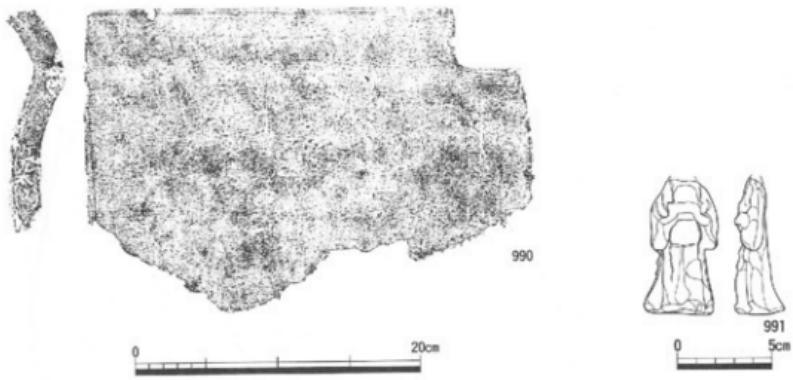
1.5m



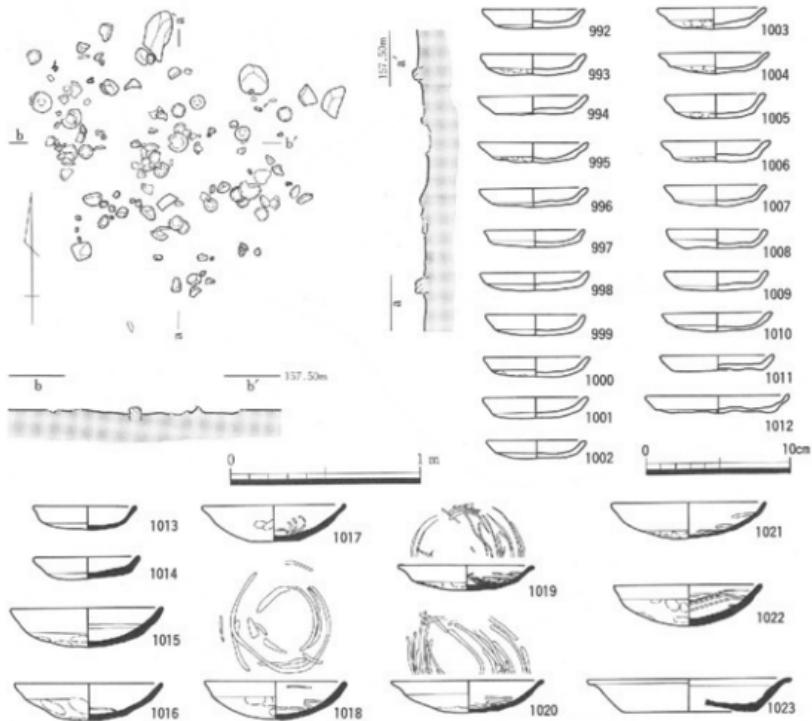
第256図 SY 8遺構(1/50) 及び遺物(1)実測図



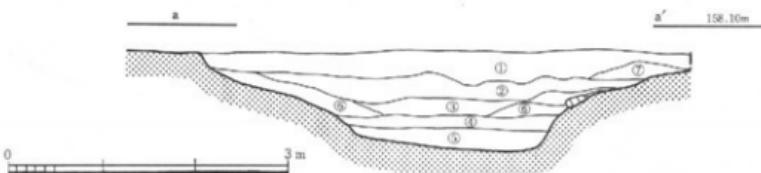
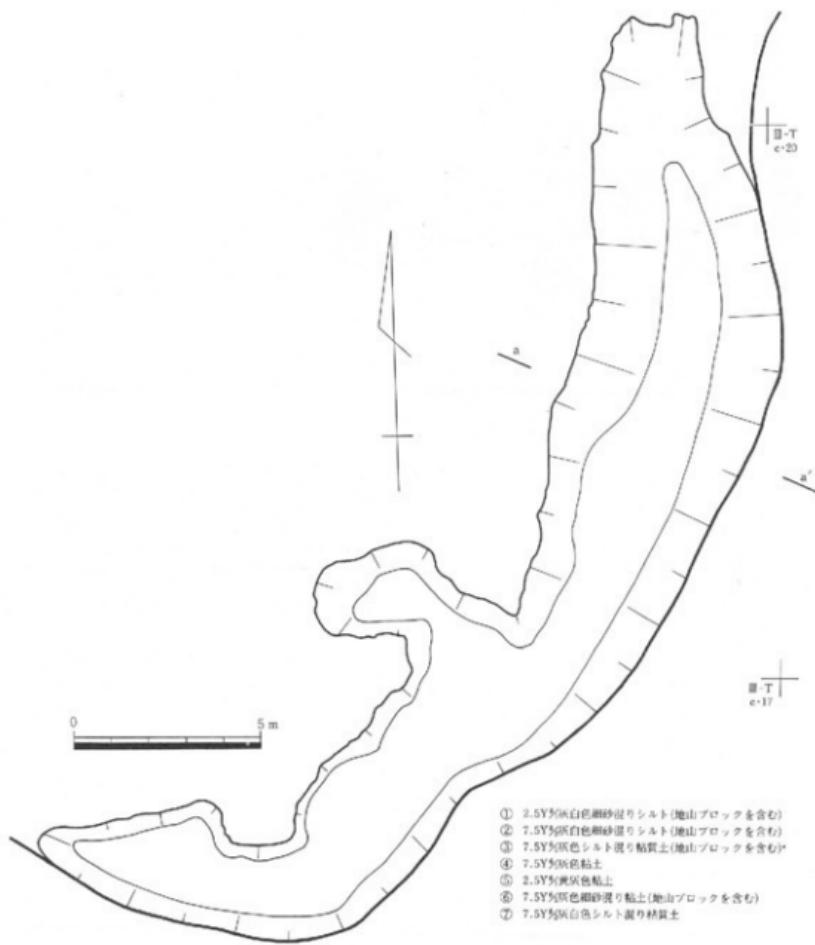
第257図 SY 8 遺物実測図 (2)



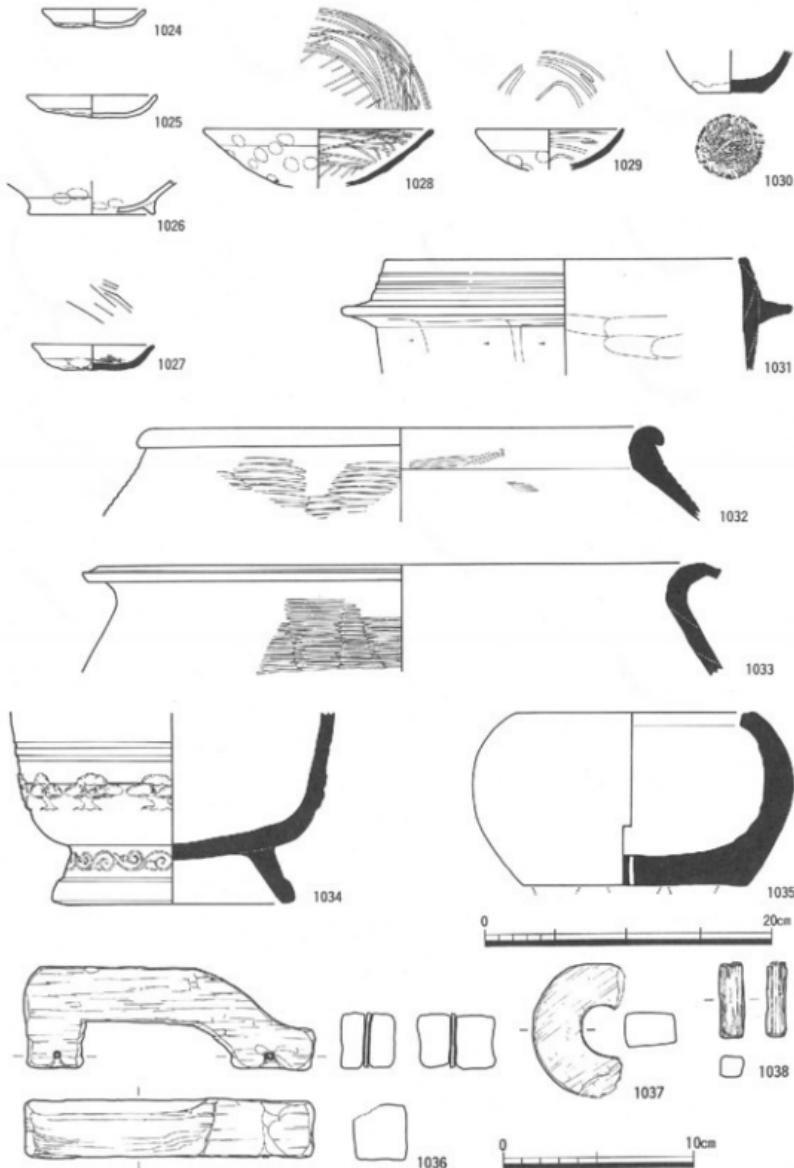
第258図 S Y 8 遺物実測図 (3)



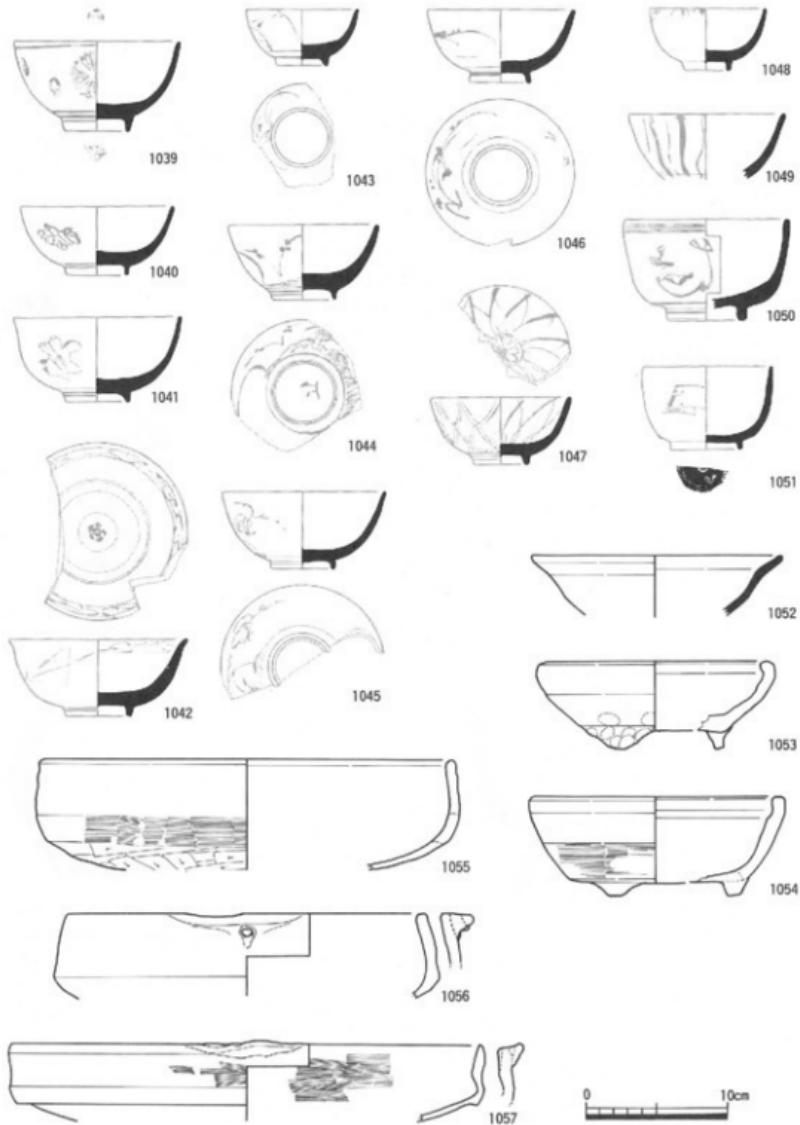
第259図 S X 13遺構 (1/30) 及び遺物実測図



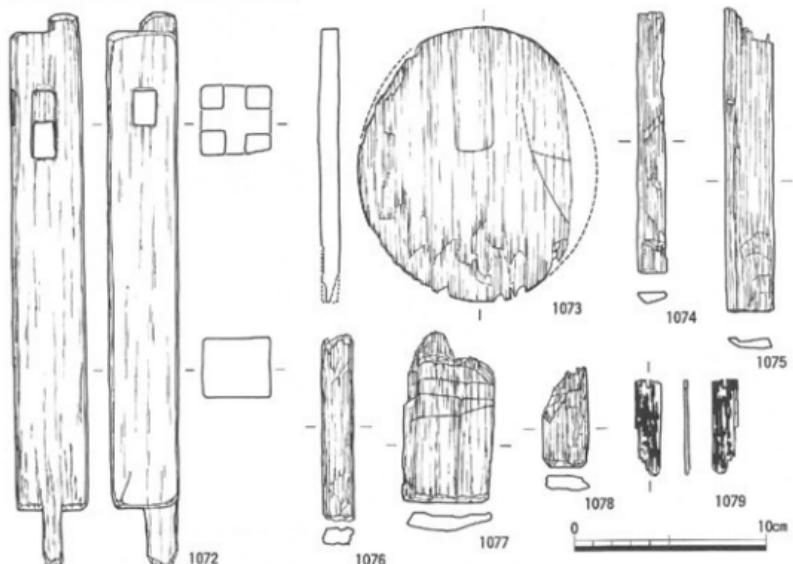
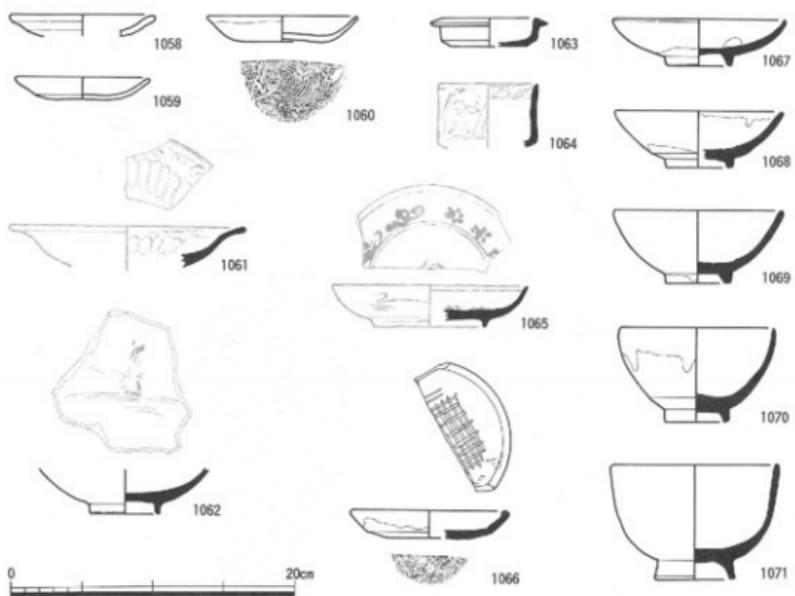
第260図 NV 5 遺構実測図 平面 (1/150)・断面 (1/60)



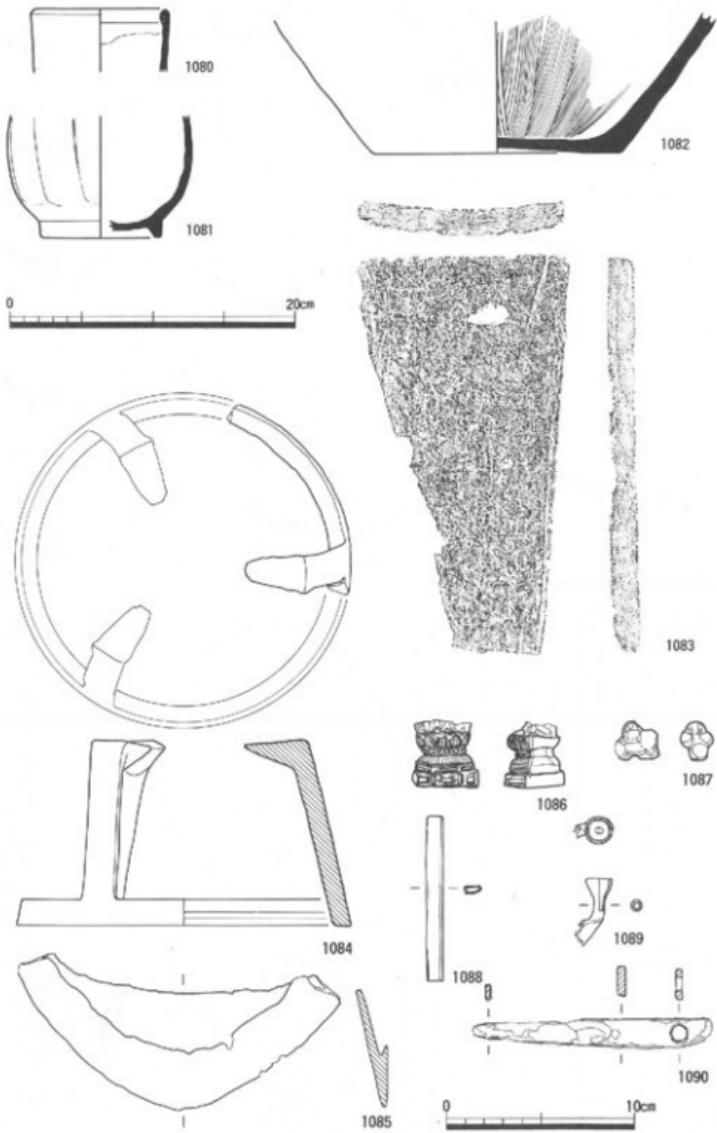
第261図 NV 5 遺物実測図 (1)



第262図 N V 5 遺物実測図 (2)



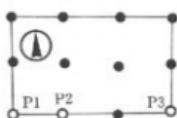
第263図 NV 5 遺物実測図 (3)



第264図 NV5 遺物実測図 (4)

第6節 6地区

1. 概略(付図8)



3地区の東側に接する調査区で大きくは3地区に隣接する部分と一段さがった中世から近世の寺院跡とに分けることができる。

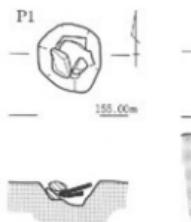
2. 遺構、遺物

建物(SB)

S B 53(第265図、図版67)



〔遺構〕 III-N-j～k-4～5付近に位置する。主軸方向はN-85°-Wを示し、桁行3間(6.8m)×梁行2間(4.8m)



の建物である。柱穴のP 1～3内には平瓦が詰っている。柱間は桁行2.3m、梁行は2.4m。柱穴の径0.3m、深さ0.2m、柱痕径0.1m。

〔遺物〕 遺物は土器器塊(1091)、軒

第265図 S B 53遺構図・ピット内遺物出土状況図・遺物実測図

丸瓦(1092)が出土している。

S B 57(第266図、図版68)

〔遺構〕 III-O-j～k-4付近に位置する。主軸方向N-3°-Eを示し、桁行5間(9.3m)×梁行2間(4.8m)に、西側に幅1.5mの庇が付く。南東隅の柱穴は削平されており、更に南側桁行中央の柱穴が若干西側にずれている。柱間は桁行1.7m、梁行は2.2m。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

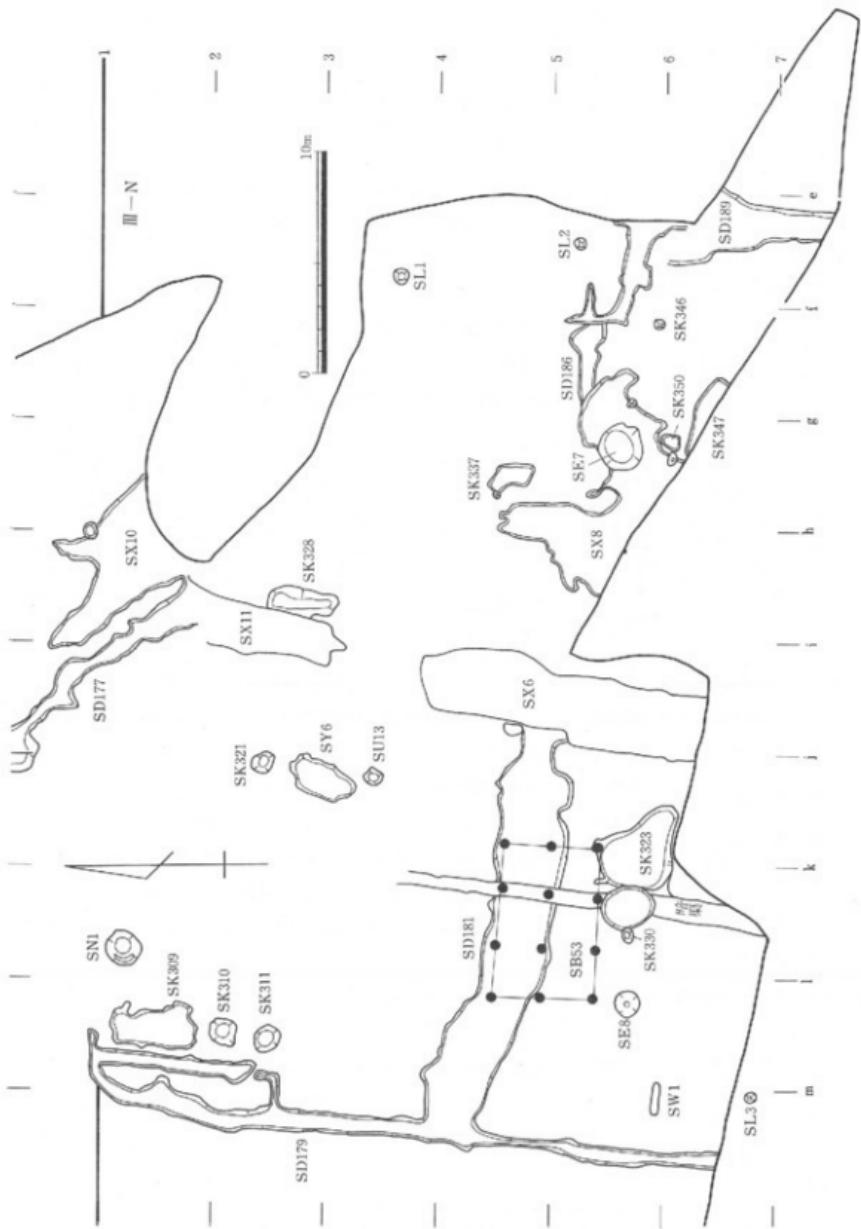
第266図 S B 57遺構図「遺物」 図示可能な遺物は出土していない。

S B 78(第267図)

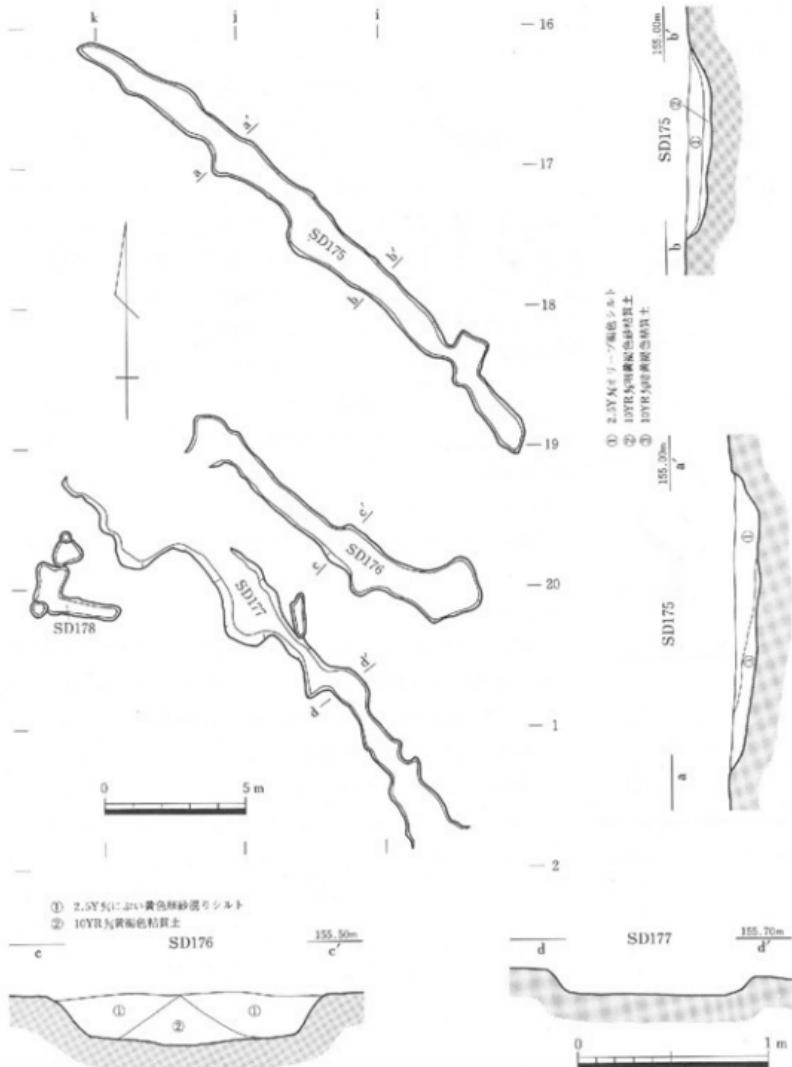
〔遺構〕 III-M-h～i-18～19付近に位置する。主軸方向N-27°-Eを示し、桁行2間(5.4m)×梁行2間(4.2m)である。北西隅の柱穴は削平されている。柱間は桁行2.7m、梁行は2.1m。柱穴の径0.5m、深さ0.3m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

第267図 S B 78遺構図



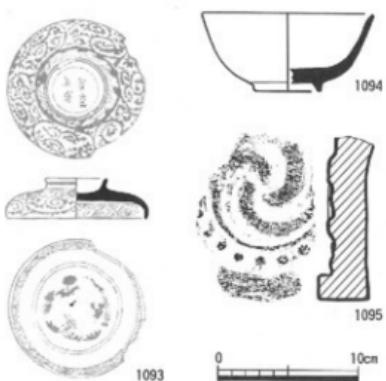
第268図 6地区III-N遺構配置図 (1/250)



第269図 SD175・SD176・SD177遺構実測図 平面(1/200)・断面(1/30)

S D 175 (第269図、図版68)

〔遺構〕 III-I-h～j-16～18付近に位置する。約45度西に振って直線的に約21.4m走る。



第270図 S D 177遺物実測図

最大1.85m、下端幅1.5m、深さ0.16m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。
S D 176 (第269図、図版68)

〔遺構〕 III-I-h～j-18～20付近でS D 175の南側6mに位置し、平行して走るようである。約45度西に振って直線的に約12m走る。最大2.6m、下端幅2.3m、深さ0.16m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。
S D 177 (第269・270図、図版68)

〔遺構〕 III-I-N-h～i-20～1付近でS D 176の南側3mに位置し、平行して走るようである。検出長13.4m、上端幅2.3m、下端

幅1.5m、深さ0.13m。

〔遺物〕 遺物は染付蓋（1093）、施釉陶器（1094）、軒丸瓦（1095）が出土している。

S D 178 (図版68)

〔遺構〕 III-I-k-19～20付近に位置する。平面形が北側へ1.9mと東側3.3mに曲るL型の溝である。溝内には最大50×30cmの河原石が落ち込んでいる。上端幅1.15m、下端幅0.6m、深さ0.35m。

〔遺物〕 図示可能な遺物は出土していない。

S D 179 (第271図、図版68・140・150)

〔遺構〕 III-N-m-1～6付近に位置する。約5度西に振って直線的に走る溝である。m-5付近でS D 181を切っている。一部

2段掘りの部分もあり、溝内には最大50×40cmの河原石が落ち込んでいる。上端幅1.15m、下端幅0.4m、深さ0.15m。

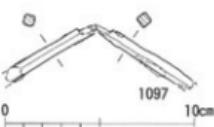
〔遺物〕 遺物は染付の从具（1096）、不明角状鉄製品（1097）が出土している。

S D 181 (第272・273図、図版67・69・140・150)

〔遺構〕 III-N-j～l-4付近に位置する。約20度北に振って東西に直線的に走



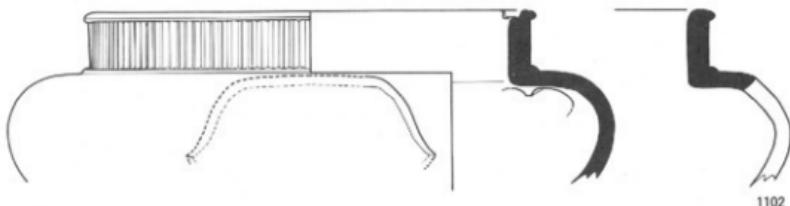
0 10cm



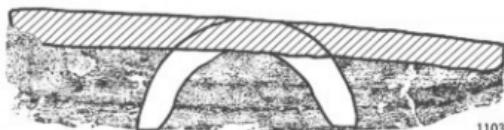
0 10cm



第271図 S D 179遺物実測図



1102



1103



1104



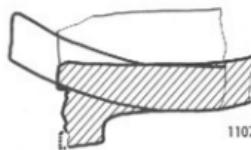
1105



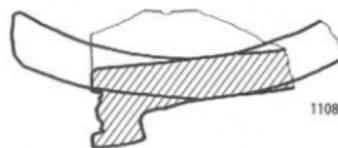
1106



1107



1108



0 20cm

第273図 SD181遺物実測図 (2)

る溝である。この溝は S B53を切っている。i ~ k付近では長さ7.9m、幅2.3m、深さ0.25mに一段落ち込んでおり、付近には瓦が多数埋まっている。また、一部、焼土も見られる。上端幅3.2m、下端幅3 m、深さ0.3m。



第275図 SD 200遺構実測図 (1/60)

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(1098)、瓦器塊(1099)、鉄釘(1100・1101)、瓦質風炉(1102)、軒丸瓦(1105)、軒平瓦(1107・1108)、丸瓦(1103・1104)、平瓦(1106)が出土している。

S D 186 (第274図、図版69・150)

〔遺構〕 III-N-f-5付近に位置し、東西に直線的に走る溝である。この溝の西側と東側は他の遺構によって削平されている。溝内部から瓦が出土している。検出長3.17m、上端幅1.54m、下端幅0.9m、深さ0.14m。

〔遺物〕 遺物は鉄釘(1109)が出土している。

S D 200 (第275図)

〔遺構〕 III-N-m~n-14~15付近に位置する。約50度東に振って直線的に走る溝である。溝内には最大70×50cmの河原石が埋まっている。上端幅1.3m、下端幅1.1m、深さ0.15m。

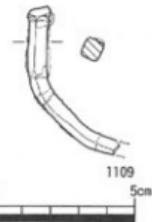
〔遺物〕 実測可能な遺物は出土していない。

井戸 (S E)

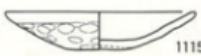
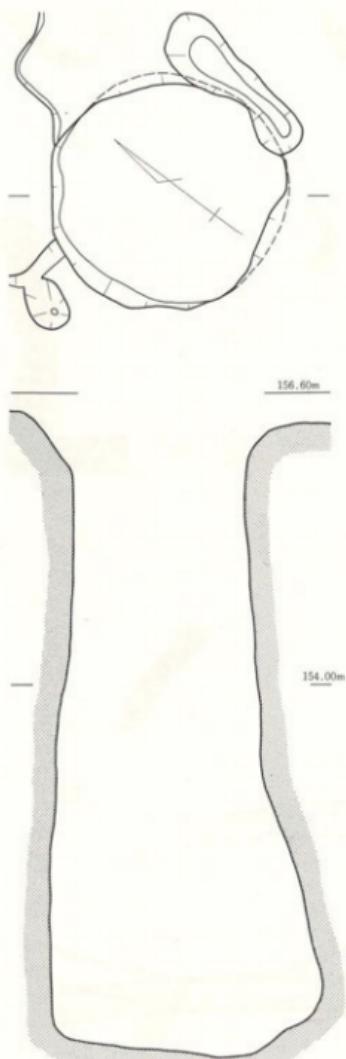
S E 7 (第276~281図、図版69・70・139~144・150)

〔遺構〕 III-N-q-5付近に位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。素掘りの井戸としては当遺跡の中では最大規模のものである。埋土中には焼土、炭化物、焼木、二次的に火を受けた上器類、瓦類、更に木製品などが多量に出土し、火災を受け、物を埋めたようである。上端径2.15m、下端径2.4m、深さ5.65m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿(1110~1114)、土師質皿(1115)、瓦器皿(1116~1118・1130)、瓦質小



第274図 SD 186
遺物実測図



1114



1119



1120



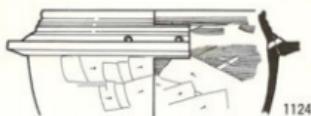
1121



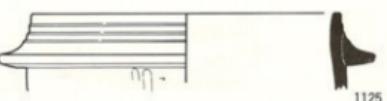
1122



1123



1124



1125



1126

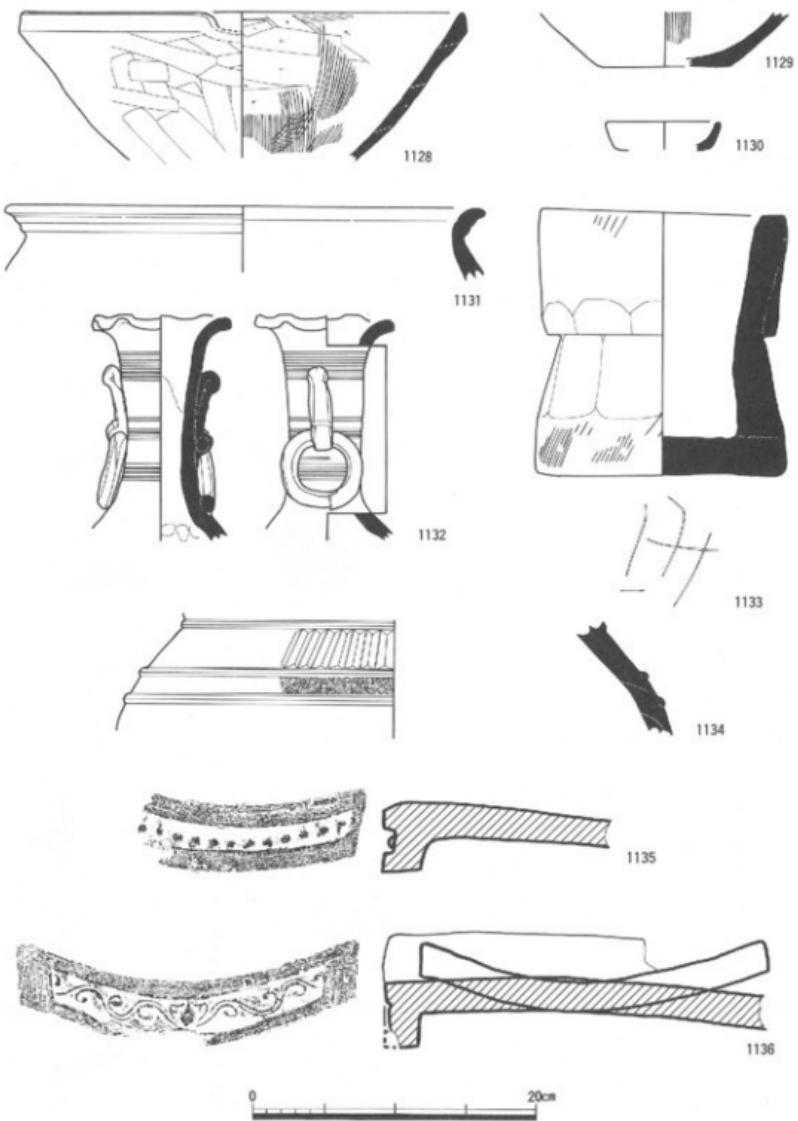


1127

0 1 2 m

0 1 20cm

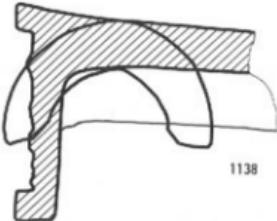
第276図 SE 7 遺構 (1/50) 及び遺物 (1) 実測図



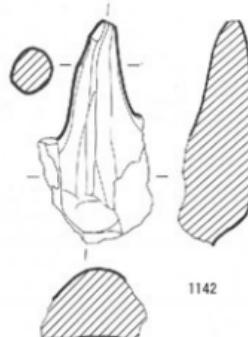
第277図 S E 7 遺物実測図 (2)



1137



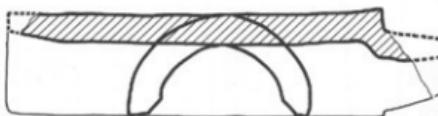
1138



1142



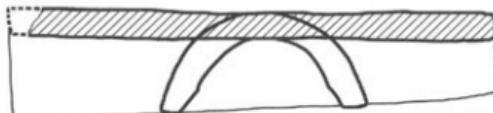
1139



1140



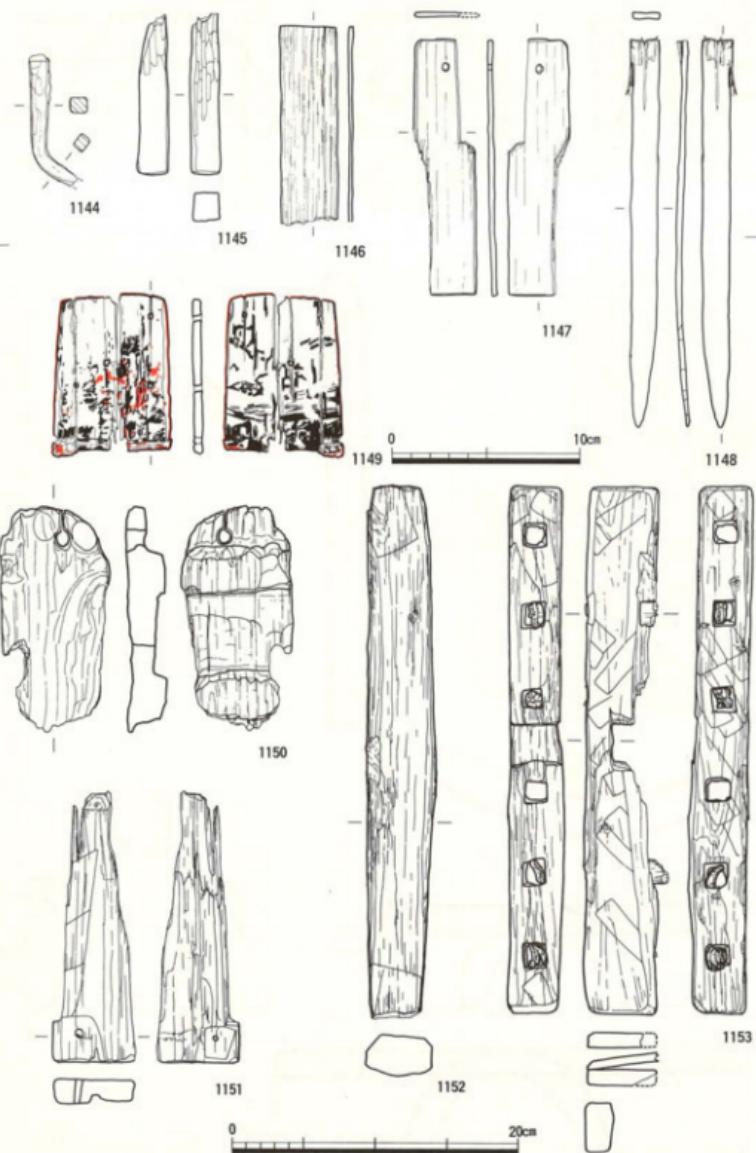
1141



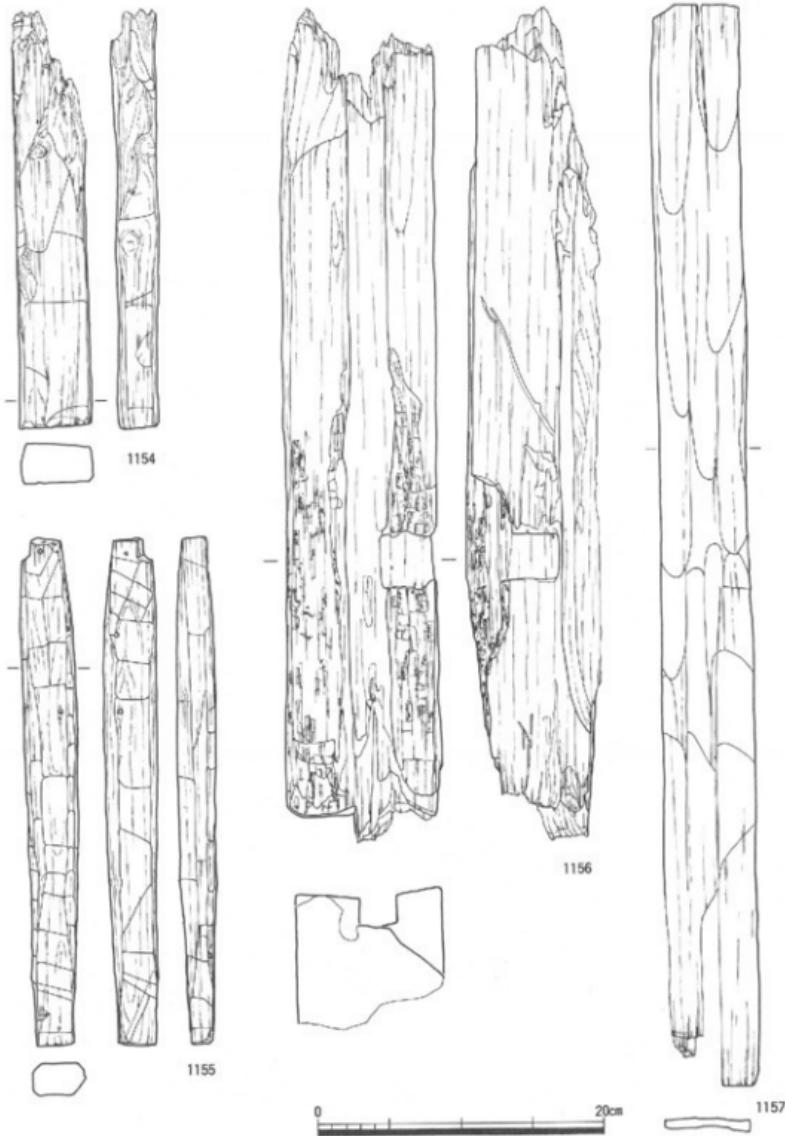
1141



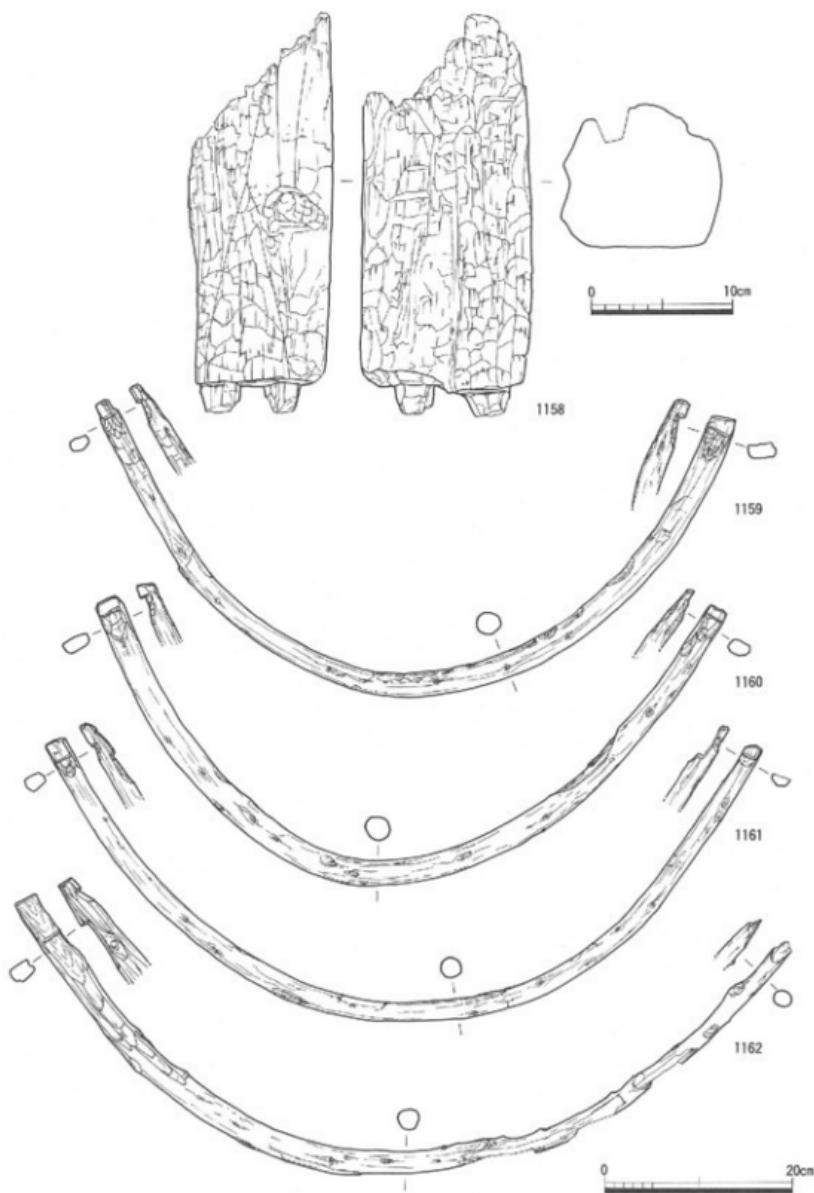
第278図 S E 7 遺物実測図 (3)



第279図 S E 7 遺物実測図 (4)



第280図 S E 7 遺物実測図 (5)

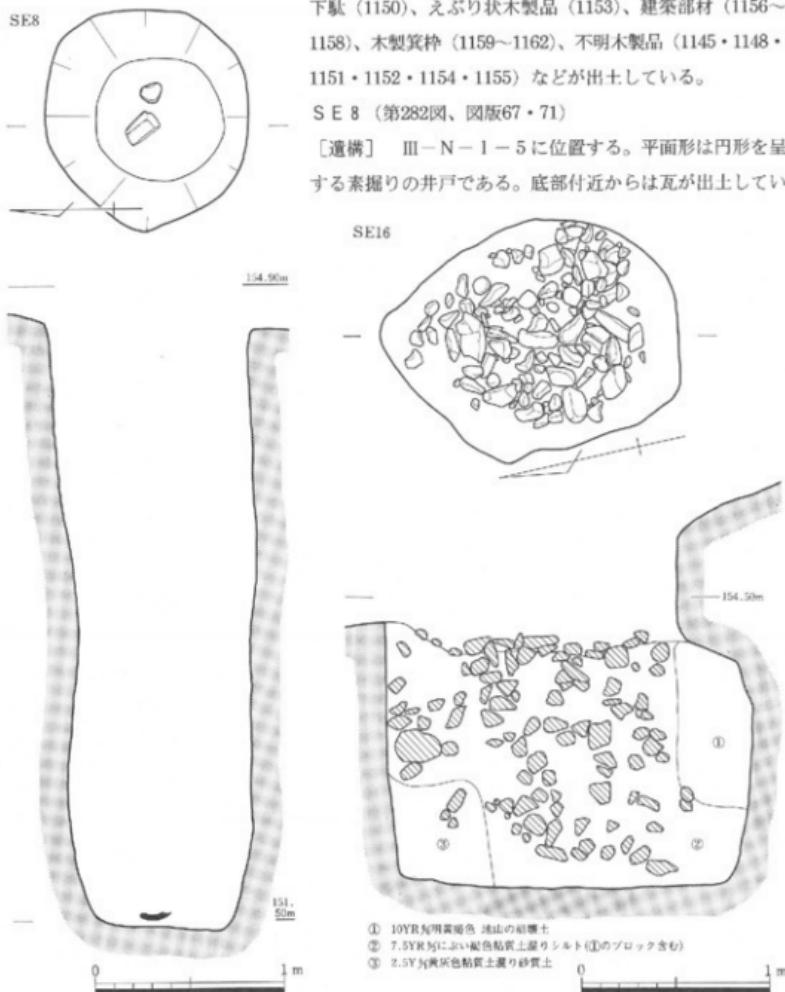


第281図 S E 7 遺物実測図 (6)

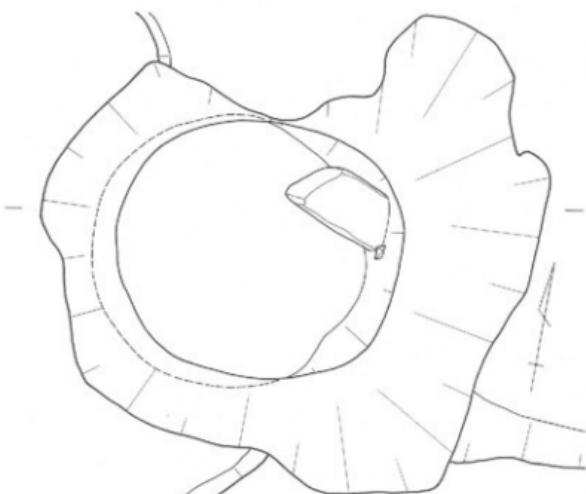
型塊（1121）、瓦器塊（1119）、白磁碗（1120）、瓦質羽釜（1124～1126）、瓦質搗鉢（1128・1129）、備前窯（1131）、瓦質不明製品（1127）、瀬戸花瓶（1132）、瓦質火呑（1133・1134）、軒平瓦（1135・1136）、軒丸瓦（1137・1138）、平瓦（1139）、丸瓦（1140・1141）、鬼瓦（1142・1143）、鉄釘（1144）、木製品では漆器椀（1122・1123）、漆塗り板状製品（1149）、板状製品（1146・1147）、下駄（1150）、えぶり状木製品（1153）、建築部材（1156～1158）、木製箕枆（1159～1162）、不明木製品（1145・1148・1151・1152・1154・1155）などが出土している。

S E 8 (第282図、図版67・71)

〔遺構〕 III-N-1-5に位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。底部付近からは瓦が出土してい



第282図 S E 8・S E 16遺構実測図 (1/30)



る。上端径1.7m、下端径0.6m、深さ3.23m。

〔遺物〕 遺物は丸瓦が出土している。

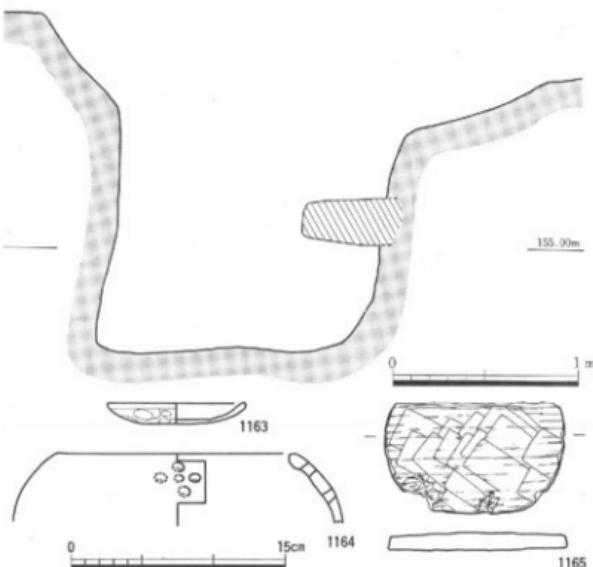
S E 16 (第282図、図版72)

〔遺構〕 III-O-e-11に位置する。平面形は椭円形を呈する素掘りの井戸である。内部に最大20×10cmの河原石が入っている。井戸東側は一部、側面が崩壊している。長径1.59m、短径1.31m、深さ1.34m。

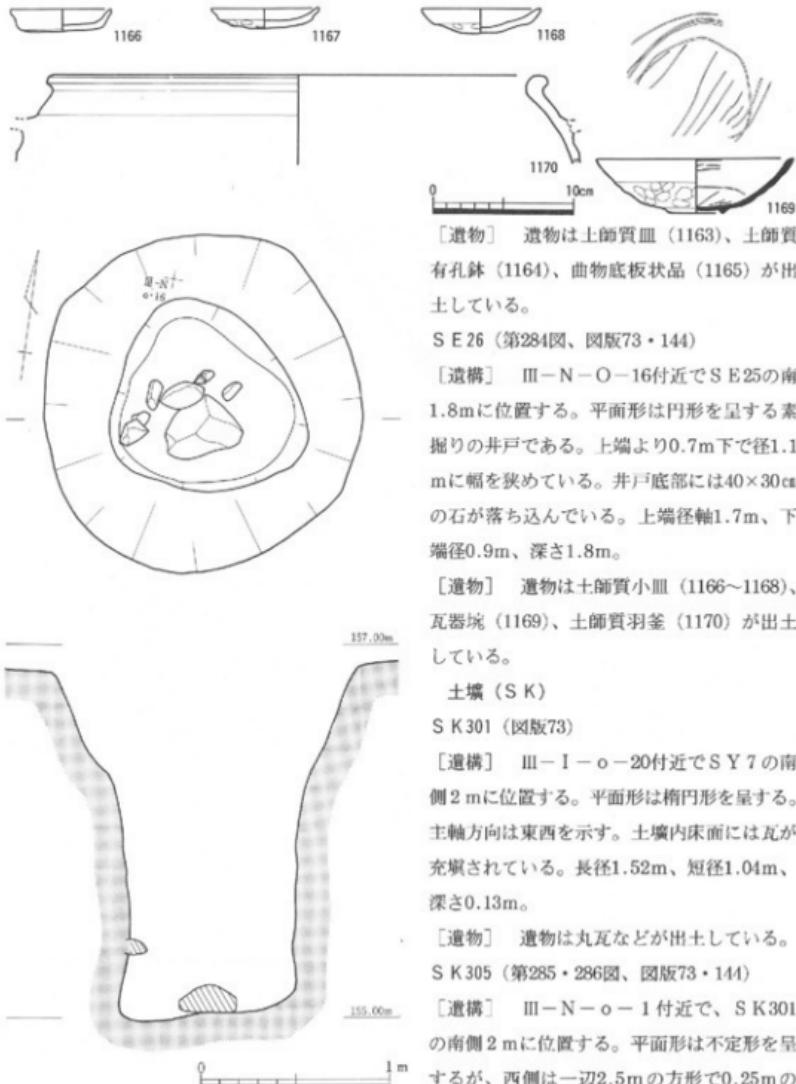
〔遺物〕 実測可能な遺物は出土していない。

S E 25 (第283図、図版72・144)

〔遺構〕 III-N-h～o-15に位置する。平面形は不定円形を呈する素掘りの井戸である。平面形は不定円形であるが、上端より0.5m下で径1.5mの円形の掘方となっている。井戸中位に地山から40×20cmの石が露呈している。長軸2.8m、短軸1.8m、下端径1.45m、深さ1.85m。



第283図 S E 25遺構 (1/30) 及び遺物実測図



〔遺物〕 遺物は土師質皿（1163）、土師質有孔鉢（1164）、曲物底板状品（1165）が出土している。

S E 26 (第284図、図版73・144)

〔遺構〕 III-N-O-16付近でS E 25の南1.8mに位置する。平面形は円形を呈する素掘りの井戸である。上端より0.7m下で径1.1mに幅を狭めている。井戸底部には40×30cmの石が落ち込んでいる。上端径軸1.7m、下端径0.9m、深さ1.8m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（1166～1168）、瓦器焼（1169）、土師質羽釜（1170）が出土している。

土壤 (SK)

SK 301 (図版73)

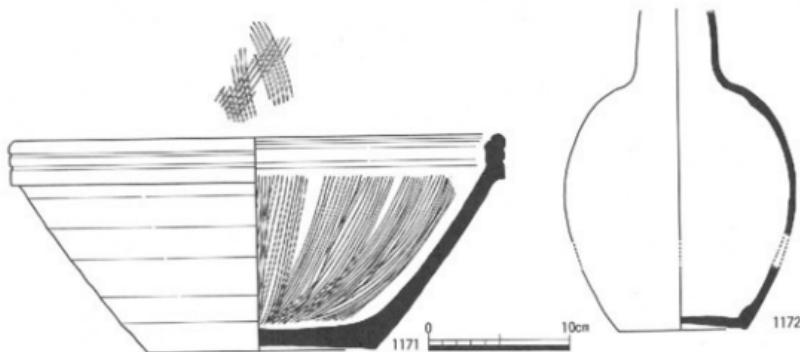
〔遺構〕 III-I-o-20付近でS Y 7の南側2mに位置する。平面形は楕円形を呈する。主軸方向は東西を示す。土壤内床面には瓦が充填されている。長径1.52m、短径1.04m、深さ0.13m。

〔遺物〕 遺物は丸瓦などが出土している。

SK 305 (第285・286図、図版73・144)

〔遺構〕 III-N-o-1付近で、SK 301の南側2mに位置する。平面形は不定形を呈するが、西側は一辺2.5mの方形で0.25mの深さに一段落ちている。東側も不定形で0.1mの深さに落ち込んでいる。いずれも瓦が充填されている。長軸6.5m、短軸4.35m、深さ0.29m。

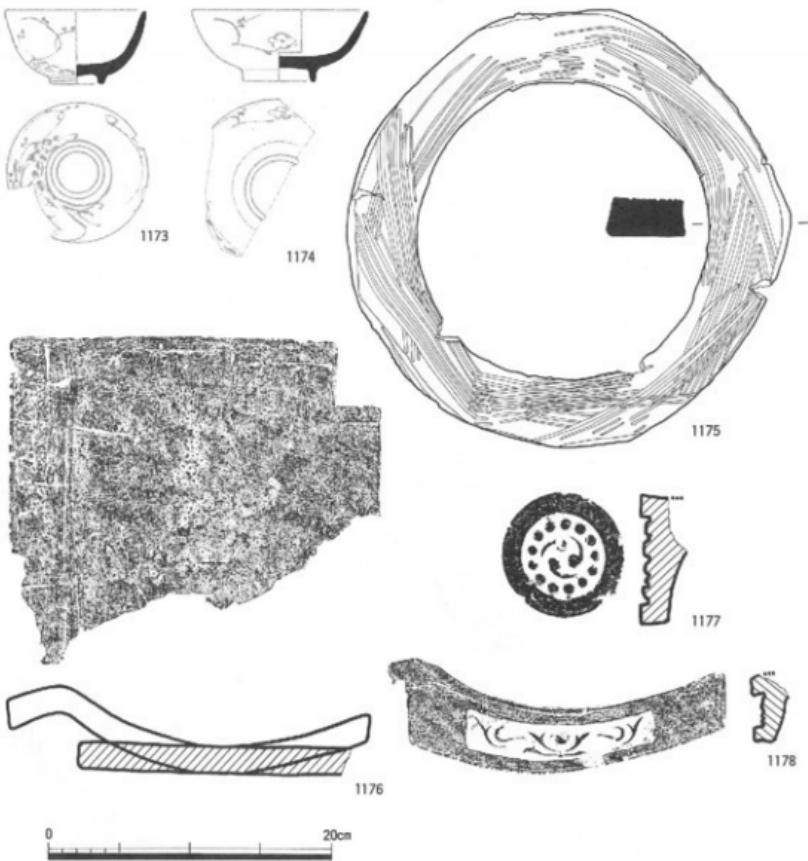
〔遺物〕 遺物は備前摺鉢（1171）、施釉陶器德利（1172）、染付碗（1173・1174）、瓦質不明製品（1175）、軒丸瓦（1177）、軒平瓦（1178）、棟瓦（1176）などが出土している。



- ① 5YR 5n に近い赤褐色シルト(礫土を含む)
 ② 2.5Y 为黄褐色粘土
 ③ 2.5Y 为オリーブ褐色シルト(炭化物を含む)
 ④ 10YR 5n に近い黄褐色砂砾混りシルト(炭化物を多量に含む)
 ⑤ 7.5GY 3/4 時様褐色粘土
 ⑥ 7.5YR 4/6 褐色粗砂砾混りシルト(漆のブロックを含む)



第285図 S K 305遺構 (1/50) 及び遺物 (1) 実測図



第286図 S K 305遺物実測図（2）

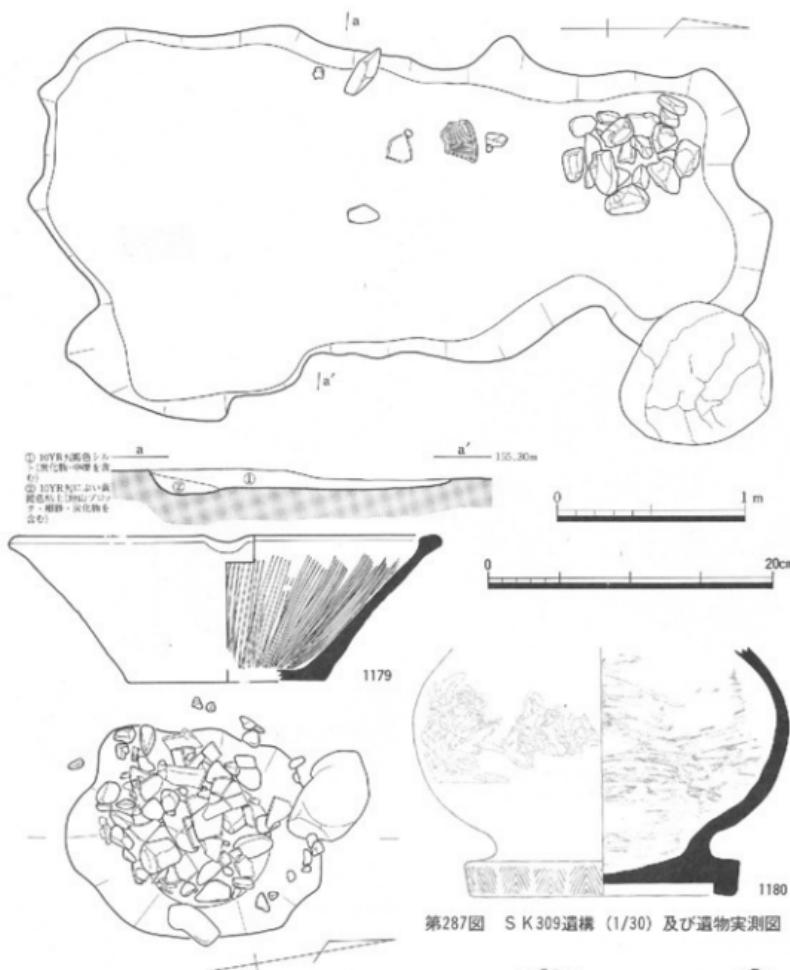
S K 309（第287図、図版68・74・144）

〔遺構〕 III-N-1-1に位置する。平面形は不定形な長椭円形を呈する。土壌の北側からは河原石とともに摺鉢、施釉陶器などが出土している。長径3.9m、短径1.62m、深さ0.27m。

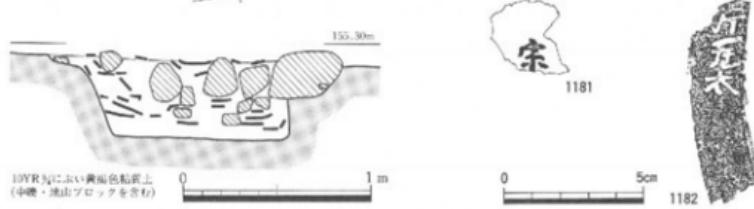
〔遺物〕 遺物は緑釉花瓶（1180）、備前摺鉢（1179）などが出土している。

S K 310（第288・289図、図版68・74・144）

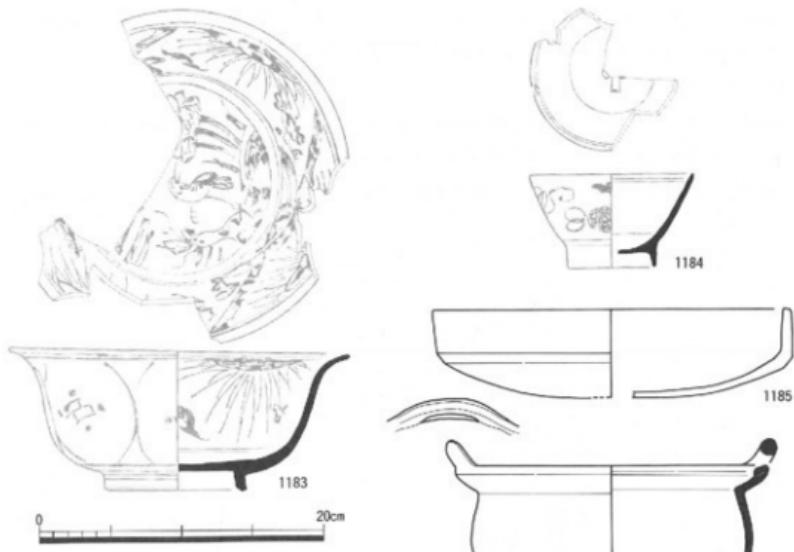
〔遺構〕 III-N-1-2でS K 309の南側1mに位置する。平面形は椭円形を呈する。土壌内には最大55×35cmの河原石とともに瓦片が充填されている。長径1.31m、短径1.15m、深さ0.2m。



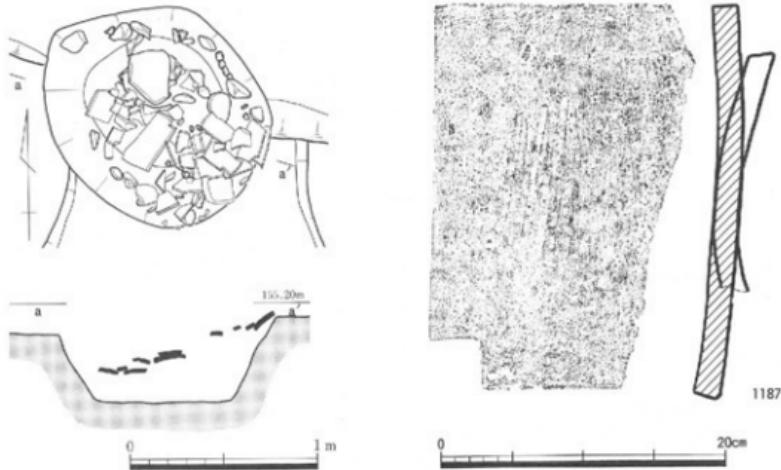
第287図 SK 309遺構 (1/30) 及び遺物実測図



第288図 SK 310遺構 (1/30) 及び遺物 (1) 実測図



第289図 S K 310遺物実測図（2）



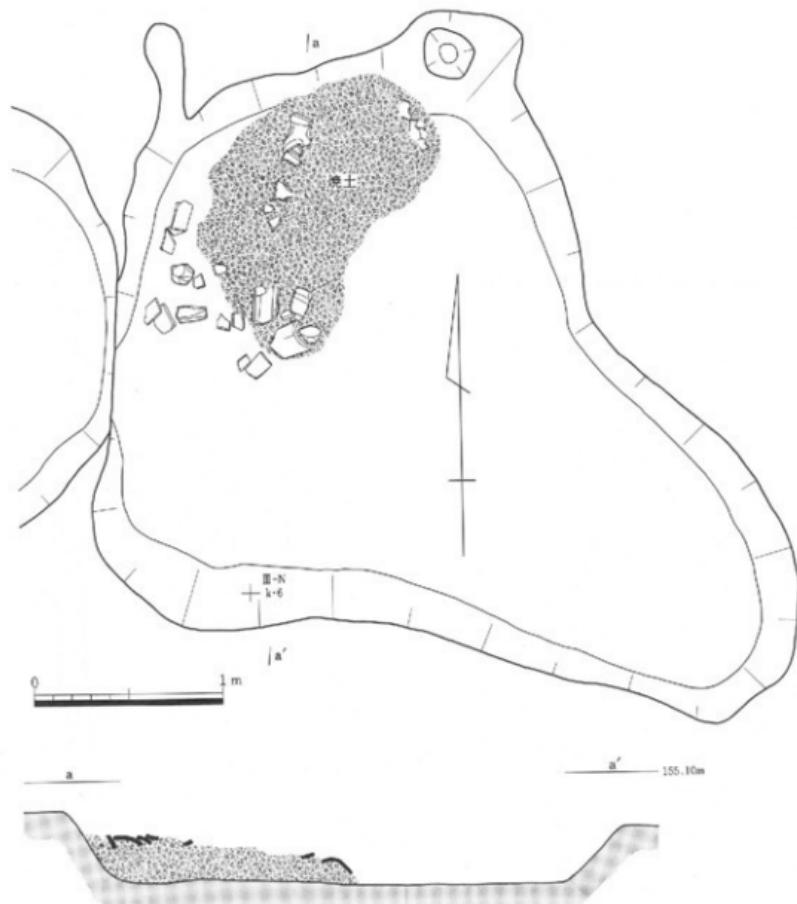
第290図 S K 311遺構（1/30）及び遺物実測図

〔遺物〕 遺物は刻印で『片瓦太』と入った道具瓦（1182）、漆器椀の底部に『宗』と読める字が残存している漆器椀（1181）、染付大鉢（1183）が出土している。

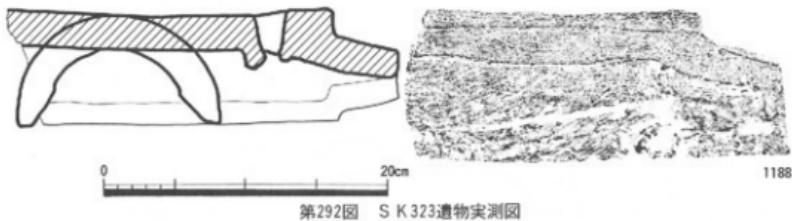
S K311（第290図、図版75・144）

〔遺構〕 III-N-1-2でS K310の南側1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。土壌内には瓦片が充填されている。長径1.29m、短径1.08m、深さ0.46m。

〔遺物〕 遺物は染付碗（1184）、土師質浅鉢（1185）、把手付鍋（1186）、棧瓦（1187）が出土している。



第291図 S K323遺構実測図 (1/30)



第292図 S K 323遺物実測図



S K 323 (第291・292図)

〔遺構〕 III-N-j-5付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壤内に北側には瓦片と焼土が検出されている。長軸4.45m、短軸2.2m、深さ0.45m。

〔遺物〕 遺物は丸瓦(1188)などが出土している。

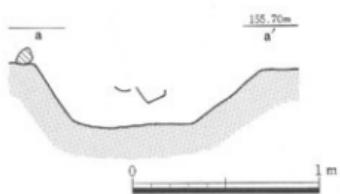
S K 328 (第293図、図版68・75)

〔遺構〕 III-N-h-2付近で、S X11の東側に接して位置する。平面形は長椭円形を呈する。土壤内床面からは陶器の甕が検出されている。長径3.2m、短径1.2m、深さ0.3m。

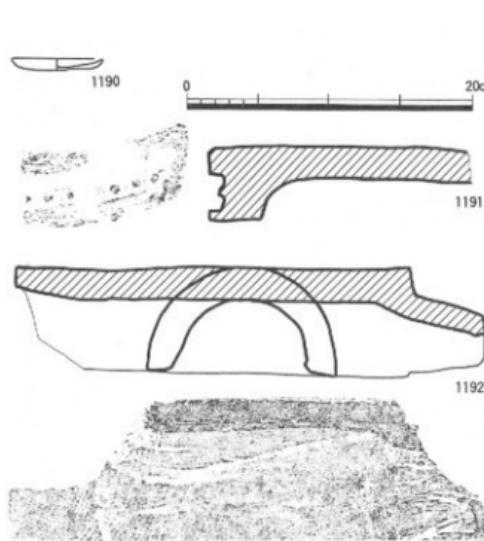
〔遺物〕 遺物は陶器甕(1189)が出土している。

S K 330 (第294図、図版144)

〔遺構〕 III-N-k-5付近で、S B53の南側に接して位置する。平面形は円形を呈する。土壤内床面からは陶器の甕が検出されている。長径0.65m、深さ0.6m。



第293図 S K 328遺構 (1/30) 及び遺物実測図



第294図 S K 330遺物実測図

【遺物】 遺物は土師質小皿（1190）、軒平瓦（1191）、丸瓦（1192）が出土している。

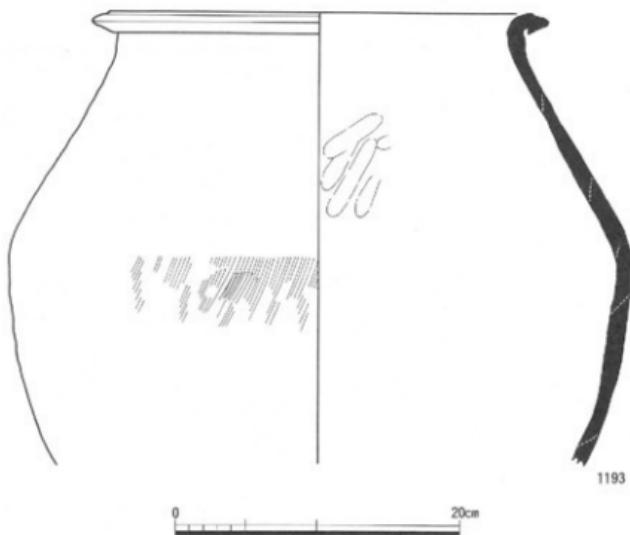
S K 337（第295図、図版69・76・144）

【遺構】 III-N-g-4付近に位置する。平面形は不定形を呈する。土壤内からは甕の口縁部が出土している。長軸2.15m、短軸0.95m、深さ0.1m。

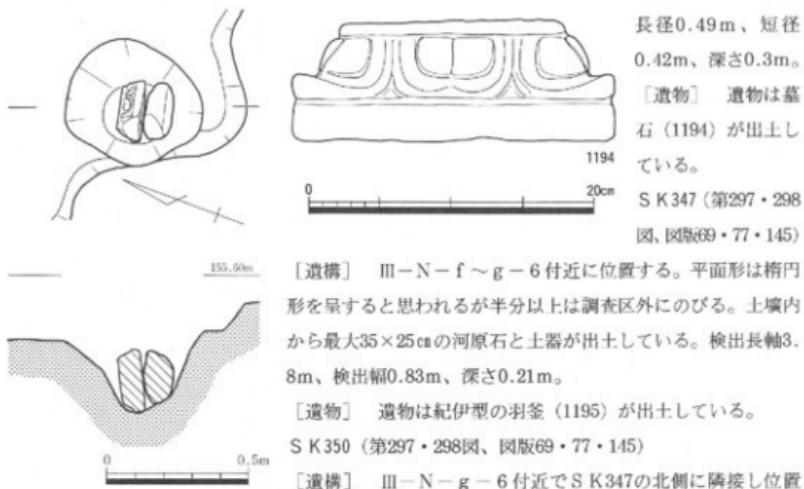
【遺物】 遺物は甕（1193）が出土している。

S K 346（第296図、図版76）

【遺構】 III-N-f-5付近に位置する。平面形は梢円形を呈する。土壤内からは墓石の基底部が落ち込んだ状態で検出されている。

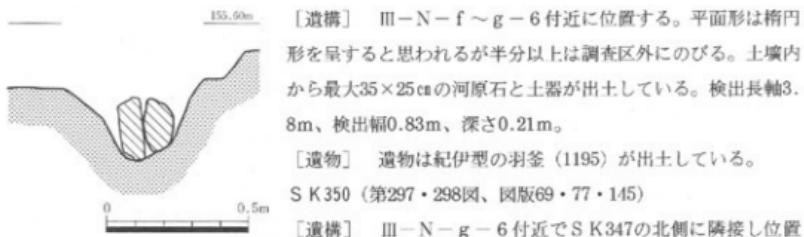


第295図 S K 337遺物実測図



第296図 S K346遺構 (1/20)
及び遺物実測図

長径0.49m、短径0.42m、深さ0.3m。
〔遺物〕 遺物は墓石(1194)が出土している。
S K347(第297・298図、図版69・77・145)



〔遺構〕 III-N-f～g-6付近に位置する。平面形は楕円形を呈すると思われるが半分以上は調査区外にのびる。土壌内から最大35×25cmの河原石と土器が出土している。検出長軸3.8m、検出幅0.83m、深さ0.21m。

〔遺物〕 遺物は紀伊型の羽釜(1195)が出土している。

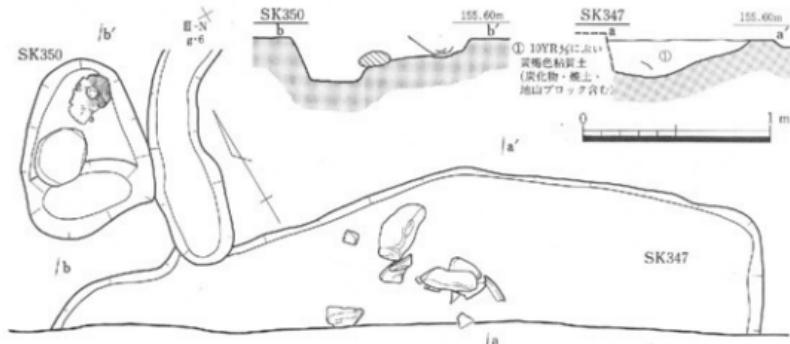
S K350(第297・298図、図版69・77・145)

〔遺構〕 III-N-g-6付近でS K347の北側に隣接し位置する。平面形は楕円形を呈する。土壌内から最大35×30cmの河原石が出土している。長径0.79m、短径0.73m、深さ0.15m。

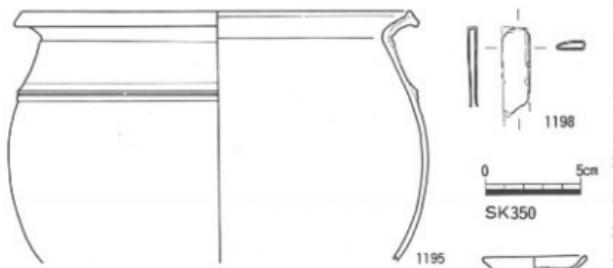
〔遺物〕 遺物は土師質小皿(1196)、瓦質摺鉢(1197)、不明鉄製品(1198)が出土している。
S K357(第299図、図版78)

〔遺構〕 III-O-e-7付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。土壌東側は0.2mの深さに一段さがる。土壤埋土上位には最大35×25cmの河原石が挟在している。長径3.76m、短径2.58m、深さ0.5m。

〔遺物〕 遺物は染付碗(1199)、軒丸瓦(1201)、軒平瓦(1200)、不明銅製品(1202)が出土している。



第297図 S K347・S K350遺構実測図 (1/30)



S K 374 (図版78)

〔遺構〕 III-N-n
-15付近で、S D 200
と重複している。平面
形は長椭円形を呈する。
土壤周囲には一部木枝
が巡っている。長径
1.65m、短径1.1m、
深さ0.04m。

〔遺物〕 図示可能な
遺物は出土していない。
S K 496 (第300図、図
版145)

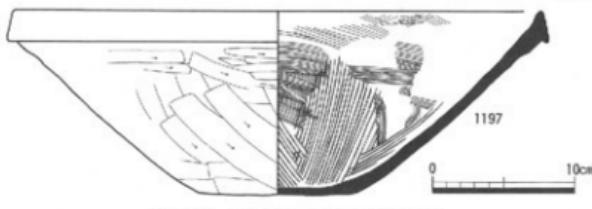
〔遺構〕 III-M-h
-18付近で、S B 78の
南側に位置する。土壤は削平を受け浅い
が遺物が出土している。長軸0.42m、短
軸0.4m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は上師質小皿(1255)、
高台付皿(1256)、瓦器塊(1257)、土師
質羽釜(1258)が出土している。

埋桶 (S N)

S N I (第301・303図、図版68・79)

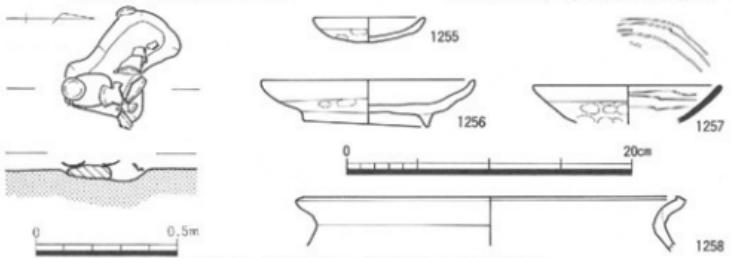
〔遺構〕 III-N-k-1に位置してい
る。掘方は円形を呈する。土壤の西側は
一部テラスを持つ。底部には底板の一部



第298図 S K 347・S K 350遺物実測図



第299図 S K 357遺物実測図



第300図 S K 496遺構 (1/20) 及び遺物実測図



第301図 S N 1
遺物実測図

が残存している。掘方上端径1.48m、下端径0.7m、深さ0.5m。
〔遺物〕 遺物は桶を構成する木質の一部と施釉陶器碗（1203）が出土している。

S N 2 （第302・303図、図版79・145）

〔遺構〕 III-N-s-14に位置している。掘方は円形を呈する。土壤には30×20cm程度の河原石が落ち込んでいる。底部には底板の一部が残存している。掘方上端径1.3m、下端径1.05m、深さ0.25m。



〔遺物〕 遺物は桶を構成する木質の一部と天目茶碗（1204）が出土している。

埋甕（S L）

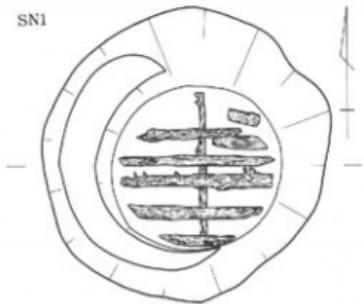
第302図 S N 2
遺物実測図

0 10cm S L 1 （第304図、図版80・146・150）

〔遺構〕 III-N-e-3に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分が破損しているが、底部から遺物が出土している。掘方上端径0.7m、下端径0.4m、深さ0.2m。

〔遺物〕 遺物は埋甕の土師質甕（1205）と底部から鉄鎌（1207）、不明鉄製品（1206）が出土している。

SN1



155.50m

S L 2 （第305図、図版80・146）

〔遺構〕 III-N-e-5に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分が削平され、掘方の

SN2



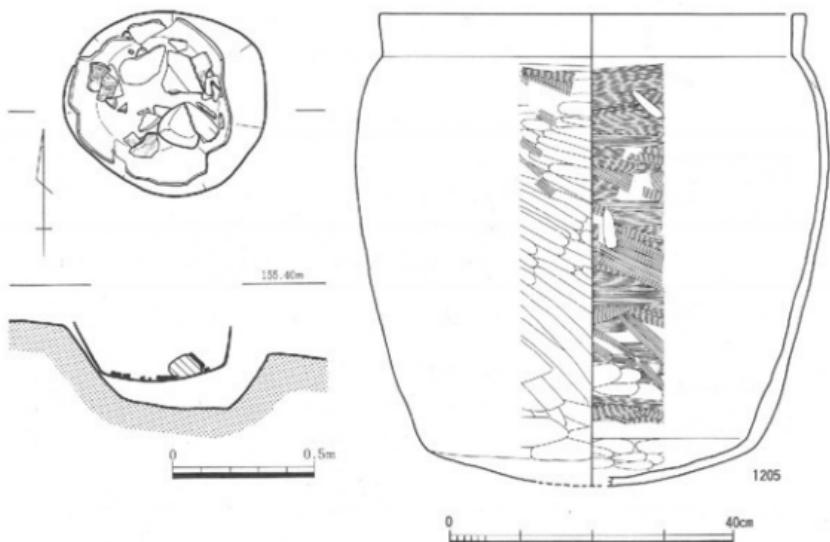
156.40m

0 1m



0 1m

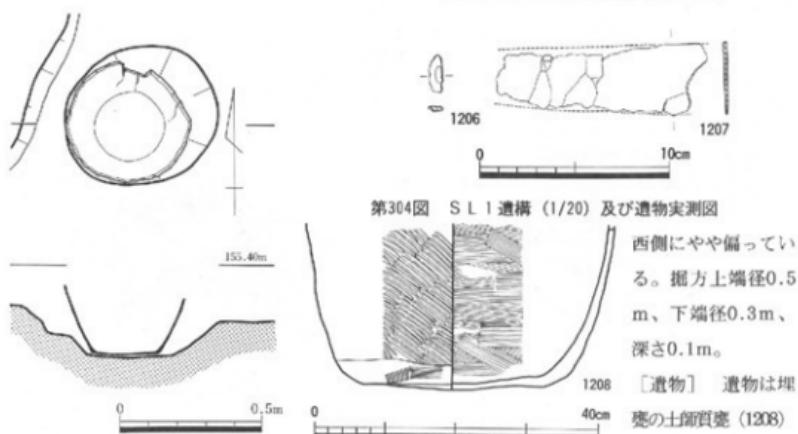
第303図 S N 1・S N 2 遺構実測図（1/30）



第304図 S L 1 遺構 (1/20) 及び遺物実測図

西側にやや偏っている。掘方上端径0.5m、下端径0.3m、深さ0.1m。

【遺物】 遺物は埋甕の土師質甕 (1209) が出土している。



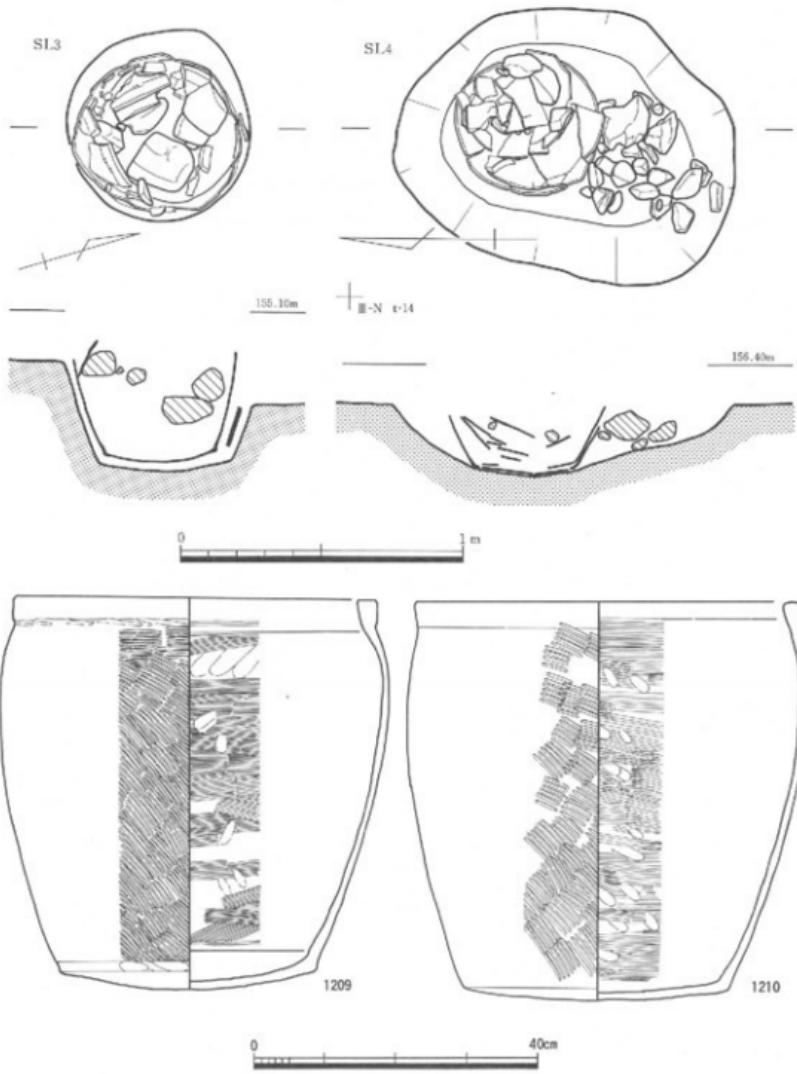
第305図 S L 2 遺構 (1/20) 及び遺物実測図

S L 3 (第306図、図版81・146)

【遺構】 III-N-1～m-6付近に位置している。掘方は円形を呈する。甕は上半分と最大20×20cmの河原石とが土壤内に落ち込んでいる。掘方上端径0.66m、下端径0.5m、深さ0.38m。

【遺物】 遺物は埋甕の土師質甕 (1209) が出土している。

S L 4 (第306図、図版81・146)



第306図 SL3・SL4遺構 (1/20) 及び遺物実測図

〔遺構〕 III-N-s-14付近に位置している。掘方は円形を呈する。埋桶の掘方としては広く甕の南側には最大 $20\times 15\text{cm}$ の河原石が集石している。上端長径1.2m、上端短径0.95m、下端長

径0.9m、下端短径0.6m、深さ0.35m。

〔遺物〕 遺物は埋甕の土師質甕（1210）が出土している。

集石（S U）

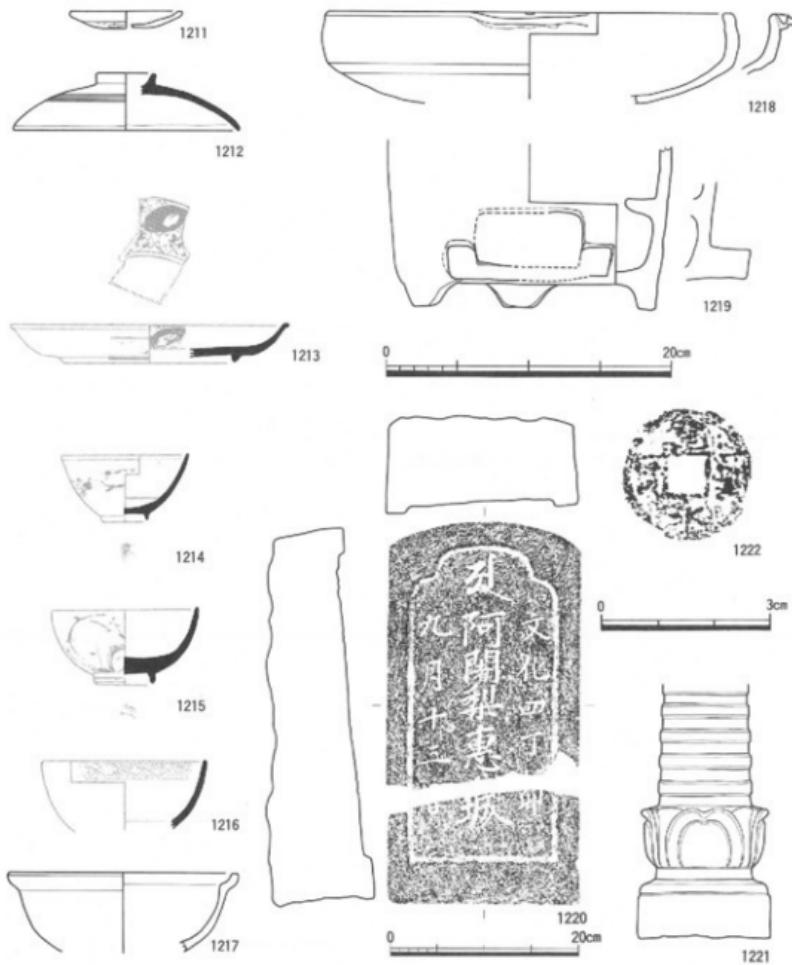
S U12（第307・308図、図版68・82・145）

〔遺構〕 III-I-k～l-18～19付近に位置する集石である。集石の中に墓石、石塔片などが
あり、近世墓が擾乱を受けた様である。長軸12m、短軸8mの範囲に広がっている。

〔遺物〕 遺物は土師質皿（1211）、施釉陶器蓋（1212）、染付碗（1214～1216）、染付皿（1213）、



第307図 S U12遺構実測図 (1/30)

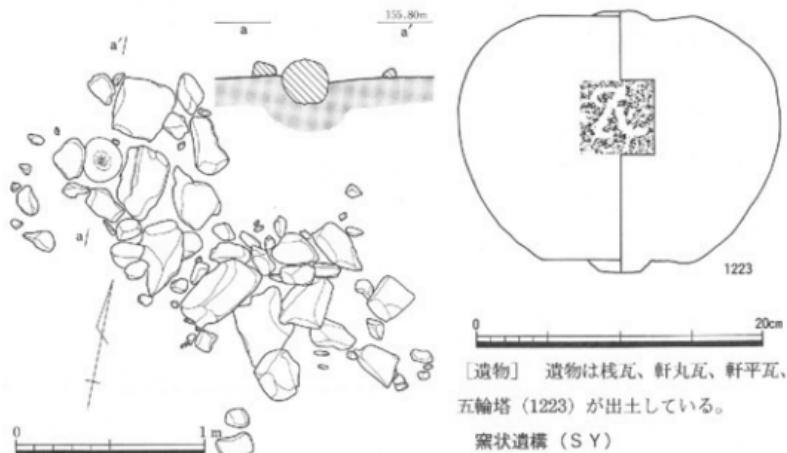


第308図 S U12遺物実測図

土師質炮洛（1218）、土師質風炉（1219）、土師質鉢（1217）、文化4年（1807年）銘の墓石（1220）、五輪塔（1221）、寛永通宝（1222）が出土している。

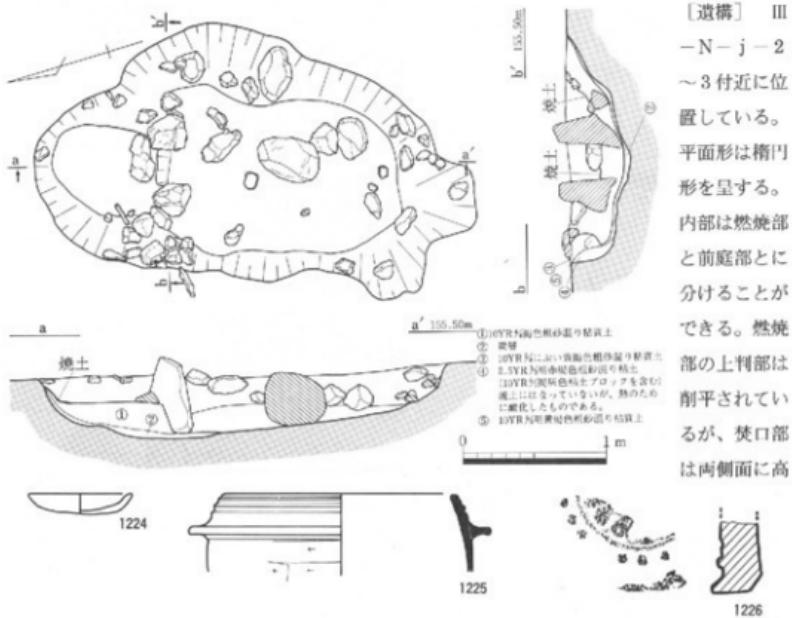
S U13（第309図、図版68・82）

【遺構】 III-I-j-3付近に位置する集石である。集石は最大45×25cmの自然石が集中し、五輪塔の一部も出土している。長軸2.4m、短軸1mの範囲に広がっている。



第309図 S U 13遺構（1/30）及び遺物実測図

S Y 6 （第310図、図版68・83・145）



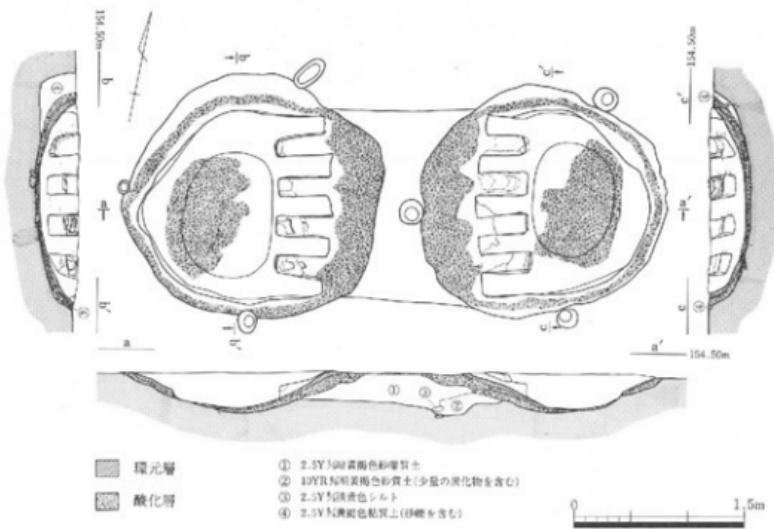
第310図 S Y 6 遺構（1/40）及び遺物実測図

さ45cmの石を建て、前庭部より0.2m一段高くなっている。埋土には炭・灰が多量に混り表面は赤色の酸化層に変化している。焚口の幅は0.25m、燃焼部の長さ1.3m、幅1.4m、深さ0.2m。前庭部に最大40×30cmの自然石が落ち込み、埋土には炭・灰が混じっている。長さ2.1m、幅1.8m、深さ0.4m。

〔遺物〕 遺物は土師質小皿（1224）、瓦質羽釜（1225）、軒丸瓦（1226）が出土している。

S Y 7 (第311図、図版83)

〔遺構〕 III-I-n~o-20付近に位置している。平面形は双円形を呈し、いわゆるダルマガマと称され瓦窯である。2つの焼成部には長さ0.4m、幅0.2mのロストルをそれぞれ4本有している。窯は高温の焼成の為、表面は還元層を成している。窯の全長は4.85m、焼成部はそれぞれ径2.25m、深さ0.3mで残存している。



第311図 S Y 7 遺構実測図 (1/50)

〔遺物〕 遺物は棟瓦、軒丸瓦、軒平瓦が出土しているが実測可能なものは出土していない。

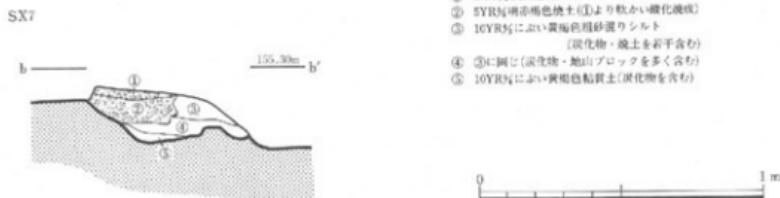
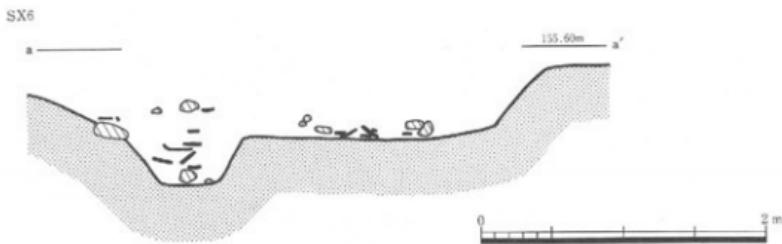
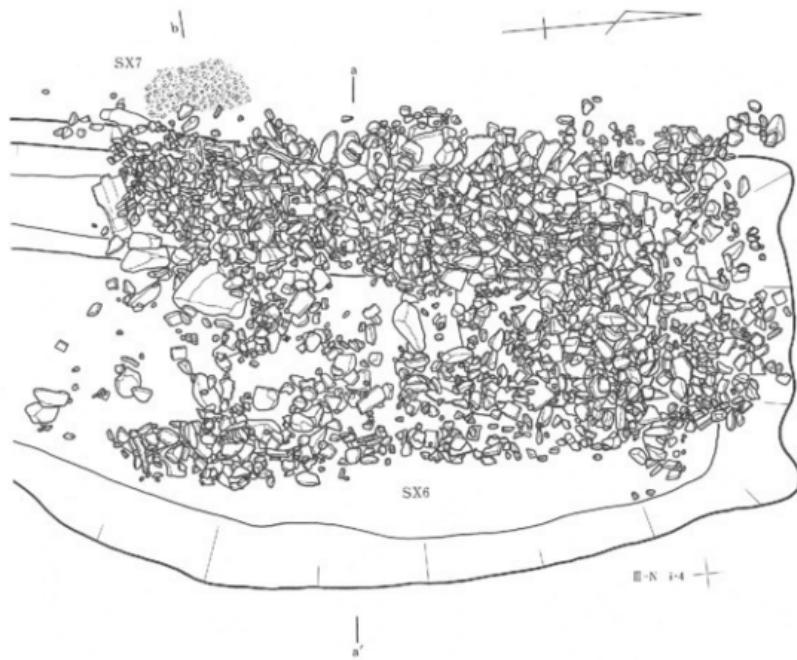
その他の遺構 (S X)

S X 6 (第312~315図、図版68・84・147~149)

〔遺構〕 III-N-i-3~6付近に位置している瓦溜めである。検出長12.5m、最大幅1.3m、深さ0.4m溝状遺構の中に瓦が廃棄された状態で出土している。特に北側部分に集中している。

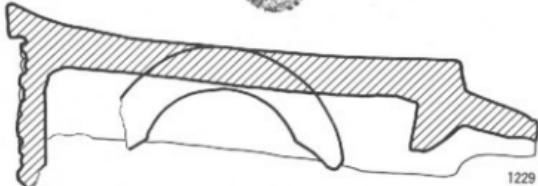
〔遺物〕 遺物は軒丸瓦（1227~1229）、軒平瓦（1230・1231）、丸瓦（1232~1235）、平瓦（1236・1237）、雁振瓦（1238）、鳥糞瓦（1243）、鬼瓦（1239~1242）が出土している。

S X 7 (第312図、図版68)

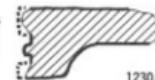


- ① 2.5YRに近い黄色土（乳白色・酸化帯土）
- ② 5YRに近い赤褐色土（①よりやや酸化度低）
- ③ 10YRに近い黄褐色粗砂質シルト
(炭化物・鐵を若干含む)
- ④ ③に同じ(炭化物・地山ブロックを多く含む)
- ⑤ 10YRに近い黄褐色粘質土(炭化物を含む)

第312図 SX6・SX7遺構実測図 平面(1/40)・SX7断面(1/20)



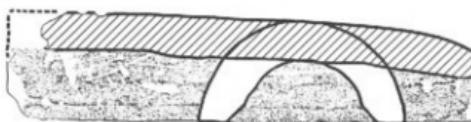
1229



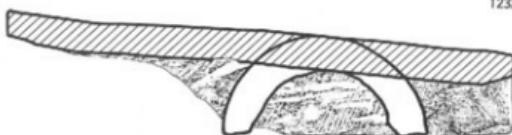
1230



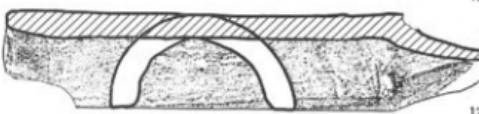
1231



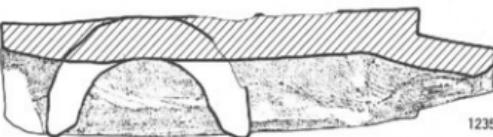
1232



1233



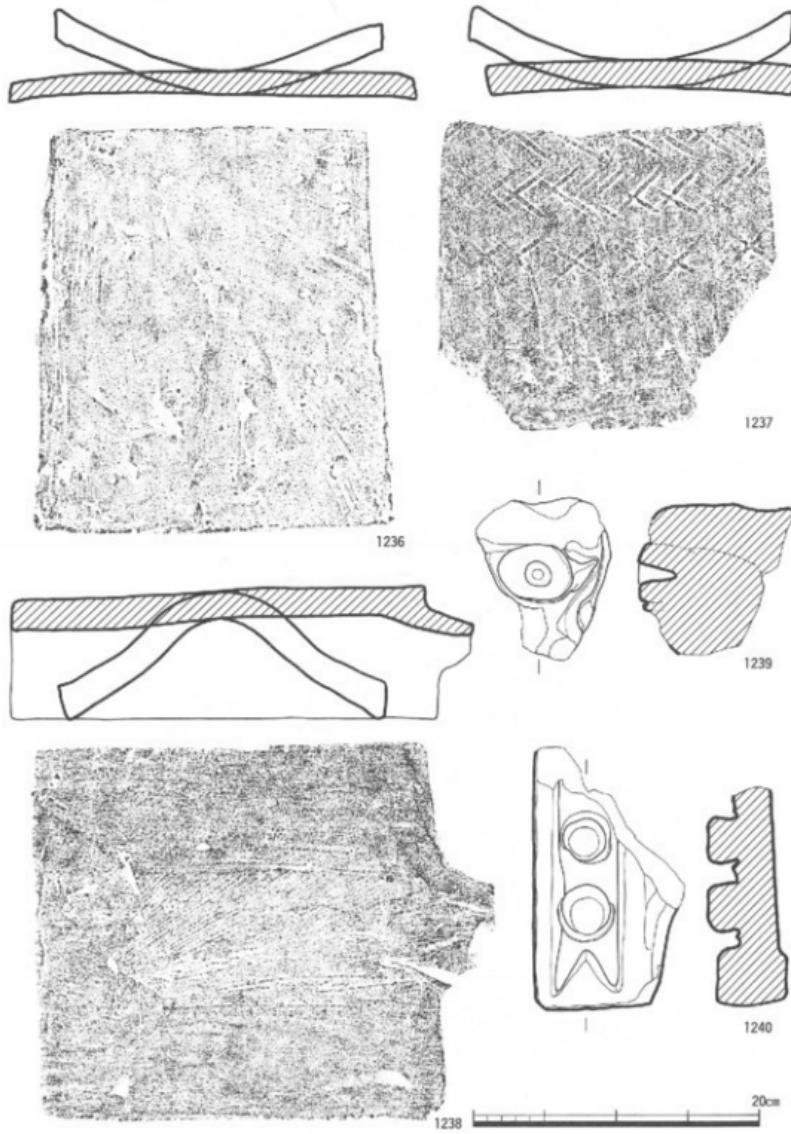
1234



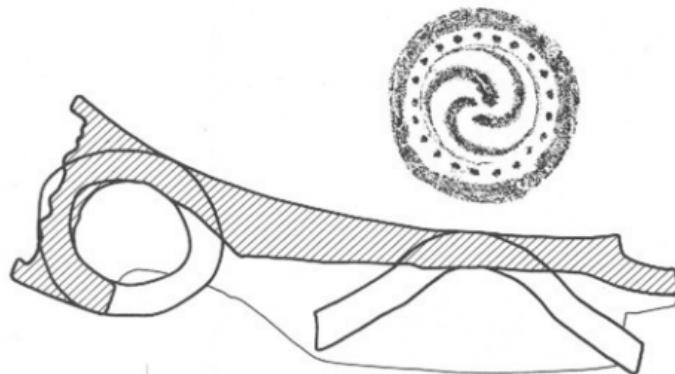
1235



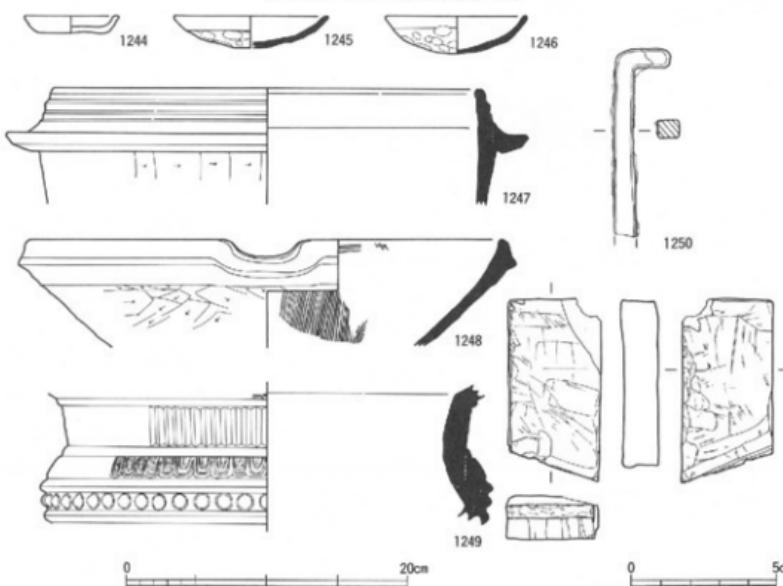
第313図 S X 6 遺物実測図 (1)



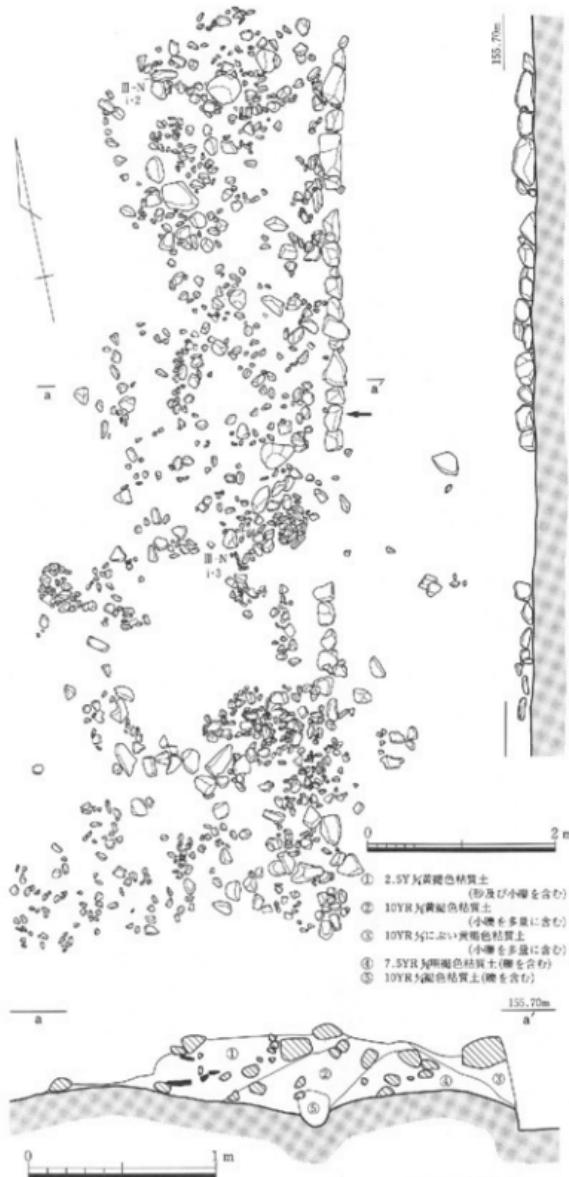
第314図 S X 6 遺物実測図 (2)



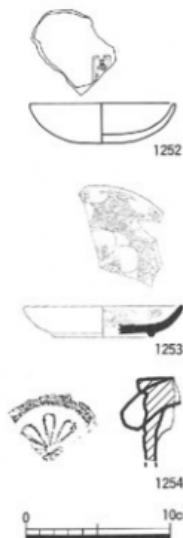
第315図 S X 6 遺物実測図 (3)



第316図 S X 8 遺物実測図



第317図 S X11遺構実測図 平面・立面(1/60)・断面(1/30)及び遺物実測図



【遺構】 III-N-i-4でS X 6の西側に位置し、S X 6によって削平を受けている焼土である。0.35×0.2mの範囲で残存している。

【遺物】 遺物は出土していない。

S X 8 (第316図、図版69・150)

【遺構】 III-N-h-5でS E 7の西側に位置する土器溜状の遺構である。長軸5.9m、短軸4mの土壤状の西側から検出されている。

【遺物】 遺物は上質

III (1244)、瓦器塊 (1245)

・1246) 瓦質羽釜 (1247)、瓦質片口鉢 (1248)、瓦質火舍? (1249)、砥石 (1251)、鐵釘 (1250) が出土している。

S X 11 (第317図、図版68・84)

〔遺構〕 III-N-h-2付近に位置する基壇状の遺構である。東側は1段しか残存していないが石積みによって囲まれ、西側は石混りの粘質土によって築かれている。残存長5m、幅2.5m。

〔遺物〕 遺物は土師質壺 (1252)、染付皿 (1253)、軒丸瓦 (1254) が出土している。

第4章 遺物

三日市遺跡の出土遺物は、数量的には古墳時代前期～中期のものと、中世～近世のものが多い。古墳時代迄の遺物については前回の報告でその概要を述べた。今回は中世～近世の遺物について述べる事とする。

中・近世の遺物は数量的にも多く、また種類も多様である。それらの中から代表的なものを抽出し、時代を追って並べた表を作成した。（第2表）また包含層から出土した中・近世の遺物については、各地区別に数量を測り、その割合を計算した結果（第3表）のようになつた。

なお、当遺跡において他の畿内の遺跡同様、中世において遺物の大半を占めるのは瓦器である。それらは三日市という土地柄からやはり和泉型の瓦器塊が大部分で、他に若干の他地域からの搬入と思われる瓦器塊が混じる。和泉型の瓦器塊に関しては、尾上実氏による瓦器塊の変遷におおむねあてはまる。その為、いさか瓦器塊に頼り過ぎるという心配もあるが、次表の時期区分も瓦器に重点を置き、その存続期間の時期区分は尾上氏の年代を基準に型式名を受用させていただいた。それによると、当遺跡で一括した瓦器塊の出土が見られるのはIII-1型式のもの以降で、それ以前にはI-2型式に属すると考えられるものを最古としII-1型式のものも出土しているが、いずれも極めて少量である。III-1型式以降は徐々に増える傾向にあるが、一括した出土の見られる遺構はIV-3・IV-4型式に最も多く、IV-5型式には再び減少する。以下、各時期の遺物の傾向について説明を加える。

〔I-3以前〕

NV4の下層より土師質塊・皿・羽釜、黒色土器塊、I-2に属する瓦器塊が出土している。

S K183の土師質小皿（第115図316）は口縁部が屈曲し、端部を肥厚するもので、台付皿（317）も同様の口縁部を有する。いずれも口縁部の形態よりI-3以前のものと考えられる。

黒色土器は内黒の（第24図56・57）と両黒の（58・59）などがある。いずれも肉厚でよく焼きしまっている。またS K185の（第115図319）は、口径16.0cm、容高6.4cmで、口縁部内面に沈線を一条有し、高台は幅広く八の字型に広がる。外面に黒斑が見られるものの炭素の吸着はないが、黒色土器の類ではないかと思われる。

瓦器塊は厚味のあるしっかりとした高台を有し、内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。

（第24図61）

〔II-1〕

S B9より土師質皿・杯、黒色土器皿、瓦器塊・皿などが出土している。

この時期迄の土師質小皿は形態に一貫性がなく、大きさも様々である。

黒色土器皿（第8図11・12・13）はいずれも両黒である。平底で、口縁部は内弯し、端部内面には沈線を施す。この時期の瓦器小皿（14）の口縁部が外反して上外方へ広がるのに対し、はっ

きり区別できる形態である

瓦器塊は高台がやや薄く小型化する。（第8図18）ヘラミガキは外面に分割性があるものの、条線間には隙間がみられる。

〔II-2〕

S K263・S D119などがこの時期に属する。土師質皿、瓦器塊・皿がある。

土師質皿はS K256・S K257・S K258に一括した出土がみられ、形態や法量に一貫性が認められる。口径10cm前後の小皿と14cm以上の大皿があり、いずれも口縁部に二段のヨコナデを施し、端部はやや内傾する。底部内面は全て不定方向のナデ、外面は指圧痕を残すものと丁寧にナデ消したものがある。（第132図・第133図・第134図）

瓦器塊は高台の小型化が進み、断面は三角形を呈する。外面のヘラミガキは特に粗略になり、S K263の（第135図471）は上部にのみ施され、下部は指圧痕の凸凹がはっきりとわかる。内面は見込みに格子状のヘラミガキが施されている。瓦器小皿は口縁部がやや内弯する。ヘラミガキは塊と同様粗略になり、外面のヘラミガキは施されないものが大部分である。内面の見込みには、塊と同様ヘラミガキが施されている。（470）

〔II-3〕

S R10より瓦器塊・皿が出土している。この時期にあたる瓦器塊の出土はわずかであるため、遺物の時期決定には前後の時期との比較によるところが大きい。

瓦器塊（第243図960）は前期よりもさらに高台が小さくなる。外面のヘラミガキはまばらで、内面見込みには条線間の狭い平行線状のヘラミガキが施されている。また口径9.1cm、器高2.7cmの小型の塊が一点出土している。上墳墓からの出土ということから、祭祀用であると考えられる。

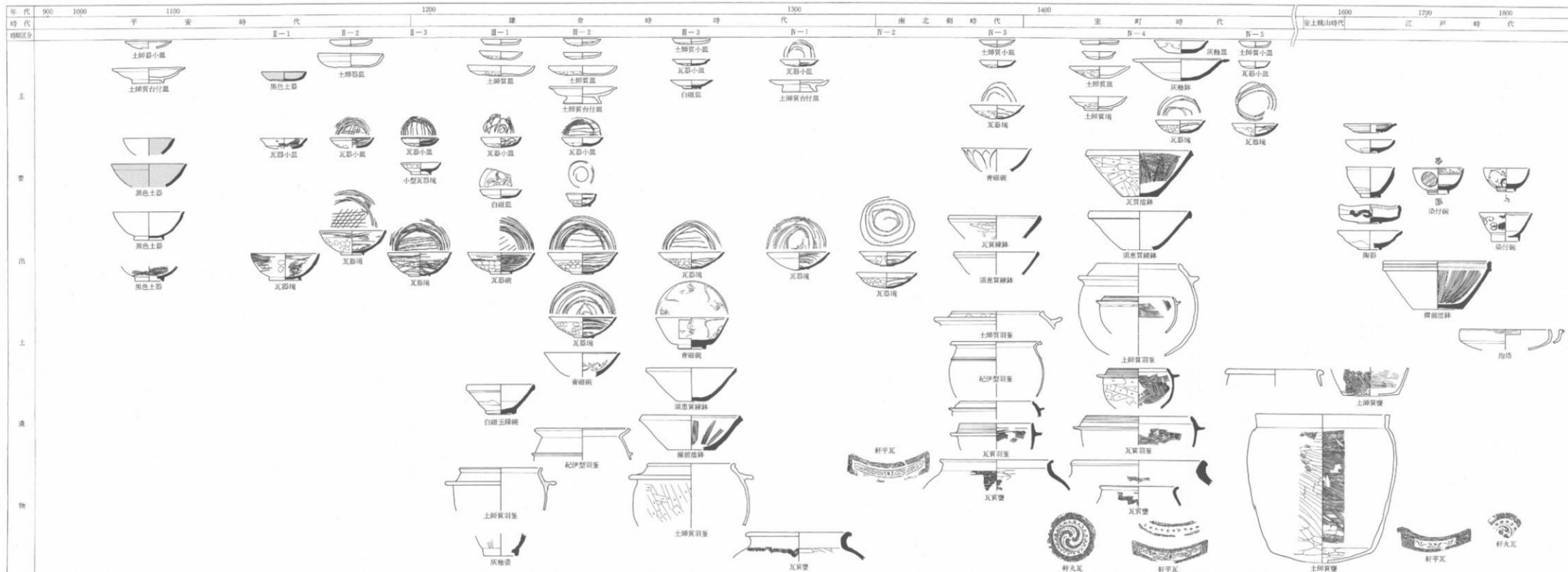
（959）瓦器小皿は前期に比べやや小型で、外面にヘラミガキは全く施されていない。内面は塊と同様見込みに平行線を施し、その周囲に螺旋状のヘラミガキをめぐらす。（956）

〔III-1〕

S R 8・S D217などがこの時期に属する。この時期より遺物の種類が増え、数量的にも多くなる。土師質皿はやはり小皿と大皿がある。（第187図621～625）前期の資料を見あたらなかつたためその推移は確認できないが、II-2期と比較すると小皿の口径が平均1cm程小さくなっている。口縁部はヨコナデを一段しか施さないため、外反して上外方へ広がり、端部は自然におさめた状態を呈する。大皿はやや浅型になり、やはり口縁部が上外方へ広がる形態を呈する。

瓦器塊は高台が押し潰されたような台形を呈し、器高はやや低くなる。外面のヘラミガキは施されないものがほとんどで、施されていても数条である。内面見込みのヘラミガキは平行線条が大部分で格子状は極めて少ない。（628～636）瓦器小皿は、前期とあまり変化がないが、内面のヘラミガキに螺旋状のものがみられる。（626）

羽釜は全て上師質で、胎土は粗く肉厚である。口縁部は屈折して上外方へ伸びる形態のものである。（第188図・第232図914）



第2表 主要出土物時代区分表

2地区	土師質 50.9	瓦質 39.3	須 志 質 5.4
陶磁器類 瓦類 1.4— 石・その他 0.3—			
1地区	土師質 42.8	瓦質 49.6	須 志 質 4.9
陶磁器類 1.1— 瓦類 0.8— 石・その他 1.3—			
4地区	土師質 35.6	瓦質 57.1	須 志 質 5.1
陶磁器類 1.8— 瓦類 0.1— 石・その他 0.3—			
3地区	土師質 29.9	瓦質 34.6	須 志 質 5.8 陶磁器類 瓦類 9.0 石・その他 1.0—
須 志 質 5.1 陶磁器類 瓦類 7.8 石・その他 3.1—			
6地区	土師質 46.7	瓦質 36.6	須 志 質 5.1 陶磁器類 瓦類 7.8 石・その他 3.1—

第3表 地区別包含層出土遺物割合表

白磁は皿と碗が出土している。皿は平底で、内面見込みに花文を有する。（第232図913）塊はS R 8から完形で出土している。口縁部は丸味のある大きな玉縁で、体部外面中位まで施釉されているが、内面に不定形の釉薬がかかっていない部分がある。（第148図545） S R 7から出土している玉縁碗（第147図542）は、口縁部がやや鋭いものの時期的には大差はないと思われる。

S K458の（第232図910）は灰釉陶器で壺の底部であると思われる。

〔III-2〕

S E12・S K228などがこの時期にあたる。土師質皿・羽釜、瓦器塊・皿と磁器類が出土している。

土師質皿は小皿と大皿、台付皿がある。小皿は口縁部と底部の境が肥厚するタイプが主流で、内面見込みにヘラ状工具による花弁状の圧痕を残すものがみられる。特にS R 6より出土している11点の土師質小皿（第145図512～522）は口径が8.4～9.0cmで、内面の圧痕は形6.8cm前後にわたるもので、規格性が認められる。またS X 2の土師質小皿（第54図123～130）もこの規格にあてはまる。大皿は前期よりもさらに浅型になっている。（523）台付皿は、八の字型に広がる長い脚台部をもち、皿部は口縁部が外弯して外上方に広がる。（第127図347・348）

瓦器塊は、断面が三角形か押し潰したような台形を呈する高台をもつ、器高は低く5cm未満である。しかしS E12出土の（第204図741）は器高がやや高く、また（747）は、他の塊が見込みに平行線状のヘラミガキを施すのに対し、螺旋状のヘラミガキをもつ、この井戸から出土してい

る土器群は、胎土が緻密で焼成も堅い。S R 6 からは祭祀用であると思われる小型の壺が六点出土している。（第145図525～529）II-3期の小型瓦器壺よりもさらに小さく胎土が粗いが、ヘラミガキは細かく施されている。瓦器小皿は前期よりもやや小さくなり、ヘラミガキは従来の平行線状と、螺旋をめぐらしただけのものがある。（第203図731～736）

青磁碗は、SK228の（第127図353）がある。内面は片彫りの花文を三方向に施すと思われる。羽釜（354）は土師質であるが胎土に緑色片岩を含む。口縁部が大きく上外方に屈折し端部は上内方へつまみあげておさめる。鍔は小さい。紀伊型の羽釜である。

〔III-3〕

S E15出土の遺物がこの時期に属する。土師質小皿・羽釜、瓦器壺・皿、須恵質練鉢と陶磁器類などが出土している。

土師質小皿は口縁部が短く浅型のものが主流である。（第208図769～772）大皿はみられなかった。

瓦器壺は口径・器高とともに前期よりも小さくなっている。内面の見込みは平行線状のヘラミガキが施されているが、全体に前期よりも粗い。（第208図777～789）瓦器小皿は平行線状のヘラミガキを施すものは少なく螺旋状が主流となる。また、ヘラミガキを施さないものもみられる。（第208図773～776）

青磁碗はS E15の（第209図791）がある。龍泉窯系のもので内面には5つの区画に分けて飛雲文を施す。SK523の（第144図498）は白磁の皿で、内面見込みに沈線を一条めぐらし、蛇の目形に釉を搔き取っている。外面は高台の少し上まで施釉されている。

S U 6 の（第161図592）備前焼の摺鉢で、口縁部の形態から鎌倉時代後期頃のものと思われる。S E15の（第209図790）の須恵質練鉢は、おそらく片口であろうと思われる。口縁部はやや肥厚し、底部は回転糸切り、他は回転ナデ調整である。東播系須恵器で、神出古窯址群に類似した鉢が出土しており13世紀に比定されている。

羽釜は土師質で、S E15の（第210図795）などがある。

〔IV-1〕

SK456・S E14などがこの時期に属する。土師質皿・瓦器壺・皿、瓦質甕などがある。

この時期の土師質小皿は形態に一貫性が認められなかった。（第229図882～885）台付皿はIII-2期に比べ粗製で皿部は浅く、脚台部も短くなる。（886・887）

瓦器壺は高台の断面が小さな半円形を呈する。内面見込みに平行線状のヘラミガキを施すものと螺旋状のヘラミガキのものがある。（892～904）瓦器小皿は前期とほぼ同じ形態で螺旋状のヘラミガキを施すものと、全く施さないものがある。（888～891）

S E5出土の（第109図303）の瓦質甕は、和泉の湊焼の初期のものと考えられる。口縁部は外反し、端部は肥厚する。体部外面に細かい平行叩きが施され、内面はハケ目をヘラ状工具で消している。堺環濠都市遺跡に類似例が見られ、13世紀末頃に比定される。

〔IV-2〕

S E 3より一括した瓦器塊の出土がみられる。口径・器高とともに前期よりさらに小型化し、高台は粘土紐をなで付けた程度で途切れているものや、まったく高台を付けないものもある。ヘラミガキは粗い螺旋状である。(第107図273~292)

また S D181からは瓦類が出土している。軒平瓦(第273図1107・1108)は唐草文で瓦当厚6cm前後、平瓦部の厚さ3cm前後のものである。唐草文の周囲には一条の郭線がめぐらされている。

〔IV-3〕

S D232から出土している遺物がこの時期に属する。土師質小皿・羽釜、瓦器塊・皿、瓦質練鉢・羽釜・甕、須恵質練鉢と青磁などが出土している。

土師質小皿は口縁部と底部の境が肥厚するタイプが主流である。(第195図659~665)

瓦器塊は前期よりも小型化し、高台はまったく無い。ヘラミガキは粗い螺旋状である。(671~688)瓦器小皿はIV-1頃よりも小さくなっている。ヘラミガキを施さないものが主流で、施されていても粗いものである。(667~670)

S D232の(689)は龍泉窯系の塊で、外面に連弁文を有する。

瓦質練鉢(693)は、口縁部に強いココナデを施す。体部外面もナデ調整によるが指圧痕も残る。須恵質練鉢は、S B28(第67図186)のように口縁部がやや肥厚し玉縁状を呈するようになる。

この頃より瓦質の羽釜の一括した出土がみられる。SK470の(第235図937・938)などで、口縁部は短く直立したものが主流である。SD59の(第67図183)のように口縁部が内弯し、端部を上外方に折り返す土師質羽釜の形態を踏襲したものもあるが、口縁部の直立するタイプとの前後関係は明確ではない。一方、土師質羽釜は口縁部の折り返しが著しく退化し、端部を肥厚させたような形態を呈する。胎土はやはり粗く肉厚である。(第218図857)

また SK347の(第298図1195)は紀伊型の羽釜であるが、III-2期のものに比べると鈎部は著しく退化する。

瓦質甕は前期とほぼ同じ形態であるが、口縁部がやや短く、肩部の張りが弱くなっている。外面は細かい平行叩き、内面はハケ目をナデ消している。(第196図694)

〔IV-4〕

SK201・SD53などがこの時期に属する。土師質皿・塊・羽釜、瓦器塊、瓦質摺鉢・羽釜・甕、須恵質練鉢、瓦、陶器類などが出土している。

土師質皿は小皿と大皿があり、ともに口径が小さくなる。小皿は8cm以下のものが主流で、口縁部が短く立つ浅型のものと、外反して上外方へ伸びる深型のものがある。(第87図190~210)大皿は口径が12.5cm前後で口縁部が内弯するもの(第23図43~45)と、口径が13.5cm前後で口縁部が大きく上外方に広がるものがある。(第111図307・第276図1115)塊は、断面が三角形の幅広い高台を有する。(第228図876)

瓦器壇は前期よりも口径が小さく、底部が若干平らになり安定感のある形態となる。ヘラミガキは螺旋状、または施されないものもある。（第119図322～326）

S D54より灰釉陶器の皿と鉢が出土している。（第89図216・217）いずれも釉色は灰オリーブ色を呈し、底部は回転糸切り、内面見込みに胎十目が残る。

瓦質播鉢は口縁部が下外方に肥厚し玉縁状になる。体部外面は上半はヨコ方向、下半はタテ方向にヘラケズリを施す。（第22図36）須恵質練鉢は口縁部の玉縁が大きくなる。（第87図214）

土師質羽釜は口縁端部の折り返しがなくなりやや肥厚する程度のものである。胎土は粗く肉厚である。（第228図881）また他に、精製された胎土をもつ小型の羽釜（880）もあり、先述の土師質壇と同じSK445から出土している。前期の瓦質羽釜（第67図183）と形態は似ているが器壁はさらに薄い、瓦質羽釜は口縁部が内湾する。口径は約20cm・30cm・40cmと規格があったようである。（第213図818～第215図833）また小型の羽釜には口縁部に径1cm程の小孔を有するものがある。（823）同様の羽釜が包含層から出土しており、口縁部破片には紐状のものが、通されていたものがあり、この小孔には紐を通して使用していたと思われる。

甕は口縁部がさらに大きくなり、外面の叩きは粗く、内面のハケ目を残す。（第87図214・第206図759）

瓦はS E 7から軒平瓦（第277図1135・1136）、軒丸瓦（1137・1138）、平瓦（1139）、丸瓦（1140・1141）などが出土している。軒平瓦は連珠文と唐草文のものがある。いずれも瓦当厚は5cm未満で、平瓦部の厚さも2cm前後と薄くなり紋様の周囲に郭線はない。また（1136）は瓦当の側縁部がIV-2期の瓦よりもやや広くなっている。軒丸瓦は瓦当径15.4cmの巴文で、周囲に珠文帯を配する。巴の尾の長さは1/2回転分程度で、珠文は21個圓線はない。丸瓦部の内面は布目である。

〔IV-5〕

S X13とS X8より、この時期の遺物が出土している。土師質小皿、瓦器壇・皿などである。

土師質小皿は前期と大差はみられない。（第259図992～1011）

瓦器壇は口径が10cm前後で、ヘラミガキは螺旋状または乱方向に数条の線を描いたものや、まったくヘラミガキを施さないものも多い。（1015～1022）小皿はIV-3期から変化はないようである。（1013・1014）

16世紀以降

瓦器壇の終末を15世紀中葉とし、土師質甕を構壙窯都市の編年に対応させて考えれば、16世紀後半の土師質甕が出土するSK435迄の間の遺物は見当たらない。

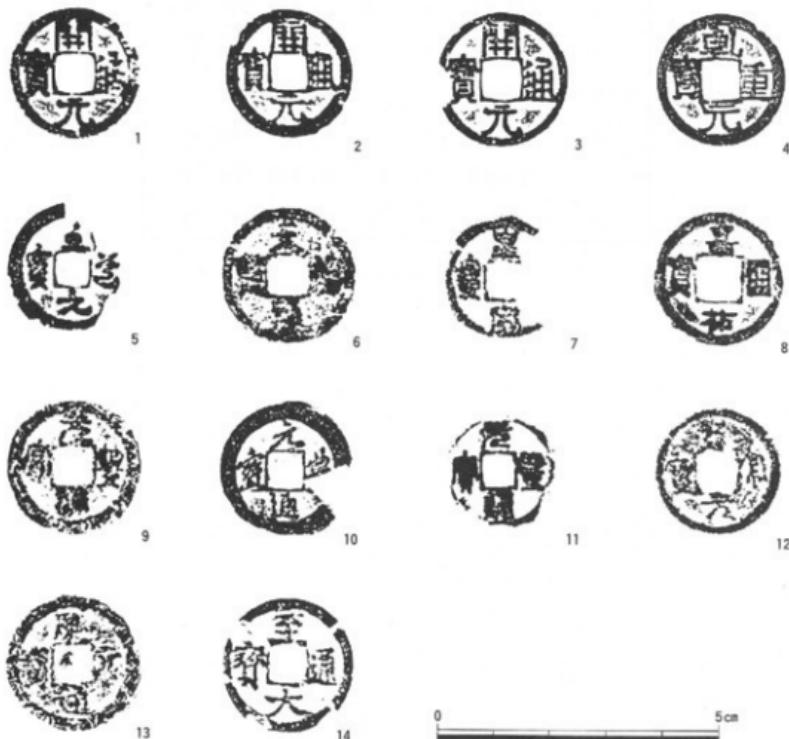
土師質甕はS L1～7とSK408、SD215、SW4、SK435で出土しているが、口縁端部を有するS L1の（第304図1205）や、底部が平らで内面のハケ目が粗いS L5の（第246図966）がやや新しいと考えられる程度で、その差は半世紀程である。

陶磁器類は国内産のものがほとんどである。江戸時代初めの頃は唐津・美濃の甕・皿（第220

図・第239図)が主流で、後半から伊万里の染付(第224図・第262図・第308図)が主流となる。また備前摺鉢は口縁部が厚く、数条の沈線をめぐらす形態のものである。(第285図1171)

炮烙は土師質のもので、口縁部に舌状の取手を2方向に有し径5mm前後的小孔を1~2個ずつ穿つ。小孔は貫通しないものもある。底部はヘラケズリのもの(1055)もあるが、型づくりのものが多く、体部との境が突出した形態を呈する(1056・1057・11218)(第308図1218・第262図1056・1057)

瓦は、江戸時代末期から明治時代初期に瓦屋があったという地元の伝承通り、瓦窯がいくつか確認されている。S Y 8から各種の瓦が出土している。(第257図)軒丸瓦は巴文で、巴の頭部が丸く尾は1/3回転程の長さになっている。珠文も大きく数少なくなる。軒平瓦は瓦当側縁部が広くなっている。また側面に「片瓦太」という刻印のある平瓦が出土している。(第228図・第258図)



第318図 出土輸入銭拓影

輸入銅錢について

包含層からの出土遺物のなかで、輸入銅錢を取り上げる。初鋤年代は621年の開元通宝から、1311年の至大通宝まで総数14枚が出土している。各錢の詳細は第4表の通りである。

番号	名称	材質	時代	铸造年代
①・②・③	開元通宝	青銅	唐	武德4(621)初鋤
④	乾元重宝	ヶ	ヶ	乾元2(759)
⑤	至道元宝	ヶ	北宋	至道年間(995~997)
⑥	元祐通宝	ヶ	宋	(1017)
⑦	皇宋通宝	ヶ	北宋	宋元年間(1038~1040)
⑧	嘉祐通宝	ヶ	ヶ	嘉祐年間(1056~1063)
⑨・⑩・⑪	元豐通宝	ヶ	ヶ	元豐元年(1078)
⑫	紹聖元宝	ヶ	ヶ	紹聖年間(1094~1097)
⑬	慶元通宝	ヶ	南宋	慶元年間(1196~1200)
⑭	至大通宝	ヶ	宋	至大年間(1308~1311)

第4表 出土輸入錢一覧

第5章 木器の保存処理

第1節 出土木製品の保存科学的処理について

大阪文化財センター 山口誠治

1. はじめに

三日市遺跡から出土した木製品（下駄2点、板18点、漆器2点、鉤1点、柱根7点、たも4点）の保存科学的処理を行ったので、ここに報告する。

出土した木製品は水分に保護された状態で埋蔵されていた。しかし、発掘されたあと空気中にさらされ水分が蒸発し、形状をくずし崩壊が進行してきた。そのため、その崩壊を防止するために保存依頼があり、次に記述するような保存科学的処理を行った。

2. 保存科学的処理方法

木製品は含水された水が蒸発すると、木製品の表面と内部に含水量の差が生じることになり、収縮や変形がおこる。その収縮や変形を防止するために恒久的な保存方法を行った。それは、含有されている水分を他の物質に置き換えるひとつ的方法として、高分子化合物のポリエチレンゴリコール（以下PEGと略する。）に置換する方法をとった。なお、完全に含有水分をPEGと置換することが出来ないので、水分を強制的に除去する方法として、木製品中の水分を凍結したのち、真空管で昇華させる真空凍結乾燥法を併用した。以上の2法について処理過程を説明する。

（1）PEG含浸処理方法

まず、PEG含浸を開始する前に木製品内部にまで混入している土壤を水洗により除去した。その際、加工痕などが観察される木製品については、充分に注意して筆やスポンジなどを使用して洗浄した。その後、出土地点や製品別に袋につめ、第319図に示したPEG含浸処理槽に入れて含浸を開始した。特に、脆弱な製品は保護材による保持を行ったうえで含浸槽に入れた。

PEGは常温では固体を呈しているが、55℃以上になると液体に変化する。その性質を利用した保温可能な含浸槽でPEGを液状に保ち、木製品を漬けておき木製品中の水を少しづつPEG溶液に置換した。PEG濃度は、5%からはじめ60%まで上昇させ木製品にしみこませてこの処理は終了した。



第319図 PEG含浸処理槽全景

(2) 真空凍結乾燥処理方法

60% PEG溶液がしみこんだ木製品をPEG含浸槽から取り出し、第320図に示した真空凍結乾燥機にて木製品に残留する含有水分を凍結した。その後高真空中で昇華させて処理を終了した。

以上の2法を併用することによって、木製品の収縮や変形などを起こす要因になる水分を除去し水分に比べて分子量がはるかに大きいPEGを真空凍結乾燥後、木製品内部に残留させ木製品を強化した。

3. まとめ

出土木製品は通常水に漬けて保管されている。しかし、今回のように恒久的な保存科学的処理をすることにより取り扱いも容易になり、展示がしやすくなる。また、処理済の木製品の保管上の注意としては、高温多湿の場所を避けることおよび日光による局部的照射がないことである。

さて、近年保存科学的処理が実用化されて数十年たっているが、今回の処理方法は従来のPEG法より一步進んだものだと思っている。処理済の木製品の状態は、収縮や変形もなく木質感もよく処理できた。処理後の調査においては、充分な保存処理効果が認められたものである。

補助作業においては、魚島純一、西野真司、宮北一郎、辻合久仁子、内藤慈子、太田祥江以上の諸氏に協力を得た。

〔参考文献〕

木製造物の保存化学『埋蔵文化財ニュース31』奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発行(1981)



第320図 真空凍結乾燥機全景

第2節 三日市遺跡出土木製遺物の樹種について

大阪文化財センター 山口誠治

1. はじめに

三日市遺跡から出土した木製遺物について樹種鑑定を行なったので、ここに報告する。鑑定方法としては木製遺物の木口・柾目・板目方向の徒手切片を作製して生物顕微鏡によって観察し、樹種の識別を行った。このとき注意した点は、加工痕の部分を傷つけずに徒手切片を作製したことである。尚、その観察結果は顕微鏡写真にとって記録した。このうち代表的なものについては、第321図に載せている。

2. 鑑定結果

結果については、第5表に掲げているが、以下に示す8科10属10種を鑑定した。

裸子植物（針葉樹）

イチイ 科 Taxaceae	カヤ	Torreya nucifera
マツ 科 Pinaceae	モミ	Abies firma
	マツ属	Pinus sp.
スギ 科 Taxodiaceae	コウヤマキ	Sciadopitys verticillata
	スギ	Cryptomeria japonica
ヒノキ 科 Cupressaceae	ヒノキ	Chamaecyparis obtusa

被子植物（広葉樹）

ヤナギ 科 Salicaceae	ヤナギ属	Salix sp.
ブナ 科 Fagaceae	クリ	Castanea crenata
トチノキ科 Hippocastanaceae	トチノキ？	Aesculus turbinata
ツバキ 科 Thymelaeaceae	ヤツバキ	Camellia japonica

鑑定した木製遺物は39点で、そのうち針葉樹は30点で残り9点が広葉樹であった。その内訳は、カヤ4点、モミ2点、マツ属3点、コウヤマキ1点、スギ16点、ヒノキ4点の針葉樹とヤナギ属1点、クリ6点、トチノキ？1点、ヤツバキ1点の広葉樹である。このなかで常緑の樹種はカヤ、モミ、マツ、コウヤマキ、スギ、ヒノキ、ヤツバキで残りが落葉樹である。

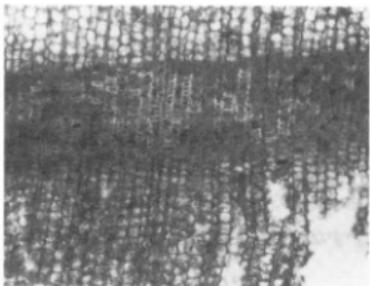
なお、トチノキの鑑定については腐朽度がはげしいために識別する特徴が不鮮明なためにクエッシュマークを種名の末尾に付けた。

3.まとめ

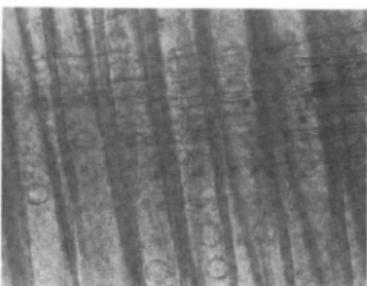
三日市遺跡から出土した木製遺物の用材の利用状況を調べてみると41%がスギ材であり、残りはカヤが10%、モミ5%、マツ7%、コウヤマキ3%、ヒノキ10%、ヤナギ3%、クリ15%、トチノキ、ヤツバキがそれぞれ3%であった。この結果から古代の生活とスギの深い関係が明らか

試料番号	出土遺構	遺物番号	木製遺物種類名	樹種名
1	S E 7	1150	下駄	スギ
2	S E 7	1146	板状製品	スギ
3	S E 7	1148	不明木製品	スギ
4	S E 7	1122	漆器椀	クリ
5	S E 7	1123	漆器椀	トチノキ?
6	S E 7	1147	板状製品	コウヤマキ
7	N V 4	96	下駄	スギ
8	N V 5	1079	木製荷札	スギ
9	S E 7	1149	漆塗り板状製品	スギ
10	S E 13	763	木製鋤の一部	スギ
11	S E 13	762	木製曲物底部	スギ
12	包含層	/	柱痕	ヤナギ属
13	包含層	/	柱痕	ヒノキ
14	S B 7	107	柱痕	スギ
15	N V 4	/	柱痕	クリ
16	S B 3	/	柱痕	スギ
17	N V 4	/	建築部材	マツ属
18	S E 7	/	不明木製品	モミ
19	S E 7	/	柱痕	マツ属
20	S E 7	/	板状製品	クリ
21	S E 7	1154	不明木製品	スギ
22	S E 7	1152	不明木製品	スギ
23	S E 7	1153	えぶり状木製品	スギ
24	S E 7	/	不明木製品	スギ
25	S E 7	1151	不明木製品	ヒノキ
26	N V 5	1072	不明木製品	ヒノキ
27	S E 7	1158	建築部材	クリ
28	S E 7	/	板状製品	モミ
29	S E 7	1157	建築部材	スギ
30	S E 7	1160	木製箕粺	カヤ
31	S E 7	1162	木製箕粺	カヤ
32	S E 7	1161	木製箕粺	カヤ
33	S E 7	1159	木製箕粺	カヤ
34	S E 7	1156	建築部材	クリ
35	S E 15	793	木鍬	ヤブツバキ
36	S E 12	754	木製曲物の一部	ヒノキ
37	N V 5	/	下駄	マツ属
38	S E 11	709	木製曲物底部	スギ
39	S E 7	/	漆器片	クリ

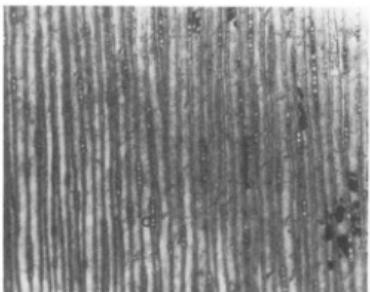
第5表 出土木製遺物の鑑定結果一覧



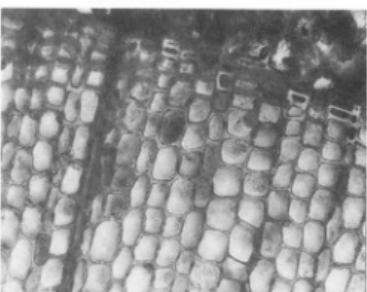
1. スギ 木口面 20× (試料No.38)



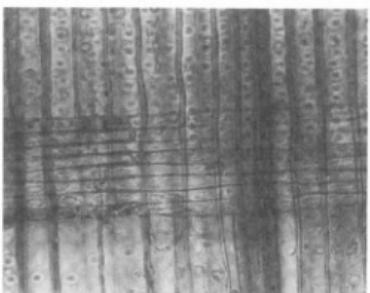
2. スギ 木口面 100×



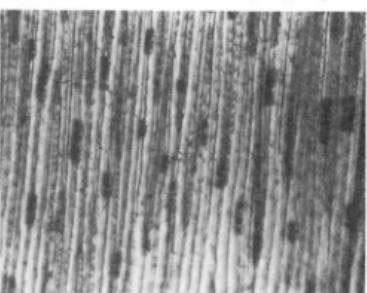
3. スギ 木口面 20×



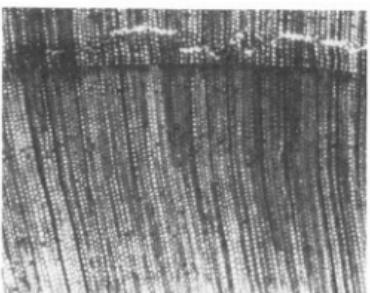
2. コウヤマキ 木口面 50× (試料No.6)



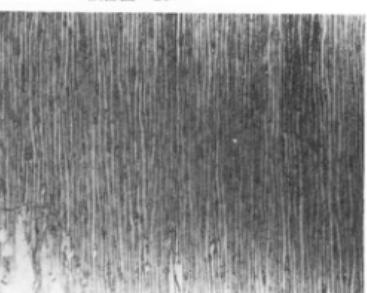
3. スギ 木口面 50×



3. スギ 木口面 20×



3. カヤ 木口面 20× (試料No.31)



3. カヤ 木口面 20×

第321図 出土木製遺物の顕微鏡写真

かにできるものと考える。また、用材の選定に関しては、非常に合理的に材を選んでいたことが考えられる。

もっとも多く出土したスギ材は樹高40mにたっする本州、四国、九州の温帶から暖帯に分布する林業上重要な樹種である。用途はきわめて広く、柱や板、天井板などの建築材、建具材、土木材、家具材、桶樽材、下駄材などとして用いられる。すなわち本調査にて出土した木製品についても同様な用途が考えられる。

〔参考文献〕

- 島地謙著 1964 「木材解剖図説」 地球社
大井次三郎著 1983 「新日本植物誌 頭花篇」 至文堂

第6章 まとめ

第1節 遺跡の変遷

古墳時代までの当遺跡の変遷については、調査報告書Ⅰで記述したので割愛する。ただ、調査整理において、当遺跡では奈良時代の遺構は皆無であり、平安時代においても後期に至って遺構が確認されている状況である。

1. 古代末から中世

1. 建物群について

建物についてはある程度グルーピングすることができる。

〔Aグループ〕2地区のS B14・15・16・17である。これらは、時期的には差があり、S B17が10世紀、S B14が10世紀後半、S B15・16が12世紀前半の遺物が出土している。これらは瓦器の出現以前の建物である。付属する他の遺構は検出されていない。

〔Bグループ〕5地区的S B9、10の2棟である。この建物は他の建物群とは位置的にも離れ、また、S B9と10とは時期差があり、S B9が先行する。これらの建物は大型でS B9が91m²、S B10が100m²である。これらの建物以外は検出されず、周辺は擾乱を受けており、他に建物が存在するかは不明である。また、付属するような他の遺構も検出されていない。時期としては、黒色土器が出土しており、12世紀後半頃と考えられる。

〔Cグループ〕1地区的S B1・2・3・4・7・8・82、4地区的S B29の8棟である。時期的には、S B1・7・82がIII-1の瓦器を出土している。S B1はこのグループでは最大の規模をもち(119m²)、S B2とS A1の櫛列を伴っている。また、S A7とS B82はセット関係を持ち、周囲に溝が見られる建物と考えられる。同地区内のS B6は他の建物と比較して、柱穴内の遺物から時期が通りII-2の瓦器が出土していることから、時期的には、他の建物とはグループとして別のものである。

このCグループの南側に近接して、4地区には、土壙墓S R6・7が位置し、さらに距離的にはやや離れるがS R8が位置している。また、墳墓と考えられる集石S U6・7が位置する。

〔Dグループ〕4地区的S B43・44・45・48・49・50である。いずれも、主軸方向がほぼ同一である。柱穴内からは図示可能な遺物は出土していないが、時期的にはIII-1～3のようである。この中で、S B43・44は主軸が同一方向、他は1度違いで、同一方向を示している。このことから、2つの小グループに分けることが可能である。しかし、時期的な前後関係は不明である。

また、S B45は大型の建物(88m²以上)で、北側にS A5の櫛列を伴っている。また、S B46の南側にもS A6の櫛列が走っている。

〔Eグループ〕4地区的S B28・30・33・34・35・37の6棟であり、時期的にはIV-2からIV-



第322図 据立柱建物配置模式図

り、他の建物の存在が予想される。また、出土遺物から寺院の可能性が高い。時期的にはIV-1～4にかけて存在していたと考えられる。

〔Hグループ〕3地区のSB59・60・61の3棟である。時期的には明確には判明していない。しかし、主軸方向から3棟はセット関係を有すると考えられる。更に接近するSE9・10も付属する井戸と考えられる。

2. 各建物群の変遷

これらのグループを時期的なながれで観察すると1期がA、2期がB、3期がC・D、4期がE・F・Gという順で大別できる。これらを1期から観察すると、1期と2期は遺跡の北側（北谷の北側）に位置し、3期と4期は北谷から南側に移り、更に、4期では中位段丘の上段にも移行する。特に4期は一番遺構の集中する時期であり、また、寺院と集落、更に、墳墓と考えられるSUの集石が配置され、ひとつの村落形態を代表する遺構配置である。

2. 安土桃山～江戸時代

この時期の遺構は3地区から6地区に分布している。遺構は大別すると、SW4・5や池地と考えられるNV5など農業用の水利施設と考えられるもの。SU12やSL、SNなどの墳墓と考えられるもの。そして、SX11は基段状と考えられる。更に、生産関係遺構であるSY7・8の瓦窯が検出されている。

水利施設は中位段丘下段が農地と開発されることにより、構築されたものであろう。遺構の分

4の間である。各建物を時期的に細分してみると、SB34・30が先行し、SB28・33、SB35と続くようである。SB34にはSE3がSB28にはSE2が付属するようである。

また、SB28には周間に溝が巡っている。

〔Fグループ〕3地区のSB63・65・66・67・69・70・72・75・76の建物で、主軸方向が同方向ではば同規模建物で形成されている。すべてが同一時期ではなく時期差はあるようである。ただ、遺物を出土したSB67・76からIV-4の時期頃と考えられる。また、SB65・69・72は重複している。

これらの建物に付属する遺構では、SE11・13及びSD222が該当すると思われる。

〔Gグループ〕6地区のSB53のみが復元されているが、SX6やSE7など周囲の遺構からは瓦やSY6の窓状遺構が検出されており

年 代	900	1000	1100					1200					1300					1400					1500	1600	1700	1800	1900																									
時 代	平安時代								鎌倉時代				1300	南北朝時代				1400	室町時代				安土桃山時代				江戸時代																									
時期区分	I-1		I-2		I-3		II-1		II-2		II-3		III-1		III-2		III-3		IV-1		IV-2		IV-3		IV-4		IV-5																									
地区	5地区		S B 9																																																	
	2地区		S B17	S B14	S B15	S B16	—NV 4下層—				—NV 4中層—				—				S K164	S X 3																																
	1地区		S B 6 S B 1 S B 7 (SD9) S D16 S B82(SD10)																																																	
	区		S X 2 —NV 1— NV 2																																																	
	4地区		S D119 S D87 S B29 S B34 S B28 S B35 S D127 S D57 S D106 (SD59・60) S D53 S D54 S D112 S K185 S K183 S K184 S K228 S K208 S K175 S K506 S K196 S K256 S K231 S K213 S K257 S K501 S K523 S K258 S K262 S K263 S K292 S R 7 S R 6 S U 6 S U 1~3 S K522 S R 8 S U 7 S Y 4 S U 9 S U 8																																																	
遺構分布	3地区		S B67 (SD219) S B76 S D217 S D209 S D213 S D222 S D226 S E15 S E 5 S E24 S E11 S E14 S E13 S E22 S E23 S E22 S E24 S K456 S K429 S K445 S K470 S K469 S K469 S K479 S K479 S E12 S K458 S K458 S K435 S K388 S K416 S E13 S K435 S K388 S K408 S E14 S K479 S K479 S K408 S R10 S K437 S R9 S N6+7 S K437 S R9 S L5~7 S Y8 N V5下層 S X13 S R9 S L5~7 S X13 S R9 S L5~7 S Y8 N V5上層 SW4 SW6 S W5 S B53 S D179 S D177 S D181 S D179 S E8 (?) S E8 (?) S E7 S K337 S K347 S K301 S K330 S K330 S K350 S K350 S Y6 S Y6 S K357 S K305 S X6 S X8 S K310 S X8 S X8 S K311 S N2 S N2 S L1~4 S U12 S L1~4 S L1~4 S U12 S U14 S U14 S X12 S X11																																																	
	6地区																																																			

第6表 時期別遺構分布表

布からみ、1・2・4地区の現水田は江戸初期頃に開発され、3・6地区は明治以降に耕地として開発されたようである。

また、6地区的S U12や基段、更に近世瓦の出土と小字から寺院を想起させる。更に埋甕S L、埋桶S Nは墳墓と考えられ、寺院周辺に墓域が設定されていたようである。この墓域は現大塚墓地の前身と考えられる。

これら以外に瓦窯が検出されているが、特にSY 8からは『片瓦太』と刻印されている瓦が出土していることにより、片添村に瓦屋が存在していたという伝承を裏付けている。

第2節 総括

本遺跡の調査結果を簡略にまとめると以下の通りである。

1. 楯文時代 石川流域では最上流部に位置する中期末から後期にかけての遺跡で、早期の押型文土器も出土している。

2. 弓生時代 中期の住居跡が検出され、他市域においても小河川域に小集落の存在が予想される。

3. 古墳時代 前期から後期までの各遺構、遺物が検出されている。特に中期の集落からの韓式系上器の出土は渡来系の人々との関係を想起させる。また、從來、市域では古墳の確認数はすぐなかったが、削平された古墳の検出により、今後の市内での調査によって、未確認の古墳が発見されることが予想される。

4. 古代末から中世

平安時代後期から室町時代前半にかけて、建物群が変遷していることが判明している。しかし、15世紀後半には遺構が確認されず、この時期、集落の再編があったようである。

検出された遺構の内、4期では寺院、集落、そして、墓域というひとつの集落パターンが明示されている。

5. 近世

集落遺構ではなく、寺院と墓域、水利関係の遺構、そして、生産遺跡である瓦窯が検出されている。これは、この時期の集落が現集落と合致し、その集落の後輩地つまり、生産の場、あるいは非日常的な場として利用されるようになった結果である。

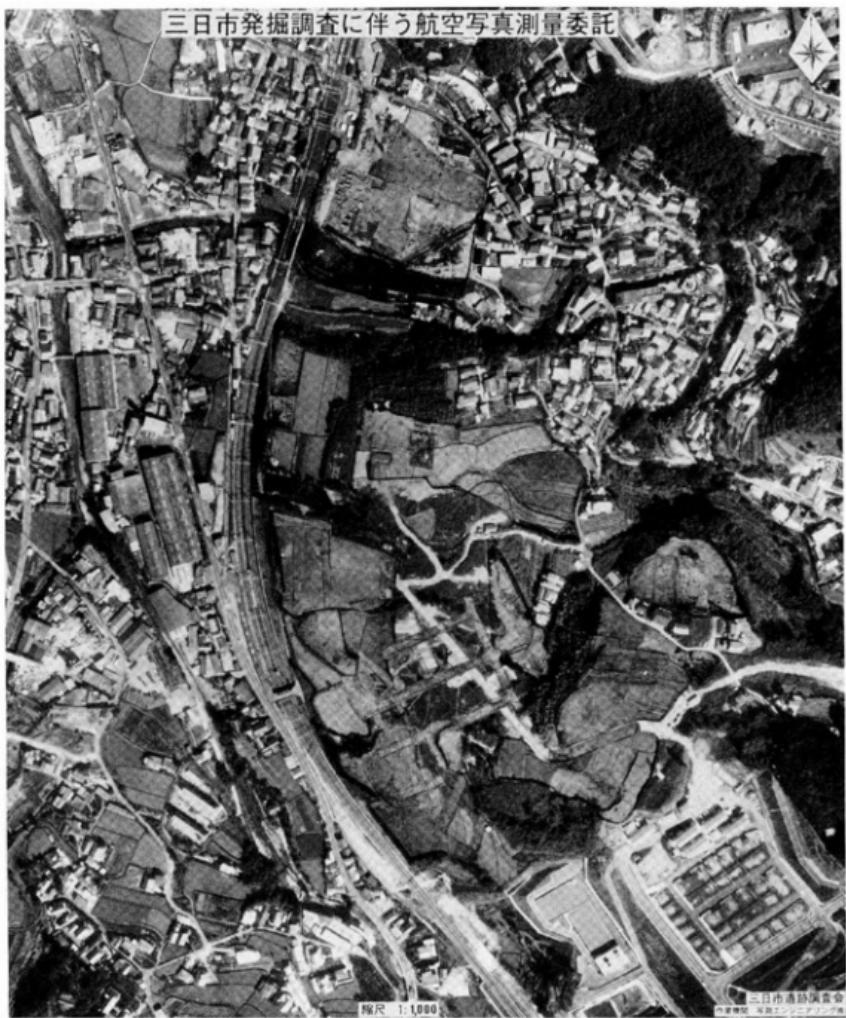
このように、当遺跡の立地が段丘上に立地することにより、当調査以降の市の調査においても、段丘上に注目を置き、古墳時代から中世にかけての遺跡が発見されるようになっている。

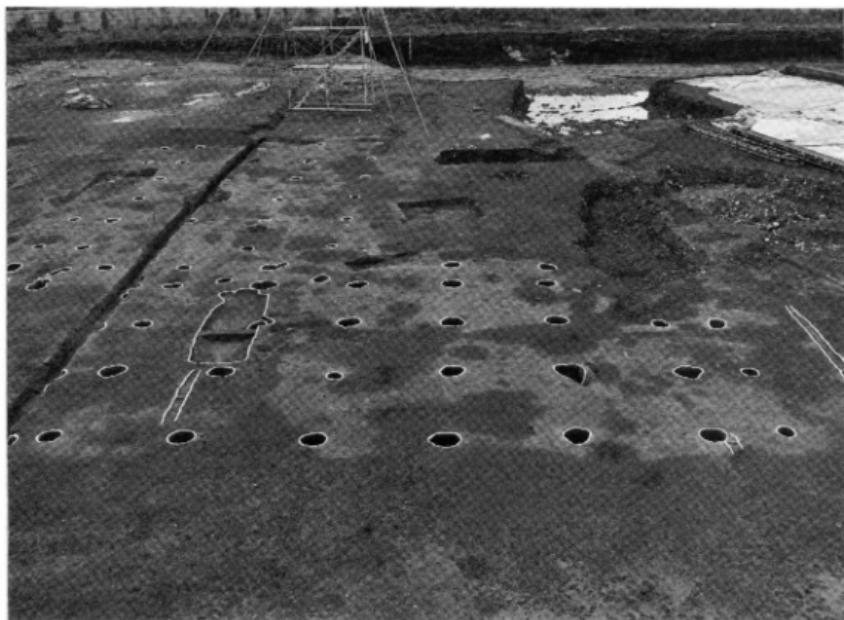
最後に本調査は昭和59年度より開始し、約61,000m²の範囲を調査し一部地区を残して終了した。この調査結果は本報告書を含め、2冊の報告書と3冊の概報により、成果を公表することができた。

この調査で発見された多くの資料については、報告書の刊行とともに広く市民の方々、研究者の方々に活用していただくことを望むものである。

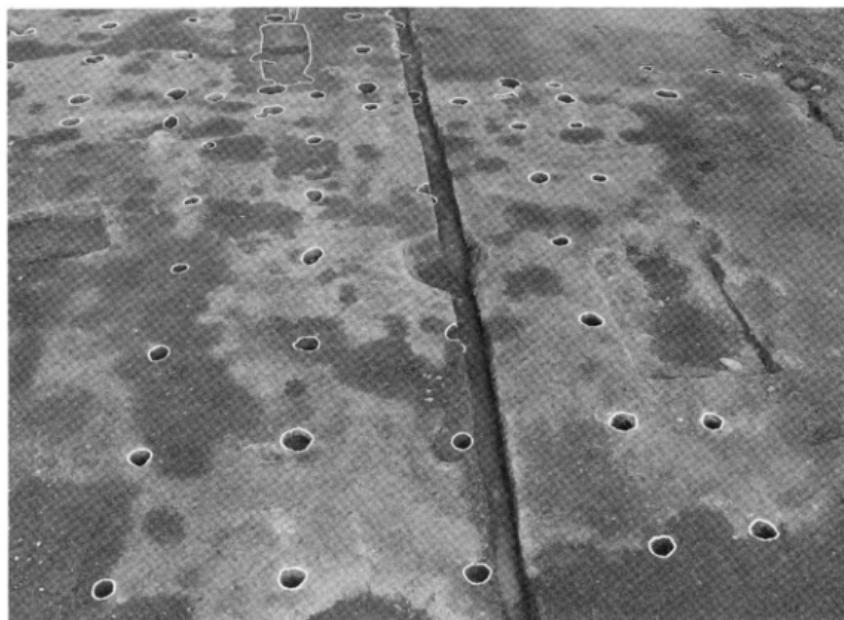
本調査報告書は、調査担当者の未熟から多くの間違いをおかしている可能性は高く、ご批判を請うものである。

図版

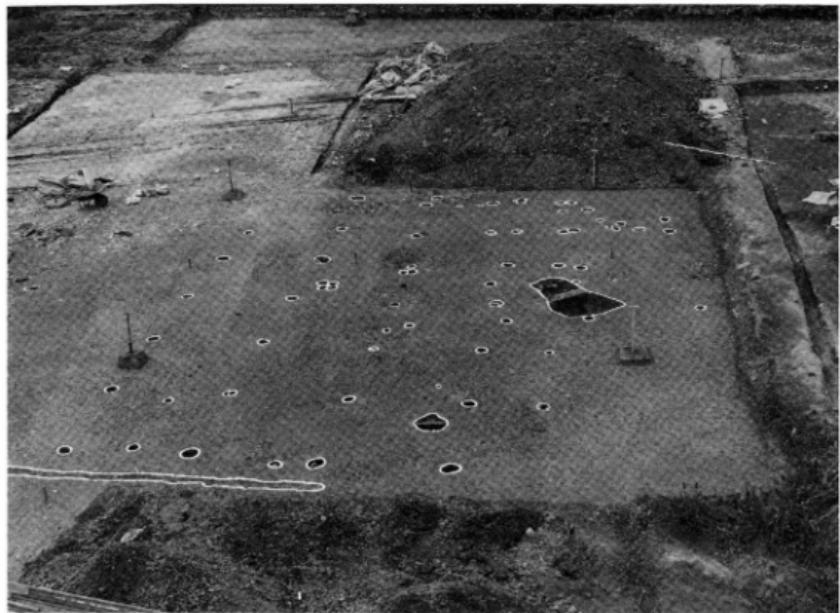




SB9 全景（北東から）



SB10全景（南西から）



SB15・16全景（東から）



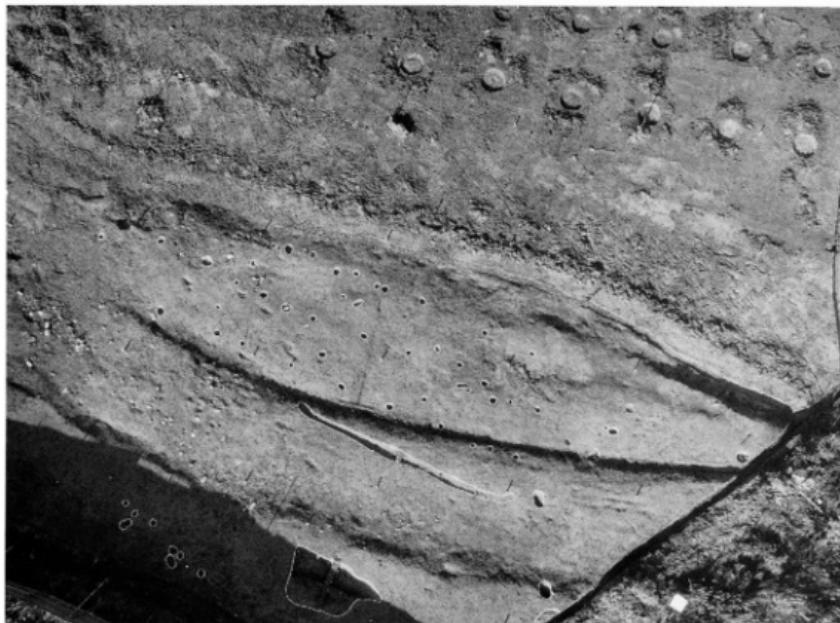
SB17全景（西から）



SB18全景（東から）



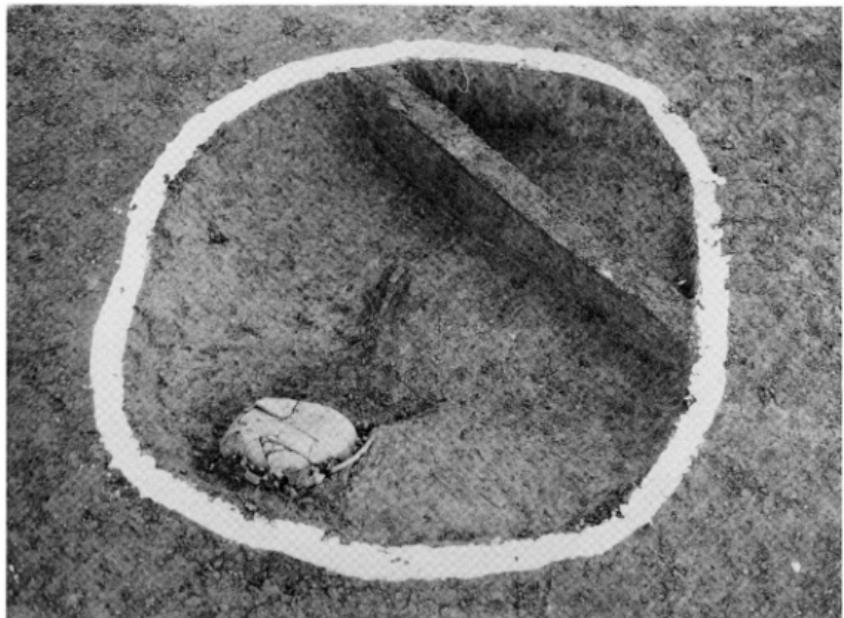
SB19全景（上が北）



SB20・21全景（上が北）



SK158全景（南から）



SK161全景（北西から）



SK164、SX 3、NV 6 全景（南から）



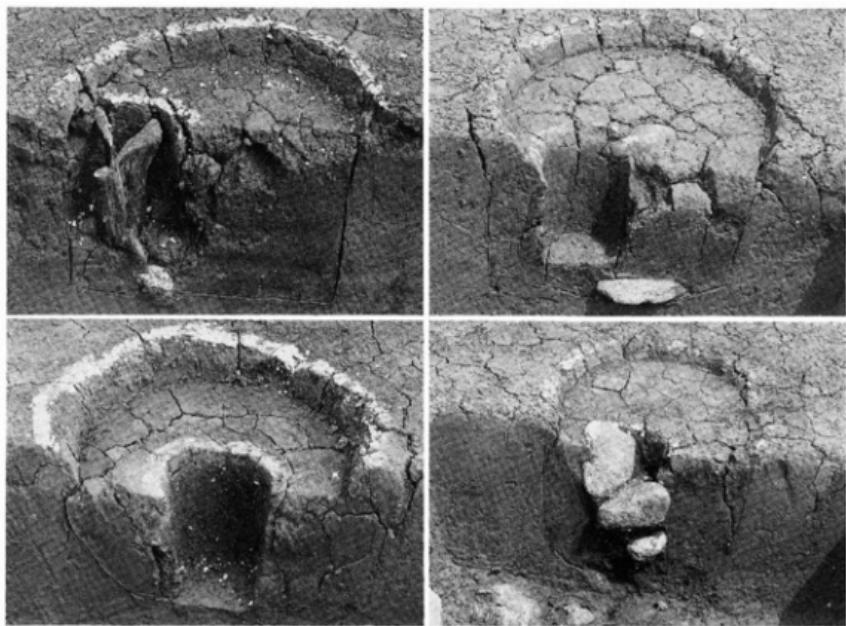
SX 3 全景（北東から）



NV 4 全景（南東から）



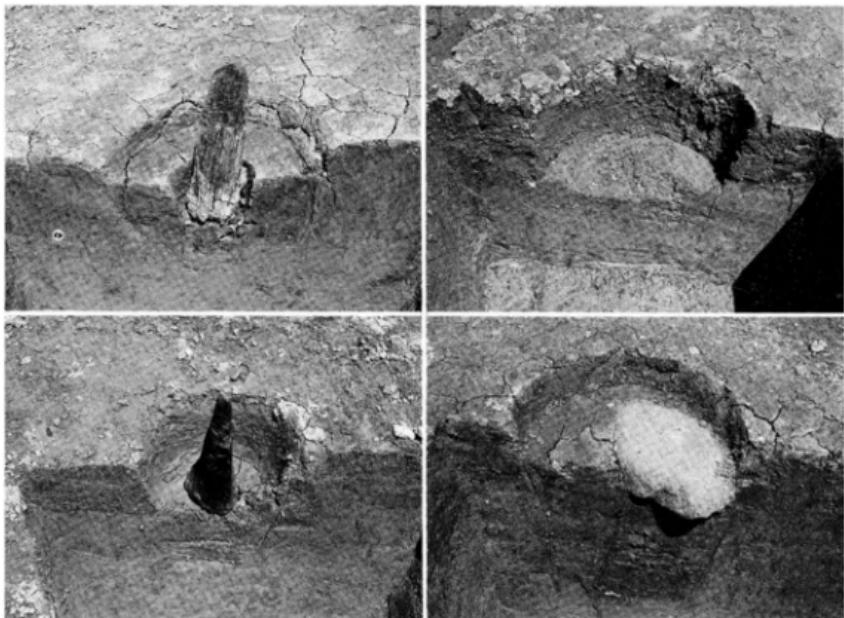
SB1・SB2 全景（南西から）



SB1 柱穴断面



SB 3 全景（北西から）



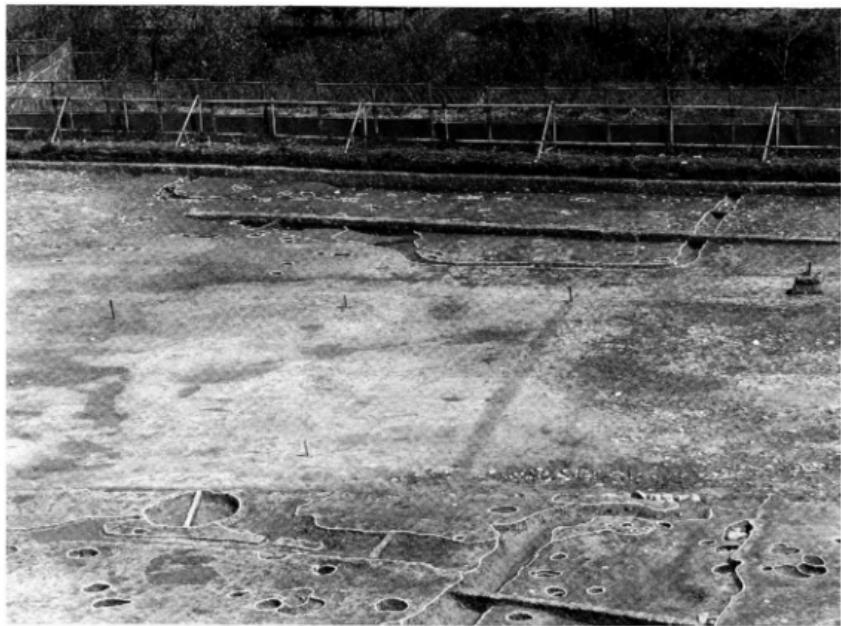
SB 3 柱穴断面



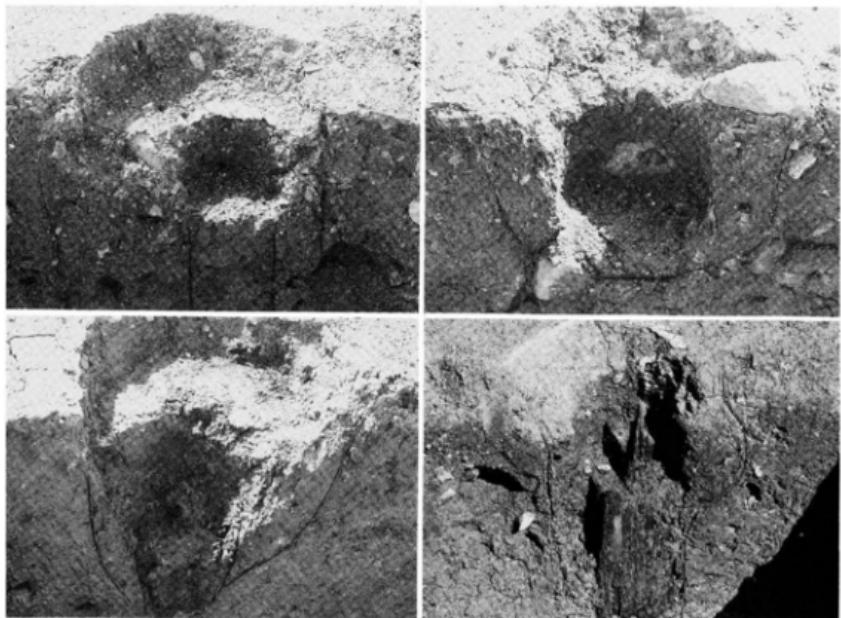
SB 4 全景（南から）



SB 6、SD 1~8・28、SK38・45全景（南から）



SB 7・82、SD 9・10全景（南西から）



SB 7 柱穴断面



SB 8、SK 4～9 全景（東から）



SK17～23全景（東から）



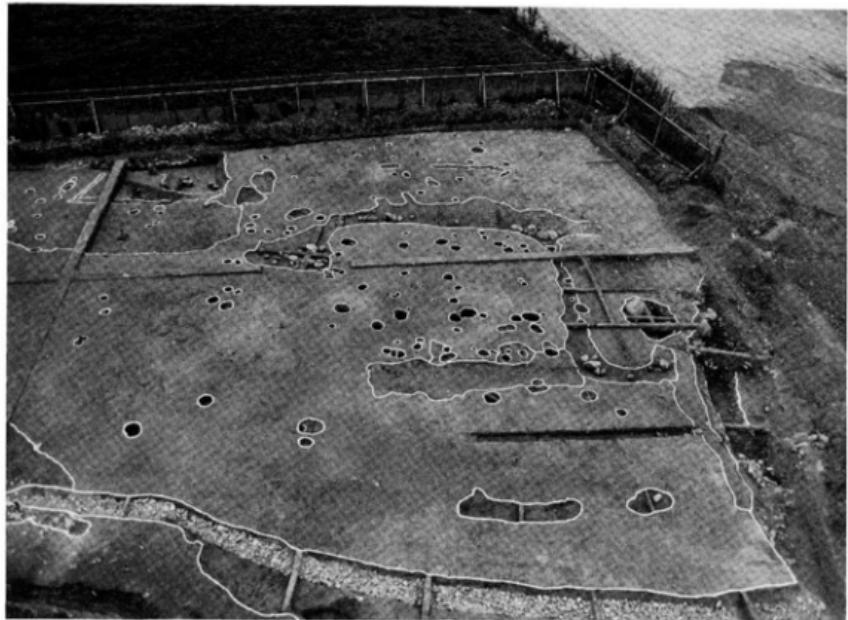
SX 2 遺物出土状況（南西から）



SD16、NV 1 全景（南から）



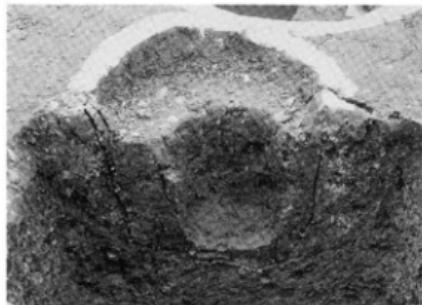
SB25・80全景 (北東から)



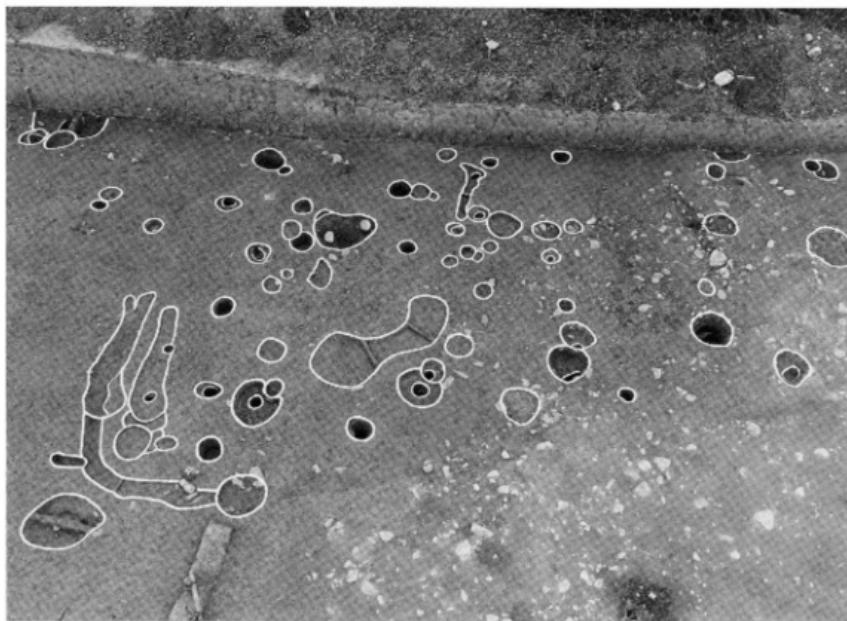
SB28、SD57・59・60、SE 2、SK196～198全景 (東から)



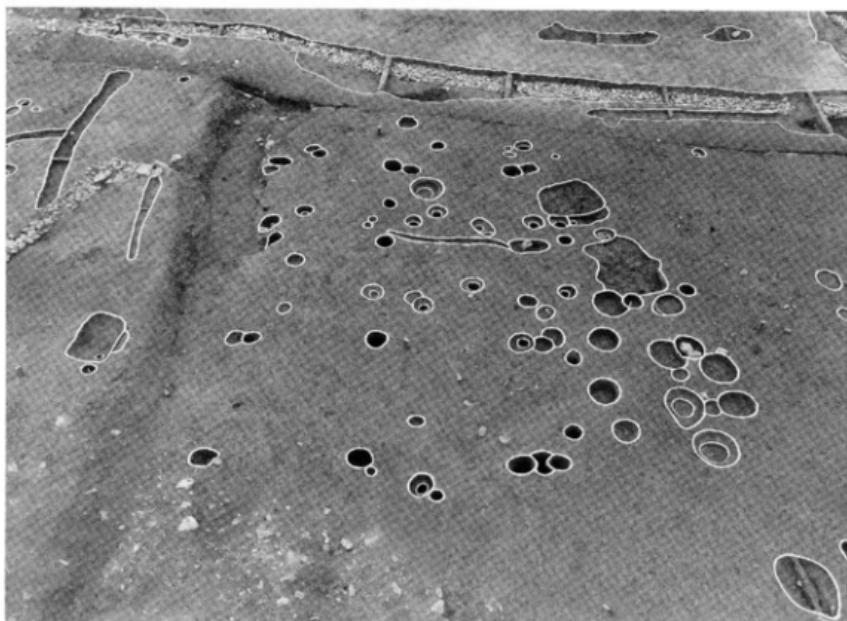
SB26全景（北から）



SB26柱穴断面



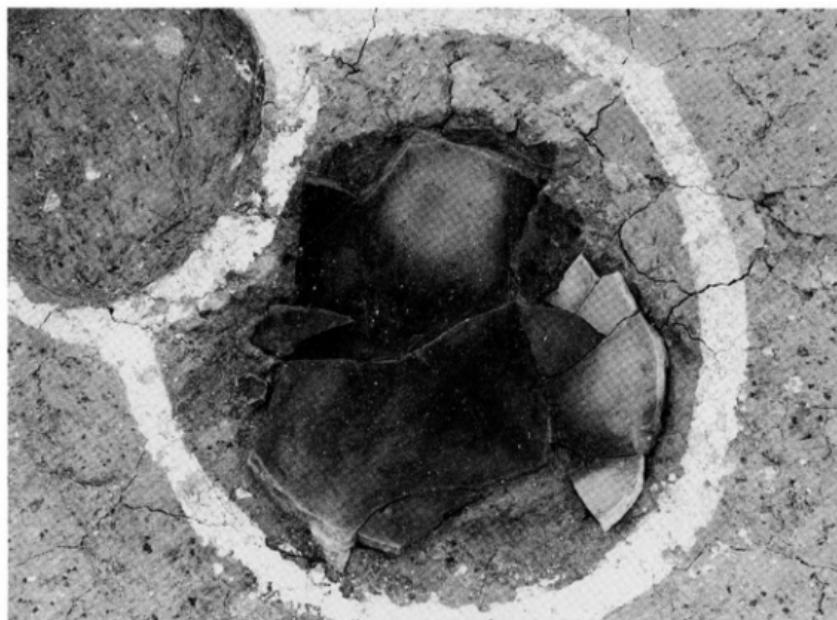
SB29全景（南東から）



SB30、SK206全景（東から）



SB33~35・37、SD74・75、SE 3~5、SK208・210~213全景（北東から）



SB34-P 1 土器出土状況



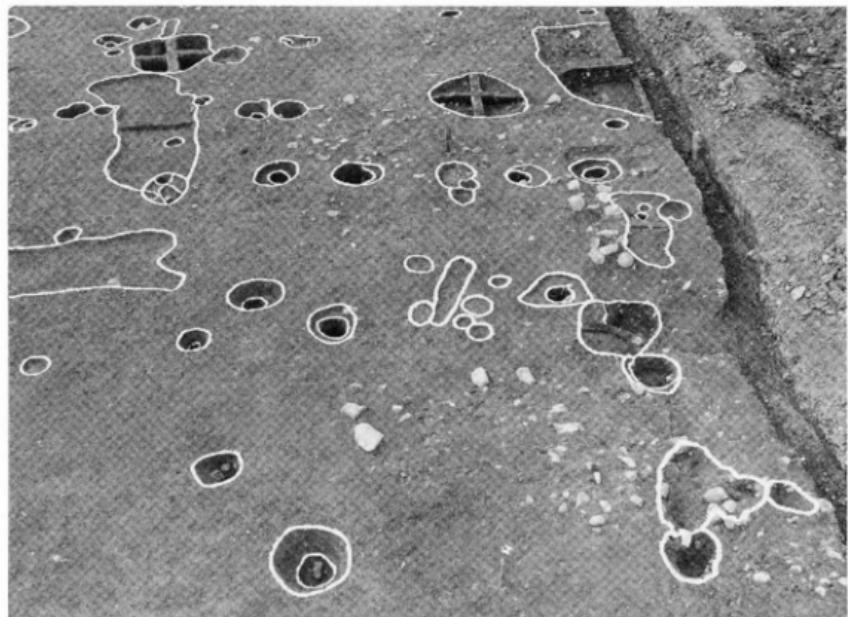
SB41全景（北東から）



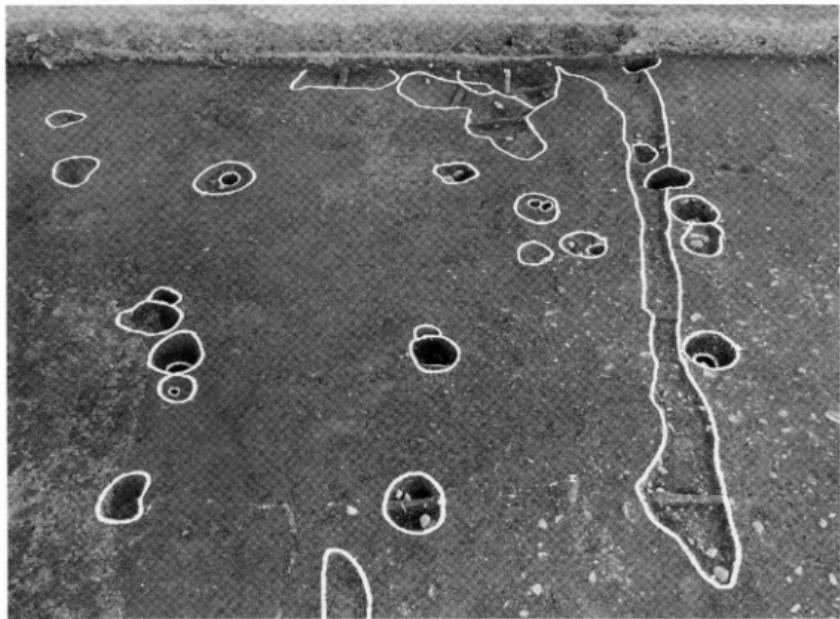
SB42全景（北から）



SB43・44、SD119・121、SK263全景（南西から）



SB46、SK294全景（東から）



SB48全景（西から）



SB49全景（東から）